

日本の文学

堀尾幸平

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の文学の歴史をふまえながら、代表的な文学作品を紹介し、鑑賞する。若い世代の文学への関心が薄らいでいるといわれる今、文学への興味と関心を喚起したい。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙. 二葉亭四迷
4. 三輪弘忠. 巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明. 鈴木三重吉
7. 千葉省三. 浜田廣介
8. 童謡. 少年詩. 少女小説
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑. 江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉. 坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作の方法
15. 試験

【評価方法】

定期試験. レポート. 出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

日本児童文学論 (堀尾幸平著. 中日文化. 2,200円)

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

英米の文学

小野迪雄

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

文学作品にはそれぞれの国の文化が反映している。主に20世紀の英米の文学の思潮をたどりながら、伝統的な英国文学や移民の国として新しい文化を作った米国文学を中心に考察する。

【授業計画】

本年度はアメリカ文学を中心に講義をする。アメリカは移民の国として、先進国の中では非常に遅い出発をした国であるが、それだけに歴史の古い国にみられる伝統に欠ける面があるものの、他の先進国にみられない文学の活力や著しい特徴がある。アメリカの文学作品には、どんな特質や問題があるのか考えていく。時間の制約上、個々の作品を細かく扱うことが難しいので、中心は作品を生みだした社会的背景や文学思潮におく。話の展開の中でイギリス文学や日本文学にもふれる。

【評価方法】

レポートや受講態度を加味するが、評価の中心は定期試験による。

【テキスト】

未定。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

中国の文学

寺尾 剛

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国の歴史と文化は古くかつ深い。日本はその影響を大きく受けてきたが、特に文学は顕著であった。中国の代表的な文学作品を紹介し、鑑賞する。

＜主なテーマ＞

- ・花木蘭（ムーラン）の物語－中国女性は強い？
- ・王昭君の物語－国際結婚、是か？否か？
- ・西施の物語－中国最大の美人は？
- ・孟姜女の物語－万里の長城と女性悲話
- ・詩仙・李白－酒仙、大いに酒を歌う
- ・詩聖・杜甫－戦争と文学と
- ・南宋最大の詩人・陸游－夫婦と嫁姑戦争
- ・妻への愛－「悼亡詩」の系譜
- ・封神演義はどこまで実話？－中国小説の魅力
- ・中国笑話選－下ネタは下品か？
- ・孔子－中国人の知恵と格言
- ・魯迅・周作人兄弟と日本との深い関係
など

【評価方法】

平常点と試験。

【テキスト】

プリント

情報と社会

梅田敏文

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会は情報化社会といわれ、さまざまな情報が送受信されている。日常生活や経済社会の中で「情報」がいかにかわり、有効な活用はどうあるべきかについて考察する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 e-ビジネスの進展
- 第3講 社会の情報システム（事例1）
- 第4講 社会の情報システム（事例2）
- 第5講 社会の情報システム（事例3）
- 第6講 データと情報
- 第7講 機械とコンピュータ
- 第8講 システムの概念
- 第9講 情報化社会の課題（1）
- 第10講 情報化社会の課題（2）
- 第11講 情報化社会の課題（3）
- 第12講 まとめ

【評価方法】

受講態度、ミニテスト、レポートなどで評価する。

【テキスト】

別途、通知する。

情報と社会

沖野皓一

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会は情報化社会といわれ、さまざまな情報が送受信されている。日常生活や経済社会の中で「情報」がいかにかわり、有効な活用はどうかあるべきかについて考察する。

【授業計画】

- 第1～2回 歴史に見る情報と社会
情報と文化との関係を軸に、人間社会の歴史を概観する。
- 第3回 情報がモノを造る
モノの生産が、必要性・実用性から嗜好に重点を置くようになってから、生産システムも大きく変わった。いわゆる情報化社会の生産と消費の関係について
- 第4～10回 情報の氾濫がもたらすもの
次々と繰り出される扇情的な情報や、人々の行動を先取りするような情報の氾濫の結果、私たちはかえって情報への関心を失い、情報喪失の状態に陥りかねない。情報過剰の現状について
- 第11回以降 主体性確保のために
ニューメディアは多チャンネルの実現による情報の多元性を売り物にしているが、私たちにとって重要なのは、本当に必要な情報を発信・選択できる双方向性であろう。市民の側からの情報発信、メディアアクセスの現状と可能性について

【評価方法】

出席状況・試験の成績などによって総合的に行う。

【参考文献・資料】

講義の中で、その都度紹介する。

ジェンダーと社会1

國信潤子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会において女性と男性の社会的関係は変容しつつある。男女がともに社会参画をして初めて社会における平等が確保できる。この視点から現代社会におけるジェンダー（社会・文化的性）のさまざまな問題を考える。

【授業計画】

（長久手キャンパス）

男女共同参画社会の形成にむけて日本社会の各方面で努力が続いている。この講座ではグローバル化する国際・民衆交流の領域についてジェンダー（社会・文化的に形成される性別）の視点から開発途上国の現状について学ぶ。地球規模で、南北社会関係（開発途上国と先進国の対立・協力関係）に見られる各種の格差が問題となっている。そこには社会的資源の不平等分配がある。この格差是正のため、また国際・民衆交流推進のために国あるいは民間組織による開発支援が行われている。先進産業界から開発途上国に向けて社会的開発支援が行われている。その支援のあり方、文化多様性の確保とジェンダー平等化の試みの関係について考える。

この講座はオムニバス形式であり、社会開発支援の現場で活動する数人の講師による講義形式である。社会開発、国際協力の最前線で活躍する専門家によって現状分析が行われる。テーマとして開発におけるジェンダー、開発実践論、イスラム農村社会、保健・医療現場、外国人労働者などの問題をジェンダー視点から考察する。

（星が丘キャンパス）

近年、公的文書などにもジェンダー（gender）ということばが頻繁に使われるようになってきた。それは社会・文化的性別という意味である。つまり、社会的に男女に対して期待される異なる役割、意識、行動様式などを指す。新世紀にはいり、従来の固定的性別分類とは異なり、性別にとらわれない新たな社会的役割行動様式の青年たちが増加してきている。それは固定的な男らしさや女らしさをこえて個性の発揮、能力開発、そして経済、社会的自立、生活面での自立などを目指す生き方である。ここ50年ほどの日本における女性の社会的地位の変容について社会学的データなどで紹介する。また法制改革、国際人権規約なども紹介する。原則としてテキストにそって授業を進める。グループ討議、視聴覚教材なども取り入れる。

【評価方法】

（長久手キャンパス）

期末レポート、出席状況、感想カード内容、履修態度等の総合評価

（星が丘キャンパス）

期末レポート、出席状況、感想カード内容、履修態度等の総合評価

【テキスト】

（長久手キャンパス）

特になし、随時配布

（星が丘キャンパス）

「女性学・男性学～ジェンダー論入門～」伊藤、國信共著（有斐閣刊 2002年）

【参考文献・資料】

（長久手キャンパス）

ジェンダー・開発・NGO（C. モーザー・東洋経済社）

（星が丘キャンパス）

授業で随時紹介

ジェンダーと社会2

中島美幸 山下智恵子

オムニバス 1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講座では、ジェンダーの視点で文学作品を分析することによって、〈女/男〉規範がどのようにテキストに織り込まれているかを読み解き、さらに、テキストがどれほど現実の女と男の生を規定してきたかを検証する。それとともに、ジェンダーの呪縛から解放されたいとして、新たな文学表現を試みる作家・作品をできるだけ多く提示する。(オムニバス方式)

(中島美幸兼任講師)「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。なかでも、近代以降の女性表現については、他国の女性文学との比較もまじえつつ、読み解いていく。

(山下智恵子兼任講師)現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係をジェンダーの視点から検証する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 〈ことば〉とジェンダー
- 第3回 〈書く女〉の登場(1)
- 第4回 〈書く女〉の登場(2)
- 第5回 女性を描く男性作家のまなざし(1)
- 第6回 女性を描く男性作家のまなざし(2)
- 第7回 母と娘の物語(1)
- 第8回 母と娘の物語(2)
- 第9回 家族の物語
- 第10回 文学の政治性
- 第11回 文学と映像文化
- 第12回 まとめ

*第8、9回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

【評価方法】

毎回の簡単な感想と、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

教科書は使用せず、随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

毎回の講義の際に紹介する。

日本国憲法

大嶽 浩

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の経過や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

【授業計画】

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性
6. 憲法の改正

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

日本国憲法

初谷良彦

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の経緯や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

【授業計画】

(長久手キャンパス)

- 第1回 日本国憲法制定の経緯
- 第2～3回 プライバシー権、名誉権
- 第4～5回 自己決定権
- 第6～7回 信教の自由と政教分離
- 第8～9回 情報公開、言論・出版の自由、報道の自由
- 第10～11回 生存権、教育権、労働基本権
- 第12回 国会・内閣
- 第13回 裁判所
- 第14回 地方分権

(星が丘キャンパス)

- 第1回 日本の近代化と明治憲法の制定
- 第2回 ボツダム宣言の受諾と降伏の憲法史的意味
- 第3～4回 日本国憲法制定の経緯
- 第5回 日本国憲法の基本原理
- 第6回 プライバシー権、名誉権
- 第7～8回 自己決定権
- 第9回 表現の自由
- 第10回 信教の自由と政教分離
- 第11回 生存権・環境権
- 第12回 国会・内閣
- 第13回 裁判所
- 第14回 地方分権

【評価方法】

(長久手キャンパス)

主として単位認定試験の成績によって評価する。

(星が丘キャンパス)

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義Ⅰ(第2版)(初谷良彦著 成文堂)

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

郷土の歴史と文化

秦 達之

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

東海地方は、戦国乱世の時代に織田信長、豊臣秀吉、徳川家康を生んだ土地である。この歴史的風土をふまえ、愛知県を中心に郷土の歴史と文化を講義する。

愛知県は、“三大英傑”以後、一見平穏無事で、パッとしないかみえる。しかし、よくみれば、東西の文化を巧みに織りこんで、波瀾にも富み、歴史上重要な地歩を築いてきた。講義は、尾張と三河とのちがいに留意しつつ、隣県の三重・岐阜にも時には視野を拡げ、受験時の暗記の歴史から、考え、愉しみ、生きるための歴史へと飛翔することを目指す。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ、内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものになりたいが、果してうまくいきますか、どうか？

内容は、「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車(だし)」「渡辺華山とその周辺」「お札降りと「ええじゃないか」「高山における明治維新」「戦争と女性」「モルフィと娼婦運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている(受講者もぜひご協力を)。

【評価方法】

出席状況(特に厳しいので注意!)と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、参考にしていく。

【参考文献・資料】

愛知県の百年(塩沢君夫、斎藤勇、近藤哲生共著 山川出版社)

愛知県の歴史(三鬼清一郎編 山川出版社)

都市と環境

谷口 武

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代の都市は生活と文化の面では便利であり、快適であるが、街の緑や空気汚染など、自然環境には恵まれているとはいえない。都市をとりまく自然環境の問題を中心に講義する。

【授業計画】

- 第1講 概論1：自然環境とは
第2講 概論1：自然環境と人間
第3講 各論1：農耕の発見による生活形態の変化
第4講 各論2： ”
第5講 各論3：都市形成の促進
第6講 各論4： ”
第7講 各論5：現代都市生活の高度化
第8講 各論6： ”
第9講 各論7：都市巨大化と自然環境
第10講 各論8： ”
第11講 各論9：都市環境の改善
第12講 各論10： ”
第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

- 都市の論理（藤田弘夫著 中央公論社）
なにが環境の危機を招いたか（バリー・コモナー著 講談社）
都市（東京大学公開講座 東京大学出版会）
環境（東京大学公開講座 東京大学出版会）
環境生物学への招待・地球生物圏と人間・（鈴木賢英著 文化書房博文社）

メディアと文化

鎌田基子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩でさまざまなメディアが新しい文化を生み、伝達する。文化の創造の伝達とメディアの関わりを考察する。

【授業計画】

- 第1回 どこからどこまでがメディアなのか？
第2回～7回 「編集」という創造
・怪物の作り方
・テーマとコンセプト
・人の流れと思考の奥行き
・発想の手順
・WORK SHOP
フォトストーリー
コラージュ
店内レイアウト
雑誌の企画
第8回～10回 現代美術はなぜ分かりにくいのか？
・作品が持つ言語
・素材の力、場の力
・伝達技術と表現手段
・WORK SHOP
即席インスタレーション
第11回～12回 社会が生んだ表現
・表現の自由と人権
・芸術が果たす役割
第13回 「見る」「聞く」行為について
状況により途中1～2回をゲスト講師の講演にあてる。

【評価方法】

出席状況、レポート等による。

国際情勢

富江良治

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際化の時代とか、地球は一つなどといいつながり、つい身近なことにとらわれて、視野を広げる努力を怠りがちです。世界では何が起きているのか、その背景には何があるのか、どの方向へ進むと考えられるのか。こうした問題意識と関心を持った人間が育つよう、つぎつぎと起こる新しい動きを手掛かりに分かりやすく、面白く解きほぐしていきます。世界歴史の最先端にふれる興奮と緊張を味わえれば、です。

【授業計画】

日々報じられる新聞の国際記事、解説や特集面、テレビのニュース番組、ドキュメンタリーなどのコピーやビデオを用意し、教室で放映または配布して説明します。発生する出来事の中から興味を引くとみられるものを優先します。したがって政治、経済、社会、文化といった体系的な進め方には必ずしもなりません。

【評価方法】

原則として筆記試験によります。出席状況や意見発表とか質問、問題提起、私語、遅刻など受講態度も参考にします。

【テキスト】

特にありません。

【参考文献・資料】

そのつど、必要に応じて知らせます。

生活と福祉

井戸平八郎

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間らしい生活を営むには、今日では福祉は避けられない問題である。しかし、「福祉とは何か」、「福祉はいかにあるべきか」は難しい課題である。障害者福祉や老人介護など、現代的な問題を視野に入れて福祉について学ぶ。

【授業計画】

第1章 福祉は誰のために

第2章 援助と自立

第3章 児童問題と超高齢社会

第1節 児童福祉について

第2節 子どもの人権は守られているか

第3節 エンゼルプランをめぐる問題

第4節 高齢者福祉

(ゴールドプランと介護保険)

第5節 ターミナルケアから学ぶこと

第4章 バリア・フリーからユニバーサル・デザイン

第5章 これからの地域福祉

第6章 Well Being

ビデオ、スライド、OHPを利用。

【評価方法】

テストによる評価。

【参考文献・資料】

授業中に紹介。

こころの世界

青柳真紀子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

私達一人ひとりが持っているこころ。しかしそれを目で見ることにはできない。こころが様々な行動や反応を通して現われるのを観察し、そこから科学的に法則性を見つけだそうとする心理学の観点から、日常生活の中で身近に感じるような事柄を中心に心の世界を探っていく。

【授業計画】

1. 無意識の世界
2. 動機づけ
3. ストレスとタイプA性格
4. 錯視の不思議
5. 学習
6. 記憶
7. パーソナリティ
8. 原因の帰属
9. 対人関係
10. 態度変容
11. 集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

こころの世界

加藤智宏

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日常生活を送る中で、私たちは様々なコミュニケーションをとっています。またそれらは、家庭、学校、乗り物の中、地下街など、その時々環境、状況の中で展開しています。

この授業では、日常生活での経験を話題に取り上げ、そこで起きた現象が心理学ではどの様に理解されているのかを中心に講義していきます。

【授業計画】

- a. 知覚と感覚
- b. 認知心理学
- c. 発達心理学
- d. 社会心理学
- e. 臨床心理学

以上について、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

また応用分野として、環境心理学についても紹介していく予定です。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

ことばの世界

松本雄子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日常生活において、ことばによるコミュニケーションは、言語的な意味だけでなく、社会的な意味においても行っている。

ことばによる社会的な意味のちがいを地域、社会的階層、性差、年齢などを軸にして考えてみたい。

【授業計画】

私達が日常なにげなく行っているコミュニケーションを様々な角度から分析する。コミュニケーションの基礎概念や理論を、現実社会での生活に関連しながら講義する。その中で、地域、社会的階層、性別、年齢によるコミュニケーションの違い等にも焦点をあてる。授業は講義中心ではあるが、ビデオを使つての講義や、グループディスカッション及び自己評価など、学生参加型の授業も取り入れる。

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

ことばの世界

山本雅子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日常生活において、ことばによるコミュニケーションは、言語的な意味だけでなく、社会的な意味においても行っている。

ことばによる社会的な意味のちがいを地域、社会的階層、性差、年齢などを軸にして考えてみたい。

【授業計画】

- 第1回 ことばと心的距離
- 第2回 ウチとソト(1)
- 第3回 ウチとソト(2)
- 第4回 敬語(1)
- 第5回 敬語(2)
- 第6回 性差(1)
- 第7回 性差(2)
- 第8回 世代差(1)
- 第9回 世代差(2)
- 第10回 名古屋方言(1)
- 第11回 名古屋方言(2)
- 第12回 ことばのはたらき

【評価方法】

出席状況・プレゼンテーション・レポートなどによる。

【テキスト】

身の回りの“日本語”。日常生活で見聞きする“日本語”に対してたえずアンテナをはっておくこと。

ビジネスの世界

藤井正志

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

21世紀を迎え、いわゆる日本型雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界には、企業を維持・発展させるための企業の倫理や厳しい現実がある。企業での経験をふまえ、ビジネス世界の現実を講義する。

【授業計画】

- 第1講 社会人の心構え
(組織人としての意識)
- 第2講 ”
(組織内のコミュニケーション)
- 第3講 ”
(海外でのビジネス)
- 第4講 ”
(異文化とのコミュニケーション)
- 第5講 主要業種の特徴
(銀行・証券)
- 第6講 ”
(商社・マスコミ)
- 第7講 ”
(製造業・公務員)
- 第8講 ”
(シンクタンク他)
- 第9講 経済金融用語・解説
(株式について)
- 第10講 ”
(コーポレート・ガバナンス)
- 第11講 ”
(株式とデリバティブ)
- 第12講 ”
(株式とデリバティブ)

経済金融用語・解説で取上げるテーマは、変更されることがあります。

【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

ビジネスの世界

真田幸光

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

21世紀を迎え、いわゆる日本型雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界には、企業を維持・発展させるための企業の倫理や厳しい現実がある。企業での経験をふまえ、ビジネス世界の現実を講義する。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示・オリエンテーション
- 第2回 「働く」ことの意義
- 第3回 日本経済概況
- 第4回 米国経済概況
- 第5回 欧州経済概況
- 第6回 アジア経済概況
- 第7回 国際金融ビジネス
- 第8回 国内金融ビジネス
- 第9回 商社ビジネス
- 第10回 製造業ビジネス
- 第11回 通信とビジネス
- 第12回 試験
- 第13回 試験解説

【評価方法】

単位認定試験の成績による。

【テキスト】

授業中に配布する。

メンタルヘルス

森崎博志

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

今、子どもから大人まで多くの人が心を病んでいるといわれます。心の病は少年期や青年期特有のものもあれば、時代や社会的要因によるものもあります。臨床的事例にふれながらメンタルヘルスについて考えます。

【授業計画】

1. 現代人とストレス
 - 1) こころとからだ
 - 2) セルフコントロールーリラクゼーション法
2. パーソナリティー
 - 1) 本当の自分とは
 - 2) 心理テスト
 - 3) 夢分析
3. 心理臨床の実際
 - 1) 精神分析
 - 2) 来談者中心療法
 - 3) イメージ療法
 - 4) 臨床動作法
 - 5) フォーカシング

【評価方法】

出席の状況と受講態度、レポート等により総合的に評価を行う。なお、授業の進行に応じて適宜ミニレポートを実施する場合もある。

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、随時、資料等を配布して行う。

暮らしの経済

森下允之

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

生活に密着した経済学の入門。特に今や経済社会もグローバル化しており、国際経済の流れや仕組みにもふれ、日常化している経済用語を解説する。

【授業計画】

- 第1講 国民所得統計
- 第2講 バブル崩壊と平成不況
- 第3講 財政の現状と課題
- 第4講 金融の基礎知識（銀行、金融市場）
- 第5講 同上（金融政策、金融自由化）
- 第6講 貿易と国際収支
- 第7講 為替相場
- 第8講 世界各国、地域の経済（アジア、中東）
- 第9講 同上（ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ）
- 第10講 アジア通貨危機
- 第11講 欧州統一通貨ユーロ
- 第12講 地域経済統合vsグローバリズム
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

教材はプリントを配布する。

暮らしの経済

村上貴美子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

生活に密着した経済学の入門。特に今や経済社会もグローバル化しており、国際経済の流れや仕組みにもふれ、日常化している経済用語を解説する。

【授業計画】

- 第1回 最近の経済状況と用語解説
生活と経済の関わり
- 第2回 消費者の権利と意思決定
- 第3回 価値観と消費の多様化
- 第4回 生活をとりまく環境変化
- 第5回 本当の「豊かさ」とは何だろうか
- 第6回 「労働」と言う言葉はなぜキライですか
- 第7回 教育と経済
- 第8回 サービスとはタダ（無料）のことでしょうか
- 第9回 余暇の為に働く
- 第10回 住宅とまちづくり
- 第11回 国際化と生活
- 第12回 未来を考える
- 毎回、最近の経済ニュースの紹介と解説

【評価方法】

出席状況宿題レポート・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

生活の経済学（井原哲夫著 東洋経済新報社）

外国の言語と文化1

角田達朗

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国語の初歩を学ぶとともに中国の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

近年、中国映画は国際的な賞を獲得する作品が続出し、注目を集めている。この授業では、中国映画の中から、主として現代小説を原作とする作品を、題材の年代順に鑑賞することによって、中国の近現代史についての理解を深めて行く。中国の近現代は、辛亥革命・抗日戦争・文化大革命などに象徴される動乱の時代であった。中国映画がこのような動乱の時代をいかに描いているかを、映像表現についての分析も織りまぜながら検証する。

同時に、映画の中の「生きた中国語」に触れることを通じて、中国語に親しみ、言語についての理解を深める契機とした。

- 第1～2回 張芸謀『紅いコーリャン』
(原作 莫言『紅高粱一族』)
- 第3～4回 張芸謀『菊豆(チュイトウ)』
(原作 劉恒『菊豆』)
- 第5～6回 陳凱歌『黄色い大地』
(原作 柯蘭『深谷回声』)
- 第7～9回 謝晋『芙蓉鎮』
(原作 古華『芙蓉鎮』)
- 第10～11回 陳凱歌『子供たちの王様』
(原作 阿城『孩子王』)
- 第12～13回 孫周『心の香り』
(原作なし)

【評価方法】

レポート

*受講状況によっては、試験に変更することもある。

【テキスト】

なし。

*授業時に鑑賞する映画が、テキストに相当する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

外国の言語と文化 1

張 勤

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

初級中国語によるコミュニケーションを勉強するとともに、中国の文化、芸術、映画、料理等、毎回異なったテーマで中国語の支えとなる文化を見つめていく。

【授業計画】

- 第1回 発音(1)
文化コーナー：現代中国と現代中国語とは
- 第2回 発音(2)
文化コーナー：中国語の歌
- 第3回 発音(3)
文化コーナー：中国語の挨拶
- 第4回 「私は名古屋人ではありません」
文化コーナー：中国人の名前
- 第5回 「北京の冬は寒いです」
文化コーナー：料理と中国語
- 第6回 「図書館に中国の雑誌があります」
文化コーナー：中国語の言葉遊び
- 第7回 「君も上海語を勉強していますか」
文化コーナー：中国語と日本語の違い
- 第8回 「私はいつも三月三日の午後三時から三時間ギリ
シャ語を勉強する」
文化コーナー：中国語の映画
- 第9回 「あの人は50メートルは泳げない」
文化コーナー：中国語の文学
- 第10回 「私は今年の年末に中国に行きたい」
文化コーナー：中国語の劇
- 第11回 「私が習ったのは広東語ではありません」
文化コーナー：中国語の外来語
- 第12回 「私の自己紹介を聞いてください」
文化コーナー：中国語のことわざ

【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

講義中に指示する。

【参考文献・資料】

講義中に指示する。

外国の言語と文化 2

尹 大辰

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の初歩を学ぶとともに、朝鮮半島の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 訓民正音について
- 第2回 ハングルの文字と発音(1)
- 第3回 ハングルの文字と発音(2)
- 第4回 基本的な日常会話(1)
- 第5回 基本的な日常会話(2)
- 第6回 基本的な日常会話(3)
- 第7回 言語と文化(1)－衣・食・住
- 第8回 言語と文化(2)－社会的構造
- 第9回 言語と文化(3)－漢字語比較
- 第10回 朝鮮半島の風土
- 第11回 朝鮮半島の歴史と文化
- 第12回 まとめ－言語表現から見た文化比較

【評価方法】

期末試験とレポート、出席率を加味して評価する。

【テキスト】

韓国・朝鮮語はプリント教材を使用する。

【参考文献・資料】

韓国(金両基監修 新潮社)
韓国と日本の比較文化論(金渙著 明石書店)

外国の言語と文化 3

杉本一直

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ロシア語の初歩を学ぶとともに、ロシアの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- キリル文字と発音
- 大きな声であいさつしよう
- 買い物に行ってみよう
- 乗り物に乗ろう
- おなががすいたら...
- 自分について話してみよう

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典(白水社)

外国の言語と文化 3

丹邊文彦

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ロシア語の初歩を学ぶとともに、ロシアの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回～3回 文字と発音
教科書「文字と表現」(1)～(6)
- 第4回 “文字と表現”(7)
- 第1課 この人は誰ですか？
- 第5回 第2課 知ってますか？
第3課 ノートは机の中です
- 第6回 第4課 私は東京から来ました
第5課 すみません、入っていいですか？
- 第7回 第6課 今日は試験です
第7課 ロシア語はおもしろい
- 第8回 第8課 頭は何のためにあるのでしょうか？
第9課 御兄弟はいらっしゃいますか？
- 第9回 第10課 私はモスクワにいます
第11課 紅茶とコーヒーどちらが大好きですか？
- 第10回 第12課 どこにいたの？
第13課 これはおいくらですか？
- 第11回 第14課 お店はどこでしょうか？
第15課 あしたは私は出張です
- 第12回 第16課 5時に会いましょう
第17課 私はあさってロシアへ行きます

1期終了の授業で時間が限定されているので、文法および練習問題は最小限に止め、本文(テキスト)中心に授業をすすめる。理解した文章をくり返し朗読して復習することを重視する。

【評価方法】

- a. 朗読 b. 聴取り c. ペーパーテスト の総合

【テキスト】

話すロシア語入門(米重文樹著 白水社)

【参考文献・資料】

ロシア語のすすめ(講談社現代新書)

外国の言語と文化 4

藤井たぎる

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ドイツ語の初歩を学ぶとともに、ドイツの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

ドイツ・オーストリアの生活文化とその言語。現代のドイツ・オーストリア事情の一端を紹介しながら、ドイツ・オーストリアのいろいろな「顔」を発見してもらう。具体的には下記のような日常的なテーマをもとに、ドイツ・オーストリアの事情を日本のそれと比較しながら、両者の類似性と差異をみてゆく。また初歩的なドイツ語会話の練習もあわせておこないたい。

- 1) ドイツ・オーストリアの風土
- 2) ドイツ・オーストリアの近現代史
- 3) ドイツ・オーストリアのマス・メディア
- 4) ドイツ・オーストリアの衣食住
- 5) ドイツ・オーストリアの消費生活
- 6) ドイツ・オーストリアの芸術文化

講義形式ではあるが、授業中にいろいろ意見を求め、各自の考えるところを発言してもらう。必要に応じてプリントを配布する。

【評価方法】

筆記試験。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

外国の言語と文化 5

清水ベアトリックス

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ヨーロッパ文明の発祥の国フランスについての理解を深めることはヨーロッパ文化を理解するうえで重要である。フランス語とフランス文化の概要を学ぶことにより、フランスへの関心と理解への動機づけとしたい。

前期

このコースは、受講者の興味を考慮に入れ授業内容を考えたい。現代フランス社会と日常使用されているフランス語を学ぶとともに、担当講師（フランス人）の在日体験談を交え、フランス・日本両国を言語・文化の面から比較検討する。

とにかく、下記のテーマで行う。

- フランスの地理
- フランスの建国
- フランス国民の起源
- フランスの社会問題
- フランスの家族
- 教育制度
- フランスとヨーロッパ
- フランス人と余暇など。

後期

前期と同じ。

【授業計画】

毎回、担当教員が指定したテキストの章について議論し、テレビや新聞で報道されたフランスに関する時事問題の中で特に学生の関心を引くようなものを選んで、解説したい。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題（テキストや映画についての感想文）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

変貌するフランス（西永良成 日本放送出版協会）

外国の言語と文化 6

木下まりあ

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

スペイン語の初歩を学ぶとともに、スペインの風土・歴史・文化についても理解を深める。

【授業計画】

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペインの歴史と文化の特色
3. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 人称代名詞、serとestar動詞、hay
6. 否定文、疑問文、関係詞、感嘆文
7. 形容詞（性数の一致）、指示形容詞、所有形容詞
8. 動詞（直説法現在）
9. 再帰動詞
10. 動詞（直説法現在完了）、過去分詞と現在分詞
11. 動詞（直説法過去：点過去と線過去）
12. まとめ

【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示。

文章表現論

加藤孝男

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「自分にしか書けないことを誰にもわかるように書く」ことを目標にして、文章表現に必要な基本的事項を実践例をふまえながら学習する。

【授業計画】

- 第1講 はじめに
- 2～3 日記について
 - 4～6 名文を読む
 - 7～8 表現のレトリック
 - 9～10 芸術的表現の手法
 - 11～12 表現の実践
 - 13～14 まとめ

【評価方法】

提出物（表現の実践）で評価します。
また、出席・平常点も重視。

【テキスト】

第一回目の講義で指示します。

文章表現論

青木 健

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「自分にしか書けないことを誰にもわかるように書く」ことを目標にして、文章表現に必要な基本的事項を実践例をふまえながら学習する。

【授業計画】

第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現Ⅰ)

第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現Ⅱ)

第3回～7回

例文をテキストに、文章の構成、話法、リズム、形容修辭法など具体的に講義。

第8回～12回

課題を3回提出し、短文(2～5枚、400字詰)を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

当方にて用意します。参考書籍は授業中に数冊指示します。

比較文化

文 嬉眞

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

世界にはさまざまな国家や民族があり、多様な文化が存在する。文化人類学的な見地から外国の文化や伝統・風俗を学ぶ。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人(見る側)が日本という異文化(見られる側の文化)と直接接触した際、どのように評価(表現方法)・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人(見る側)がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人(見る側)が「異文化」(見られる側の文化)を見るまなざしに関して考察することによって、自文化(見る側の文化)を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人(見る側)における「日本認識」および外国人(見る側)がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人(見る側)における「日本認識」および外国人(見る側)がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。(必ず事前に読んでおくこと)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

比較文化

田所光男

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

世界にはさまざまな国家や民族があり、多様な文化が存在する。文化人類学的な見地から外国の文化や伝統・風俗を学ぶ。

【授業計画】

ワインとか料理、香水にモード、もう少しアカデミック(?)にルーブルとかオルセー...皆さんのフランス・イメージはどうでしょうか。この授業では、異文化・異民族との関係の中にあるフランスを眺めて行きます。恐らくこれまでのフランス・イメージとはかなり違うフランスの姿にぶつかることになると思います。フランスを少し再発見してみる、ことができるのではないのでしょうか。また、フランスばかりではなく、現代世界に生じている様々な文化摩擦・民族衝突の問題を理解して行くために必要な、いくらかの知的枠組みを自分の中に取り入れることも可能だと思います。

具体的には、まず、異文化・異民族の接触・交渉・衝突についての概論を行います(7回)。次に、フランスの内部にある異文化接触の問題として、ユダヤ人、特に、ジェノサイド以降の、戦後生まれの世代の動向に注目します(5回)。

こうした検討を通して、同化、植民地化、移民、ヨーロッパ中心主義、反ヨーロッパ主義、文化相対主義、普遍主義、差異への権利、多文化主義など、様々な問題を考えて行きます。

【評価方法】

授業への積極的な参加、及びレポート(大小二回を予定しています)。

【テキスト】

異文化への視線(佐々木英昭編著 名古屋大学出版会)
その他、適宜プリントを配布します。

現代芸術 1

森美恵子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。

書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】

書の鑑賞と学び方(上田桑鳩 教育図書研究会)

現代芸術 1

小川晃治

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

各時代に於ける日本の書美の変相を、他の美術と文学と対比、関連させて探求させる。そして現代社会の中にあつて、書のあり方、価値感を考察し、また生活の中に於ける書文化の諸相を観る。漢字から「かな」を創造した日本人の美意識を追求する。

- 他の美術、文学を対比して、書の美学を学ぶ。
- 基本的書技を実習する。楷、行、草、篆、隸書、かなの六体を実習する。
- 日本の三筆、三蹟の古筆の鑑賞、臨書をする。
- 基本的なかなの実技と、古筆を鑑賞する。
- 漢字の細字の実技の実習をする。王羲之の蘭亭叙を臨書させる。
- 和漢の書道史を通じ、書の美の概要を学ぶ。
- 奈良、平安時代の文学、書に於ける、漢字の意義、かなの創成、大成を通じ、上代文化の成立を学ぶ。
- 鎌倉時代に於ける禅文化を墨跡にふれ、貴族文化と武家文化の対比をさせる。
- 室町、桃山時代の絵画、建築、工芸と書芸の動向を観る。また現代社会に於ける美の淵源を探る。
- 江戸時代に於ける庶民文化隆盛の中の美と、和様、唐様の書の諸相を学ぶ。
- 現代社会に於ける、文字、書文化の社会生活の中での意義を考えさせる。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

【評価方法】

レポート三種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

現代芸術 2

志水博子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「音楽」の意義と意味を問い、名曲を鑑賞し、歌唱をする。

【授業計画】

- 第1回 名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
- 第2回 声の出るしくみを知る
- 第3回 腹式呼吸と身体のつかい方の練習
- 第4回 ビデオ鑑賞
- 第5回 ビデオ鑑賞
- 第6回 ビデオ鑑賞
- 第7・8回 ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方練習
- 第9～12回 各自の課題による実技発表とアドバイス

【評価方法】

授業内での実技演奏（各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可）と出席状況

【テキスト】

楽譜プリントは配布

現代芸術 2

浅田まり子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「音楽」の意義と意味を問い、名曲を鑑賞し、歌唱をする。

【授業計画】

- 第1講 音楽について
- 第2講 声のしくみ
- 第3講 ヴォイストレーニング
- 第4講 音楽と教育
- 第5講 音楽療法
- 第6講 音のスケッチ
- 第7講 リズム
- 第8講 メロディー
- 第9講 ハーモニー
- 第10講 表現と技術
- 第11講 音楽と旅
- 第12講～発表

*各講それぞれのテーマで話し合い、歌唱やキーボード、ギター、鑑賞、創作を、クラスまたはグループの要望にあわせて指導していく。

*発表は、個人またはグループで、歌、楽器の演奏や、コンピューターミュージックなどによる創作とし、ジャンルを問わない。

*音楽の機能を使って、健康的な人間形成に役立てるのにはどうしたらよいかを考え、自分の音楽をよく聴きながら、ノンバーバルコミュニケーションとなる音楽を発表できることを目標とする。

【評価方法】

実技、感想レポート、出席状況、授業態度で評価。

【テキスト】

授業中に指示し、楽譜など貸与する。

現代芸術 3

横山萬里

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「美術」の意義と意味を問い、名画を鑑賞し、又、古画のうちで親しみやすい絵巻について講義をする。

【授業計画】

国宝に指定されている古い絵画あるいは日本の伝統的な絵巻のなかから鳥獣人物戯画をとりあげて日本画の表現、色彩方法を講義する。

また、授業の中で名古屋市内の美術館を訪問し、古画現代画にふれる。

- ・日本画の特徴
- ・鳥獣人物戯画の説明
- ・鳥獣人物戯画における線の強弱と動き
- ・日本画の模写について
- ・日本画の鑑賞

美術館入場料 500円程

筆ペン 500円

費用 計 1,000円

【評価方法】

出席状況と感想文レポート（6回提出）を総合的に評価。

【テキスト】

日本の絵巻6「鳥獣人物戯画」
コピーした図を見る。

【参考文献・資料】

なし。

女性学・男性学

井深淳子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

本授業を通して、私達の生活を、女性学・男性学から点検し、そこに「どういう困難があり、どういう課題があるのかを具体的に知ること」をめざす。

【授業計画】

- 第1回 はじめに
- 第2～5回 家族問題
- 第6～9回 子育て
- 第10～11回 現代の病巣
- 第12～13回 女性が働き続けることについて

【評価方法】

期末試験、講義時に行う課題や、受講態度等、総合的に評価する。

【テキスト】

女性学への招待〔新版〕(井上輝子著 有斐閣)

テキストとともに、講義中に適宜配布する関連資料を用いてすすめる。

女性学・男性学

伊藤公雄

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代日本社会におけるジェンダー問題について、おもに男性学の視点から考察を加える。

はじめに ジェンダー論入門

1. 女性問題の発展
2. 現代日本の女性問題
3. 男性問題の時代
4. 作られる「男らしさ」「女らしさ」
5. 体験的主夫論／働く主夫の生活と意見
6. ニッポンのお父さん／男性の育児をめぐる
7. 男性学と男性運動の展開
8. 試験

<参考図書> 伊藤公雄・牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』(世界思想社)

伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子『女性学・男性学——ジェンダー論入門』(有斐閣)

【授業計画】

講義を中心に、ビデオ教材なども使用しつつ進める予定である。

【評価方法】

試験によって成績評価を行う。

【テキスト】

男性学入門(伊藤公雄 作品社 1,680円)

女性学・男性学

松井やより

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

21世紀に一層進行する経済のグローバル化が女性にどのような影響を与えるのか、女性たちはどう対応するのか——日本とアジアの関係を重点を置いて、現地の最新情報を教材に参加型の授業を行なう。

【授業計画】

- 第1講 国際的に見た女性問題—北京からニューヨークへ
- 第2講 グローバル化とは何か—女性の人権の視点から
- 第3講 貧国の女性化—アジアの現実を見る
- 第4講 人身売買と日本の性産業—タイ女性支援活動
- 第5講 国際移住労働の女性化とJFC問題
- 第6講 観光開発の問題点を考える—南北問題として
- 第7講 先住民とマイノリティ女性はいま
- 第8講 熱帯雨林の破壊—アジアの環境問題
- 第9講 ODAとアジアの開発問題—日本の責任
- 第10講 「慰安婦」問題と戦後責任—「女性国際戦犯法廷」
- 第11講 現代の武力紛争と女性—戦時性暴力不処罰問題
- 第12講 暴力のない21世紀—ヘーググローバル市民社会とNGOの役割

【評価方法】

出席状況とレポートで評価する

【テキスト】

『グローバル化と女性への暴力—市場から戦場まで』
(松井やより著 インパクト出版会)

【参考文献・資料】

- 女たちがつづるアジア (松井やより著 岩波新書)
- 買春社会日本—タイ人女性からの手紙 (明石書店)
- 語りはじめたタイの人びと (サニッスダー・エーカチャイ 明石書店)
- 日本のお父さんに会いたい (松井やより編 岩波ブックレット)
- 第三世界の農村開発 (ロバート・チェンバース 明石書店)
- 戦時性暴力をどう裁くか (国連マクドゥガル報告全訳 凱風社)
- 2000年女性国際戦犯法廷の記録全5巻 (緑風出版)
- 女たちの21世紀9号～26号 (アジア女性資料センター)
- ニューヨーク2000世界女性会議「成果文書」をどう読むか (同)
- 買春に対する男性意識調査 (同)
- 憎悪のナショナリズムを越えて (VAWW・NET ジャパン)

エコロジー

大島光昭

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

今や地球規模で自然の環境破壊が進んでいる。自然を保護し、環境を守る観点から地球のエコロジーを考える。

エコロジーとは、生物とそれをとりまく外界すなわち環境との関係についての総合科学である。生物の生存は均衡のとれた有機的および無機的環境の上に成り立っており、均衡の崩壊は人類を含む生物界の未来を危うくする。人類の生活および生産活動はこれらの均衡を乱して多くの生物の生存を脅かしつつあり、地球の未来に様々な問題を投げかけている。それらの状況について解説するとともに、今後どうあるべきかについて問題提起を行う。

【授業計画】

- エコロジーの基礎
- 自然環境の保護と育成
 - 陸地環境
 - 水域環境
 - 流域圏環境
- 化石燃料と環境
 - 地球の温暖化
 - 酸性雨
 - 光化学オキシダント
 - 浮遊粉塵
- 化学物質と環境
 - オゾン層の破壊
 - 生物濃縮と生態系の攪乱
 - ヒトの健康被害

【評価方法】

出席状況と試験成績をもとに評価する。

【テキスト】

「生態学 (エコロジー)」 (大島光昭著 三恵社 600円)

伝統文化

林 和利

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際化が進み、さまざまな異文化にふれる機会も多くなったが、日本の伝統文化にも目を向けることが大切だ。伝統文化の中でも芸能・演劇を中心に講義する。舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示。
2. 日本芸能演劇史概説。
3. 芸能の発生について
4. 神楽について
5. 伎楽・舞楽・散楽について
6. 能について
7. 狂言について
8. 歌舞伎について
9. 文楽について

また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

アジアの生活と文化

楊 衛平

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本は生活も文化もアジアの影響を強く受けている。特に日本と歴史的にも関係の深い近隣の国を中心にアジアの生活と文化を講義する。

【授業計画】

1. 中国の少数民族の構成
2. 儒教、仏教と道教の相異
3. 中国の年中行事
4. 南北食文化の比較
5. 中医学と西洋医学
6. 気の文化と気功術
7. 飲茶の文化と歴史
8. 伝統武術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の姓の色々
12. 中国の名勝物語
13. 中国人と日本人の考え方の相異

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。

生命の科学

富田 武

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

動物の生命の誕生、生体を構成する物質や生殖と遺伝の仕組みなど、動物の生命の維持のメカニズムについて学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 生命の科学序説
- 第2講 生命誕生と進化
- 第3講 動物細胞の分化
- 第4講 動物体を構成する物質
- 第5講 動物の生殖と発生
- 第6講 動物の遺伝（1）
- 第7講 動物の遺伝（2）
- 第8講 動物の生命維持（1）
- 第9講 動物の生命維持（2）
- 第10講 脳の進化、成長、老化
- 第11講 動物の生殖現象操作
- 第12講 動物の遺伝現象操作
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験で総合的に評価する。

【参考文献・資料】

生命科学への誘い（大島泰郎他編 東京化学同人）
生物小事典（丘英通、岩波洋造監修 三省堂）

食品の科学

千葉善根

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学との関わり、食品のもつ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や化学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業計画】

1. 現代食生活の問題点
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5. 無機質と食品
骨粗鬆症等。
6. ビタミン
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品
食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】

定期試験にて評価。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

生活の化学

八代 有

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

健康で豊かな生活を維持していくには、化学の知識と活用は必要不可欠からざるものである。身近な生活に拘わる化学的な要素について事例をあげて学ぶ。

【授業計画】

1. 栄養のバランスと健康増進を考える
2. 食品成分の化学と食品の安全性
3. ビタミンの化学的性質と疾病とのつながり
4. 生活習慣の改善と疾病予防
5. 薬についての正しい認識
6. 薬が生体に影響を与える因子
7. 尿・血液成分のしくみ
8. 暮らしのなかの酵素の働き
9. 話題となった環境公害
10. 生活のなかでの不思議

【評価方法】

テストおよび出席状況により総合的に判定する。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布する。

生き物の世界 1

服部 一三

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

地球上には多種多様な植物が生存しているが、これらの植物は食物連鎖の基本を成すものである。植物の生物界における位置付けや植物の成育地について紹介し、植物と人間との関わりについて認識を深める。

【授業計画】

- | | |
|---------|---|
| 第1回 | 1. 生物界の分類
2. 生物の進化 |
| 第2-6回 | 3. 植物と人の関わり
1) 農耕の始まり
2) 世界の農耕文化
3) 日本農耕文化の起源と発展
4. 人が手を加えた植物—作物
1) 作物とは?
2) 世界の作物の起源 |
| 第7-8回 | 5. 作物改良の原理と方法
1) 作物改良の原理
(1) メンデルの法則—遺伝学
(2) 遺伝の物質的基礎 |
| 第9回 | 2) 作物の改良方法 |
| 第10回 | 6. バイオテクノロジー |
| 第11-12回 | 1) バイオテクノロジーとは?
2) 作物の改良とバイオテクノロジー
(1) 細胞・組織培養
(2) 遺伝子操作
(3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか?
(1) 倫理
(2) 安全性 |

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

生き物の世界 2

石崎宏矩

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

身近に見られる昆虫や鳥などの生態のメカニズムを解説し、生命の進化について学び、動物への関心といたわりを深めたい。

【授業計画】

次のような項目について講義する。○カイクはどのようにしてクワシか食べないのか○モンシロチョウの雄はどのようにして雌を見分けるか○生物がもっている時計（生物時計）とはどういうものか、時差ボケはどのようにして起こるか○モンシロチョウの蛹はどのようにして寒い冬をのりこえるか○アヒルのひなは生まれて初めて見た生き物を親として認識し、終生変わらない（刷り込み）。刷り込みの起こる機構は？○生命が地球上に生まれてから40億年、さまざまな生物はどのようにして進化してきたのか、DNAの性質、遺伝子の突然変異、自然淘汰とは。

他に、NHKスペシャル「生命-40億年はるかな旅」他のVTRを放映し、解説を加える。

全体として、生物の進化、近未来における地球上の生命-一人間を含めて-の危機について、正しく理解してもらえるようにつとめる。

【評価方法】

出欠、レポート、期末試験によって総合評価する。欠席した時は、友人のノートを書かせてもらって、内容を理解しておくこと。試験問題が、たまたま欠席した日の授業内容だったからといって白紙であれば、特に区別はしない。

【テキスト】

「進化とはなんだろうか」長谷川真理子著（岩波ジュニア新書）を購入しておくことが望ましい。これを読んで要約をレポートとして提出してもらうことを単位修得のための必須作業として課する。図書館に指定図書として多数備え付けてあるが、受講登録者が多い時は全員の手に渡らないことがあり得る。どこの書店でも注文すれば10日程で入手できるが、レポート提出期限直前になってあわてないよう予め配慮されたい。

【参考文献・資料】

随時、授業で指示する。図書館に備えつけてあるので、自主的に勉強してほしい。

人類と宇宙

安野志津子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業計画】

一地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために-

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて 池内 了（新書館）
- (2) 図解雑学 天文学 二間瀬敏史（ナツメ社）
- (3) 星と宇宙の物理学読本 並木雅俊（丸善）
- (4) 図解 SPACE ATLAS 宇宙のすべてがわかる本 三品隆司・河島信樹（PHP）
- (5) 見えてきた宇宙の神秘 野本陽代（草思社）
- (6) 太陽 -その素顔と地球環境との関わり- ケネス・R.ラング著 渡辺 堯/桜井邦朋訳（シュブリンガー・フェアラーク東京）
- (7) 理科年表 国立天文台編（丸善）

数学の世界

岡田克彦

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

我々は日常生活の中で、数学の恩恵を受けて暮らしている。数学は云うまでもなく膨大な内容を持つ学問体系であるが、ここではいろいろな分野の入門的・基本的な事項を解説し、演習により少しでも多く身につけることをめざす。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

生命の倫理

加藤太喜子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代の医学の進歩と発達によって今や人間の生命の誕生も医学よりも倫理の問題になった。現代社会が抱えている「生命」を倫理や哲学の面から考察する。

【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. 生命倫理学の成り立ち
2. インフォームド・コンセント
3. 脳死と移植医療
4. 生殖医療
5. 代理母
6. 人工妊娠中絶
7. 出生前診断
8. 優生思想とは
9. よりよい自己決定に向けて

【評価方法】

レポート及び期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

優生学と人間社会（米本昌平ほか著 講談社現代新書）

健康と医学

渡邊一功

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本はますます高齢化社会に入り、人生80年の時代になった。しかし、長生きするための健康は自分で管理し、自立自助によって初めて達成される。健康を保ち、命を守り育てるにはどうすればよいか。医学の立場から、病気と健康について講義する。

【授業計画】

- 1) 健康とは何か
健康の定義 健康管理 生命の尊さ
- 2) 母と子の絆
母子相互作用 児童虐待
- 3) 子どもの心と身体
子どもの特徴 発育・発達しつけ (基本的生活習慣)
- 4) 女性の健康
思春期への対応 ビル 更年期
- 5) 生活習慣病 (成人病) とは
その予防は幼児期から KYB運動
- 6) アレルギーの話
アレルギーと免疫 アレルギー病 (気管支喘息など)
- 7) 食物と健康
母乳と人工乳 離乳 幼児食 食中毒
- 8) 歯の健康
歯の生理 虫歯と歯周病 高齢者と歯
- 9) 嗜好品と健康
アルコール タバコ
- 10) セクシュアリティに関わる問題
性感染症 (クラミジア感染症・B型肝炎) 性教育
- 11) 高齢社会の健康問題
ライフスタイルへの介入 介護 死を考える
- 12) インフォームド・コンセントとは
3大要素 ムンテラとの違い 診療情報の提供

【評価方法】

主に筆記試験によるが、講義の理解度をみるために小テストを2回、行なう。

【テキスト】

健康と保健の科学 (坂口他著 日本小児医事出版社)

健康とくすり

永井慎一

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため薬品の助けがなければ健康の維持が難しい。薬品についての正しい知識を学び、薬品への依存性や副作用について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 受講生に「病気とくすりについて、今最も知りたいこと」をアンケート調査後、創業の歴史から新薬開発まで、動物実験や治験の評価法も含めて解説
- 第2～3回 くすりの基礎知識として、くすりのかたちと生体内運命、くすりの効くメカニズムと受容体、危険なくすりの飲み合わせと副作用など2回にわたり解説
- 第4回 くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
- 第5～6回 最近許可されたビルなど生活改善薬をはじめ、繁用される一般用医薬品 (OTC) 500種と医者が処方する医療用医薬品200種を薬効別に解説
- 第7回 頭痛、生理痛の原因と治療薬のメカニズム
- 第8回 受講生の多くが苦しむアトピー性皮膚炎や花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
- 第9回 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法を解説
- 第10～13回 検診で見つかる生活習慣病を中心に、高血圧、ガン、糖尿病、エイズなどの発症原因と現在開発中の治験薬を含めた治療薬の作用機作

【評価方法】

配布したプリントからテーマを出題し、出席率とレポートの内容で成績評価する。

【テキスト】

家族で利用できるようA3大の両面プリントを毎回配布し (21枚)、講義する。

ライフサイクルと健康

松田秀子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルに合せた運動と健康の維持について身近な問題をとりあげて講義する。

【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション（理想と現実）
4. 身体意識
5. 肥満とやせ
6. 隠れ肥満
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪
9. 体脂肪を正しく落とす方法
10. 筋肉と運動神経
11. 健康づくりのための運動
12. Walking
13. 性のとらえ方
14. 性への理解
15. 学生生活と健康

【評価方法】

出席状況とレポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

スポーツ基礎

杉山 和 山本啓子 松田秀子

寺田邦昭 門間 博

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

各種スポーツ（テニス、ゴルフ、バドミントン）をはじめ、ストレッチ体操、トレーニングなどの運動の基礎技術を習得することを目標として行う。

【授業計画】

月曜日	2限	杉山	テニス・バドミントン
	3限	寺田	バドミントン・ゴルフ
		杉山	テニス・バドミントン
	4限	寺田	バドミントン・ゴルフ
火曜日	1限	松田	テニス・ゴルフ
	2限	松田	テニス・ゴルフ
	3限	山本	卓球・バレーボール
		松田	バドミントン・ゴルフ
	4限	山本	卓球・バレーボール
水曜日	1限	門間	テニス・バスケットボール
	2限	門間	テニス・バスケットボール
	3限	門間	テニス・バドミントン
		山本	バレーボール・卓球
	4限	門間	テニス・バドミントン
		山本	バレーボール・卓球
木曜日	2限	杉山	テニス・バドミントン
	3限	山本	卓球・バレーボール
	4限	山本	卓球・バレーボール
金曜日	2限	杉山	テニス・バドミントン
	3限	杉山	テニス・バレーボール
	4限	杉山	テニス

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・原則として、半期間に2種目を行います。（天候によって種目を変更する場合があります。）
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

杉山 和

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

月曜日	2限	ゴルフ
	3限	ゴルフ
木曜日	2限	ゴルフ
金曜日	2限	バレーボール
	3限	バドミントン
	4限	バドミントン

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔ゴルフ〕

1. ガイダンス
2. グリップ、スタンス、アドレス
- 3～6. アイアン練習（ショート・ミドルアイアン）
- 7～8. ウッド練習（1、3ウッド）
9. 学外のゴルフ練習場にて練習
- 10～14. 総合練習
15. 学外のゴルフ練習場にて練習

〔バレーボール〕

1. ガイダンス
2. ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3. サーブの種類と打ち方
- 4～6. パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

山本啓子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

火曜日	3限	バドミントン
	4限	バドミントン
水曜日	3限	バドミントン
	4限	バドミントン
木曜日	3限	バドミントン
	4限	バドミントン

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験（シングルスゲーム）
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

松田秀子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

火曜日 1限 バドミントン
2限 バドミントン
3限 テニス

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験
3. ラケットワーク
4. ストローク練習 (アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習 (サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習 (オーバーヘッドを中心に)
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム (フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム

[テニス]

1. ガイダンス
2. ボールとラケットに慣れる
3. グランドストローク (フォアハンドを中心に)
4. グランドストローク (バックハンドを中心に)
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム (フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点 - (欠席回数 / 授業実施回数 × 70点) = 出席点
30点 = 実技点

スポーツ応用

寺田邦昭

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

月曜日 3限 テニス
4限 テニス

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[テニス]

1. ガイダンス
2. ボールとラケットに慣れる
3. グランドストローク (フォアハンドを中心に)
4. グランドストローク (バックハンドを中心に)
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム (フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点 - (欠席回数 / 授業実施回数 × 70点) = 出席点
30点 = 実技点

スポーツ応用

門間 博

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

水曜日 1限 バドミントン
2限 ソフトボール
3限 サッカー
4限 サッカー

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明
ダブルスゲーム

[ソフトボール]

1. ガイダンス
 2. キャッチボールの基本、練習、ゲーム
 - 3～5. バッティングの基本、練習、ゲーム
 - 6～8. 守備の基本、練習、ゲーム
 - 9～11. リーグ戦 1
 - 12～15. リーグ戦 2、まとめ（記録整理・レポート）
- [サッカー]
1. ガイダンス
 2. 個人技能の確認
 - 3～5. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
 - 6～7. 個人技能をもとにチーム編成をし、ミニゲーム
 - 8～10. ミニゲームのリーグ戦
 - 11～15. リーグ戦、まとめ（記録整理・レポート）

【評価方法】

70点－（欠席回数／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ文化論

勝部篤美

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的・社会的事実から論証し、さらにスポーツの生成・発展・衰退に関係する諸要因（政治・経済・産業・社会・教育・科学・宗教・地理的環境等）について考え、現代社会における「人間性復権」への道程を展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレイの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツは地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場合と同じである

【評価方法】

単位認定試験とレポートの成績および出席状況によって評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。

スポーツ文化論

松田秀子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的・社会的事実から論証し、さらにスポーツの生成・発展・衰退に関する諸要因（政治・経済・産業・社会・教育・科学・宗教・地理的環境等）について考え、現代社会における「人間性復権」への道程を展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツ舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

【評価方法】

出席状況とレポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

西洋史

山澤啓造

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「世界史」と「第二次世界大戦までのアメリカ史」

【授業計画】

テキストにしたがい、次の順序で学ぶ。

1. 高校で履修する機会のすくなかった「世界史」の重要史実について勉学する。
2. アメリカを知るための基礎知識などを考察する。アメリカ合衆国は、最古の共和国・最古の現代民主主義国家・最古の成文憲法をもつ国である。この合衆国の歴史を政治・外交中心に第二次世界大戦まで学ぼうとするものである。
3. 新大陸発見、人種、民族、移民、アメリカ独立革命、アメリカ合衆国の成立を考察した後、第二次世界大戦までの著名な10名ほどのアメリカ大統領の略歴と、その間の合衆国の政治・外交の要点を考察する（序章、第一章～第十七章）。最もアメリカ人らしいアメリカ人であるベンジャミン・フランクリンやマニフェスト・デスティニーなどにも文章中で触れる。テキストに沿って授業を進めるので、予習することが望ましい。学生の質問や討論を歓迎する。

【評価方法】

定期試験と出席などで評価する。

【テキスト】

西洋史…世界史・アメリカ史点描…（山澤啓造、平成13年、新訂版、自費出版）

【参考文献・資料】

西洋史…世界史・アメリカ史点描…（山澤啓造、平成13年、新訂版、自費出版）のivページの主要参考文献を参照

日本史

岩口和正

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

夫と妻、親と子などの家族や親族関係は、さまざまな時代・社会を通じて、その基礎的な構造をつくるものとなってきました。従って、時代や社会の変化とともに、このような家族・親族関係もまた、大きく変貌してきました。むしろ、このような分野での歴史的变化こそ、戦争や革命といったはなばなしい政治や思想の歴史の背後にあつて、その最も大きな変動要因のひとつともなってきたと言えるでしょう。そこで、講義では、ややもすれば見落とされがちな日本における家族や親族の歴史の特徴を、政治制度や身分制度、経済制度などと関らせながら取り上げます。

【授業計画】

- 1 婚姻の概念をめぐって
- 2 歴史的婚姻の諸類型1 妻問婚の歴史的特徴
- 3 歴史的婚姻の諸類型2 婿取婚の歴史的特徴
- 4 歴史的婚姻の諸類型3 嫁取婚の歴史的特徴
- 5 離婚法と姦通法の成立
- 6 遊女と売買春の成立
- 7 日本における親族体系について
- 8 ウジ名と姓と名字
- 9 ウジの成立と展開
- 10 ヤケとイエ
- 11 イエの成立と展開
- 12 日本における近代家族の成立

【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

異文化交流論

鈴木 互

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

動態的記号学である文化記号学は、言語・記号・文化を考察の射程に入れることのできる有効な装置である。この考え方を身に付けたうえで、異文化間の差異の具体的な事例を多角的に検討し、さらに異文化との交流に関する諸問題について考察したい。

学習意欲のある、明るく元気な学生の受講を心から歓迎する。

【授業計画】

- 1 文化記号学とその射程
- 2 言語的世界の異文化交流（文学、思想・哲学、宗教など）
- 3 記号的世界の異文化交流（身振り、舞踏、音楽、絵画、演劇、映画、漫画など）
- 4 異文化の実態（韓国、中国語圏、インドネシア、タイ、イギリス、ドイツ、フランス、スペイン、ギリシアなど）
- 5 ナショナリズムと日本文化論
- 6 ポストモダンと多元主義的アプローチ
- 7 インターネットの可能性と限界
なお、講義内容の順番は変更することがある。

【評価方法】

出席・提出物等によって総合的に評価する。

【テキスト】

異文化接触の心理学（渡辺文夫編著 川島書店）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

ポピュラー文化論

文 嬉眞

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「なぜ文化が大衆化するのか」を基本にして考える。第一に、江戸時代に視点をおき、当時の日本社会における文化の「大衆化」の徴候を考え、その文化が大衆へ浸透していく諸要因や過程を考察してみる。第二に、近・現代における「近代化」・「都市化」・「情報化」が「大衆文化」や「ポピュラー文化」に及ぼす影響およびそれを受け容れる民衆の心理状態、生活様式、人間関係などがどのように変化していくのかを追及する。最後に、現在われわれの周囲に見られる文化の諸相から「文化的多様化」を考え、各自検討する。

【授業計画】

- 第1回 本講義における「文化」とは
- 第2～4回 江戸時代における文化の「大衆化」の過程および要因
- 第5～6回 戦前の日本社会における「大衆文化」
- 第7～8回 戦後の日本社会における「大衆文化」
- 第9回 「都市化」・「情報化」がもたらした社会での「大衆文化」とは
- 第10回 「大衆文化」と「ポピュラー文化」とは
- 第11～12回 今日の文化現象からみる日本の社会や人間関係および「文化」の行方

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 定期試験またはレポート（未定）で残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

文化人類学

三木 誠

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間とその他の生物との本質的な違いの一つは、言語を媒体とした文化形成の有無である。文化は地球上の生物で人間だけが持つものであり、人間は無意識のうちに自身の生まれ育った文化から様々な影響を受けている。文化人類学という学問は、このような文化を切り口として、人間という存在の普遍性と多様性を追求していく学問である。授業では、世界中の社会に見られる様々な文化的事象を解説し、できるだけ数多くの事例を交えながら、人間の持つ文化の魅力や不可解さを伝えていきたいと考えている。

【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。

- 文化
- 性差
- 婚姻
- 家族
- 交換
- 宗教
- 性
- エスニシティー
- 異文化解題

【評価方法】

あらかじめ問題を公開したレポート形式の簡単な試験により評価する。異文化に対する興味を養うことを主眼とするので、暗記等は必要ないが、ノートはとること。

【テキスト】

指定せず。

【参考文献・資料】

文化人類学を再考する（青弓社）

現代思想

大野波矢登

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

今世紀の英米で展開されてきた倫理学の諸理論（功利主義、義務論、徳理論、等）を中心に、近代以降の西洋倫理思想の歴史を概説する。そして、それらの理論によって与えられた議論の類型や概念装置を理解するとともに、今日のわれわれを取り巻く現実、特に医療、環境、情報、科学技術といった領域で提起されている課題について倫理的視点から考察する。

なお、授業はすべて講義形式で行う。

【授業計画】

- 第1回：現代世界が抱える課題と、それに対する倫理的アプローチとは
- 第2回：西洋倫理学の基本概念
- 第3回：功利主義の思想
- 第4回：20世紀の倫理思想（1）－伝統的功利主義に対する批判と見直し
- 第5回：20世紀の倫理思想（2）－応用倫理学との接点
- 第6～7回：環境倫理
- 第8～9回：生命倫理と医の倫理
- 第10～11回：情報倫理
- 第12回：科学技術の倫理（医療技術、情報通信技術については第8～11回でも取り上げる）
- 第13回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績をもとに評価する。

【テキスト】

先端技術と人間：21世紀の生命・情報・環境（加藤尚武著 NHKライブラリー）

視覚芸術論

海上宏美

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

近現代以降の多様な視覚芸術を二次元・三次元・四次元という視座から捉え、それぞれの次元における視覚の位置とそこから発生する問題系を現代芸術全般を参照しつつ理解していく。随時、ビデオ等を用い、図像や映像を鑑賞する。

【授業計画】

第1講～第4講

二次元における視覚芸術（絵画を中心に～平面、キュビズム、写真、網膜的絵画）

第5講～第8講

三次元における視覚芸術（インスタレーションを中心に～彫刻、モダニズム、メディア・アート）

第9講～第12講

四次元における視覚芸術（劇場を中心に～スペクタクル、パフォーマンス、ボディ・イメージ）

最終的に課題レポートを提出してもらう。

【評価方法】

出席状況と課題レポートの成績によって評価。

【参考文献・資料】

授業中に指示。

文献入門

伊藤真理

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「文献」を広く捉え、様々な学問分野において有効な情報源となり得る各種情報メディアをとりあげる。

各情報メディアについてその定義、歴史、特徴をわかりやすく解説し、その利用方法や探し方についても具体例をとりまぜて紹介する。

なお、履修希望者は図書館オリエンテーションおよび学内LAN講習会を必ず受講しておくこと。

【授業計画】

- 1 文献とは
- 2 文献の定義、歴史、特徴
 - 2.1 図書
 - 2.2 雑誌
 - 2.3 新聞
 - 2.4 地図
 - 2.5 絵画
 - 2.6 楽譜
 - 2.7 インターネット
- 3 文献の利用方法
- 4 文献の探し方

【評価方法】

平常点、レポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

メディア表現

鎌田基子

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

メディアとは、知的活動もしくは芸術活動の効果「表れ」に対する一つのとらえ方がある。ここでは情報メディアをその定義、種類、歴史について概説し、技術革新によってメディアにもたらされた「表現」の多様性について述べる。印刷体から電子メディアへの変化、送り手と受け手、双方向性、各種の情報メディアの特性、新しいメディアのもたらす影響などを内容とする。

【授業計画】

「リアリティー」の変化
表現形態の違い 具象・抽象
平面・立体
屋内・屋外
鑑賞・参加
メディアになるもの 言葉
音
身体
モノ
できごと
「表現」が探すもの 存在
関係
伝わらないこと
WORK SHOP (実習) 人相書
遺書
水墨画
ウケを狙う

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

統計学入門

鈴木有美

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

初めて統計学を学ぶ者が理解できることを念頭に、統計学の基礎的な知識を身につけ、かつ実践的な統計的技法を理解できるようになることを目指します。

1. 変数の性質
2. 基礎統計量
3. 確率変数と確率分布
4. 変数の変換
5. 母集団と標本
6. 統計的推定一点推定・区間推定
7. 統計的検定一母平均検定・母分散検定・母比率検定
8. 平均値の差の検定-t検定・分散分析
9. ノンパラメトリック検定

【授業計画】

講義の内容については、基本的に上記の順に進めますが、受講者の理解・興味に応じて構成していく予定です。また、講義で学んだことについて理解を深めるための課題を随時設けます。

【評価方法】

課題の提出とその結果、および定期試験の結果をあわせて評価します。

【テキスト】

本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本(吉田寿夫著 北大路書房)

【参考文献・資料】

授業中に紹介します。

脳の働き

富田 武

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の精神活動の中核としての脳の構造と、その進化の過程を学び、本能と理性、感情と行動など高度の精神活動の発現と制御の機構を考える。

【授業計画】

- 第1講 精神活動の中核を求めて
- 第2講 脳の進化と発達
- 第3講 脳と神経細胞の構築
- 第4講 興奮と抑制
- 第5講 大脳皮質の分業体制
- 第6講 感覚と姿勢運動の制御
- 第7講 喜び、意欲し、言語する脳
- 第8講 利き手、利き脳、大脳辺縁系
- 第9講 本能をうみだし、怒る脳
- 第10講 内臓の統御と、学習、記憶をする脳
- 第11講 睡眠、夢、意識の狭間
- 第12講 行動を操る脳
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績で総合的に評価する。

【テキスト】

脳の話（時実利彦著 岩波書店）

【参考文献・資料】

脳の不思議（伊藤正男著 岩波書店）
脳のしくみと不思議（鈴木智子著 日本文芸社）

遺伝子の世界

林 博司

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

全ての生物は遺伝子、すなわち遺伝情報の支配下にある。遺伝子が生命の中心となっている機構を、生命現象の歴史を含めて、自然科学の立場から考える。

親しみやすいように、われわれヒトの体から生命の成り立ちを掘り下げて考え、生命の階層構造を見る。分子機械としての生命を理解した上で、遺伝子操作、細胞操作などヒトの暮らしに密着した生命技術を解説すると共に、生命倫理・人生の価値観などを討論する。さらには環境問題が実はヒトの生命観の問題であることを理解していただく。

【授業計画】

1. 生命の歴史
2. 生命の理解に必要な化学・物理学
3. ヒトの体を理解する
 - ア. 器官のいろいろ
 - イ. 細胞のいろいろ
 - ウ. 巨大分子
4. 分子機械としての生命
5. 分子機械の設計図：DNA
6. 遺伝子の働き
7. 遺伝子を操作する
8. 細胞を操作する
9. 器官を操作する
10. 遺伝子と環境の関わり
11. 単位認定試験

以上の13講を、学生との対話・身近な事例の提示を重視した方法で行う。

【評価方法】

出席点60%・単位認定試験の成績40%

【テキスト】

特に定めない

【参考文献・資料】

受講者の理解度をもとに、適宜紹介する。

哲学的人間論

加藤泰史

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

都市・環境・景観などをめぐる現代の問題について、レオナルド・ダ・ヴィンチ、カント、ジンメル、ベンヤミン、和辻哲郎などといった哲学の古典的な議論を踏まえながら、こうした問題が哲学的にどのような意味を持つのか、さらに哲学的にはどのような論点を含んでいるのかを考察する。最終的には「公共性」の問題まで論じたいと考えている。

【授業計画】

- 第1回：全体の講義計画提示。
第2回：都市・環境・景観などをめぐる問題について具体的に考える。
第3－6回：ルネサンスの理想都市論——近代都市論と環境の問題。
第7－8回：都市と景観・風景の問題
第9－11回：都市における公園の意味——都市と「公共性」の問題。
第12回：全体のまとめ。

【評価方法】

レポートの成績、口頭発表および聴講態度などによって総合的に判定する。なお、私語・飲食など聴講態度の悪い者については退席のうえ、単位を認定しない場合もある。

【テキスト】

『啓蒙とは何か』（カント、岩波文庫）、『風土』（和辻哲郎、岩波文庫）。それ以外は講義中に配布等を行う。

【参考文献・資料】

『人間学』（金子晴勇編、創文社）、『ユートピア』（哲学会編、有斐閣）、『行人』（夏目漱石、岩波文庫）
それ以外については講義中に指示する。

タナトロジー（死生学）

加藤太喜子

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

タナトロジー（死生学）

「死んでいくこと」や「死」そのものなど、死に関して様々な側面から考える学問を「死生学」と呼んでいる。この授業では「死」について非常に限定された角度からしか扱えないが、「死」について考えることを通して「現在の生」そのものを共に考えたい。

【授業計画】

1. 死生学とは
2. 伝統的な「死」の捉え方
3. 死への恐怖と受容
4. さまざまな死のあり方
5. 医療と死
6. ターミナルケア
7. グリーフワーク・グリーフケア
8. 死への準備教育

【評価方法】

授業中に課す小レポートと、中間・期末レポートにより評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

授業中に指示する

現代人権論

初谷良彦

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

法律と国家は人間のためにあるのであって、人間は国家とそれを保護する法律のためにあるというのではない。

したがって、法律の第一の目的と国家の最大の責務は人間の尊厳を守ることにある。「人権」はまさに「人間としての権利」であるから、講義では単なる歌い文句としてではなく、法律の課題として考察する。

【授業計画】

- 第1回 人権の歴史
- 第2回～第3回 人権の内容と享有主体
- 第4回～第5回 プライバシー権、環境権
- 第6回～第8回 自己決定権
- 第9回～第10回 法の下での平等（EUの女性政策クォータ制（定員制）、フランスのパリテ制（強制的な男女同数原則）についても詳しく説明する）
- 第11回 信教の自由と政教分離
- 第12回～第13回 表現の自由
- 第14回～第15回 生命倫理に関する諸問題

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義Ⅰ（第2版）（初谷良彦、成文堂）

【参考文献・資料】

講義の際に随時紹介する。

こども・教育・社会

酒井晶代

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

＜現代児童文学のなかの子どもたち＞

子どもの文学を主な手がかりとして、「こども・教育・社会」をめぐる諸問題を考える。近代以降、大人たちは子どもの“健やかな”成長や発達を願って、さまざまな文化を創造してきた。児童文学もその一つであり、個々の作品には社会や作者の子ども観が反映している。大人が書き、子どもが読む児童文学は、「送り手＝大人」と「受け手＝子ども」との思惑が交差する場所と言えよう。

講義では短篇を中心に現代児童文学の代表的な作品をとりあげ、作品に描かれた子ども像や作者の子ども観を確かめながら、現代社会における子どもの問題について考察してみたい。子どもと大人の境界が問われる今日、子どもを問うことは、大人を問うことでもある。子どもの文学を入り口として、子どもの中に潜む大人の問題、大人の中に潜む子どもの問題を、教育や社会の側面から探り当てていきたいと考えている。

【授業計画】

- 第1回 「子どもの文学」とこども・教育・社会
- 第2回 ときありえ「森本えみちゃん」
- 第3回 那須正幹「六年目のクラス会」
- 第4回 森忠明「楽しい頃」
- 第5回 村中李衣「たまごやきとウインナーと」
- 第6回 岩瀬成子「ダイエットクラブ」
- 第7回 大石真「光る家」
- 第8回 天澤退二郎「赤い凧」
- 第9回 牧野節子「赤い靴」
- 第10回 上野瞭「ぼくらのラブ・コール」
- 第11回 あまんきみこ「かくれんぼ」
- 第12回 よもぎ律子「遊太」

【評価方法】

出席状況、レポート、試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

児童文学—新しい潮流—（宮川健郎編著 双文社出版）

ボランティア論

榎田勝利

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「ボランティア」は、今や新しい時代を生き抜いていくための行動様式の一つになっている。ボランティア先進国である米国における「ボランタリズム」の成り立ち、社会的背景、存在意義、社会制度等を概観しつつ、「日本的ボランティア」の概念、定義、社会制度、推進方策、およびNPOとボランティアの関連性についても考える。

【授業計画】

講義と学生によるプレゼンテーションにより授業を展開していく。

- 1) ガイダンス、ボランティアに関する用語解説
- 2) 日本のボランティア活動の現状・課題
 - a) ボランティアの歴史的背景
 - b) ボランティアの定義、条件
 - c) NPOとボランティア
 - d) ボランティアの活動分野
 - e) ボランティアコーディネーター
- 3) 米国のボランティア
 - a) 現代社会が生み出すボランティア
 - b) ボランティアに必要なこと
 - c) 「ボランティア大国アメリカ」の実態
 - d) 優れたボランティアになるためのステップ
 - e) ボランティアに優しい組織づくり
 - f) ボランティアがつくる新しい時代
- 4) 国際ボランティア
 - a) 国連ボランティアと青年海外協力隊
 - b) NGOとボランティア
- 5) 開かれた市民社会の形成を目指して

【評価方法】

課題研究レポート、プレゼンテーションおよび平常点にて評価する。

【テキスト】

ボランティアが変える世界 (ケン・アレン著 アルク)

市民社会論

若松孝司

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

近代社会は「市民」によって構成された「自発的共同社会」であるという前提にたち、その前提（理念）と現実との乖離を、国内外の諸社会現象を検討することによって明らかにしていく。そして、そのような社会に生きる一構成員として必要な「ものを見る力」を養成することを、本講義の目標とする。

そこで本講義では、下記の授業計画に掲げたトピックスを紹介し、これらの現象が近代市民社会の前提から見、どのように評価されるのかについて講義する。

【授業計画】

以下のトピックスについて講義する。

1. 市民とは何か
西欧を中心とした市民社会の成立過程と日本への移植の過程を概観し、西欧と日本とを比較検討することによって、日本における市民社会のあり方を考える。
2. 現代社会における市民社会の現状
女性の社会進出、高齢社会への対応、障害者のおかれた現状、同性愛者の人権など、一見「華やかな」日本社会の「陰」の側面に注目する。
3. 国際化と市民
「外向き」の国際化ではなく、在日韓国・朝鮮人や日系外国人労働者の現状や歴史について検討し、「国際化」とは何かを考える。

【評価方法】

毎講の出席状況と期末試験、それに授業中に実施する小テストの結果によって成績を決定する。

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

知的所有権

辻田芳幸

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人の創作活動の成果である著作物は、今日、創作者の人格の発露というばかりか、企業などによる投下資本の結晶という意味合いをも濃くし始めている。著作権の分野においては、情報技術（IT）の発達によってこのような傾向が顕著である。

そこで、この講義においては、情報社会における知的所有権の役割について、著作権法を中心に解説することとしたい。具体的には、情報社会においてどのような問題が生じ、それがどのようにして解決されるのか、情報の受信者のみならず発信者として、いかなる点に留意しなければならないかを探求する。

【授業計画】

- 第1回 情報社会における知的所有権の役割
- 第2回 著作者
- 第3回 著作者の人格的利益
- 第4回 著作者の財産的利益
- 第5回 私的複製
- 第6回 引用
- 第7回 実演家の権利
- 第8回 侵害に対する救済
- 第9～12回 インターネットと著作権法

【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

【テキスト】

千野直邦・尾中普子『著作権法の解説』
（四訂版）（一橋出版）

メディカルサイエンス

多田萬里子

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

近年の科学技術の進歩により遺伝子治療・臓器移植など医学も目覚ましい発展をとげてきた。

しかし、社会の変化によって疾患の様子も変り、特に、ライフスタイルの変化によって増加した生活習慣病、環境汚染物質の生体への影響、新しい感染症などが問題となってきた。

先端医学の現段階について紹介し、多様化する社会でいかにして健康を維持するかを考えていきたい。

【授業計画】

次の課題について講義する。

- 1、遺伝子診断、遺伝子治療
- 2、生活習慣病：がん・糖尿病
- 3、老化と寿命
- 4、新しい感染症：エイズ・狂牛病
- 5、臓器移植の課題
- 6、生殖医療と生命倫理
- 7、現代社会と健康、環境ホルモンなどの環境汚染

【評価方法】

学習態度、授業内テスト、学期末テストなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

現代社会と医学（井村裕夫ら編 岩波書店）
医の現在（高久史麿著 岩波新書）
先端のゲノム医学を知る（中村祐輔 羊土社）

Practical English 1 E

横関美津紀 間瀬欣英 村上洋子 山田久美子
天野純子 山田豊 太田晶子 鈴木哲至

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。CD付きの教材を使用するので、積極的に授業に参加してもらいたい。

【授業計画】

この授業は、文法、ヒアリングを中心に行う授業が週に1回、リーディング中心の授業が週に1回行われ、週2回で2単位の科目である。週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。月曜日1限、水曜日1限のグループと火曜日1限、水曜日1限のグループがある。いずれも同じテキストを使用する。

* 文法、ヒアリング中心の授業 (週1回)

月曜日1限：間瀬先生、千葉先生

火曜日1限：山田久美子先生、天野先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

* リーディング中心の授業 (週1回)

水曜日1限：山田豊先生、太田晶子先生、横関先生、鈴木先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

月曜日1限 間瀬先生&水曜日1限 横関先生

月曜日1限 千葉先生&水曜日1限 鈴木先生

火曜日1限 山田久美子先生&水曜日1限 山田豊先生

火曜日1限 天野先生&水曜日1限 太田晶子先生

(先生の組み合わせは決まっているが履修上、それを選択することはできない。)

テキストは、半期、各1冊、使用する。

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

間瀬先生：定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって想像的に評価。

千葉先生：出席、授業態度が30%、定期試験が70%。

山田豊先生：出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数化して評価する。

太田先生：出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

山田久美子先生：出席状況、定期試験により評価する。

天野先生：出席、ハーフテストスコア、期末テストによる。

鈴木先生：出席状況・授業態度・クイズ-30%、定期試験-70%

横関先生：出席状況、授業中の学習態度および課題や小テストを含めた平常点と定期試験を想像評価。

【テキスト】

文法：「TOEICテスト 英文法攻略」南雲堂

リーディング：「Read up-22 Steps to Strategic Reading 一」成美堂

Practical English 1 F

横関美津紀 間瀬欣英 村上洋子 山田久美子
天野純子 山田豊 太田晶子 鈴木哲至

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。前期に履修した学生も、また新しい気持ちで後期も引き続き授業をうけてもらいたい。後期から履修する学生にも対応できるテキストを使用しているため、積極的に授業に参加してもらいたい。

【授業計画】

この授業は、文法、ヒアリングを中心に行う授業が週に1回、リーディング中心の授業が週に1回行われ、週2回で2単位の科目である。学生は、週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。月曜日1限、水曜日1限のグループと火曜日1限、水曜日1限のグループがある。いずれも同じテキストを使用する。

* 文法、ヒアリング中心の授業 (週1回)

月曜日1限：間瀬先生、千葉先生

火曜日1限：山田久美子先生、天野先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

* リーディング中心の授業 (週1回)

水曜日1限：山田豊先生、太田晶子先生、横関先生、鈴木先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

月曜日1限 間瀬先生&水曜日1限 横関先生

月曜日1限 千葉先生&水曜日1限 鈴木先生

火曜日1限 山田久美子先生&水曜日1限 山田豊先生

火曜日1限 天野先生&水曜日1限 太田晶子先生

テキストは、半期、各1冊、使用する。

(先生の組み合わせは決まっているが、履修上、それを選択することはできない。)

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

間瀬先生：定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって想像的に評価。

千葉先生：出席、授業態度が30%、定期試験が70%。

山田豊先生：出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数化して評価する。

太田先生：出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

山田久美子先生：出席状況、定期試験により評価する。

天野先生：出席、ハーフテストスコア、期末テストによる。

鈴木先生：出席状況・授業態度・クイズ-30%、定期試験-70%

横関先生：出席状況、授業中の学習態度および課題や小テストを含めた平常点と定期試験を想像評価。

【テキスト】

文法：「TOEIC TEST 実践リスニング」北星堂

リーディング：「TOEIC TEST 実践リーディング」北星堂

Practical English 2 E

山田 豊 太田晶子 鈴木哲至
野口朋香 今井加寿 松本一喜

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。

【授業計画】

この授業は、水曜日に文法、ヒアリングを中心に行う授業が、リーディングを中心の授業が金曜日に行われ、週2回で2単位の科目である。授業は、水曜日の2限と金曜日の1限に設定されている。学生は、週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。

水曜日：山田豊先生、太田晶子先生、鈴木哲至先生
(文法)

金曜日：野口朋香先生、今井加寿先生、松本一喜先生
(リーディング)

授業は、テキストを中心に行われるが、詳しくは、担当の先生の指示にしたがうこと。

文法・リーディングの先生の組み合わせは、次のように決定されているが、履修上、学生はそれをする事はできない。きめられたところで受講すること。

水曜日の山田先生&金曜日の野口先生
水曜日の太田先生&金曜日の今井先生
水曜日の鈴木先生&金曜日の松本先生

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

松本先生：2/3以上の出席があり、定期試験で60点以上の得点を取ることが単位認定の基準。定期試験の点数を基準に出席率、発表等の日常点を加味した総合評価をする。

山田先生：出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数かして評価する。

太田先生：出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

鈴木先生：出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%

野口先生：出席20%、クラス小テスト+課題20%、定期テスト60%

今井先生：出席・授業態度30%、筆記試験70%。

【テキスト】

文法：ECC篇「TOEICテスト実施講座」南雲堂
リーディング：「Real-life Scenes of Young Americans」成美堂

Practical English 2 F

山田 豊 太田晶子 鈴木哲至
野口朋香 今井加寿 松本一喜

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。

【授業計画】

この授業は、水曜日に文法、ヒアリングを中心に行う授業が、リーディングを中心の授業が金曜日に行われ、週2回で2単位の科目である。授業は、水曜日の2限と金曜日の1限に設定されている。学生は、週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。

文法は各クラス等一のテキストを使用するが、リーディングは担当の先生によって異なる。

授業は、テキストを中心に行われるが、詳しくは、担当の先生の指示にしたがうこと。

文法・リーディングの先生の組み合わせは、次のように決定されているが、履修上、学生はそれをする事はできない。きめられたところで受講すること。

水曜日の山田先生&金曜日の野口先生
水曜日の太田先生&金曜日の今井先生
水曜日の鈴木先生&金曜日の松本先生

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

松本先生：2/3以上の出席があり、3回のレポート提出、定期試験で60点以上の得点を取ることが単位認定の基準。成績は試験結果を中心に日常点を加味した総合評価をする。

山田先生：出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数かして評価する。

太田先生：出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

鈴木先生：出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%

野口先生：出席・授業態度30%、筆記試験70%

今井先生：出席・授業態度30%、筆記試験70%。

【テキスト】

文法：「TOEICテスト 完全模試」南雲堂

リーディング：

松本先生：藤井・内野「時事英語の総合演習-2002年度版-」朝日出版
風見寛「速読英単語-必修編-」増進会出版社

今井先生：Encountering Our World Heritage (三修社) ¥1,700

野口先生：Takashi Shiozawa, Why Is That?
-Background of American culture,
(金星堂)

Practical English 3 E

ポール・C. リンガー ハリー・T. ノリス キース・イズリー
リチャード・ハリス ジャクリーン・ノリス

1～4年 前期 選択 2単位

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION/EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 3 Eは、週2回コース授業である。月曜1限、木曜1限の両方の授業に出席し、その平均で評価ができる。

Practical English 3 F

ポール・C. リンガー ハリー・T. ノリス キース・イズリー
リチャード・ハリス ジャクリーン・ノリス

1～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION/EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 3 Fは、週2回コース授業である。月曜1限、木曜1限の両方の授業に出席し、その平均で評価ができる。

Practical English 4 E

ハリー・T. ノリス キース・イズリー ジョナサン・E. ロング
ジョアン・M. ウッドマン ベヴァリー・F. M. カレン

1～4年 前期 選択 2単位

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION/EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 4 Eは、週2回コース授業である。火曜5限、金曜5限の両方の授業に出席し、その平均で評価ができる。

Practical English 4 F

ハリー・T. ノリス キース・イズリー ジョナサン・E. ロング
ジョアン・M. ウッドマン ベヴァリー・F. M. カレン

1～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION/EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 4 Fは、週2回コース授業である。火曜5限、金曜5限の両方の授業に出席し、その平均で評価ができる。

Rapid Reading 1

間瀬欣英

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

今世紀の著名な英米作家5人の短編小説を読んで英語の読解力を養うとともに、小説という言葉の芸術の醍醐味を味わい、人間の人生の機微にふれ、あわせて私達自身の生き方も考えていきたい。

テキストの各短編の直後には、アメリカ人編注者による、英語で書かれた詳注があり、また、日本人編注者の注も付加されていて、学生の予習復習のための便宜がはかられています。まず英語の注を熟読して、英語を英語として自然に味わい読むように努力しましょう。そうすることにより、自ずから作品の速読も可能になります。また、英語の苦手な学生のために、多少とも分かりにくい英語表現には、日本語の訳語が付されていますので活用していただきたい。

各作品には、そのテーマや英語の難易度を考慮して配列されており、統一テーマ〈人間の愛と幸福の探究〉です。ぜひ英米文学の魅力に触れ、人間と人生に思いを巡らせていただきたい。

【授業計画】

1. Erskine Caldwell
The Strawberry Season
2. William Saroyan
The First Day Of School
3. W. Carlos Williams
The Use Of Force
4. Sherwood Anderson
Sophistication
5. Ernest Hemingway
The End of Something

【評価方法】

定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価する。

【テキスト】

Collected Modern Short Stories Love & Youth (Macmillan Languagehouse ¥1,400)

Rapid Reading 1

野口朋香

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

英語読解力を養うことはもとより、カナダやアメリカの家庭、学校生活、労働、経済、医療などのトピックに関して日本と比較しながら異文化を学び、また日本文化をも再認識する。

【授業計画】

受講者の予習を前提にChapterを読み進める。テキストのテープを一通り聞いてからパラグラフごとに大意を把握していく。

第1回～第4回	Chapter 1 – Chapter 5
第5回～第8回	Chapter 6 – Chapter 10
第9回～第13回	Chapter 11 – Chapter 16

【評価方法】

出席・授業態度	30%
筆記試験	70%

【テキスト】

Beneath the Surface 日米文化比較論
(Paul Stapleton & Akira Ito, 成美堂)

Rapid Reading 1

鈴木哲至

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代アメリカを代表する人気商品が、どのように誕生しベストセラーになったかを説明するエッセイを読み、アメリカ文化の一面を読みとると同時に、速読の基本を身につける。

【授業計画】

各週の主なトピックは以下のとおりである。

McDonald's Big Mac
Nathan's Hot Dogs
Lipton Tea
Wrigley's Chewing Gum
Scrabble
Webster's Dictionary
Band-Aids
Nikes
Zippo Lighters
Levi's
Aunt Jemima Pancakes
Planters Peanuts
Kellogg's Cron Flakes

【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

"A Mini History of America's Best Sellers"
(『アメリカーヒット商品ミニヒストリー』)
Christian Ames 著、松柏社、1,250円

Rapid Reading 1

松本一喜

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

1. 『Enduring Voices』を講読します。この授業の目的の一つは、多様な英語との出会いです。授業では、スピーチ、エッセイ、映画の台詞、小説の一節などさまざまな文体の英語を読みます。いずれの英語も平易ではあっても、メッセージをよく伝える優れた英文です。
2. 授業では、目と耳と口、そして頭脳とハートを用いて勉強します。単なる英語の学習にせず、英語で何かを学ぶ授業にしたいと思っています。授業では、準拠テープを用いてのリスニング、リーディング、シャドウイングといった音声面の学習と構文の理解・和訳といったリーディングの学習を並行して行います。
3. 講師側からの一方的な講義形式の授業とはなりません。学生の側の積極的な授業参加が要求される授業になります。
4. 授業は、5～6人程度のグループに分かれて行います。これは学生の側からの授業参加の機会を増やすために行うものです。1回の授業で4～5回の口頭での発表が求められることになる。残念ですが、授業中に寝る暇はありません。予習して授業に参加しないと、グループの他の人に迷惑をかけることとなります。

【授業計画】

テキストのほぼ前半をカバーする予定です。適時、テキスト内容に関連したビデオを見ます。

【評価方法】

単位取得は次の3点をクリアしてください。1、2/3以上の出席。2、3回のレポート提出。3、定期試験で60点以上とること。成績は試験結果を中心に日常点を加味した総合評価です。

【テキスト】

英米文化学会編『Enduring Voices』桐原書店。

Rapid Reading 2

間瀬欣英

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

今世紀の著名な英米作家5人の短編小説を読んで英語の読解力を養うとともに、小説という言葉の芸術の醍醐味を味わい、人間の人生の機微にふれ、あわせて私達自身の生き方も考えていきたい。

テキストの各短編の直後には、アメリカ人編注者による、英語で書かれた詳注があり、また、日本人編注者の注も付加されていて、学生の予習復習のための便宜がはかられています。まず英語の注を熟読して、英語を英語として自然に味わい読むように努力しましょう。そうすることにより、自ずから作品の速読も可能になります。また、英語の苦手な学生のために、多少とも分かりにくい英語表現には、日本語の訳語が付されていますので活用していただきたい。

各作品には、そのテーマや英語の難易度を考慮して配列されており、統一テーマは〈人間の愛と幸福の探究〉です。ぜひ英米文学の魅力に触れ、人間と人生に思いを巡らせていただきたい。

【授業計画】

1. Dorothy Parker
The Last Tea
2. James Joyce
Eveline
3. Graham Greene
The Invisible Japanese Gentlemen
4. W. Somerset Maugham
The Happy Man
5. Katherine Mansfield
An Ideal Family

【評価方法】

定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価する。

【テキスト】

Collected Modern Short Stories Love & Youth (Macmillan Languagehouse ¥1,400)

Rapid Reading 2

野口朋香

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

一般的な日本人の生活様式や考え方をアメリカ人と対比しながら、文化が人間の価値観や生活にどのように影響を与えているかを考察する。また、英文中の単語や熟語などの表現をしっかりと捉えた上で、英語の読解力・速読力を養っていく。

【授業計画】

受講者の予習を前提に Chapter を読み進めていく。

第1回～第4回 Chapter 1 – Chapter 6

第5回～第8回 Chapter 7 – Chapter 14

第9回～第13回 Chapter 15 – Chapter 20

【評価方法】

出席・授業態度 30%

筆記試験 70%

【テキスト】

Topic on Japanese and American Stereotypes

(Yoshinobu Takesue & Donald E. Barton、松柏社)

Rapid Reading 2

鈴木哲至

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

アメリカの大学への入学の仕方、生活への適応、勉強の仕方、課外活動など米国留学に役に立つ文章を読むことにより、日米のキャンパスライフの違いを探ると同時に、速読の技術をさらに高める。

【授業計画】

各週の主なトピックは以下のとおりである。

Getting Ready for College

How the Colleges Choose Students

On-Campus and Off-Campus Housing

Getting Oriented

Studying

Campus Activities

Off-Campus Activities

Paying for School

Sports – Varsity and Intramural

Majors

Summers

Bull Sessions

The Senior Year

Graduation and Beyond

【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

“Study Hard, Play Hard – American Campus Life”
(『よく学び、よく遊べ アメリカのキャンパスライフ』)

James M. Vardaman, Jr. 著、松柏社、1,400円

Rapid Reading 2

松本一喜

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

1. 『Enduring Voices』を講読します。この授業の目的の一つは、多様な英語との出会いです。授業では、スピーチ、エッセイ、映画の台詞、小説の一節などさまざまな文体の英語を読みます。いずれの英語も平易ではあっても、メッセージをよく伝える優れた英文です。
2. 授業では、目と耳と口、そして頭脳とハートを用いて勉強します。単なる英語の学習にせず、英語で何かを学ぶ授業にしたいと思っています。授業では、準拠テープを用いてのリスニング、リーディング、シャドウイングといった音声面の学習と構文の理解・和訳といったリーディングの学習を並行して行います。
3. 講師側からの一方的な講義形式の授業とはなりません。学生の側の積極的な授業参加が要求される授業になります。
4. 授業は、5～6人程度のグループに分かれて行います。これは学生の側からの授業参加の機会を増やすために行うものです。1回の授業で4～5回の口頭での発表が求められることになる。残念ですが、授業中に寝る暇はありません。予習して授業に参加しないと、グループの他の人に迷惑をかけることになります。

【授業計画】

テキストのほぼ後半をカバーする予定です。適時、テキスト内容に関連したビデオを見ます。

【評価方法】

単位取得は次の3点をクリアしてください。1、2/3以上の出席。2、3回のレポート提出。3、定期試験で60点以上とること。成績は試験結果を中心に日常点を加味した総合評価です。

【テキスト】

英米文化学会編『Enduring Voices』桐原書店。

Rapid Reading 3

森本素世子

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

(金曜3限)

英語の速読には、ある事柄の全体像を知っていることも大切である。そこで、民族・宗教・歴史・地図をキーワードとして21世紀の世界の行方を探ることを目的とした文化論を題材に、今日の国際社会が抱える諸問題の根源に目を向けてみたい。

(金曜4限)

「知の再発見」とでも言おうか、地球環境から、宇宙、芸術まで、より幅の広い知識と教養を身につけながら、自然に英語に親しみ、速読ができるようになることを目的とする。

【授業計画】

下記のテキストを適宜、質疑応答を加えながら精読する。各自の予習を前提にテキストを読み進めるが、ただ字面だけを追うのではなく、パラフレーズを通して筆者の意図するところを読み取り、それに対する自らの意見も述べてもらいたい。

(金曜3限)

- Unit 1
- Unit 2
- Unit 3
- Unit 4
- Unit 5
- Unit 6
- Unit 7
- Unit 8
- Unit 9
- Unit 10

(金曜4限)

- Section I 1～4
- Section II 5～8

【評価方法】

定期試験および授業時の発表・参加度と出欠状況から総合的に評価する。

【テキスト】

(金曜3限)

Ethnic Peoples Shaping the 21st Century (HASHI Hisatoshi, DENDO Gary, 成美堂)

(金曜4限)

New Understandings (Paul Stapleton, 金星堂)

Rapid Reading 3

村上洋子

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

このクラスは比較的平易な英語で書かれたテキストを使用して、できるだけ多くの英文を読みこなすことで、英語読解力を高めることを目的とする。

【授業計画】

- Unit 1 Fighting Disease
- Unit 2 Genetic Testing
- Unit 3 Organ Transplants
- Unit 4 Insemination
- Unit 5 Reproduction
- Unit 6 Norplant
- Unit 7 Air Bags
- Unit 8 Official English

【評価方法】

出席状況・授業態度・定期テストによって総合的に評価する。

【テキスト】

Vital Issues in America

(Duppenthaler / 太田憲男 マクミランランゲージハウス)

Rapid Reading 4

森本素世子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

(金曜3限)

英語の速読には、ある事柄の全体像を知っていることも大切である。そこで、民族・宗教・歴史・地図をキーワードとして21世紀の世界の行方を探ることを目的とした文化論を題材に、今日の国際社会が抱える諸問題の根源に目を向けてみたい。

(金曜4限)

「知の再発見」とでも言おうか、地球環境から、宇宙、芸術まで、より幅の広い知識と教養を身につけながら、自然に英語に親しみ、速読ができるようになることを目的とする。

【授業計画】

下記のテキストを適宜、質疑応答を加えながら精読する。各自の予習を前提にテキストを読み進めるが、ただ字面だけを追うのではなく、パラフレーズを通して筆者の意図するところを読み取り、それに対する自らの意見も述べてもらいたい。

(金曜3限)

Unit 11
Unit 12
Unit 13
Unit 14
Unit 15
Unit 16
Unit 17
Unit 18
Unit 19
Unit 20

(金曜4限)

Section II 9～12

Section III 13～16

【評価方法】

定期試験および授業時の発表・参加度と出欠状況から総合的に評価する。

【テキスト】

(金曜3限)

Ethnic Peoples Shaping the 21st Century (OHASHI Hisatoshi, DENDO Gary, 成美堂)

(金曜4限)

New Understandings (Paul Stapleton, 金星堂)

Rapid Reading 4

村上洋子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

このクラスは、比較的平易な英語で書かれたテキストを使用して、できるだけ多くの英文を読みこなすことで英語読解力を高めることとする。

【授業計画】

Unit 9 Illegal Immigrants

Unit 10 Temporary Workers

Unit 11 Gambling

Unit 12 Homosexuality

Unit 13 Gun Ownership (I)

Unit 14 Gun Ownership (II)

Unit 15 Smoking (I)

Unit 16 Smoking (II)

【評価方法】

出席状況・授業態度・定期テストによって総合的に評価する。

【テキスト】

Vital Issues in America

(Duppenhaller / 太田憲男 マクミランランゲージハウス)

英語コミュニケーション

ジョアン・M. ウッドマン

1～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

The aim of this course is to improve the students ability to talk confidently about themselves, their family, their leisure activities, their likes and dislikes etc., in English. The majority of class time will be spent doing things which will promote English oral communication.

Pair work activities, videos and games will frequently be used. Cultural issues will be highlighted and discussed.

The students will be required to keep a shared diary in English, which will account for 40% of their grade.

【Schedule】

Section1. Topics. Self / Family / Free Time / Occupations / Sport

Section2. Topics. Food / Shopping / Music / Xmas / New Year

【Assessment】

- Shared Diary - 40%
- Class activities / reports - 40%
- Conversation Test - 20%

【Textbooks】

none

英語コミュニケーション

フィリップ・サザンズ

1～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

The purpose of this course is to use English for communication. Therefore, students will use English for self-expression and problem-solving.

Our first goal is to develop fluency by discussing a variety of topics. Students will share a diary with a classmate and discuss topics in class. Students will have weekly conversations with as many partners as possible.

Our second goal will be to develop language skills: giving opinions, story telling, summarizing and problem-solving (for example, explaining how to do something in English).

【Schedule】

- 1 - 2 Find out about your partners
- 3 - 4 Opinions, reasons, examples / summarizing
- 5 - 6 Agreeing / disagreeing; A special person
- 7 - 8 Personality and storytelling
- 9 - 10 Dreams
- 11 - 12 Sports / travel; making suggestions
- 13 Test

【Assessment】

Students will receive a mark for classroom discussions, homework and quizzes.

【Textbooks】

Handouts from the instructor

英語コミュニケーション

フランソワーズ・ダフ

1～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

This course is aimed at students who wish to improve their ability to talk confidently about themselves, their friends and family, their occupation, leisure activities, likes and dislikes, etc. in English.

Everyday oral communication and listening skills will be the focus the class.

Discussion of cultural issues will also be included.

The students will be expected to be active participants in all class activities.

Frequent quizzes and regular written reports will be graded to encourage students to build up their confidence and vocabulary in English.

【Schedule】

People: self and others

Favorite things

Free time

Occupations

Celebrations

【Assessment】

-Class vocabulary quizzes: 30%

-Written reports: 30%

-Participation in class activities: 40%

【Textbooks】

J-Talk (Linda Lee et al. OUP)

英語コミュニケーション

シャレル・A. ラインツマ

1～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

This course is designed to help improve the students' communication skills. In the course we will build upon the base of skills the students already possess, using a mix of conversation, group work, activities and projects.

【Schedule】

Topics will include, but not be limited to: Introductions, Jobs, Hobbies, Relationships, Entertainment, The IT Revolution, Education, Environment, and Volunteerism

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, class participation and written work

【Textbooks】

Not yet decided

中国語基礎会話 1 E

曹 述燮

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

始めて中国語に接する学生を対象に、中国語の子母音と声調による音声の成り立ち、その音節のローマ字表記法、正しい発音等の中国語学習の基礎知識を習得させ簡単な構文が理解できる実力を養成する。

【授業計画】

教科の進行中に中国語の読み方を身につける練習をおこなう。時に応じてビデオ教材を併用する予定。

第1回～4回：中国語学習の基礎としての声調・子母音・鼻音・声調変化など

第5回～7回：中国語の慣用的挨拶語句と基礎構文（日本から中国へ行く）

第8回～14回：基本会話と中国人の生活習慣（中国での留学生活中に）

第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、期末のテストと授業中の学習成果テストを総合して判定する。そして語学ははじめが肝心。基礎を築き上げるまで出席不可。

【テキスト】

話す中国語－北京編1（董燕／遠藤光暁）

中国語基礎会話1 Eは、週2回コース授業である。曹先生（水3限）＋楊先生（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 E

楊 衛平

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中国語の修得のために、発音・会話・文法・訳読を中心とする講義を行う。特に入門者やさしく楽しく学べるように、短い、実用的な日常会話の練習に重点を置く。単語、テキスト本文を説明する際、現在中国の実情を紹介し、短く、興味深いコミカルな事例を通して、異文化に対する理解を深め、学生諸君の中国への正しい関心を醸成する。同時に、中国語に対して興味と自信の持って貰うように、負担が軽く、なおかつ効率的な会話の復習を繰り返して行う。全講義を通じて、中国語の基礎会話の実力を身につけることを目指す。

【授業計画】

最初に中国語と日本語のちがいを、および中国語の特徴を紹介する。次に発音練習を中心に繰り返しながら、初対面からのあいさつと自己紹介用語を暗唱させ、毎回一人一人に日本語にない声調が発音でき、また、その違いを聞き取れるように指導を進める。その後、会話形式で、学生を中心に本文を朗読、暗唱させ、一対一の会話練習を展開する。さらに、本文の翻訳は学生を主体に行い、日常会話の文法を解説し、文型と表現についてもよく理解できるように練習する。その他、ヒアリングの実力をアップするため、録音テープ、映画のビデオカセットも利用する。

【評価方法】

出席状況、授業での平常点を参考に、期末テストの成績を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

中国語基礎会話1 Eは、週2回コース授業である。曹先生（水3限）＋楊先生（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）または楊先生（水1限）＋鄭先生（木3限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 E

鄭 澤 善

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

一年間の勉強を通じて、中国語の基礎的な知識の把握と、初歩的な日常会話の習得を目指す。具体的には、中国語におけるピンイン及び四声の集中的練習を経て、単語から文章の構造へと段階的に理解させることによって、簡単な日常会話の応用能力の養成に努めたい。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス、中国語とは？ピンイン入門。
- 第2～5回：ピンインと四声の集中練習。
- 第6～13回：2回の授業につき、1課のペースで、テキストの内容の説明とともに、朗読させ、練習問題をやらせよう。
- 第14回：前期勉強の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語基礎会話 1 Eは、週2回コース授業である。楊先生（水1限）、鄭先生（木3限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 F

曹 述 燮

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国語学習の基礎知識を習得して簡単な構文が理解できる実力を持っている学生を対象に、中国語の会話を楽しみながら中国の社会と文化に接することができる授業をめざす。

【授業計画】

中国語の学習をとおして自然に中国社会とその文化がしたしめるように心がけ、授業ごとに身近なトピックを取りあげていく。

第1回～4回：中国の踊りを見る。

第5回～7回：市内バスに乗ってみる。

第8回～10回：オーダーでチャイナドレスを買う。

第11回～14回：基礎表現と構文の復習とその応用。
(実演による)

第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、期末のテストと授業中の学習成果テストを総合して判定する。そして語学ははじめが肝心。基礎を築き上げるまで出席不可欠。

【テキスト】

話す中国語－北京編1（董燕／遠藤光暁）

中国語基礎会話1Fは、週2回コース授業である。曹先生（水3限）＋楊（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 F

楊 衛 平

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国語の修得のために、発音・会話・文法・訳読を中心とする講義を行う。特に入門者やさしく楽しく学べるように、短い、実用的な日常会話の練習に重点を置く。単語、テキスト本文を説明する際、現在中国の実情を紹介し、短く、興味深いコミカルな事例を通して、異文化に対する理解を深め、学生諸君の中国への正しい関心を醸成する。同時に、中国語に対して興味と自信を持って貰うように、負担が軽く、なおかつ効率的な会話の復習を繰り返して行う。全講義を通じて、中国語の基礎会話の実力を身につけることを目指す。

【授業計画】

最初に中国語と日本語の違い、および中国語の特徴を紹介する。次に発音練習を中心に繰り返しながら、初対面からのあいさつと自己紹介用語を暗唱させ、毎回一人一人に日本語にない声調が発音でき、また、その違いを聞き取れるように指導を進める。その後、会話形式で、学生を中心に本文を朗読、暗唱させ、一対一の会話練習を展開する。さらに、本文の翻訳は学生を主体に行い、日常会話の文法を解説し、文型と表現についてもよく理解できるように練習する。その他、ヒアリングの実力をアップするため、録音テープ、映画のビデオカセットも利用する。

【評価方法】

出席状況、授業での平常点を参考に、期末テストの成績を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

中国語基礎会話1Fは、週2回コース授業である。曹先生（水3限）＋楊先生（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）または楊先生（水1限）＋鄭先生（木3限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 F

鄭 澤 善

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

前期勉強の延長として、更なる基礎の勉強と会話の習得を目指す。具体的には、ピンインと四声の練習を集中的に行ない、単語から文章及び会話へ段階的に進め、中国語の応用能力の向上に努めたい。

【授業計画】

- 第1回：前期勉強した内容の復習、ピンインと正しい発音が主眼。
- 第2～7回：テキストの勉強とともに、年代、曜日、電話等の会話練習。
- 第8～13回：テキストの内容と関連する時刻、出身、年齢、買い物、挨拶、自己紹介等の会話練習に重点を置く。
- 第14回：一年間勉強した内容の総括。

【評価方法】

試験成績に出生率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語基礎会話 1 Fは、週2回コース授業である。楊先生（水1限）、鄭先生（木3限）の両方の授業に出席し、その平均で評価ができる。

中国語会話 1 E

鄭 澤善

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

一年間の勉強を通じて、正しい中国語の発音及び基礎文法を身に付けるようにする。簡単な会話及び平易な読み物が理解できる程度の中国語能力の養成を目指す。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス、中国語とは？共通語と方言、ピンイン入門。
- 第2～5回：ピンイン及び発音の練習、一人一人に発音の練習を指導する。
- 第6～13回：2回の授業につき、1課のペースで、テキストの内容及び文法を詳しく説明するとともに朗読させ、練習問題をやらせよう。
- 第14回：前期勉強の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語会話 1 Eは、週 2 回コース授業である。鄭先生（火 4 限）、時先生（木 4 限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 E

時 衛国

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義は初心者には現代中国語についての基礎知識を習得してもらうためのものである。具体的には発音・会話・朗読・文法などを中心に進め、受講者の中国語会話の基本能力を養成することが目標である。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示
- 第2～4回 母音・子音とそれらの組み合わせ方、四声、イントネーションなどの説明
- 第5～10回 初級の段階に入り、テキストを中心に進めるが、会話の練習にも力を入れる。

【評価方法】

出席を重視し、平常点と定期試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

中国語会話 1 Eは、週 2 回コース授業である。鄭先生（火 4 限）、時先生（木 4 限）の両方に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 F

鄭 澤 善

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

前期勉強の延長として、正しい中国語の発音の練習に重点を置きながら、簡単な会話ができるように指導するとともに、練習問題を通じて、文法と読解力の向上を目指す。

【授業計画】

- 第1回：前期勉強した内容の復習、ピンインと正しい発音の復習に重点を置く。
- 第2～7回：テキストの勉強とともに年代、曜日、電話等の会話練習。
- 第8～13回：テキストの内容と関連する時刻、出身、年齢、買い物、挨拶、自己紹介等の会話練習に主眼を置く。
- 第14回：一年間勉強した内容の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語会話 1 Fは、週 2 回コース授業である。鄭先生（火 4 限）、時先生（木 4 限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 F

時 衛 国

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義は現代中国語についての基礎知識を習得してもらうためのものである。発音・会話・朗読・文法などを中心に進め、受講者の中国語会話の基本能力を養成することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示
- 第2～12回 テキストの内容を中心に読みの練習と短い会話の練習に力を入れるほか、基本文型や簡単な文法について説明し、練習をする。

【評価方法】

出席を重視し、平常点と定期試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

中国語会話 1 Fは、週 2 回コース授業である。鄭先生（火 4 限）、時先生（木 4 限）の両方に出席し、その平均で評価がでる。

中国語コミュニケーション1

丁秀山

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

初めて中国語を学ぼうとする学生のために、中国語の一から十までを詳しく説明し、短いやさしい表現から入り、日常のきまり文句などを修得して、さらに普段よく使われる日常会話を学びます。中国語の発音・表記システムを身につけ、中国語の構造や語彙もマスターします。中国語を通して、中国事情を多少理解できるようにします。

【授業計画】

1. 拼音・声調
2. 発音
3. 挨拶語
4. やさしい語法文型
5. ヒアリング

【評価方法】

普段の勉強意欲を重視。

【テキスト】

大学中国語初級テキスト

〈実用中心の〉やさしい入門中国語 丁秀山・坂井田ひとみ著（金星堂）

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語コミュニケーション1

陳惠貞

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中国語を勉強しようとする学生に、基本的な発音・文型・会話内容を理解し、楽しく学習できるよう努める。授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、常時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられるよう心がける。

【授業計画】

- 1 中国の紹介と中国語の特徴
- 2 中国語の声調とピンイン
- 3 子音と母音の発音
- 4 簡単な挨拶語・会話
- 5 基本的な文型
- 6 ヒアリング

最初の段階から、より正しい発音ができるように1人1人に練習させ、指導をする。随時、ヒアリングの練習をする。前期の目標としては、簡単な表現ができるようにする。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

やさしい入門中国語
（丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂）

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語コミュニケーション2

丁秀山

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

一年次前期で学んだことを基礎として、さらに中国語の「聴く」「話す」「書く」「読む」力を発展させ、基礎的な日常会話の運用能力を高め、応用力が身につくようにします。さらに中国語を通して、中国人の生活や風俗習慣などに触れ、中国事情が多少理解できるようにします。

【授業計画】

1. 基礎の復習
2. 発音をより正確に
3. さまざまな文型と表現方法
4. ヒアリング
5. 会話の練習

【評価方法】

普段の勉強意欲を重視。

【テキスト】

大学中国語初級テキスト

〈実用中心の〉やさしい入門中国語 丁秀山・坂井田ひとみ著（金星堂）

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語コミュニケーション2

陳惠貞

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

前期で習得したものを更にレベルアップし、展開していく。基本的な発音・文型・会話内容を理解するのに加え、書くと朗読する能力を養う。授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、常時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられ、楽しく学習できるよう努める。

【授業計画】

- 1 前期の復習
- 2 より正確な声調とピンインと発音
- 3 ヒアリング
- 4 基本的な文型で構文・応用
- 5 会話の練習

一年間の努力を通して、より正しい発音で楽しく会話ができることと簡単な文を書けることを目指している。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

やさしい入門中国語
（丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂）

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語コミュニケーション3

丁秀山

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

初めて中国語を学ぼうとする学生のために、日常会話を習得するという見地から、まず挨拶語から入り、日常のきまり文句や生活の中で必須な常用表現を学びます。正確な発音と文型を中心に、短くてやさしい文で普段よく使われる日常表現が身につくようにします。

【授業計画】

1. 拼音・声調
2. 発音
3. 挨拶語
4. やさしい語法文型
5. ヒアリング

【評価方法】

普段の勉強意欲を重視。

【テキスト】

らくらくチャイニーズステップアップ 丁秀山・坂井田ひとみ著 駿河台出版社

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語コミュニケーション3

陳惠貞

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中国の文化や習慣に触れながら、楽しく語学を勉強しよう。まずは、基本的な発音・文型・会話内容を理解し、負担なく学習できるよう心がける。授業の進め方は、対話講義とし、それぞれ声を出し、積極的に参加することを望む。

授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、レポートをし、繰り返して練習をする。さらに、常時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられるよう工夫する。

【授業計画】

- 1 中国の紹介と中国語の特徴
- 2 中国語の声調とピンイン
- 3 子音と母音の発音
- 4 簡単な挨拶語・会話
- 5 基本的な文型
- 6 ヒアリング

最初の段階から、より正しい発音ができるように1人1人に練習、指導をする。随時、ヒアリングの練習をする。前期の目標としては、簡単な表現ができるようにする。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

らくらくチャイニーズステップアップ
（丁秀山・坂井田ひとみ著 駿河台出版社）

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語コミュニケーション4

丁秀山

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

一年次前期で学んだことを基礎として、さらに中国語の「聴く」「話す」「書く」「読む」力を発展させ、基礎的な日常会話の運用能力を高め、応用力が身につくようにします。さらに中国語を通して、中国人の生活や風俗習慣などに触れ、中国事情が多少理解できるようにします。

【授業計画】

1. 基礎の復習
2. 発音をより正確に
3. さまざまな文型と表現方法
4. ヒアリング
5. 会話の練習

【評価方法】

普段の勉強意欲を重視。

【テキスト】

らくらくチャイニーズステップアップ 丁秀山・坂井田ひとみ著 駿河台出版社

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション4

陳惠貞

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

前期の授業で学んだものを更にレベルアップし、展開していく。基本的な発音・文型・会話内容を理解した上、書くと朗読する能力を養う。習得した語彙や文型を応用し、会話をする。授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、随時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられ、楽しく学習できるよう努める。

【授業計画】

- 1 前期の復習
- 2 より正確な声調とピンインと発音
- 3 ヒアリング
- 4 基本的な文型で構文・応用
- 5 会話の練習

一年間の講義を通して、より正しい発音で楽しく会話ができることと簡単な文を書けることを目指している。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

らくらくチャイニーズステップアップ
(丁秀山・坂井田ひとみ著 駿河台出版社)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語読解 1

鄭 澤善

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中国の社会、文化及び最新事情に関連する文章を読んで、初歩的な読解力を身につけるようにする。具体的には、文章を精しく読みながら文法を理解し、単語を覚え、読む力の向上を目指す。

【授業計画】

前期では、ピンインの勉強を復習した上、中国の地理、少数民族、方言、苗字、祝祭日等に関連する文章をゆつくり読みながら、文法を詳しく説明して、単語の覚えに重点の置く。読解力の基礎勉強として、ピンイン、基本文型、基本文法をマスターするために、朗読も併せて行なう。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

荒屋 勸・尹 景春・阿倍 博幸著『中国と日本』
朝日出版社

必要に応じて、プリントも併せて使用する。

中国語読解 2

鄭 澤善

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国の社会、文化及び最新事情に関連する文章を読んで、初歩的な読解力を身につけるようにする。具体的には、文章を精しく読みながら文法を理解し、単語を覚え、読む力の向上を目指す。

【授業計画】

前期勉強の延長として、中国の食文化、庶民生活、国民性、最新事情等関連の文章を、できるだけ早く読むように指導する。文章の説明につき、文法等は詳しく説明するが、黙読の速さの向上に重点を置く。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

荒屋 勸・尹 景春・阿倍 博幸著『中国と日本』
朝日出版社

必要に応じて、プリントも併せて使用する。

中国語読解 3

時 衛国

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義は初級中国語コースで学んだ発音の仕方・文型・文法現象及び関連知識を復習しながら、テキストをもとに総合的読解力と会話力を高めることを念頭に置く。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示
- 第2～12回 テキストを利用して読解・説明・練習

【評価方法】

出席を重視し、平常点と期末試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

中国語読解 4

時 衛国

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義は現代中国語の文型・文法現象及び関連知識を中心に、総合的読解力の養成を目標とする。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示
- 第2～12回 テキストを利用して読解・練習

【評価方法】

出席を重視し、平常点と期末試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理基礎技術 a・b

原 伸之

1～4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

パソコン活用の要である「ワープロ」「表計算」「データベース」の習得をめざす。また、パソコンのしくみ、ソフトウェアの機能およびソフトウェアをとりまく諸問題についても学習する。

1. コンピュータの活用-I
 - 1) Windows-98の理解
 - 2) ワープロ「Word」の実習
 - a. 基礎編（入力・編集）
 - b. 応用編（作表・計算）
 - 3) コンピュータのしくみ
 - 4) ソフトウェアの機能
 - 5) システムの概念
 - 6) プログラミング
 - a. アルゴリズムの理解
 - b. フローチャートによる演習
2. コンピュータの活用-II
 - 1) 表計算「Excel」の実習
 - a. 基礎編（入力・編集）
 - b. 応用編-1（グラフ作成・編集）
 - c. 応用編-2（データベース作成・抽出・集計）
 - 2) データベース「Access」
 - a. データベースの考え方
 - b. 基礎編（入力・抽出・出力）
 - c. 応用編（関数・集計）
 - 3) ソフトウェアをとりまく課題
 - 4) 日本の情報サービス産業

【授業計画】

配布されたプリントに基づいて、講義・実習を行う。Word、Excel、Accessの実習では、基本を習得して演習に取組む方法で、理解を深めたい。講義では、テクニカル・タームの説明から始めて正しく理解するように努める。

【評価方法】

Word、Excel、Accessの実習では、その理解度を確認するために小テストを実施し、期末テストの評価とを合わせた総合評価を行う。

情報処理基礎技術 a・b

三和義秀

1～4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

アプリケーション・ソフトウェアやインターネットなどのネットワーク・ツールを上手く使いこなし、コンピュータを問題解決の技法や思考方法をひろげるメディアとして活用できる技術を身に付ける。

(a：前期)

- 第1回 情報、データ、情報処理とは何か
- 第2回 コンピュータの歴史、人間とコンピュータ
- 第3回 キーボード操作
- 第4回から5回 インターネットの基本操作
- 第6回 情報の表現：10進数、2進数、8進数、16進数、文字符号
- 第7回 オペレーティング・システム、コンピュータ・プログラム
- 第8回～10回 日本語・英文ワープロMS-Wordの操作

第11回～13回 表計算ソフトExcelの操作

(b：後期)

- 第1回から第2回 統計処理入門
- 第3回から第5回 Excelを使った統計処理
- 第6回から第7回 ホームページの作成
- 第8回から第9回 プレゼンテーションとPowerPointの基本操作
- 第10回から第13回 Visual Basicによるプログラミング

【評価方法】

定期試験、レポート及び出席にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

【テキスト】

授業中に指示する。

下記の科目は、本年度開講しません。

Practical English 1 A

Practical English 2 D

Practical English 1 B

Practical English 2 G

Practical English 1 C

Practical English 2 H

Practical English 1 D

Practical English 3 A

Practical English 1 G

Practical English 3 B

Practical English 1 H

Practical English 3 C

Practical English 2 A

Practical English 3 D

Practical English 2 B

Practical English 3 G

Practical English 2 C

Practical English 3 H

Practical English 4 A

中国語基礎会話 1 D

Practical English 4 B

中国語基礎会話 1 G

Practical English 4 C

中国語基礎会話 1 H

Practical English 4 D

中国語会話 1 A

Practical English 4 G

中国語会話 1 B

Practical English 4 H

中国語会話 1 C

中国語基礎会話 1 A

中国語会話 1 D

中国語基礎会話 1 B

中国語基礎会話 1 C

国文学概論 a・b

山下宏明

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

前期には、日本文学の研究史について話す。古代の『万葉集』編纂のための巻の構成に始まり、中古には詠歌のための歌学、これを支えるための物語の読みが課題となる。中世には、諸ジャンルが分化し、近世には国学の隆盛を経て近代を迎え、方法の確立を志向することになる。

これら前近代の、対象を相対化する研究を受けて、明治以後、西洋の研究を意識し、特に戦後、研究の批評性を顕著にする。すなわち戦前の文献学的研究から、歴史社会学派、新批評、記号・構造主義、テキスト論、新歴史主義、ポストコロニアル理論、脱構築理論、ジェンダー論、文化論、身体論、口語論などへと展開する。こうした日本文学研究の流れを半年の間に展望する。

後期には、上述の研究史の展望を踏まえ、文学研究の国際的な状況を踏まえて、特に、読者論のための物語の方法を具体的に考察指導する。理論の応用篇である。

【授業計画】

前期には史的展望を行い、後期には、特に読者論や文字・口語論を、古典はもちろんのこと、近・現代の小説・物語、さらには山田洋次の映画、井上ひさしの演劇にも素材を広げて表現・享受の方法を講義する。

【評価方法】

出席状況と、試験による。時にノートの提出を求め、小テストをも行い、講義の把握・理解の状況を探る資料にする。

【テキスト】

前半の批評史の展望、後半の各論を進める上に必要な作品の部分引用など、各種資料をプリントで用意する。その原資料は、これまでの経験から、ほとんど揃っているが、さらに新しい資料をも追加する予定である。

基本的な参考資料として、

T・イーグルトン『文学とは何か』岩波書店
ジェラルド・ジュネット『物語のディスコース』風の薔薇社
大江健三郎『新しい文学のために』岩波書店
大橋洋一『新文学入門』岩波書店
前田愛『文学テキスト入門』筑摩書房
その他を推薦するはずである。

国文学史（1） a・b

山下宏明

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文学研究が批評史の世界で、その相対化が求められている。いわゆる国文学史のこれまでの実態を展望してみればよい。単なる書誌学上の成果の羅列が文学史たりえないことは、早く、1940年代後半から言い尽くされて来たところで、以後、文学批評のあり方と連動して、各種の文学史が試みられた。最近の成果を見れば、このことは明らかである。文学史が、文化史のなかで相対化され、作者論から、読者論の受容史に変化をとげていると言ってよいだろう。こうした状況を踏まえて、広く各ジャンルに目を配りつつ、特に、時代を画する戦乱に注目する。これを戦乱に巻き込まれた人々の側に配慮しつつ、それらの戦乱を、「いざ」ととらえる見方を設定して、上代の『古事記』・『日本書紀』に始まり、古代社会の『将門記』・『陸奥話記』、『今昔物語集』、『保元物語』『平治物語』・『平家物語』、南北朝の『太平記』、室町時代の、赤松氏をめぐる後期軍記、これらをとりまく芸能としての能や幸若舞、物語としての『義経記』や、『曾我物語』から近世の近松の時代物まで及ぶ。その間、当然、それらのいざ物語に付随する和歌の世界や王朝の物語文学にも言及する。批評史の展望から、作品の読解としての受容の方法を強く意識した講義になる。

【授業計画】

前期は、文学史の現状を文学批評の中にとらえ、『古事記』から『平治物語』までをとりあげる。後期は、中世を中心に、近世の劇文学にも言及する。この間、地方に伝わる諸伝説にも、いざ物語のかけを探る。これらを踏まえ、大岡昇平の戦記の意味をあわせて問うことになろう。

【評価方法】

講義には、参加することに意義がある。平常の出席状態をも加味し、記述試験により判定する。時にノートの提出を求め、小テストも行う。

【テキスト】

全体の概要は、山下宏明の『いざ物語の語りと批評』（世界思想社）によるが、本文の引用など、適宜プリントを用意する。

なお上記の〔授業概要〕に述べたような方針から、〔国文学概論〕に参考として掲げた著書を併せて読むことが望ましい。

国文学史 (2) a

小倉 斉

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

〈近代文学の諸相〉

日本の近代文学の諸相を、いくつかのテーマを設定しながら、かなめとなる作家・作品・思潮を検討することによって理解し、あわせて日本文学における「近代」とは何かを考える。

【授業計画】

以下の各テーマにしたがって講義をおこなう。

- 1 〈書く〉ことと〈語る〉こと
村上春樹『風の歌を聴け』
- 2 〈模写〉の意味
坪内逍遙『小説神髓』・『当世書生気質』
二葉亭四迷『浮雲』
- 3 〈わたくし〉の発見
森鷗外『舞姫』
- 4 〈こども〉たちの眼差し
樋口一葉『たけくらべ』
谷崎潤一郎『小さな王国』
芥川龍之介『杜子春』
- 5 〈新しい女〉と戯画化された主人公
田山花袋『蒲団』
- 6 〈自然の愛〉と〈社会の掟〉
夏目漱石『それから』
- 7 観念の崩壊と〈新感覚〉
芥川龍之介『歯車』
横光利一『機械』

【評価方法】

授業への参加状況、学期末の試験（自筆ノート持ち込み可・論述問題中心）によって評価する。

【テキスト】

舞姫・うたかたの記（森鷗外 岩波文庫）
たけくらべ・にぎりえ（樋口一葉 角川文庫）
蒲団・一兵卒（田山花袋 岩波文庫）
それから（夏目漱石 岩波文庫）
歯車（芥川龍之介 岩波文庫）

国文学史 (2) b

細谷 博

2年 前(集中)・後期 選択 2単位

【授業の概要】

文学における「近代」とは何か、「現代」とは何か。われわれ自身の〈読むこと〉の問題として考える。

大正後期から昭和期に至る文学の諸相を、要点となる作家・作品を端的におさえることによってたどりなおし、作品の各部をたしかに味わいつつ考える文学史をめざす。

【授業計画】

- 第1回 概論、導入
- 第2回 「城の崎にて」他読解
- 第3回 「蜃気楼」他読解
- 第4回 志賀直哉・谷崎潤一郎・芥川龍之介
- 第5回 関東大震災、芥川の死、円本ブーム
- 第6回 近代と現代
- 第7回 横光利一・川端康成
- 第8回 葉山嘉樹・梶井基次郎
- 第9回 堀辰雄・中野重治
- 第10回 太宰治
- 第11回 井伏鱒二・大岡昇平
- 第12回 三島由紀夫・安部公房
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

小僧の神様・城の崎にて（志賀直哉著 新潮文庫）
河童・或阿呆の一生（芥川龍之介著 新潮文庫）
現代日本の文学（双文社出版）

国語概説 a・b (音声言語及び文章表現を含む)

増井典夫

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

前期中心テーマ日本語の音声・音韻・アクセント

後期の中心テーマ方言と共通語

<前期>

日本で使われている言語としてアイヌ語や沖縄の言葉について触れたあと、音声言語という面から、世界の中の日本語の位置を考え、さらには日本語の音韻・アクセント等を考察していく。

<後期>

日本語方言学の研究法・調査法をみながら愛知県方言の位置付け、方言と共通語の使い分け、「新方言」といわれる新しい日本語表現等を考えていく。

【授業計画】

講義を行なっていく。

【評価方法】

記述式テスト(定期試験)。

【テキスト】

国語概説(佐伯・山内編 和泉書院)

国文学講義(1) 上代 a

大浦誠士

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

古事記には、様々な物語が載せられているが、中でも歌謡を含んで成り立つ歌謡物語は、抒情性に富み、古事記を文学たらしめている要素の一つである。本講義では古事記の歌謡物語の中から主要なものを選び、それらを精読することを通じて、古事記が歌謡を含み持つことの意味、所伝(物語の部分)と歌謡との関係などについて考えていく。

【授業計画】

1～2回 歌謡物語の概要と研究史

3～4回 赤猪子の物語

5～6回 軽太子の物語

7～8回 イハノヒメの物語

9～11回 ヤマトタケルの物語

12～13回 古代の歌と物語

【評価方法】

学期末の試験により評価する。

【テキスト】

テキストは特に定めない。授業時にプリントを配布する。

国文学講義（1）上代b

島田修三

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

〈万葉史の考察〉

『万葉集』の4500首余りの歌は、おおよそ7世紀の半ばから100年間に詠まれた。この100年間は古代社会が激しくシフトして行く時期と重なる。古代律令国家の成立をはじめとして中国文化の流入、生活民俗の変容など多様なシフトが万葉和歌の成立や成熟に色濃く影響を及ぼしている。本講義では、この100年間の作品を歴史的に追うことによって、文学的問題にとどまらぬ万葉和歌の歴史社会的な諸問題を考えていく。

〈前期〉

a：初期万葉から白鳳万葉へ

万葉和歌の草創期から古代律令国家成立期に至る万葉和歌の展開を追う。作品としては、雄略天皇御製から柿本人麻呂の宮廷讃歌・高市黒人の羈旅歌のあたりまでを対象とする。

〈後期〉

b：奈良朝万葉の世界

奈良朝初期から天平末期に至る万葉和歌の展開を追う。作品としては、山上憶良・大伴旅人から防人歌・大伴家持のあたりまでを対象とする。

【授業計画】

主として下記のテキストおよびプリント資料を用いながら作品を講読していく。

【評価方法】

前期・後期末それぞれのテストもしくはレポートによって評価する。

【テキスト】

〈前期・後期〉

万葉 文学とその背景（島田修三他著 おうふう）

国文学講義（2）中古a・b

久保朝孝

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

中古文学作品に対する基本的姿勢と読解の基本的方法を身につける。特に本文解釈の多様性の所以と可能性について理解する。前期は『伊勢物語』を、後期は「王朝女流日記」諸作品を対象とする。

【授業計画】

〈前期〉

a：伊勢物語

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 導入 | 7 伊勢物語各章段の精読 |
| 2 伊勢物語初段の考察 | 8 伊勢物語各章段の精読 |
| 3 伊勢物語初段の考察 | 9 伊勢物語各章段の精読 |
| 4 伊勢物語初段の考察 | 10 伊勢物語各章段の精読 |
| 5 伊勢物語初段の考察 | 11 伊勢物語各章段の精読 |
| 6 伊勢物語初段の考察 | 12 まとめ |

〈後期〉

b：王朝女流日記

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 導入 | 7 紫式部日記 |
| 2 王朝女流日記への招待 | 8 更級日記 |
| 3 土佐日記 | 9 成尋阿闍梨母集 |
| 4 蜻蛉日記 | 10 讃岐典侍日記 |
| 5 枕草子 | 11 王朝女流日記の達成 |
| 6 和泉式部日記 | 12 まとめ |

【評価方法】

次の諸点を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

- ア. 出席状況
- イ. 期末レポート
- ウ. 学外の自主的学習

【テキスト】

前期 a：伊勢物語（校注古典叢書 片桐洋一校注 明治書院 1,400円 税別）

後期 b：王朝女流日記を学ぶ人のために（久保朝孝編 世界思想社 2,300円 税込）

国文学講義（3）中世 a・b

岩下紀之

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

古典文学は元来写本・版本のかたちで享受されてきた。過去の人々と同じかたちで読書することなしに、古典を解釈・鑑賞することはできない。自分の国の作品では、このような原則的な立場での研究が可能なので、この特権を生かしてほしい。変体仮名の入門を4、5月中に集中しておこなうので、後期からの受講は困難であろう。散文と韻文に触れてみるべく、前期は、御所本宇治拾遺物語（下）、後期は、御所本百人一首抄を講読する。

【授業計画】

一方的に教授することをさげ、学生にしばしば読ませることにしている。

【評価方法】

学期末の試験をもって評価する。

【テキスト】

御所本うち拾遺物語<下>（笠間書院）

御所本百人一首抄（笠間書院）

仮名変体集（新典社）

国文学講義（4）近世 a・b

阿部一彦

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

井原西鶴の浮世草子と近松門左衛門の世話浄瑠璃を読み、近世文学の魅力や面白さを発見し確認していく。

同一事件を題材とした、西鶴の『好色五人女』巻一「姿姫路清十郎物語」・巻三「中段に見る暦屋物語」と近松の『五十年忌歌念仏』・『大経師昔暦』を読み解き、鑑賞する。両作品の比較検討を通して、それぞれの作品・作者の特色を確認するとともに、浮世草子、世話浄瑠璃という近世文学独自のジャンルの創作方法や成立基盤をも考察していく。

<前期>

西鶴の『好色五人女』巻一「姿姫路清十郎物語」と近松の『五十年忌歌念仏』を読んでいく。

最初に「近世」の社会的・文化的特徴と文学史を概説する。つづいて、西鶴の文学活動をごくおおまかに概説してから、「姿姫路清十郎物語」を精読する。『五十年忌歌念仏』は受講者それぞれが、西鶴の作品と比較しつつ読んでいくこととなる。この成果を前期試験の課題とする。

<後期>

西鶴の『好色五人女』巻三「中段に見る暦屋物語」と近松の『大経師昔暦』を読んでいく。

最初に歌舞伎・浄瑠璃の成立史を簡単に説明する。今度は逆に、近松の『大経師昔暦』を精読する。受講者に「中段に見る暦屋物語」を読んでもらう。後期試験では、『大経師昔暦』を論じてもらう。

【授業計画】

講義・講読形式で進めていく。

【評価方法】

前期、後期ともにレポートによる。

【テキスト】

西鶴と近松（松崎仁・白石梯三 和泉書院 1,545円）

国文学講義 (5) 近代 a・b

二瓶浩明

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

- a 日本近現代文学において〈恋愛〉を扱った作品を取りあげ、「〈恋〉する日本」近現代文学史を構想する。
- b 日本近現代文学において〈夢〉を扱った作品を取りあげ、「〈夢〉見る日本」近代文学史を構想する。

【授業計画】

a

- はじめに
- 田山花袋「蒲団」
- 武者小路実篤「友情」
- 横光利一「御身」
- 川端康成「伊豆の踊子」
- 田中康夫「なんとなく、クリスタル」
- 山田詠美「ベッドタイム・アイズ」
- 宮本 輝「錦織」
- 吉本ばなな「キッチン」
- 村上春樹「ノルウェイの森」
- 鷺沢 萌「スタイリッシュ・キッズ」
- 川上弘美「いしい」

○おわりに

b

- はじめに
- 夏目漱石「夢十夜」(1) 第一夜・第三夜
- 夏目漱石「夢十夜」(2) 第五夜・第九夜
- 谷崎潤一郎「母を恋ふる記」
- 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
- 折口信夫「死者の書」
- 中島 敦「幸福」
- 夢野久作「ドグラマグラ」
- 津島佑子「大いなる夢よ、光よ」
- 吉本ばなな「白河夜船」
- 宮本 輝「春の夢」
- 長野まゆみ「少年アリス」
- おわりに

【評価方法】

レポート。
出席不良のものは評価しない。

【テキスト】

上述の文庫本。
各自購入のこと。

国語学講義 a

犬飼 隆

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

古代日本語の重要問題を取りあげて考察する。諸事実の表面的な説明にとどまるのではなく、それらを研究するにはどのような資料を用いるか、どのような方法があるか、また、それらの現象には日本語の言語としての特徴がどのようにあらわれているか、さらには、言語に歴史的な変化をもたらす動因は何かなど、「考える授業」をめざす。講義形式で行い、毎回まとめの短いレポートを書く。若干の補助プリントを使うが、口頭の説明が主体になるので、ノートを充分にとる用意が必要である。

【授業計画】

- 第1回 日本語の基本的な特徴
- 第2～4回 古代日本語の資料
- 第5～7回 古代語の音韻
- 第8～10回 古代語の文法
- 第11～13回 日本語の文字

【評価方法】

期末試験による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

とくに指定しないが、授業時に紹介する諸論文・著作を読むことが望ましい。

国語学講義 b

増井典夫

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

1年次「国語概説」の授業に引き続き、日本語の諸問題について概説を行なう。

具体的な内容としては、「文字・表記」「文法・敬語」「文章・文体」の問題を中心とする。

【授業計画】

講義を行なう。

【評価方法】

記述式テスト（定期試験）。

【テキスト】

国語概説（佐伯・山内編 和泉書院）

中国文学講義（1） a・b

寺尾 剛

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

<先秦漢魏晋南北朝の文学>

唐に至るまでの中国の文学史を理解するとともに漢文の基礎（文法や文化的背景等）を身につける。

<前期>

- ・中国文化の特色－中国人の発想法
- ・『詩経』
- ・『楚辞』
- ・『論語』
- ・秦の統一までの文学史

<後期>

- ・『古詩十九首』
- ・建安文学－曹操・曹植
- ・『出師表』
- ・『蘭亭序』
- ・陶淵明
- ・謝朓
- ・漢代から六朝までの文学史

【授業計画】

中国の文学の流れを具体的に作品を読みながら理解していく。時間的に余裕があれば輪読していく。

【評価方法】

平常点と試験。

【テキスト】

中国詩文（中国詩文研究会編 1,700円）
及びプリント

中国文学講義 (2)

寺尾 剛

3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

〈唐代の文学〉

唐詩と唐代伝奇小説を読むことを通じ、中国文学研究の方法を理解してゆく。

- ・唐代文学史
- ・『長恨歌』
- ・『杜子春伝』
- ・その他

【授業計画】

時間的に余裕があれば輪読していく。

【評価方法】

平常点及び試験。

【テキスト】

中国詩文（中国詩文研究会編）
及びプリント

国文学演習 I (1) a・b

島田修三

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

〈万葉季節歌群の考察〉

『万葉集』巻10には人麻呂歌集から奈良天平時代の四季の作者未詳歌540首余りがそれぞれ「雑歌」「相聞」の部立に分かれて収録されている。本授業では、この歌群の子細な読解を通して、四季の節会と歌の場の関係、四季の自然風物が初期の和歌に与えた影響、自然観の深化といった諸問題を考えてみたい。

【授業計画】

〈前期〉a

- 第1回～2回 古代の自然観と暦の変遷
- 第3回～4回 巻10の概観
- 第5回～10回 春の歌 演習発表
- 第11回～12回 夏の歌 演習発表

〈後期〉b

- 第1回～3回 夏の歌 演習発表
- 第4回～9回 秋の歌 演習発表
- 第10回～11回 冬の歌 演習発表
- 第12回 総括

※原則として一人一首の作品を担当し、指示に従った調査結果のレジュメの用意をしなければならない。発表に基づいて、受講者や島田の質疑が行われる。

【評価方法】

出席状況、授業期間中の発表、学期末レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

〈前期・後期〉

万葉集（訳文篇）（佐竹昭広ほか著 塙書房）

国文学演習 I (2) a・b

久保朝孝

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

中古文学作品の読解と研究との基礎的方法を、実践的に身につける。

元来自撰であったと見られる『紫式部集』を読み解きながら、物語作家の生涯を追跡するとともに、その感性や精神構造の実質を探る。また、作品としての『紫式部集』自体の構造等についても考察する。

なお、特に作品論の基礎となるべき本文の「読み」（解釈）を、辞書・注釈書等を参照・批判・整理しつつ、自らの力によって築き上げる過程を重視したい。

演習であるから、担当者の発表のみで終わることなく、それに対する質疑・批判、そして回答・反論等が、全員によって躍動的に展開されることを期待する。

なお、夏季休業中に2泊3日の京都・奈良ゼミ旅行(35,000円)を行う。

【授業計画】

- 一、複数のグループを編成する。
- 二、以下の諸点についての分担調査報告（準備学習）。
 - ア、時代背景
 - イ、後宮生活
 - ウ、事典辞書目録
 - エ、研究文献目録
 - オ、研究状況
- 三、担当範囲を決定する。
毎回2～3首。
- 四、研究報告→質疑→回答→討論→助言（毎回）
- 五、学修の成果をレポートにまとめる。

【評価方法】

次の諸点を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

- ア、出席状況
- イ、担当範囲についての研究発表（年間数回）
- ウ、授業中の発言（質問・批判等）
- エ、レポート

【テキスト】

紫式部日記 紫式部集（新潮日本古典集成 山本利達校注 新潮社 2,200円 税込）

国文学演習 I (3) a・b

岩下紀之

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

和歌のうち、当時の社会や、歌をよむにあたっての慣例を知らないと解釈が困難な、恋の歌を教材とする。

<前期>

後拾遺和歌集の恋の部を講読する。三代集の時代が過ぎ、新しい歌風を示すこの集はいろいろな意味で興味深い。しかし、古今、新古今には注釈が多いが、その中間に成立した諸集の研究は、まだこれからと感ぜられることが多い。

そういう条件から、本集にとりくむのはやりがいのあることと思われる。

<後期>

前期の教材を継続する予定である。

【授業計画】

はじめ二回ほど概説と作業を教員が行ない、以後学生に発表させる。

【評価方法】

レポートを課する。

【テキスト】

新日本古典文学大系 後拾遺和歌集（岩波書店 3,600円）

国文学演習 I (4) a・b

山下宏明

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

『平治物語』を読む。テキストとして、第一類本をとりあげるが、〈語り〉の方法を異にする第四類本との比較検討を行う。その作業を通して〈語り〉の方法を考える。さらに、その語りが行われた中世に配慮し文化史として、その背後にあった源氏将軍の意向をも考慮することから、語り系以外のテキストにも配慮する。古典を読むのに必要な歴史資料や辞書の使用法をも細かく指導する。

【授業計画】

参加者をグループに分けて作業班を構成し、報告が一巡したところで、グループを解体し、改めて作業班を構成しなおして、グループに偏りが生じないように配慮する。多様な思考性を有する学生相互の交流をはかりたい。発表の方法、自己の表現方法にも反省の機会を与えることになる。

【評価方法】

平常の出席状況、報告の内容と方法を毎回評価しつつ、各期の最後にレポートの提出を求めて総合的に判定する。

【テキスト】

日下力編『平治物語』新日本古典文学大系
必要に応じて、諸種プリントをも用意する。

国文学演習 I (5) a・b

阿部一彦

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近松門左衛門の〈世話浄瑠璃〉の典型的作品である『冥途の飛脚』を影印本を使って解説・鑑賞していく。金銭と恋愛そして封建制度、そこにおける町人の生きざま（義理と人情）がどのように描かれているかを検証してみたい。『曾根崎心中』・『心中天の網島』をも視野に入れ、現代的視点からも問題にしていこうと思っている。

<前期>

最初に近松の生涯についての論文を受講者全員で輪読していく。次に『曾根崎心中』を読み、内容を把握する。作品の要点を指摘するとともに、「世話浄瑠璃」の第一作としてのこの作品の日本の戯曲・文学史上における意義を明確にしておく。文楽の上演をビデオで鑑賞する。『冥途の飛脚』（影印本）を、受講者が、分担して解説、調査、研究、発表をおこなう。およそ「上の巻」を終えることができるであろう

<後期>

引き続き「中・下の巻」に進んでいく。最後に、受講者を三グループに分け、〈人物論〉・〈悲劇論〉・〈義理と人情〉の観点から問題を提起し、全員で討論し、検討していく。外国人向けのビデオを見て総括とする。なお、機会をみて大阪の国立文楽劇場に足を運びたいと思っている。

【授業計画】

受講者の分担による解説・調査・研究を発表する。

【評価方法】

自らの分担の発表が評価の対象となる。そのうえ、前・後期ともにレポートを課す。

【テキスト】

曾根崎心中・冥途の飛脚（岩波文庫）

国文学演習 I (6) a・b

小倉 斉

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

＜近代小説の方法—作品をどう読み、どう論ずるか—＞
近代の代表的な小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。2～3名のグループで、一つの作品あるいは作品のある部分を担当し、それぞれ読み、話し合い、調べ、分析してきたことを、レジュメにより報告する。自分の＜読み＞と＜考え＞を大切にしつつ、それを対象化するために、すぐれた論を読み、質疑応答にも積極的に参加することが望まれる。

【授業計画】

＜前期＞

- 1 ＜読む＞という行為および＜読み＞の実例（2回）
- 2 『明暗』（夏目漱石）精読（6回）
- 3 『苦の世界』（宇野浩二）精読（3回）
- 4 『痴人の愛』（谷崎潤一郎）精読（3回）

＜後期＞

- 1 『蟹工船』（小林多喜二）精読（3回）
- 2 『浅草紅団』（川端康成）精読（3回）
- 3 『上海』（横光利一）精読（3回）
- 4 『濠東綺譚』（永井荷風）精読（3回）
- 5 『風立ちぬ』（堀辰雄）精読（3回）

【評価方法】

学期末のレポートを中心に、授業への参加状況、レジュメの内容、発表・質疑応答の様子などから総合的に評価する。

【テキスト】

＜前期＞

明暗（夏目漱石 新潮文庫）
苦の世界（宇野浩二 岩波文庫）
痴人の愛（谷崎潤一郎 新潮文庫）

＜後期＞

蟹工船 一九二八・三・一五（小林多喜二 岩波文庫）
浅草紅団・浅草祭（川端康成 講談社文芸文庫）
上海（横光利一 講談社文芸文庫）
濠東綺譚（永井荷風 新潮文庫）
風立ちぬ・美しい村（堀辰雄 新潮文庫）

国文学演習 I (7) a・b

都築久義

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近代の著名な作家を学生の希望に応じてとりあげ、グループ研究する。

＜前期＞

3人（学生の希望でとりあげる作家を決める）

＜後期＞

3人（学生の希望でとりあげる作家を決める）

【授業計画】

グループ（4～5人）を編成して、グループ単位で発表。発表を中心に全員で討議する。

【評価方法】

平素の学習態度。

【テキスト】

なし。

国文学演習 I (8) a

佐々木亜紀子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

近代文学の読解と研究。

夏目漱石の『吾輩は猫である』を取り上げる予定。

【授業計画】

第1回 研究方法指導、発表日程・担当の決定

第2～12回 研究発表・質疑応答

第13回 まとめ、レポート提出

【評価方法】

出席状況と担当発表、レジュメ、質疑応答、レポート等から総合的に評価する。

【テキスト】

吾輩は猫である（夏目漱石著 岩波文庫）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国文学演習 I (8) b

細谷 博

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

20世紀のはじまりを独りロンドンで迎えた漱石は、帰国後、その心のアンバランスを打ち破るかのように活発な創作活動を開始しました。新たな世紀に生きる現代のわれわれの心にも強く訴えかけてくる魅力的な作品の数々を取りあげ、分析していきます。

自分が実際にどのような読み方をしているのかをまずしっかりと把握して、さらにゆたかな〈読み〉の可能性をつかむことを目的とします。

具体的なテキストを丁寧に読みとることと、自分の考えを的確に表現すること、さらに、作品全体を端的にとらえて評価し批評することもめざします。

前期の「吾輩は猫である」であるに続いて、同時期の作品である「倫敦塔」や「幻影の盾」から「坊っちゃん」、「二百十日」、「野分」等の漱石短篇を対象とする予定。

【授業計画】

第1回 研究方法指導、発表日程・担当の決定

第2～12回 作品研究発表・質疑応答

第13回 まとめ、レポート提出

【評価方法】

出席状況と担当発表、レジュメ、質疑応答、レポート等から総合的に評価する。

【テキスト】

坊っちゃん（夏目漱石著 新潮文庫）

倫敦塔・幻影の盾（夏目漱石著 新潮文庫）

二百十日・野分（夏目漱石著 新潮文庫）

【参考文献・資料】

授業中に指示

国語学演習 I a・b

増井典夫

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

方言と共通語。日本語の変遷。

日本語の歴史を考えながら、自分たちの母語（生まれ持っている言葉）である方言の持つ意味を考え、新しい日本語表現の問題やその研究の可能性を考えていく。なお、後期のレポートの一部として、「言葉に関するアンケート調査の実施とその報告」を課す。

【授業計画】

テキストの担当範囲を割り当て、前期に1回、後期に1回の発表をしてもらう。

その他、ビデオを見ての感想提出や、プリント配布による講読も行う。

【評価方法】

レポート等によって評価する。

なお、毎時点呼によって出欠席を調査する。

【テキスト】

日本語ウォッチング（井上史雄 岩波新書）

展望現代の方言（真田信治編 白帝社）

中国文学演習 I a・b

寺尾剛

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

＜李白の詩＞

盛唐の大詩人李白の作品を、主として清の王琦の注釈（『李太白全集』）に基づいて詳細に分析してゆく。中国古典文学に関する高度な知識（とりわけ文法・文化的背景・歴史・地理・資料調査能力）を養ってゆくつもりなので、その覚悟で授業に臨んで欲しい。

前・後期それぞれ6～8首程度読む。特に絶句体のジャンルの作品。

【授業計画】

2～3人ずつの班に分かれ、毎回班ごとに事前に調査し、まとめた資料を提出し、それに基づき発表する。

【評価方法】

前後期各1回のレポート提出を求めるが、演習時の発表や発言も考慮して成績評価を行う。

【テキスト】

- ・プリント。
- ・漢文研究の手びき四訂増補版（中国詩文研究会 750円）
- ・中国文学語学文献案内第四次修訂本（中国文学語学文献案内編集委員会 750円）
- ・李白詩選（岩波文庫 720円）

国文学演習Ⅱ（1） a・b

島田修三

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

〈天平季節歌の考察〉

『萬葉集』巻8には大伴家持をはじめとする奈良天平期の歌人による四季の歌250首余りが「雑歌」「相聞」の部立に収録されている。本授業では、この歌群の子細な読解を通して、四季の自然と各歌人の歌風との関係、大伴家文化圏と歌の場の問題、自然観の個性化といった諸問題を考えてみたい。

【授業計画】

〈前期〉 a

第1回～2回 巻8の概観

第3回～8回 春の歌 演習発表

第9回～11回 夏の歌 演習発表

〈後期〉 b

第1回～2回 夏の歌 演習発表

第3回～9回 秋の歌 演習発表

第10回～11回 冬の歌 演習発表

第12回 総括

※原則として一人数首の作品を担当し、指示に従った調査結果のレジュメの用意をしなければならない。発表に基づいて、受講者や島田の質疑が行われる。

【評価方法】

出席状況、授業期間中の発表、学期末レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

〈前期・後期〉

萬葉集（訳文篇）（佐竹昭広ほか著 塙書房）

国文学演習Ⅱ（2） a・b

久保朝孝

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

中古文学作品の読解と研究との応用的方法を、実践的に身につける。

『紫式部日記』は寛弘五年（1008）秋から同七年正月までを範囲として、紫式部が仕える彰子中宮の二度にわたる出産前後の行事や宮廷での見聞等を、女房の立場から克明に記述する。そこに見られる現実凝視の行きつく先はどこか。

作品を読み解きながら、作者自身の内省的記述と客観的描写とが交錯する形で展開する作品構造の意味、あるいは消息（手紙）混入の問題など、この日記が抱えるさまざまな問題について考察したい。

なお、夏季休業中に2泊3日の京都・奈良ゼミ旅行（35,000円）を、また、必要に応じてゼミ合宿を行う。

【授業計画】

一、複数のグループを編成する。

二、以下の諸点についての分担調査報告（準備学習）。

ア、成立・形態・諸本

イ、研究文献（注釈書）

ウ、研究文献（上記以外）

エ、研究状況

オ、登場人物と時代状況

三、担当範囲を決定する。

毎回2頁前後

四、研究報告→質疑→回答→討論→助言（毎回）

五、学修の成果をレポートにまとめる。

【評価方法】

次の諸点を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

ア、出席状況

イ、担当範囲についての研究発表（年間数回）

ウ、授業中の発言（質問・批判等）

エ、レポート

【テキスト】

紫式部日記 紫式部集（新潮日本古典集成 山本利達校注 新潮社 2,200円 税込）

国文学演習Ⅱ（3） a・b

岩下紀之

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

『とはずがたり』を読み、中世後宮の女流文学を考える。本年は巻五から読む。

<前期>

宮内庁書陵部本の影印本を使用する。この作品の唯一の伝本で江戸期の書写であり、発見されたのが昭和になってからということで、解釈上問題が多い。諸注にも大きなひらきがあり、学生諸君にも新見を提出する可能性がひらけている。

<後期>

前期から継続する。

【授業計画】

はじめに概説と具体的な指示を行なう。

【評価方法】

レポートを課する。

【テキスト】

とはずがたり 五（笠間書院）

国文学演習Ⅱ（4） a・b

山下宏明

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

『平家物語』を読む。これまでの『平家』論は、戦後の文学批評史の中で、作家論の一環として行われてきたのであるが、最近の動きとして、読者論・受容論的観点の導入が要請されている。こうした状況を受けて、『平家物語』を芸能の語り物として読む。そのために諸本の中の、いわゆる語り系のテキストをとりあげ、現在の語りのあり方に注目する。語り物として読むためである。声の文化と文字の文化の交流を考える。さらに、その語りが行われた中世に配慮し文化史として、その背後にあった源氏將軍の意向をも考慮することから、語り系以外のテキストにも配慮する。

【授業計画】

参加者をグループに分けて作業班を構成し、報告が一巡したところで、グループを解体し、改めて作業班を構成しなおして、グループに偏りが生じないように配慮する。多様な思考性を有する学生相互の交流をはかりたい。発表の方法、自己の表現方法にも反省の機会を与えることになろう。

【評価方法】

平常の出席状況、報告の内容と方法を毎回評価しつつ、各期の最後にレポートの提出を求めて総合的に判定する。

【テキスト】

山下宏明・梶原正昭共編『平家物語』岩波文庫4冊 必要に応じて、諸種プリントやスライドをも用意する。

国文学演習Ⅱ（５） a・b

阿部一彦

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

井原西鶴の町人物の傑作、『日本永代蔵』を影印本で解説し、考察する。「立身出世談や破滅談を通して金銀万能の町人社会の諸相を鋭く抉りだした」（『近世文学研究事典』）といわれる『日本永代蔵』のなかから十編ほどの短編小説を選び、さまざまな方面から考察を加えていく。

<前期>

各短編を受講者が分担して、本文の解説、語釈、口語訳、問題点の指摘と研究、構成と概要、小説としての達成等々の作品研究をおこない、発表する。

<後期>

前期に引き続いて作品の研究をする。

それとともに、この作品は<成立論>がとくに問題にされてきているので、その代表的な論文を取り上げて検討していきたい。そのことによって、近世文学「研究」の初歩的な方法の修得の一助としたい。

また卒論執筆に必要な文献・論文の扱い方についても学んでいくことになるであろう。

【授業計画】

上記のごとき演習形式で進めていく。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

未定。

国文学演習Ⅱ（６） a・b

小倉 斉

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

<小説の方法—作品をどう読み、どう論ずるか—>

近・現代の代表的な小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。グループで、一つの作品を担当し、それぞれ読み、調べ、分析してきたことを報告する。自分の<読み>と<考え>を大切にしつつ、それを対象化するために、すぐれた論を読み、質疑応答にも積極的に参加することが望まれる。

【授業計画】

<前期>

- 1 『江戸川乱歩傑作選』（江戸川乱歩）精読（2回）
- 2 『檸檬』（梶井基次郎）精読（2回）
- 3 『河童』（芥川龍之介）精読（2回）
- 4 『山の音』（川端康成）精読（2回）
- 5 『仮面の告白』（三島由紀夫）精読（2回）
- 6 『他人の顔』（安部公房）精読（2回）

<後期>

- 1 『母』（三浦綾子）精読（2回）
- 2 『近代能楽集』（三島由紀夫）精読（2回）
- 3 『密会』（安部公房）精読（2回）
- 4 『ホリー・ガーデン』（江國かおり）精読（2回）
- 5 『或阿呆の一生』（芥川龍之介）精読（2回）
- 6 『時計仕掛けのりんご』（手塚治虫）精読（2回）

【評価方法】

学期末のレポートを中心に、レジュメの内容、発表・質疑応答の様子などから総合的に評価する。

【テキスト】

<前期>

江戸川乱歩傑作選（江戸川乱歩 新潮文庫）、檸檬（梶井基次郎 新潮文庫）、河童・或阿呆の一生（芥川龍之介 新潮文庫）、山の音（川端康成 新潮文庫）、仮面の告白（三島由紀夫 新潮文庫）、他人の顔（安部公房 新潮文庫）、母（三浦綾子 角川文庫）、近代能楽集（三島由紀夫 新潮文庫）、密会（安部公房 新潮文庫）、ホリー・ガーデン（江國かおり 新潮文庫）、時計仕掛けのりんご（手塚治虫 秋田文庫）

国文学演習Ⅱ（7） a・b

都築久義

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

卒業論文テーマの作家を中心に演習する。
卒業論文の進行状況を考慮して進行する。

【授業計画】

個人発表。発表内容を中心討論する。

【評価方法】

平素の学習態度。

国文学演習Ⅱ（8） a

佐々木亜紀子

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

近代文学の読解と研究。（各自のテーマは自由）。
夏目漱石の『三四郎』・『それから』・『門』を取りあげ、
さらに各自の卒論のテーマも研究対象として進める予定。

【授業計画】

第1回 研究方法指導、発表日程・担当の決定
第2～12回 研究発表と質疑応答
第13回 まとめ、レポート提出

【評価方法】

出席状況と担当発表、レジュメ、質疑応答、レポート等
から総合的に評価する。

【テキスト】

三四郎（夏目漱石著 岩波文庫）
それから（夏目漱石著 岩波文庫）
門（夏目漱石著 岩波文庫）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国文学演習Ⅱ（8）b

細谷 博

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

近代文学・現代文学の読解と研究（各自のテーマは自由）。

何より作品を丁寧に読みたいと思う者、読むこと、そして書くことを通して、何かをたしかに考えてみようと思う者を対象とします。〈読み〉の力——言葉による人間形象の把握力——と、他者へむけての表現と討論の力をつちかうことを目的とします。

近代現代のすぐれた作品を対象として〈読みとり〉の現場を問題とし、自分が実際にどのような読み方をしていのかをまずしっかりと把握しつつ、さらなる〈読み〉の可能性をつかむ訓練を行います。

前期に続いて、後期は夏目漱石の『ころ』を取りあげ、さらに各自の卒論のテーマも研究対象として進めていきます。

【授業計画】

- 第1回 研究方法指導、発表日程・担当の決定
- 第2～12回 漱石作品と各自のテーマ別研究発表・質疑応答
- 第13回 まとめ、レポート提出

【評価方法】

出席状況と担当発表、レジュメ、質疑応答、レポート等から総合的に評価する。

【テキスト】

- ころ（夏目漱石著 新潮文庫）
- 出家とその弟子（倉田百三著 新潮文庫）

【参考文献・資料】

授業中に指示

国語学演習Ⅱa・b

増井典夫

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

方言と共通語。日本語の変遷。

現代日本語の問題点や方言の問題点等を考えながら新しい日本語研究の可能性を考えていき、卒業論文につながるものを求めていく。

【授業計画】

テキストの担当範囲を割り当て、前期に1回、後期に1回の発表をしてもらう。

その他、ビデオを見ての感想提出や、プリント配布による講読も行う。

【評価方法】

レポート等によって評価する。

なお、毎時点呼によって出欠席を調査する。

【テキスト】

- 敬語はこわくない（井上史雄 講談社現代新書）
- 応用社会言語学を学ぶ人のために
（ロング・中井他編 世界思想社）

中国文学演習Ⅱ a・b

寺尾 剛

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

＜中国古典文学研究法＞

中国の古典文学に関する研究法・調査法の養成に重点を置く。テキストは受講生との相談によって決定するつもりであるが、希望がなければ、唐代伝奇小説・『白氏文集』・『宋代詞集』を扱うことにしたい。

＜前期＞

・共通のテキストを用い、輪読し討論する。

＜後期＞

・卒論の途中経過や自分の関心を持っていることなどをテーマに発表。

【授業計画】

前期は輪読形式、後期は発表形式で進める予定。

【評価方法】

レポート及び発表の内容で決める。

【テキスト】

- ・プリント
- ・漢文研究の手びき四訂増補版（中国詩文研究会 750円）
- ・中国文学語学文献案内第四次修訂本（中国文学語学文献案内編集委員会 750円）

国文学特殊講義 古典基礎 a

久保朝孝

1年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

古典文学の読解と研究に必要な基礎的事項について、上代・中古を範囲とし、具体例に即しながら分かりやすくていねいに解説する。

古典学修に不安を感じる者は、できるだけ履修することが望ましい。

【授業計画】

1. 古典と文法
2. 古典と国語学
3. 古典と書誌学
4. 古典と文献学
5. 古典と文献資料(1)歴史関係
6. 古典と文献資料(2)辞書事典
7. 古典と文献資料(3)研究書等
8. 図書館の利用法
9. 平安貴族の生活環境
10. 平安貴族の暮らし
11. 古典と宗教・民俗
12. 古典文学の研究テーマ

【評価方法】

出席状況と期末筆記試験及び学外の自主的学習を総合して評価する。配分については授業時に説明する。

【テキスト】

別冊國文學No.42『古典文学基礎知識必携』（學燈社 1,370円 税込）。その他必要に応じて、印刷物を配布する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

国文学特殊講義 古典基礎b

阿部一彦

1年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

古典文学の読解と研究に必要な基礎的事項について、中世・近世を範囲とし、具体例に即しながら分かりやすくていねいに説明する。

古典学修に不安を覚える者は、できるだけ履修することが望ましい。

【授業計画】

1. 日本の伝統文化と現代
2. 〈花・花見〉の文学史
3. 〈文字〉の文学史
4. 古典文学とテキスト—芭蕉自筆本『奥の細道』
5. 古典文学を読む『徒然草』137段
6. 古典文学と時間
7. 古典文学と空間
8. 古典文学と自然
9. 古典文学と芸能
10. 古典文学と絵画
11. 古典文学と出版
12. 文献調査・検索入門

【評価方法】

出席及び筆記試験による。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

追って発表する。

国文学特殊講義 漢文基礎

寺尾剛

1年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

漢文が嫌い、漢文が読めない、漢文の魅力を知りたいといった学生のために特に設けた、漢文の基礎中の基礎を教授する講座。おそらく多くの学生諸君は、高校時代から、漢文句法はただただ暗記するものとして教え込まれてきていてウンザリしていることと思う。この授業はそういった諸君に対して、「なぜ」「どうして」という疑問を徹底的に解きほぐしていくことに主眼を置く。「なぜ漢和辞典は必要な?」「どうして再読文字なんていう面倒なものがあるの?」などといった根本的な疑問にも答えていくつもりである。そして、この講座が終る段階までには、諸君にも簡単な漢作文が作れるところまでレベルアップさせるとというのが本講座の最終目標である。国文学には漢文がつきものである。漢文拒避症からいち早く脱却して、楽しく漢文が読めるようになることを切に願うものである。

【授業計画】

漢文法を中心に行なう。折に触れて文化的背景の説明も行なう。

【評価方法】

平常点及び試験。

【テキスト】

「社会人のための漢詩漢文小百科」(大修館書店1,000円)

国文学特殊講義 古典文法基礎

伊藤紫野富

1年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

古文解釈に必要な文法を基礎から学ぶ。用言の活用、助詞、助動詞、敬語法などを、講義を中心に、問題演習を交えながら行う。

【授業計画】

- 第1回 授業内容の説明・文法概略
- 第2回 用言（動詞、形容詞、形容動詞）
- 第3回 助詞（係助詞、接続助詞）
- 第4回 助詞（格助詞、副助詞、終助詞）
- 第5回 問題演習
- 第6回 助動詞（る、らる、す、さす、しむ）
- 第7回 助動詞（き、けり、つ、ぬ、たり、り）
- 第8回 助動詞（ず、じ、む、むず、らむ、けむ）
- 第9回 助動詞（べし、まじ、なり、めり、まし）
- 第10回 問題演習
- 第11回 敬語法
- 第12回 総合問題演習
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

古典文法質問箱（大野晋著 角川ソフィア文庫）
新古典文法（監修 小町谷照彦 東京書籍）

国文学特殊講義 王朝物語 a・b

高橋 亨

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

平安朝物語を読む上で必要な諸問題について、『宇津保物語』俊蔭の巻の講読をとおして論じていく。本文批判や注釈、解釈と文法、社会文化史的な文脈などについて講義する。

本年度は『うつほ物語（一）』をテキストとして、物語研究の方法と具体的な個別問題について考えていく。

前期のはじめには、『宇津保物語』の全体について、必要な基礎知識を概説する。その後で、テキストを詳しく読み、解釈に基づいた読みの諸問題を論じていく。物語と神話や漢文伝承との関係、和歌的な表現法と和文との関係などが中心となる。

後期は、物語の表現と構造に加えて、音楽論や漢詩文をふまえた文学史など、より広いテーマへと展開していく。

【授業計画】

テキストにそって読み進めるが、それぞれの部分で個別の問題を分散的に論じていく。受講者はそれを各自で整理してまとめながら理解する必要がある。

【評価方法】

各期末の試験またはレポートにより、出席回数を考慮して採点する。

【テキスト】

うつほ物語（一）（野口元大・明治書院 2,400円）

国文学特殊講義 源氏物語 a・b

高橋 亨

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文学作品を読む上で必要な諸問題について、『源氏物語』帯木の巻の講読をとおして論じていく。本文批判や注釈、解釈と文法、社会文化史的な文脈などについて講義する。本年度は『帯木』（大島本）をテキストとして、文学研究の方法と具体的な諸問題について考えていく。前期のはじめには、『源氏物語』の全体について、必要な基礎知識を概説する。その後で、テキストを詳しく読み、解釈に基づいた研究上の問題点を論じていく。和歌と物語との関係、語りの表現法などが中心となる。後期は、語りの表現構造に加えて、芸能論や女性論などより広いテーマに展開していく。

【授業計画】

テキストにそって読み進めるが、それぞれの部分で個別の問題を分散的に論じていく。受講者はそれを各自で整理してまとめて理解する必要がある。

【評価方法】

各期末の試験またはレポートにより、出席回数を考慮して採点する。

【テキスト】

帯木（大島本）（高橋亨編 おうふう 971円）

国文学特殊講義 仏教文化論 a・b

渡辺信和

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本における文化の発展に多大な影響を与えた仏教は、その渡来から日本独自の仏教思想の形成まで、さまざまな様式と美術を残してきた。本講は日本文学の下地を担うものとしての様々な仏教文化を多方面から確認し、日本文学の基礎的な知識を身につけることを目指とする。

講義には具体的に建築、彫刻、絵画、装飾・模様などを取り上げその背景となる仏教思想を踏まえつつ見ていく。

【授業計画】

最初に仏教文化について定義を行い、前期は仏教の伝播をその造形を中心に見、日本に伝来した仏教が、日本化していく過程を見る。

後期は、具体的に建築、荘厳、彫刻、絵画などをあげてその流れを見る。さらに、花祭り（灌仏会）や盆（盂蘭盆会）、などの仏教行事、絵解き、説経などの布教、葬送儀礼などにもふれてみる。

【評価方法】

前期、後期ともレポート。

【テキスト】

講義時に配布。

【参考文献・資料】

岩波文庫『仏教』上・下、岩本裕『仏教説話の源流と展開』（1978）、その他至文堂の日本の美術シリーズの各冊など。

国文学特殊講義 仏教文学 a・b

渡辺信和

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本仏教文学とは、日本における仏教思想の影響下に成立した文学作品の謂である。すでに『万葉集』に沙弥満誓の詠歌を見ることができるとして、仏教の伝来からそう遅くない時期に文学への取り入れが始まり、爾来長く仏教文学としての文学作品が作られてきた。特に盛んであったのは、院政期から中世前半期で、多く仏教説話集として編纂された。物語や和歌、歌謡、謡曲などに見られる仏教思想も、それらを仏教文学としてとらえることを可能としている。

今年度は、室町期に成立した御伽草子『磯崎』を影印で読む。『磯崎』は、『後妻打ちの物語』、『嫁おどし』などの昔話とかかわりを持つ。

本講を通じて、室町時代の作品の読みを考え、その仏教意識を探る。

【授業計画】

講義は影印本で行う。講義時に指名して本文の音読、解釈をもらい、その文意、背景に存する説話などについて考察する。講義時に「古語辞典」で語義、文法事項を確認し、有職故実について「国語便覧」を参照することがあるので両書を必携とする。またくずし字が不得手な人はくずし字辞典などを用意すること。

第1講は仏教文学概論と「御伽草子」について

第2講以下前期は上巻を、後期は下巻を読む。

読み終えたら、異本について考察を行う。

【評価方法】

前期は筆記試験を行う。講義時の音読・解釈などの発表を斟酌する。

後期はレポート提出による。

【テキスト】

室町物語影印叢刊3『磯崎』（三弥井書店）

【参考文献・資料】

『室町時代物語大成』4、市古貞次『中世小説の研究』（1955）

国文学特殊講義 和歌・連歌 a・b

岩下紀之

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本古典文学の核心ともいえるべき、和歌と連歌を、最も代表的な歌論・連歌論の講読を通じて、概観する。

<前期>

藤原定家自筆本近代秀歌の影印本を教材とする。写本の解読の手ほどきをし、あわせて、定家の記述を追って背景の説明を適宜、プリントを配布しつつ説明する。定家歌論を読みとくことはもちろん最終的な目標である。

<後期>

心敬の御所本ささめごと（上）の影印本を教材とする。連歌は現代では縁のうすい文芸となっているので、その概説をおこない、連歌史についても説明する。

【評価方法】

学期末の試験をもって評価する。

【テキスト】

近代秀歌（武蔵野書院）

御所本ささめごと 上（笠間書院）

写本解説がはじめての受講者は仮名変体集（新典社）を購入しておくこと。

国文学特殊講義 近代詩 a・b

佐藤洋一

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近現代詩・谷川俊太郎詩のレトリック・表現論

- 1、谷川俊太郎を中心に、詩と詩人の固有な特質と方法を言語・構造・レトリック（言語技術）の観点や、戦後詩以降の現代詩の変遷、1950年代～80年代の歴史的社会的状況との関連等からも考察を行なう。
- 2、文化研究・批評（カルチャラル・スタディーズ）の枠組みの中で、「近代」という制度・戦争と国家・メディアと詩人の表現等の視点から近現代詩の意義と位置づけについて考察する。

【授業計画】

- 1、谷川俊太郎を中心に、戦後詩から現代詩の変遷・詩的言語の構造やレトリックを考察するとともに、近現代詩研究の基本的な方法の体得と主体的な課題意識を育成することが主要なねらいの一つである。
- 2、前後期とも、前半は配付プリントやテキストによる講義を行い、後半は簡単な演習形式で進める。演習はグループによる資料作成と発表・討議を中心に行なう。
- 3、前期は「基礎編」として、詩を読む魅力と方法や多様な個性をもつ近現代詩の諸相について述べ、谷川俊太郎の詩的言語について、子ども・生の意識・世界（コスモロジー）・言葉遊びと日本語の探究等の視点から考察する。後期は「展開編」として、谷川俊太郎詩を鮎川信夫等の戦後詩人や大岡信・茨木のり子等の同世代詩人、それ以降の現代詩人達との対比の中で考察したり、1950年～80年代の文化的歴史的な状況の中でより深く考察することが中心になる。

【評価方法】

- 1、出席席。毎回出席を確認し講義や発表に対する意欲・講義内容への課題意識や意見等を平常点に加える。
- 2、演習形式の資料作成・報告・発表の内容。詩の分析と考察・先行文献の理解と資料操作・発表と討議の内容、小レポート等を評価に加える。

【テキスト】

『空の青さを見つめていると・谷川俊太郎詩集Ⅰ』、
『朝のかたち・谷川俊太郎詩集Ⅱ』（ともに角川文庫）
その他、配付プリントによる。

国文学特殊講義 現代短歌 a・b

篠弘

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

短歌は伝統的な定型詩だが、いかに人間を表現しうる詩であるかを明らかにしたい。明治40年代の自然主義文学から影響をうけた短歌が、人生の時間を抉り出す詩として、その展開してきた魅力ある個性を紹介するとともに、とくにこの半世紀の多彩な作品を解説したい。そのモチーフ、感性や美意識、歴史認識から、技法や用語にまで言及したい。短歌を学ぶことによって、詩的表現の真髄を知ることができよう。

前期 a：Ⅰ 近代短歌から現代短歌へ

1. 近代短歌の起点
2. 近代短歌の代表的歌人
3. 近代短歌の作風と特徴

後期 b：Ⅱ 現代短歌の展開

1. 戦後短歌の成果
2. 1960年代からの短歌の魅力
3. 時代に生きる人間を詠む短歌

【授業計画】

配布するプリントならびにテキストを用いて講義する。予習は不要。感想を問うなどして、作者や作品にたいする理解を深める。

【評価方法】

各学期末に試験によって、作品の鑑賞力を評価する。あるいはレポート提出をもとめる。また、作歌を試みる。

【テキスト】

NHK短歌入門 生き方の表現（篠弘著 日本放送出版協会刊 1,300円＋税）

国文学特殊講義 批評理論 a・b

佐藤洋一

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現代・文学批評理論

ー〈批評〉〈方法〉をめぐる近現代文学入門ー

文学批評理論の紹介と考察・作品による具体的検討等を通して、私たちを取り巻く複雑で多面的な「現代」「世界」を文学はどのように描いてきたのか、それを今、どのように読み解いていくかについて検討する。また、現代人の生き方や精神の直面する諸問題や文学作品をめぐるさまざまな課題等も扱っていく。

【授業計画】

- 1、講義では、特に「現代文学作品」を例としながら取り上げるが、現代文学を取り巻く世界（読者・マスメディア・現代社会・人間関係等）も、研究方法（読者論・フェミニズム批評等）も多様化してきている。
- 2、毎回トピック形式でテーマを設定し具体的な作品に即して考察検討していく予定。例、「近代文学と現代文学」「私小説の方法」「描写・語りの技術」「ファンタジーと幻想」「フィクションと事実」「フェミニズムと現代文学」「無意識の発見と主体の分裂」等。
- 3、前後期とも、前半はテキスト・プリントによる講義を行い、後半は学生によるグループ毎の簡単な演習形式の報告・資料作成等を通して発表と討論を行なう予定。特に、前期は「基礎編」としてテキスト講読や資料によって批評理論の歴史と変遷・代表的な理論の背景と特徴・作品と批評理論の関係等について、後期は「展開編」として前期の内容を更に深め、具体的な作品批評を中心に検討する。

【評価方法】

- 1、出欠席。毎回出欠を確認し講義や発表への意欲・講義内容への課題意識や考察等を平常点に加える。
- 2、演習形式の資料作成・報告や発表内容や、数回の小レポートの内容等。

【テキスト】

講義中に指示します。

その他、配布プリントによる。

国文学特殊講義 現代小説 a・b

小倉 斉

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

〈現代小説の方法と課題—作品をどう読むか—〉

「小説を読む」とはどのような行為なのかという課題について、現代日本を代表する小説の精読および方法意識の検討を通して考察し、言語表現としての文学を研究する方法を身につける。「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法を習得することが目標である。本年度は、高度経済成長後の日本の現代小説を取り上げ、現代の日本社会が抱える困難な問題を小説がどのように作品化しているかについて追究する。

【授業計画】

〈前期〉

- 1 問題の所在：現代小説の方法と課題
- 2 後藤明生『挟み撃ち』（講談社文芸文庫）
- 3 安部公房『他人の顔』（新潮文庫）
- 4 山田太一『見えない暗闇』（朝日文芸文庫）
- 5 村上龍『コインロッカー・ベイビーズ』（講談社文庫）

〈後期〉

- 1 問題の所在：江藤淳『成熟と喪失』から
- 2 安岡章太郎『海辺の光景』（新潮文庫）
- 3 小島信夫『抱擁家族』（講談社文芸文庫）
- 4 庄野潤三『夕べの雲』（講談社文芸文庫）
- 5 島尾敏雄『死の棘』（新潮文庫）

【評価方法】

授業への参加状況、学期末の試験（自筆ノート持ち込み可・論述問題中心）によって評価する。

【テキスト】

〈前期〉

挟み撃ち（後藤明生 講談社文芸文庫）、他人の顔（安部公房 新潮文庫）、見えない暗闇（山田太一 朝日文芸文庫）、コインロッカー・ベイビーズ（全2冊）（村上龍 講談社文庫）

〈後期〉

海辺の光景（安岡章太郎 新潮文庫）、抱擁家族（小島信夫 講談社文芸文庫）、夕べの雲（庄野潤三 講談社文芸文庫）、死の棘（島尾敏雄 新潮文庫）

国文学特殊講義 郷土文学 a・b

都築久義

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

郷土の作家と郷土を描いた作品を研究する。

<前期>

郷土出身の作家を10人ほどとりあげる。

<後期>

郷土を描いた作品（近代、古典）を10作品くらいとりあげる。

【授業計画】

作品、作家を1回ごとに変える。

【評価方法】

テストを実施。

【テキスト】

プリントを配付。

国文学特殊講義 児童文学 a・b

堀尾幸平

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

1. 児童文学とは何か。その呼称、特質、形態、研究方法等、児童文学理論を研究する。

2. 児童文学が、どのように発祥、展開してきたか、わが国の文学史を把握し、その今後を展望する。

3. 児童文学をテーマにした小論文を書き、実際に童話を創作する。

【授業計画】

<前期 a>

1. 児童文学とは何か
2. 明治期の児童文学
3. 三輪弘忠
4. 巖谷小波
5. 大正期の児童文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 童謡、少年詩、少女小説
9. 児童文学研究史
10. 試験

<後期 b>

1. 昭和期の児童文学
2. 佐藤紅緑、佐々木邦
3. 宮澤賢治
4. 新美南吉
5. いぬいとみこ、松谷みよ子
6. 中川李枝子、灰谷健次郎
7. 平成期の児童文学
8. 児童文学論文講読
9. 創作童話
10. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

国文学特殊講義 日本演劇史

林 和利

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の演劇史を、古代の神楽から現代の前衛劇にいたるまで、その流れを追って講じる。とくに、伝統演劇である能・狂言・歌舞伎・文楽については詳しく説く。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示。
2. 日本演劇史系統図を示して通史を概説する。
3. 演劇の発生について
4. 神楽について
5. 伎楽について
6. 舞楽について
7. 散楽について
8. 能について
9. 狂言について
10. 歌舞伎について
11. 文楽について

また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により、総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利 青山社）

国文学特殊講義 伝統芸能の世界

林 和利

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の伝統芸能の流れを概説したうえで、能・狂言に的をしぼり、その技芸の本質について詳しく講じる。公演の案内や鑑賞の手ほどきも行う。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示。
2. 日本芸能演劇史概説
3. 能・狂言入門
4. 名人の芸
5. 狂言の世界
6. 足拍子の効果
7. 名古屋の能楽

また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

国文学特殊講義 日本映画史

梶川 忠

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

学生であるきみたちは、年に何本の日本映画をみるだろうか。日本映画はみなくていいものになっていないだろうか。

実際には、日本映画は、映画が誕生してすぐに世界の第一線にたっている。世界映画史の中で日本映画は重要な一角を占めているのだ。そういう日本映画を、ビデオを活用しながら、少しずつたどってみることにする。

【授業計画】

- 第1回 日本映画の誕生（明治から大正時代）
- 第2～4回 戦前の日本映画（昭和15年頃まで）
様々な現代劇と時代劇
- 第5回 戦争と映画（昭和20年まで）
- 第6～11回 戦後の日本映画（昭和40年まで）
日本映画の全盛期から衰退期
喜劇・メロドラマなどジャンル別
- 第12回 現在の日本映画

【評価方法】

2回のレポートで採点する。

【テキスト】

日本映画（ドナルド・リチャー著 行路社）

国文学特殊講義 文学と映像表現

梶川 忠

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本映画は、日本文学（特に小説）から題材をたくさん得ている。日本文学が盛んでなければ、あるいは日本映画は、存在できなかったかもしれない。いわば日本文学が母であり、日本映画は子供だといえる。

ただしものごとはいい面ばかりではない。日本文学からいつも養分を吸収していることで、日本映画がひ弱になり、現在の衰退を招いたという人もいる。

そういう判断は、しばらく保留しておこう。ここでは個々の小説とその映画化作品とを比較しながら、小説表現の特色や映像表現の特色を探ってみよう。

【授業計画】

最初の4回くらいは、向田邦子の「あ・うん」の小説・テレビドラマ・映画を細かく検討する。映像そのものに慣れるためである。

その後は、毎回ひとつの作品を取り上げて検討してゆくののだが、現時点ではどれにするのか決まっていない。数が多すぎてなかなか選択できないからである。予定では、明治時代から年代をたどりつつ、現在にまで到達するはずだ。

90分ほどの長さの映画をまるごと見ていたら、授業がおわってしまう。きみたちはその方がうれしいかもしれないが、残念ながらビデオは担当者が編集した30分くらいのものである。

【評価方法】

2回のレポートで採点する。

【テキスト】

あ・うん（向田邦子 文春文庫）

国語学特殊講義 ことばの認知科学 a・b

増田尚史

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

認知科学とは、人間の知的活動を、哲学、心理学、計算機科学、神経科学、言語学等の立場から、学際的に探求する学問である。

本講義では、人間の知的活動のうち、特に「ことば」の運用に伴う情報処理活動に着目し、「知覚、記憶、思考、発達（学習）」などの観点から検討を加える。さらに、ヒトの脳についての神経科学的知見を概観し、それを基礎とする言語理解モデルについて講究する。なお、受講者には、授業に出席するだけでなく、その中で実施される各種の実験に積極的に参加することが求められる。

【授業計画】

前期 (a)

1. 「ことば」に関わる研究分野
2. 「ことば」をめぐる哲学的議論
3. 「ことば」と知覚システム
4. 「ことば」と記憶システム
5. 「ことば」の獲得と喪失

後期 (b)

6. 「ことば」の運用に関わる脳部位
7. 「ことば」の理解に関するモデル
8. 「ことば」の運用規則
9. 「ことば」とコミュニケーション
10. 「ことば」をめぐる今日の問題

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。

【評価方法】

出席状況と期末試験の成績とによって、総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜紹介する。

文章表現 a・b

梅田卓夫

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文章表現の目標を「自分にしか書けないことを、誰にも分かるように書く」ことに置き、ジャンル（詩・小説・評論…）のワクを超えたすべての言語表現に共通する基本事項について学習する。

作品実作の過程で、受講者が自らの言語観・文章観を検討しつつ、より自由で科学的な方法と理論を習得することをめざす。

1. ことばとの自由で柔軟な関係を回復するためのトレーニングを経て、ことばを操ることのたのしさを体験する。
2. 創造的な文章を目ざして、いくつかの作品（作文）を試みる。
3. 文章制作過程の、各段階ごとに制作技法をとりあげ、実作体験しながら学習する。
4. 自己の制作経験をふり返りながら、意識の働きと技法の両面において、普遍的法則をさぐりあてる。
5. その結果を、各自に文章表現法として体系化することを試みる。
6. さまざまなジャンルの多彩な文章に触れて、文章表現の可能性をひろげるようにする。

【授業計画】

実作（実習）と理論化のための講義と作品鑑賞、この三つをくり返しながらすすめる。

【評価方法】

授業の中で制作する作品群、および期末試験によって行う。

【テキスト】

文章表現・400字からのレッスン（梅田卓夫著 ちくま学芸文庫 997円）

高校生のための文章読本（梅田卓夫ほか編 筑摩書房 922円）

書道（書写を中心とする） a・b

堀内千恵子

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

王羲之を中心の中国書道史、空海を中心とした日本書道史をベースに、臨書、鑑賞などの実技を通して、書法の習得をはかる。ある程度、心眼が高まったところで、創作活動への意欲を高め、個々の感性によった作品を創作し、今日的な書の表現はどうあるべきか、芸術としての書の在り方を考えさせる。

<前期>（中国書道史と日本書道史をいれかえる場合もある）

中国書道史（古典と臨書 書法と創作）

◇太古～秦代・篆書・書の意義と特質

◇漢代～六朝時代・漢隸の魅力・六朝文化の特徴

◇隋～唐時代・二大書師について

◇宋～現代まで

- ・多様化した書道・かな・ペン習字
- ・書道展の鑑賞

<後期>

日本書道史（臨書と創作 書法と書法）

◇奈良朝以前・かな・用筆法

◇奈良時代～平安時代

- ・遣唐使と三筆
- ・和様体と三蹟・創作（気脈貫通 遅速緩急）

◇鎌倉時代～現代 少字数の作品 多字数の作品・結構法・用墨法 ・創作方法

- ・禅林風と和様体 近代詩文の作品
- ・空海の書法と人
- ・寛永、幕末の三筆

【授業計画】

理論（書道史、書論）40分程度 実技 50分程度

必要に応じて、プリント（顔真卿・良寛・空海等）や手本を配布する。

【評価方法】

・出席日数 ・毎回提出の課題の評価（10段階） ・ペン習字 ・創作活動の評価 ・理論の少テスト ・レポートなどの評価 以上の内容の総合評価

【テキスト】

書道の旅（堀内千恵 株式会社BMC）

言語学 a・b

増田尚史

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

「言語」という広範な現象のうち、特に形態素としての「単語」と、それに内在する統語的、意味的制約（あるいは規則）とについて、言語学的方法論を踏まえつつ検討を加える。さらに、技術としての形態素解析や、語用論に基づくレトリックの解析についても講究する。なお、個人が晒されている言語環境の再吟味を課題とするショート・レポートを、前後期ともに、適宜課することを予定している。

【授業計画】

前期（a）

1. 科学としての言語学
2. 言語学の方法
3. 形態論と形態素としての単語
4. 語形成と統語的制約
5. 語形成と意味的制約

後期（b）

6. 形態素解析
7. 語彙データ・ベース
8. 心的辞書
9. 語用論
10. 語用論とレトリック

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。

【評価方法】

出席状況とショート・レポートの成績とによって、総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜紹介する。

比較文学 a・b

池谷敏忠

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

比較文学は国際間の（国と国との間の）文学的関係の歴史を調べ研究する学問です。この授業はT.S.エリオットの詩と菊村到の小説など日英米仏文学の影響関係を具体的に考察します。さらにエリオットの詩論と芭蕉俳論などの対比研究も試みます。

【授業計画】

前期は次の事項を予定しています。

比較文学の定義と本質

日本における *The Waste Land* の受容

T.S.エリオットと立原正秋

共同体と個性の文学

T.S.エリオットと小林秀雄

後期は次の事項を予定しています。

T.S.エリオットとベルグソン

形面上詩人のアルス・ポエティカ

芸術作品の創造と伝統の継承

Spectrum に見る西脇詩の原型

T.S.エリオットと西田幾多郎

テキストを用いて講義・解説します。受講生は必ずテキストを持参して下さい。

【評価方法】

レポートまたはテストと各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

比較文学論集（池谷敏忠 晃学出版 2,200円）

外国語としての日本語 a・b

石橋千鶴子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本語の特徴を文法の面から考察し、日本語を母語としない人を対象にした日本語教授法を指導する。

【授業計画】

日本語テキストおよびビデオ日本語教材を用いて、初級日本語教育で扱う文型、文法事項の英語による具体的指導法を考察する。外国語としての日本語の文法基礎知識を得ることが期待される。

【評価方法】

期末試験および日常の勉強状況により評価を行う。

【テキスト】

未定。

論文

島田修三 久保朝孝 岩下紀之 山下宏明 阿部一彦 小倉 斉
都築久義 佐々木亜紀子 細谷 博 増井典夫 寺尾 剛

4年 通年 必修 8単位

【授業の概要】

論文の書き方全般にわたって指導する。

【授業計画】

各担当教員が指示する。

【評価方法】

論文の学術的価値によって評価する。

【テキスト】

各担当教員が指示する。

国文学特殊講義 源氏物語 a・b

高橋 亨

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文学作品を読む上で必要な諸問題について、『源氏物語』帯木の巻の講読をとおして論じていく。本文批判や注釈、解釈と文法、社会文化史的な文脈などについて講義する。本年度は『帯木』（大島本）をテキストとして、文学研究の方法と具体的な諸問題について考えていく。前期のはじめには、『源氏物語』の全体について、必要な基礎知識を概説する。その後で、テキストを詳しく読み、解釈に基づいた研究上の問題点を論じていく。和歌と物語との関係、語りの表現法などが中心となる。後期は、語りの表現構造に加えて、芸能論や女性論などより広いテーマに展開していく。

【授業計画】

テキストにそって読み進めるが、それぞれの部分で個別の問題を分散的に論じていく。受講者はそれを各自で整理してまとめて理解する必要がある。

【評価方法】

各期末の試験またはレポートにより、出席回数を考慮して採点する。

【テキスト】

帯木（大島本）（高橋亨編 おうふう 971円）

国文学特殊講義 現代短歌 a・b

篠 弘

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

短歌は伝統的な定型詩だが、いかに人間を表現しうる詩であるかを明らかにしたい。明治40年代の自然主義文学から影響をうけた短歌が、人生の時間を抉り出す詩として、その展開してきた魅力ある個性を紹介するとともに、とくにこの半世紀の多彩な作品を解説したい。そのモチーフ、感性や美意識、歴史認識から、技法や用語にまで言及したい。短歌を学ぶことによって、詩的表現の真髄を知ることができよう。

前期 a：I 近代短歌から現代短歌へ

1. 近代短歌の起点
2. 近代短歌の代表的歌人
3. 近代短歌の作風と特徴

後期 b：II 現代短歌の展開

1. 戦後短歌の成果
2. 1960年代からの短歌の魅力
3. 時代に生きる人間を詠む短歌

【授業計画】

配布するプリントならびにテキストを用いて講義する。予習は不要。感想を問うなどして、作者や作品にたいする理解を深める。

【評価方法】

各学期末に試験によって、作品の鑑賞力を評価する。あるいはレポート提出をもとめる。また、作歌を試みる。

【テキスト】

NHK短歌入門 生き方の表現（篠弘著 日本放送出版協会刊 1,300円＋税）

国文学特殊講義 児童文学 a・b

堀尾幸平

4年 前期・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

1. 児童文学とは何か。その呼称、特質、形態、研究方法等、児童文学理論を研究する。
2. 児童文学が、どのように発祥、展開してきたか、わが国の文学史を把握し、その今後を展望する。
3. 児童文学をテーマにした小論文を書き、実際に童話を創作する。

【授業計画】

〈前期 a〉

1. 児童文学とは何か
2. 明治期の児童文学
3. 三輪弘忠
4. 巖谷小波
5. 大正期の児童文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 童謡、少年詩、少女小説
9. 児童文学研究史
10. 試験

〈後期 b〉

1. 昭和期の児童文学
2. 佐藤紅緑、佐々木邦
3. 宮澤賢治
4. 新美南吉
5. いぬいとみこ、松谷みよ子
6. 中川李枝子、灰谷健次郎
7. 平成期の児童文学
8. 児童文学論文講読
9. 創作童話
10. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

国文学特殊講義 日本演劇史

林和利

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の演劇史を、古代の神楽から現代の前衛劇にいたるまで、その流れを追って講じる。とくに、伝統演劇である能・狂言・歌舞伎・文楽については詳しく説く。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示。
 2. 日本演劇史系統図を示して通史を概説する。
 3. 演劇の発生について
 4. 神楽について
 5. 伎楽について
 6. 舞楽について
 7. 散楽について
 8. 能について
 9. 狂言について
 10. 歌舞伎について
 11. 文楽について
- また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により、総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利 青山社）

国文学特殊講義 伝統芸能の世界

林 和利

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の伝統芸能の流れを概説したうえで、能・狂言に的をしぼり、その技芸の本質について詳しく講じる。公演の案内や鑑賞の手ほどきも行う。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示。
2. 日本芸能演劇史概説
3. 能・狂言入門
4. 名人の芸
5. 狂言の世界
6. 足拍子の効果
7. 名古屋の能楽

また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

言語文化特殊講義 4 a・b

鄭 澤善

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

半年間の勉強を通じて、中国の風土、歴史、食文化、民族、宗教、信仰等を概略的に紹介しながら、現代日本の文化と比較してもらい、相互理解を目指す。中でも、儒家文化の紹介に重点の置き、現代中国社会への影響について説明する。

【授業計画】

- (1) 中国の風土及び歴史
- (2) 民族、宗教、信仰
- (3) 食文化
- (4) 儒家文化
- (5) 儒家文化の現代社会への影響

【評価方法】

レポートに出席率を加味して総合評価する。

【テキスト】

プリントを使用する。

言語文化特殊講義 5 a・b

松本雄子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

今日でも、多くの日本人が「日本は単一民族社会である」と公言してはばからない。これは、多様性との共存を否定し続けてきた日本社会の偏見に満ちた考え方の表れである。偏見や差別という問題を、様々な角度から検討し、多様性の共存という考え方を学ぶ。

【授業計画】

様々なテーマにそった映画やドキュメンタリーを使い、ディスカッション中心の授業。映画は、全員に前もってAVセンターで見てもらい、授業はディスカッション担当者が中心になり進めていく。担当者には、映画を見るだけではなく、その時のテーマについてあらかじめ調べたことを発表してもらう。ドキュメンタリーはなるべく授業時間を使って見る。前期は国内外における人種問題、移民問題等に焦点をあて、後期は在日外国人、性差別、人権問題等を中心に検討する。

【評価方法】

ディスカッション及び発表、授業への参加

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

言語文化演習II a・b (コミュニケーション論)

ジョリー幸子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

当演習は3年生の言語文化演習I a, bに継続するもので、言語よりも更に重要であると言われる「非言語コミュニケーション」について研究・追求するものである。

【授業計画】

第1週	コースオリエンテーション	
2	研究企画と方法論 (Research Methodology)	
3	文献録作制 (Bibliography・Reference)	
4	Speech : Research (Reading・Discussion)	
5	” ” (” ”)	
6	” ” (” ”)	
7	” ” (” ”)	
8	” ” (” ”)	
9	” ” (” ”)	
10	” ” (” ”)	
11	” ” (” ”)	
12	” ” (” ”)	
1	Project Presentation : Group	1 & 2
2	”	3 & 4
3	”	5 & 6
4	”	7 & 8
5	”	9 & 10
6	”	11 & 12
7	”	13 & 14
8	”	15 & 16
9	”	17 & 18
10	”	19 & 20
11	”	21 & 22
12	Summary and Conclusion	

【評価方法】

演習への出席、ディスカッションへの参加、発表、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト】

1. Nonverbal Codes. Brent D. Ruben. Kiri-hara Shoten, 1985.
2. 日本の常識はどこまで通じるか：異文化交流で失敗しないために。ジョリー幸子。風媒社 1999.

【参考文献・資料】

比較生活文化事典 (金山盲夫 大修館)
Gestures : DOs and TABOOs of Body Language Around the World. (Roger E. Axtell, Wiley)

言語文化演習Ⅱ a・b (中国学)

馮 富榮

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

中国語の学習過程における母国語及び母国の文化の影響について

—主として、日本人を対象として—

日本語と中国語との比較研究及び両国の文化比較に関する研究文献(中国語の文献と日本語の文献の両方あり)を多く活用することによって関連研究の流れと現状を把握する。そして、日本人の中国語の学習過程における問題点を探り、母国語及び母国の文化・習慣による干渉という視点から問題点の出現原因を検討する。この授業の最終的な目標は、1年間を通じて一人に1つの論文を完成する。

【授業計画】

ゼミの最初に授業の主旨、全体的な進め方について説明し、第二言語の学習過程における母国語及び母国の文化・習慣の影響に関する文献、また日・中両言語の比較研究を参加者が各自に調べてくる。それを次の授業までに読んでおき、その論文の要旨及び問題点を次の授業でゼミのみんなに発表して、それについて討議する。そうしたことを2、3回繰り返すことによって、自分の関心のあるテーマを見つけ、今後取り組むテーマを選定する。その後、交替で自分の研究の進捗を発表し、他のゼミ生から自分の研究の次のステップへのアドバイスを、そして教員側からその指導を受ける。

【評価方法】

レポートの提出状況、受講態度、出席率及び最終的な論文により評価する。期末のペーパーテストは実施しない。

【テキスト】

なし。

言語文化演習Ⅱ a・b (批評理論)

杉本一直

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

演習Ⅰに引き続き、現代文学の講読と作品評論を行なう。演習Ⅱでは評論により重点を置き、ロシア・フォルマリズムに始まる現代の文学理論を学ぶ。

【授業計画】

◆文学理論については以下の項目を学ぶ。

- ロシア・アヴァンギャルド文学とロシア・フォルマリズム
- ロマン・ヤコブソンと構造主義
- メタフィクションとディコンストラクション批評
- 受容理論と「読者」

◆文学作品は以下の作家の作品を講読する。

ポール・オースター、ホルヘ・ルイス・ボルヘス、アルベール・カミュ、ヴィクトル・ペレーヴィン、イタロ・カルヴィーノ、安部公房、ウラジーミル・ナボコフ

◆また、卒業論文(またはゼミ終了論文)の計画、資料収集、執筆の過程において、各学生が経過発表を行う。

【評価方法】

研究発表とレポートによる。

【テキスト】

プリント配布、授業中に指示した書籍。

言語文化演習Ⅱ a・b (日本語学)

山内啓介

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本語学、日本語の諸問題を演習する。

日本語の音声科学、日本語の文法、言葉の意味、語彙論、国語の歴史、そして日本語教育の分野にわたってともに学ぶ。日本語表現と日本文化の探求にもおよびたい。演習は各参加者が問いを立ててトピックとし、調査をして発表する。

【授業計画】

日本語の音韻と文法の問題をテーマとする。

前期は、各自が問題を設定して文献探索、フィールド調査を行い、アンケートや聞き取りを実行して発表する。問題意識を確かにしてアンサーを見つける過程の解決方法と、その重要なことを知る。また、発表内容につき議論を交わすことで、プレゼンテーションを深化させる。後期も前期と同様に、各自のテーマを追求する。

発表の順はエントリーを行い、担当予定日に担当者が欠席しないことがルールである。ルールをまもらないことは参加者全員の授業が成立しなくなるので許されない。事情があればゼミの全員に変更を申し出ること、順番が調整される。

【評価方法】

プレゼンテーションまたはゼミ論による。出席重視。

【テキスト】

発表レジュメ。文献をコピーして配布。

【参考文献・資料】

言語学大辞典日本語の項目 (三省堂)

言語文化演習Ⅱ a・b (対照言語学)

窪田守弘

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

3年次の演習として、映画製作やシナリオの書き方を一通り学んだので、学生が本格的に自己の研究課題を仕上げるための準備をする。このゼミでは既に対照言語学的な視点から映画字幕を分析して来たので、今後は各自が自分なりの視野から研究テーマを絞って考えていくようにする。卒業作品はあくまで自己の思想をいかに体系化するかが問題となるので、丹念に分析する必要がある。

<前～後期>

ゼミは各自の研究テーマを毎回発表し、それにコメントを加えていく形式にする。学生は、発表を通じて課題を完成し、最終的にそれが卒業作品となるよう配慮する。

【授業計画】

発表者が毎回レジュメを配布し、それに沿って研究発表を行なう。

【評価方法】

毎回の発表内容や態度、作品などで最終的に評価する。

【テキスト】

①文章の書き方 (辰濃和男著 岩波新書 700円+税)

言語文化演習Ⅱ a・b (言語行動)

川上正浩

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

本演習では、システムとして存在する言語に人間がどのように適応しているのか、という観点から、言語そのものよりも、言語処理システムである人間に迫ることを目的とする。担当者は認知心理学を専攻する研究者であり、言語というシステムがいかにか構築されているのかよりも、構築され、環境となっている言語というシステムに人間がいかにか適応しているのかに興味の中心がある。したがって本演習では、言語を材料として扱いながらも、むしろ人間の言語情報処理過程を扱っていく。そして人間の言語処理過程を明らかにすることを通じて、より一般的な人間の情報処理能力の可能性と限界とを探っていく。

【授業計画】

初回で本演習の進め方、本演習での大きな枠組みを提示する。

2回目以降は、各学生が自らの興味で選択した文献についての報告とそれに対する議論を中心としたゼミ形式の授業を行う。学生には、レポーターとして報告を行うことと、授業内で展開される議論に積極的に参加することが期待される。

【評価方法】

出席状況、レポーターとしての責務の遂行状況、議論への参加状況、授業中に課されるコースクレジットへの参加、最終レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

授業内で適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。また資料についてはA4サイズで統一して配布する予定である。

日本語教授法Ⅱ a・b

山内啓介

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本語教育の教科書を取りあげて分析する。
日本語教授の実践的知識を得る。
日本語授業のシミュレーションを行う。
日本語教師の能力とは何か、を考える。
語学教育における学習者論、教師論、教材論のうち、教師の立場について講義と模擬授業を行う。教科書の分析には文型積み上げ方式 (AOTS) を用いる。

【授業計画】

前期

- 1 日本語教育入門・初級の文法授業概要
- 2 表現文型とオーラル・アプローチ
- 3 教室作業の実際をシミュレーション
- 4 話し言葉教材と書き言葉の習得

後期

- 5 日本語教育のニーズアナリシス
- 6 日本語能力試験の標準表
- 7 日本語教育能力資格について
- 8 日本語教育の教授法とは何か

なお、コースデザインによる教育方法をあわせて考察するのでテキストを用いる。

【評価方法】

簡単な試験を学期中に、5回の予定。(60%)
出席を重視。(20%) 授業の参加。(20%)

【テキスト】

『新日本語の基礎』スリーエーネットワーク

【参考文献・資料】

『日本語の教え方の秘訣』(上・下) (有馬綾子 スリーエーネットワーク) [授業には購入しなくてよい]

日本語教育教材論

山内啓介

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語教育の教材は教科書、教具、資料にわけて捉えられ、また、教室環境と教師自身が教材となっていた。教授法の展開から、AL (Audio Lingual) メソッドにおける画期的な教具の開発が行われた後、今日ではPAL時代になって、おおきな変化が現れた。日本語教材でも求められているのは、たとえば言うなら、“とっさの一言” ふうの会話である。日本語の対人コミュニケーションを、そのストラテジーの視点で分析したわかりよい日本語会話である。マルチメディア対応の教材の開発が進められなければならない。日本語資料で扱いやすい、役立つ教材を考察してみたい。

【授業計画】

日本語教育で使われる教材の分析を行い、利点と欠点をメソッドとアプローチの違いに位置付け、提示文と語句を場面と文化的背景に捉えなおして、日本語会話の構成を追求して製作を行う。この講義を通して、会話集の実践的演習を試みるので、コミュニケーションの重要性を認識できるように進めたい。

【評価方法】

講義の理解。(60%) 出席を重視。(20%)
教材の製作。(20%)

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

各種市販の教科書。
会話用に『生活場面事典』(三修社、西村政人・山内啓介他)、集中教育用に『初級日本語』(久野かおる・山内啓介他) などがある。

日本語教授法Ⅲ (教育実習)

窪田守弘

集中 4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語教育の実際の状況を知るため、映像や資料を使って実践的な実習を行なう。この教育実習は専門的な内容となるため、これまでに日本語教育に関連する科目を履習しておくことが望ましい。

本学は中国の南京市にある南京師範大学と姉妹校提携を結んでいるが、そこの日本語学科で実施した日本語教育実習の内容を中心に教育実習を行なう。特に、本学学生の研究授業などを撮影したビデオを主な教材として、実践的な内容にする考えである。

【授業計画】

南京師範大学での研究授業のビデオを参考にしながら、学生が実際に模擬授業を行う予定である。

【評価方法】

実習に関して独自の考えをまとめたレポートや、出席状況や態度などで、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布するが、「実習ノート」を作成する予定である。

論文

ジョリー幸子 馮 富榮 杉本一直
山内啓介 窪田守弘 川上正浩

4年 通年 選択 8単位

【授業の概要】

＜論文提出までの主な日程＞（詳細は掲示）

- ・ 4月上旬履修登録
- ・ 4月22日（月）「依頼書」提出締切り（4月1日以降、学部準備室）
- ・ 5月20日（月）「論文概略」提出締切り（5月1日以降、学部準備室）

以後、指導の日時、梗概提出、初稿提出など、完成論文提出までの詳細は指導教員の指示による。

- ・ 12月20日（金）午後4時：「論文」提出締切（12月10日以降、学部準備室で受付）

上記いずれの締切に遅れても論文提出の資格を失う。

言語文化海外セミナーⅠ

馮 富榮

集中 1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において3週間の中国語研修を行う。
 - ◎月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう！
 - ◎風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州へ、庭園で知られている蘇州への一日旅行。
2. 言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した1週間旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実施する。
5. 修了者には2単位を認定する。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、参加希望者は履修登録を必ずする。9月下旬頃、参加者最終決定。10月中旬頃、第1回説明会。11月下旬頃、第2回説明会。1月下旬頃、オリエンテーションを実施する。2月中旬頃に出発し、3月中旬頃に帰国する。費用は20万円程度。

【評価方法】

引率者が平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

英文法 a・b

金子輝美

1年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

高校時代までに培った英文法の知識をさらに深め、文法規則の暗記ではなく、実際の言語使用まで踏み込んで学習する。そのため言語の根幹をなす文法事項に的をしぼる。後期はさらに実践力を養うため各種検定試験の文法問題演習とその解説を加える。

<前期 a >

1. 現在時と過去時の表現
2. 未来時の表現
3. 進行形
4. 完了形
5. 仮定法
6. 助動詞

<後期 b >

7. 態
8. 関係詞
9. 不定詞と動名詞の比較
10. 話法

各種検定試験問題演習

【授業計画】

テキストは丁寧に解説されている。それを熟読し、例文を理解し、練習問題をやってくる。例文・練習問題は生きた英語の用例が、現代の英米小説、エッセイ、シナリオなどから豊富に集めてある。授業ではテキストの内容および例文の意味について頻繁に質問し難解な部分の解説を行い、重要事項のまとめを行う。例文・練習問題は音声面にも留意しながら進める。後期は、テキストの後半を扱うが、テスト形式で、各種の検定・資格試験の問題も解説する。その他、小説、新聞などから題材を選んで演習を行う。座席を指定する。

【評価方法】

出席状況、授業態度を成績評価に加える。定期試験を実施する。

【テキスト】

『コーパス英文法』(柏野健次・内木場努著 開拓社)

英語音声学 a・b

中郷 慶

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

受講生はこれまでに、英語を何年間も学習してきているが、おそらく、何が英語の発音の特徴であるのか理解していないように思われるし、十分な発音指導を受けてきたこともないと思われる。

この授業では、音声学・音韻論だけではなく、統語論・意味論・語用論などさまざまな角度から、英語の音声特徴を理論的かつ体系的にとらえることにする。理論に従って、より英語らしく読み、話す実践的練習のほかに、聞き取り訓練のための時間もできるだけ取る予定である。授業では、歌や映画など幅広く取り上げて、実践的な解説を加える。

英語を勉強していくうえで、一度、徹底的に英語の音声を基礎から勉強しておくことは不可欠なことである。この授業はヒアリング力の向上にも役立つだろう。

【授業計画】

英語(および日本語)音声の特徴の全体像を明らかにするように、次のような内容で授業を進めるが、各項目は独立しているわけではないので、前・後期の受講が望ましい。

前期：発音の基礎知識(声、調音器官等)

日本語と英語の音声特徴

リズムとイントネーション

音韻論と音声学

語強勢と文強勢

後期：音節

音変化(同化・脱落・連結・縮約)

母音と子音の発音と聞き取り

【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

こうすれば英語が聞ける: Ways to be better listeners
(中郷安浩、中郷 慶共著 英宝社)

【参考文献・資料】

授業中に指示。

English 101 a・b

ハリー・T. ノリス

1年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

The objective of this course is to develop the students' ability to interact using English. They will be able to speak with an increased degree of fluency and confidence, with other Japanese people and native speakers of English. Areas of concentration will include, listening, pronunciation and other speaking skills. Inter-cultural differences will be explored as will humour and lifestyle, in order for students to gain an overall understanding of English. Teaching methods will include group work and individual work with the main aim being for the student to be able to express opinion and fact in English.

Teaching materials will include video's, short stories, poems and other media to stimulate the students into discussion.

【Schedule】

This will be a two semester course.

The students will work through the assigned text with extra work being given in the form of handouts. These will include but will not be restricted to: Introductions, Pronunciation ex. (L/R and B/V), Natural word groups, Homonyms, Large numbers, Word Groups and Word Relationships, Giving and Receiving Directions

【Assessment】

Assessment will be based on class work, homework, speaking and listening ability and tests.

【Textbooks】

New Interchange 2 (Cambridge University Press)

【Reference】

None

English 101 a・b

シャレル・A. ラインツマ

1年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

This course is designed to help improve the students' communication skills. In the course we will build upon the base of skills the students already possess, using a mix of conversation, group work, activities and projects.

【Schedule】

Topics will include, but not be limited to: Introductions, Jobs, Hobbies, Relationships, Entertainment, The IT Revolution, Education, Environment, and Volunteerism

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, class participation and written work

【Textbooks】

Not yet decided

English 102 a · b

ハリー・T. ノリス

1年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

The objective of this course is to develop the students' ability to interact using English. They will be able to speak with an increased degree of fluency and confidence, with other Japanese people and native speakers of English. Areas of concentration will include, listening, pronunciation and other speaking skills. Inter-cultural differences will be explored as will humour and lifestyle, in order for students to gain an overall understanding of English. Teaching methods will include group work and individual work with the main aim being for the student to be able to express opinion and fact in English.

Teaching materials will include video's, short stories, poems and other media to stimulate the students into discussion.

【Schedule】

This will be a two semester course.

The students will work through the assigned text with extra work being given in the form of handouts. These will include but will not be restricted to: Introductions, Pronunciation ex. (L/R and B/V), Natural word groups. , Homonyms, Large numbers, Word Groups and Word Relationships, Giving and Receiving Directions

【Assessment】

Assessment will be based on class work, homework, speaking and listening ability and tests.

【Textbooks】

New Interchange 2 (Cambridge University Press)

【Reference】

None

English 102 a · b

ラリー・A. パドウィル

1年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

The aim of this course is to improve your speaking and listening abilities.

Many foreign language learners concentrate on grammar and vocabulary, but never use this English in actual conversation. Emphasis will be given to effectively using the English knowledge you have already acquired and then applying it to conversation practice activities. A variety of topics will be discussed. We will practice in pairs, small groups, and with the whole class.

【Schedule】

The first part of the course will be used to review fundamental English conversational patterns, particularly yes / no and WH... questions and answers. We will then go on to activities in which you can practice communicating.

【Assessment】

You will be graded on your desire to improve your English speaking and listening skills. This means actively participating in class activities. Improving your English is up to you.

【Textbooks】

A text, if necessary, will be announced on the first day of school. You should have a Japanese / English and English / Japanese dictionary.

English 102 a・b

フィリップ・サザンズ

1年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

The purpose of this course is to make students more independent both as learners and as speakers of English.

This is a general language course. There will be grammar, reading and listening exercises, as well as diaries and weekly conversations. Developing fluency and self-expression are important goals of the course. Weekly topics include your family, your life, music, food, sports, personalities, etc. But students will also bring their own topics to class.

【Schedule】

Term 1

- 1-2 Your classmates, your topics
- 3-4 Living arrangements
- 5-6 Food, restaurants, likes and dislikes
- 7-8 Travel (and student topics)
- 9-10 Giving instructions
- 11-12 Review, Holidays, test

Term 2

- 1 How do you say hisashiburi?
- 2-3 Giving opinions
- 4-5 Story-telling and summarizing
- 6-7 Review (and student topics)
- 8-9 Dreams
- 10-11 Reporting
- 12 Test

【Assessment】

Students will receive a weekly mark for a diary, homework and work in class.

【Textbooks】

New Interchange 2

ドイツ語 a・b

浜田義孝

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（またはCDかテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

【授業計画】

テキストは、全14課で各課ともミニ会話と基本的な文法事項、練習問題で構成されている。そしてまた読解力を養うためにドイツの生活をテーマにした読章が4つある。1課を2回の授業で修了するようゆっくりしたペースで進む。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

ドイツ語70 (シュレヒト/三室共著 三修社)

フランス語 a・b

清水ベアトリックス

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この授業は初級者を対象とし、フランス語の習得だけでなく、フランスの風俗、文化、習慣も「味わいながら」学ぶことを意図する。担当講師はフランス語の授業を通じて受講者の対仏国理解を深める手助けをすることを切に望む。

前期

日本で出版された平易なフランス語テキスト（CD付き）、漫画、ポップス、ビデオなどを使用する。

前期には、テキストの目次に沿って進み、フランス人講師が直接教えるので、受講者は「フランスに浸り」、「純粋な」フランス語の発音と文法の基礎を身に付ける。

できる限り前期では、下記の文法を学ぶ：

発音、名詞の『性』と『数』、冠詞、不定詞と動詞の活用：直接法現在形、疑問文：疑問代名詞と疑問形容詞、否定文、品質形容詞。

後期

前期に引き続き同じテキストを使用し、より高レベルの文法・語彙を学ぶ。しかし、特にコミュニケーションに重点を置くので、「純粋なフランスの環境」の中で簡単な作文を書いたり、寸劇をすることにより、受講者自身の考えをフランス語で表現する能力を養成することを主目的とする。

後期では、下記の文法事項を学ぶ：

目的語となる人称代名と強勢形、指示形容詞、所有形容詞、冠詞の縮約、半過去、複合過去。

【授業計画】

毎回学んだフランス語を会話練習に積極的に使用するとともに、文法を体系的に学んだり、平易なフランス語の文章を和訳する。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

「Alphabetix」（Centre franco-japonais d'osaka, 三修社）

ロシア語 a・b

杉本一直

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

【授業計画】

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を憶え、発音を憶え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- キリル文字と発音
- 大きな声であいさつしよう
- 買い物に行ってみよう
- 乗り物に乗ろう
- おなががすいたら...
- 自分について話してみよう
- 好きな音楽について
- 手紙を書こう（本当にロシアへ送るぞ!）

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

英文学基礎演習 a・b

柳原佳枝

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

英文読解力を深めると共に、英文学の作品理解に必要な基礎的知識を高めることを目指す。

文学作品の豊かさや作家それぞれに異なる作風の鑑賞にも留意。

教室では、作品を精読し、構成や人物描写、テーマや作品の背景、その他様々な視点から総合的に作品を理解する演習を行う。

併せて、小説の〈読み方〉及びレポートや論文の〈書き方〉についての検討も目指す。

【授業計画】

作品の精読をもとに、受講学生によるレポートや意見の発表に重点をおく。

前期に予定する作家：

J.Joyce, D.H.Lawrence, K.Mansfield

後期に予定する作家：

E.Waugh, D.Thomas, G.Greene

【評価方法】

定期試験、平常点（積極的な発言、レポート、出席、等）などで総合的に評価する。

【テキスト】

Modern British Short Stories I（志子田光雄・遠藤健一 編注 英宝社）
及びプリント配布。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

英文学基礎演習 a・b

横関美津紀

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

英文学作品の理解に不可欠な英文読解力を育成し、歴史や文化に関する基礎的な知識を深めることで、理解度をさらに高めることを目指します。

また、文学のテキストと併せて、基本的なリスニング・スピーキング力を養うための練習も実施します。

授業は輪読およびレポートを主とする、受講生主体の形式で進めます。宿題としてドリルを課し、提出を求めることもあります。

【授業計画】

（前期・後期ともに）

第1回 インTRODクシヨN

第2回以降 各回、冒頭でリスニング・スピーキング力養成教材の解答を確認した後作品の精読にもとづく演習を行います。

【評価方法】

平常点（授業の予習・ドリルの提出状況・授業への積極的な参加・レポート）および定期試験にもとづき総合的な評価をします。

【テキスト】

文学のテキストについてはプリント教材を配付予定
大学生のEメール英作文（黒川裕一著 南雲堂）

英文学基礎演習 a・b

久野幸子

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

映画化された文学作品を手がかりに、英語の文章を読み解く基礎的英語力の育成を目指す。あわせて文学作品と映画との関係についても英語で書かれた論文を読み、今後の英文学研究への基本的知識の習得を心がける。

【授業計画】

前期

- | | |
|---------|----------------------|
| 第1回 | イントロダクション |
| 第2-10回 | テキスト講読とクラス発表
作品鑑賞 |
| 第11・12回 | 文学作品の映画化について(1) |
| 第13回 | まとめ |

後期

- | | |
|---------|----------------------|
| 第1回 | イントロダクション |
| 第2-10回 | テキスト講読とクラス発表
作品鑑賞 |
| 第11・12回 | 文学作品の映画化について(2) |
| 第13回 | まとめ |

【評価方法】

平常点(出席、受講態度など)とレポート、期末の筆記試験などで総合的に評価する。

【テキスト】

前期 *Film Classics* (John Dougill Macmillan)

後期 *Understanding Movies*
(John Dougill Macmillan)

他にプリント教材等配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

英文学基礎演習 a・b

山田豊

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

Virginia Woolf (1882-1941) は、1930年代を中心にロンドンで有名になったイギリス人の美人の女流作家。ただ、小説は一桁、実験的な作品は五つ以下、評論や日記もまあ有名。しかし、30年代後半から特にアメリカで最期の小説がベストセラーになり、1941年の自殺以後、ポスターやTシャツにプリントされた、まさに「アイドル小説家」になった。イギリスでも、私生活も話題となった有名人だったが、アメリカでのこういった社会現象は、まさに後のハリウッドのスターの売出しと同じアメリカ商業主義の典型である。最近、この「アイドル化」の歴史を詳しく記した本がアメリカで出版された。この本の面白そうな箇所を中心に英語の原本で読みたい。

【授業計画】

英語の本の全部細かく読む時間はないので、面白そうな箇所を中心に選んで読む。問題の作家の作品も少しは読みたいが、ほとんど翻訳もあり、長くないので、夏休みにでも読んでみよう。授業では、英語のテキスト「Virginia Woolf Icon」を分担して、少しずつ和訳したり、内容の要約などを発表してもらいながら進めていく予定。一回の授業で4-5人の人に発表してもらうことになるだろう。

【評価方法】

特に試験はおこなわず、授業で行った発表や訳を中心に評価する。一回くらいは短いレポートを書いてもらうかもしれない。時期については相談のうえ。

【テキスト】

Virginia Woolf Icon. Brenda R. Silver (The University of Chicago Press).

最初のうちは、Introduction等はコピーを配付する予定。

米文学基礎演習 a・b

太田直子

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

アメリカ南部文学を代表する4人の作家、Jesse Hill Ford, Erskine Caldwell, Truman Capote, William Faulknerの短篇を読んでいく。アメリカの中で、南部は独特の文化習慣をもっている地域である。作品の書かれた時代背景、にも注目し、作品を読みたい。

一つ一つの単語を大切にしながらも、作品を楽しめるようになってほしい。

【授業計画】

前期：Jesse Hill Ford, "To the Open Water"

Erskine Caldwell, "Rachel"

後期：Truman Capote, "A Tree of Night"

William Faulkner, "Hair"

【評価方法】

各学期末の試験。

後期にレポート。課題については、授業中に説明する。

【テキスト】

Southern Short Stories Today (南雲堂)

米文学基礎演習 a・b

小野迪雄

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

テキストを精読することによって、作者がどのような意図で作品を書いたのかを探るのが、中心のテーマである。このことは、読者の方でどんな読み方が出来るかの側面もある。英語を通して、作品の意図を読みとり、それがわれわれにとってどんな意味があるかを考える。

〔前期〕テーマを発展させるために、テキストを読むと同時に、作者や作品の特徴についての知識を習得する。また作品は作者の思想や書かれた時代の社会などを反映していると考えられるから、そこに読みとれる問題を考えてみる。できるだけ比較文学の視点からも説明を加える。テキストは精読していくが、文法事項の説明は必要最小限にとどめる。

本年度は現代アメリカの最も代表的な劇作家 Tennessee Williams の初期の作品であると共に代表作でもある *The Glass Menagerie* を扱う。この詩情豊かな作品を通して、作者は急速に変転していくアメリカ社会の影の部分に光をあて、激しい社会の動きについてゆけない家族を浮きぼりにして、やさしいまなざしを登場人物にむける。

〔後期〕前期の方針の継続。

【授業計画】

学生の積極的な意欲に期待し、指名などによって、成果を発表してもらう。テキストを中心に進行するが、必要に応じてプリントを配布し、内容理解の補助とする。

【評価方法】

筆記試験、レポート、授業に対する平常の準備(予習)などを総合して行なうが、筆記試験に最も重点をおく。

【テキスト】

Tennessee Williams :

The Glass Menagerie (『ガラスの動物園』) 英宝社

米文学基礎演習 a・b

今井加寿

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

アメリカ文学への入門講座として、20世紀アメリカを代表する6人の作家の短編小説を精読する。特に作品の中で描写される女性に着目し、作家が描こうとした様々なアメリカ人女性像の特異性、およびその普遍性について考察する。

また映像化されたアメリカ文学の名作をビデオ鑑賞し、作品中のアメリカ人女性像についても考察する。

【授業計画】

学生は毎回、担当箇所をレポート形式で発表する。

- 第1回 授業計画及び評価方法の説明
第2回～第13回 テキストに沿って演習
第14回 期末試験

前期：Erskine Caldwell, “The Strawberry Season”

Ernest Hemingway, “The End of Something”

William Faulkner, “A Rose for Emily”

ビデオ映画 『風と共に去りぬ』

後期：Carson McCullers, “A Tree, A Rock, A Cloud”

O. Henry, “The Gift of the Magi”

Bernard Malamud, “The First Seven Years”

ビデオ映画 『ガラスの動物園』

【評価方法】

出席・授業態度、筆記試験・レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

American Stories of Love and Life

ISBN 4-255-10101-9

(朝日出版社)

米文学基礎演習 a

今井知子

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代アメリカ作家・思想家の中から代表的人物を選び、その思想・特徴を把握し、現代アメリカの抱える問題を、作品を通して多方面から検討し、今後のアメリカの文化・文学・思想の動向を探っていききたい。

【授業計画】

- 第1回 年間計画の検討。
第2回～12回 作品を精読し、作家・思想家を知る。各自の考えをどのようにレポートにまとめるかを学ぶ。
第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、平常点、レポート、単位認定試験を統合的に評価する。

【テキスト】

『Martin Luther King, Jr.』 by James T. de Kay

桐原書店 ￥417

米文学基礎演習 b

今井知子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代アメリカ作家数人の代表的短篇を数篇選び、それぞれの作家の特徴を把握し、現代アメリカの抱える問題を、作品を通して多方面から研究し、今後のアメリカ文学の動向を探っていききたい。

【授業計画】

- | | |
|---------|--|
| 第1回 | 年間計画の検討。 |
| 第2回～12回 | 作家の短篇を精読し、それぞれの作家・作品の研究をする。各自の考えをどのようにレポートにまとめるかを学ぶ。 |
| 第13回 | 単位認定試験 |

【評価方法】

出席状況、平常点、レポート、単位認定試験を総合的に評価する。

【テキスト】

『Focus on Youth: Modern American Stories』
名和雄次郎・先川暢郎編注 桐原書店 ¥1,301

英語学基礎演習 a・b

樗木勇作

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

英語学入門

英語の言語的研究について、基礎知識を身につけることを目標とする。英語学研究の基礎力となる、英語の読解・リスニング能力の向上も目指す。

英語学の扱う領域のうち、次の分野について演習を行う。形態論 (Morphology)、音声学 (Phonetics)、音韻論 (Phonology)、統語論 (Syntax)、意味論 (Semantics)、言語の多様性 (Language Variation)、言語変化 (Language Change)、語用論 (Pragmatics)。それぞれの分野の知識を実際の英語運用で活かせるよう、最新映画のスク립トや洋楽の歌詞を使って応用を試みる。

本演習は包括的な概論ではなく、上記分野の特定の側面を垣間見るにすぎない。理論よりも、言語事象に焦点をおく。

【授業計画】

説明→演習問題→解答の確認

<前期 a >

1. Morphology
2. Phonetics
3. Phonology
4. Syntax

<後期 b >

1. Syntax
2. Semantics
3. Language Variation
4. Pragmatics

【評価方法】

レポート+平常点 (出席・授業態度)。

【テキスト】

A Linguistics Workbook Fourth Edition (Ann K Farmer and Richard A. Demers (2001), MIT Press)

英語学基礎演習 a・b

加藤主税

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

ゼミ形式で授業を進めます。自主的、積極的に参加して下さい。全員が毎時間1回以上発言すること。ワイワイ、ガヤガヤとニギヤカにしかも、わきあいあいとエイゴ学に取り組んでいきましょう。決していねむりする余裕はありません。

【授業計画】

[前期]「人がことばを使うには、どんな能力が必要か？」という問題にアプローチするため、母国言語能力を意識化し、規則化する過程を経て、英語分析に進みます。各言語理論、分析方法の概要、基礎を習得し、それを参考にして、各自の収集したデータの規則化を試みます。資料収集方法、問題設定方法、疑問題検索方法については、前期のうちに、充分体得してほしいと思います。

[後期] 前期で体得した分析能力を語用論的分野まで拡大します。さまざまな言語現象を語用論的に分析し、その規則化を試みます。特にこの分野に関心を持つことは、日常の言語感覚を敏感にすることでしょう。この経験は、必ず将来の言語生活に役立つと思います。

【評価方法】

出席を重視します。授業中の発言回数とその内容、さらに積極性あるいは授業態度などを評価します。もちろん定期試験も重要です。

【テキスト】

英語観察学 (奥田隆一著 鷹書房弓プレス)

【参考文献・資料】

日本語七変化 (加藤主税著 中央公論新社)、フシギことば学 (加藤主税著 翔雲社) など、その他は授業中に指示。

英語学基礎演習 a・b

丹羽都美

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

英語という言葉について、その背景にある事柄を音韻論、形態論、統語論、意味論などの各領域から分析し、英語の基礎知識を身につけることを目標とします。

【授業計画】

<前期a>

第1回 Introduction (言語とは)

第2回～第4回 音韻論

第5回～第7回 形態論

第8回～第12回 統語論

<後期b>

第1回～第5回 意味論

第6回～第10回 語用論

第11回～第12回 様々な英語

【評価方法】

出席、考査等を総合して評価します。

【テキスト】

必要に応じて配布します。

英語学基礎演習 a・b

五島幸一

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

「ことば」に焦点を当てて、人の行為にどのような影響を及ぼすのかを考えていく。本演習ではコミュニケーション学の一領域であるレトリック批評の観点からことばの特徴を考察するとともに、人々を説得するためのことばについて学びます。

ここで扱う「ことば」というのは英語を前提としていますし、また文献もすべて英文です。

【授業計画】

テキストを中心に行うが、副教材としてプリント、ビデオなどを使用する。こちらから説明はおこなうが、学生の発表も数多くある。

【評価方法】

授業への参加度および定期試験にて評価する。

【テキスト】

未定

English 201 a・b

ポール・C. リンガー

2年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

This course covers all four language skills, with particular emphasis on listening and speaking. Throughout the course there will be emphasis on meaningful communicative practice. Students will have the opportunity to personalize the language they learn, to make use of their own world knowledge, and to express their ideas and opinions.

The course makes frequent use of pairwork, groupwork, and whole class activities, maximizing their opportunity to speak English in class.

The student's role is to participate actively and creatively in learning, using both the materials they study in the course and their own knowledge and language resources.

【Schedule】

201 a

Units 1- 2

Describing personalities

Expressing likes and dislikes

Expressing agreement and disagreement

Complaining

Giving opinions about jobs

Describing and comparing jobs

201 b

Units 3- 4

Making requests

Accepting and declining requests

Leaving messages

News (describing past events)

【Assessment】

Assessment is continual and will be based on the following criteria:

Attendance

Class participation

Homework and assignments

End of semester progress test

【Textbooks】

New Interchange 3 (Jack C. Richards CUP)

English 201 a · b

リチャード・ハリス

2年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

This is an active English learning course. In this course students will learn practical American English with the use of situational dialogs found in the real world. Students will perform activities and play games using an array of various verbal dialogs. The course is designed to help students improve on and increase the usage of the language they have acquired in previous courses.

【Schedule】

Topics which will be covered during the semester

(a)

- 1 Class introduction,
- 2 personal profile
- 3 visiting a friend's house
- 4 transportation
- 5 restaurant
- 6 shopping
- 7 describing people
- 8 weather
- 9 borrowing things
- 10 compliments
- 11 phone conversations
- 12 review

(b)

- 1 business calls
- 2 making reservations
- 3 traveling
- 4 giving directions
- 5 Doctors office
- 6 manners
- 7 buying electronics
- 8 expressing concern
- 9 gossip
- 10 excuses
- 11 talking about art
- 12 review

Student assessments are based on the following criteria:

Class attendance, Class participation, tests and homework assignments.

【Textbooks】

Text book is to be announced

English 201 a · b

サミュエル・ミラー

2年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

The course will aim to solidify the student's understanding of English grammar - I envision considerable review of verb tenses - while building vocabulary and conversational skills. We will cover a wide variety of topics from the *Impact Series*, one book devoted to topics of relevance in contemporary society, the other book introducing useful words and phrases; the books are tailored to this level of student and the students should enjoy them. Occasionally, a writing assignment - in which students will be asked to formulate sentences employing the grammar we have introduced in class or perhaps a paragraph or two on a topic related to a discussion - will be given. Generally, we will spend the first 30 minutes of each class on grammar review, devoting the remainder of the period to the textbook and open topics.

Some topics to be covered (from *Impact Topics*):

Fashion, earning money smoking, compulsive behavior, dating and cyber love, fan worship, The supernatural, cloning, fears, University education.

【Assessment】

Grade will be based attendance and participation (50%) homework and a final test (50%)

【Textbooks】

Impact Topics, (Richard Day, Junko Yamanaka, Longman)

Impact Words and Phrases (Richard Day, Junko Yamanaka, Longman)

English 201 a・b

アラン・デーヴィス

2年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

The aim of this course is to develop students' speaking, listening, reading and writing skills. The emphasis throughout the course will be placed on active participation in activities designed to promote interaction and communication on a variety of topics. Students will be encouraged to activate and use the language they already possess and to combine this with an active approach to developing new, mainly lexical chunks-based, vocabulary. A further major focus of the course will focus on strategies and techniques designed to encourage students to become aware of their own language learning strengths and weaknesses, and to use this growing awareness to become independent language learners. Classroom activities will include role play, mini-discussions, conversation, and small group presentation. In addition to short writing tasks that students will produce during scheduled classes, students will also be expected to complete a number of extended written assignments each semester.

【Schedule】

The topics to be covered include:

- 1 : Past events and experiences
- 2 : Family life
- 3 : The future
- 4 : News stories
- 5 : Conversation: strategies and techniques
- 6 : Talking about yourself and things in your life.

【Assessment】

Assessment will be as follows:

- 50% Class work: participation in speaking, listening, reading and writing activities
- 30% Homework assignments
- 20% Final oral interview test

【Textbooks】

The class will use a combination of textbook and teacher-made materials. The textbook is: *Activate Your English* Intermediate Course book (Sinclair and Prowse, Cambridge University Press)

English 202 a・b

ディビッド・P. レヴィ

2年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

This course is designed to develop all four language skills. Students will participate in pair and group activities. They will make a number of oral presentations to the class. Students will be required to keep a journal of their opinions of contemporary issues.

【Schedule】

Sem 1 : U 1-5, and Review

Sem 2 : U 6-10, and Review

【Assessment】

Assessment will be based on students' attendance, participation, homework assignments, presentations, journal work, and on tests.

【Textbooks】

True Colors 2 (Maurer & Schoenberg, Longman)

English 202 a・b

アラン・デーヴィス

2年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

The aim of this course is to develop students' speaking, listening, reading and writing skills. The emphasis throughout the course will be placed on active participation in activities designed to promote interaction and communication on a variety of topics. Students will be encouraged to activate and use the language they already possess and to combine this with an active approach to developing new, mainly lexical chunks-based, vocabulary. Classroom activities will include role play, mini-discussions, conversation, and small group presentation. In addition to short writing tasks that students will produce during scheduled classes, students will also be expected to complete a number of extended written assignments each semester.

【Schedule】

The topics to be covered include:

- 1 : Expressing opinions
- 2 : Talk about the future
- 3 : People and places
- 4 : Health
- 5 : Communication in writing

【Assessment】

Assessment will be as follows:

- 50% Class work: participation in speaking, listening, reading and writing activities
- 30% Homework assignments
- 20% Final oral interview test

【Textbooks】

The class will use a combination of textbook and teacher-made materials. The textbook is: *True Colors 2* (Maurer and Schoenberg, Longman)

English 202 a・b

サミュエル・ミラー

2年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

The aim of the course is to acquaint students with intermediate grammar and vocabulary and equip them with conversational skills. There will also be a steady emphasis on getting the students to express themselves in writing. To this end a writing assignment - in which students will be asked to formulate sentences or perhaps a paragraph or two employing the grammar we have introduced in class - will be assigned every other week, alternating with reading assignments. Generally, we will spend the first hour of the period on the book and use the remaining 30 minutes for conversation drills. In the final 30 minutes all students will be expected to participate in the class discussion and to voice their opinions freely.

【Schedule】

- Lesson 1 - 2 : Introductions and greetings / past tense / reading assignment week 1 / writing week 2,
- Lesson 3 - 4 : will and won't / future tense / reading assignment week 3 / writing week 4
- Lesson 5 - 6 : adjectives (superlative forms) reading assignment week 5 / writing week 6
- Lesson 7 - 8 : present perfect / how to express feelings / reading assignment week 7 / writing assignment week 8
- Lesson 9 - 10 : Should and Could / reading assignment week 9 / writing assignment week 10
- Lesson 11-12 Review and test

【Assessment】

Assessment will be based on class - work and participation (50%) homework (25%) and a final test (25%)

【Textbooks】

True Colors (Jay Mauer, Irene E.Schoenberg, Longman)

English 202 a・b

フィリップ・サザンズ

2年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

The purpose of this course is to give English majors the necessary language skills they will need to pursue their degree.

This course will continue to develop conversational ability, as well as reading, grammar, listening and writing essays.

A major goal of language learning at this level is self-expression. Therefore, students will be expected to read news articles, bring interesting topics to class and express informed opinions in their essays.

【Schedule】

Term 1

Chapters 1 - 5

Term 2

Chapters 6 - 10

【Assessment】

Assessment will be based on classroom work and weekly written assignments. Students will be expected to participate every week.

【Textbooks】

The textbook will be "True Colors" by Jay Maurer and Irene Schoenberg.

English 202 a・b

ジャクリーン・ノリス

2年 前・後期 必修 各2単位

【Course Content】

The aim of this course is to further develop the four macro-skills of listening, speaking, reading and writing in the English language. The students will become more aware of language use relative to various social situations. The students will be encouraged to actively participate in class discussions and will be given reading and writing tasks to complement the work covered in the course.

【Schedule】

Units 1 ~ 5 will be covered in the Spring Semester and Units 6 ~ 10 in the Fall Semester.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, active participation, completion of classwork and set homework. Also included in the assessment will be a number of short skill-based tests.

【Textbooks】

True Colors 2 A (Longman)

比較文化

松本青也

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日米文化の比較

何気なく喋ったり、行動したりしているつもりでも、私たちは常に自国文化の影響をうけています。「文化」を、集団が共有する価値観や規範の体系としてとらえ、日本人とアメリカ人の考え方や生き方を豊富な事例をもとに比較対照しながら、それぞれの文化の特質を浮き彫りにします。

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由に伸びやかな生き方が目の前に広がります。

【授業計画】

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則 (CTR)
10. システムとしての CTR
11. 研究対象としての CTR
12. 日本語の衝突と CTR
13. CTR と学校英語教育
14. これからの日米文化

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

松本青也『日米文化の特質』研究社。

英語学概論 a・b

大室剛志

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

英語学の全体像、研究領域の概要、研究課題などについて論じる。英語研究の現状をなるべく平明に紹介し、英語研究への動機を与え基盤を築くことを目標とする。

【授業計画】

前期

1. 英語学とは
2. 統語論 (1) 文の組み立て
文の構造、句の構造、X_{bar}理論、節の構造、複文の構造
3. 統語論 (2) 文法の操作
抽象的な構造、文法操作の性質、島の制約、助動詞の振る舞い

後期

4. 形態論
語の構成要素、派生、複合
5. 音韻論
英語の音、音素、同化と異化、語の強勢
6. 意味論
意味の成分分析、動詞の成分分析、成分分析の不足を補う、意味役割、照応形の解釈

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績により評価する。

【テキスト】

ファンダメンタル英語学 (中島平三著 ひつじ書房)

英文学史 a・b

キース・イーズリー

2年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

We will study British literature historically from its beginnings through the mid-Victorian Period. We will focus on the literature itself, from Beowulf through Dickens, reading poetry, fiction, and plays.

【Schedule】

(FIRST SEMESTER) a

From the Anglo-Saxon Period through the 16th century, focusing on Beowulf, Chaucer, and Shakespeare.

(SECOND SEMESTER) b

From the Metaphysicals through the mid-Victorian Period, focusing on Swift, Blake, Wordsworth, Keats, and Dickens.

【Assessment】

Each semester will include several quizzes, coursework and a final examination. If it is necessary to limit class size, there may be a test in the first lesson.

【Textbooks】

Past Into Present (Gower, Longman)

米文学史 a・b

池谷敏忠

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文学は言語による芸術で、国の文学は歴史的に、地域的に展開いたします。この講義はアメリカ英語で表現された米文学を通史的に講義・説明し、作家・作品の特質についても指摘いたします。

【授業計画】

前期は下記の内容について講義します。

植民地時代
独立から南北戦争まで
南北戦争から第一次世界大戦まで

後期は下記の内容について講義します。

第一次世界大戦以後
第二次世界大戦以後

テキストを用い、講義・解説します。受講生は必ずテキストを持参してください。

【評価方法】

レポートまたはテストの結果に各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

アメリカ文学史 (成美堂 2,100円)

英文学講義 I a・b

山田久美子

2・3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

イギリス・アイルランド文学の中で、20世紀の演劇を取り上げる。20世紀の演劇は、リアリズム演劇や前衛的な演劇など様々な手法やテーマが混在している。それらは、作者の思想、社会・文化的背景によるものである。本講義では、社会・文化的背景を理解した上で、女性の主人公を中心に、「夢と現実」を共通テーマとして、様々な手法の演劇を解説していく。また、視聴覚教材などを利用し、表現芸術としての演劇のおもしろさを理解する。

【授業計画】

前期

George Bernard Shaw, *Pygmalion*

Brian Friel, *Dancing at Lughnasa*

後期

Caryl Churchill, *Top Girls*

Conor McPherson, *The Weir*

【評価方法】

授業への参加度、レポート、学期末テストにより総合的に評価する。

【テキスト】

George Bernard Shaw, *Pygmalion* (英潮社)

Caryl Churchill, *Top Girls* (英潮社)

【参考文献・資料】

講義時に適宜紹介する。

米文学講義 I a・b

太田直子

2・3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

アメリカ文学を形成してきた数多くの作家たちに親しむために、作家たちの生涯や作品形成の裏にあったエピソードなどについて書かれた英文を読みながら、解説していく。前期は、文学を読むための基礎的な知識を学習してもらう。

【授業計画】

前期：

- 1 R.W. Emerson
- 2 H.D. Thoreau
- 3 N. Hawthorne
- 4 Herman Melville
- 5 H.W. Longfellow
- 6 Edgar Allan Poe
- 7 Walt Whitman
- 8 Emily Dickinson
- 9 Mark Twain
- 10 Henry James
- 11 Robert Frost
- 12 Jack London

後期：

- 1 Ezra Pound
- 2 Sinclair Lewis
- 3 Eugene O'Neill
- 4 F.Scott Fitzgerald
- 5 William Faulkner
- 6 Ernest Hemingway
- 7 John Steinbeck
- 8 Tennessee Williams
- 9 Arthur Miller
- 10 Henry Miller
- 11 Saul Bellow
- 12 James Baldwin

【評価方法】

各学期末のテスト。

【テキスト】

- ・ *The Writers of American Literature* (John Dougill, Macmillan Language House)
- ・ プリント

英語学講義 a・b

中野弘三

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

伝統的な動詞の意味分析から、新しい言語理論に基づく最近の動詞意味論に至るまで、文の中心要素である動詞の意味の分析方法を紹介し、動詞の意味分析の有用性や問題点を知ってもらう。

【授業計画】

前期は伝統的な英語動詞の意味分類を紹介し、その分類と完了相、進行相、態との関係を考察する。また、動詞の意味と動詞が取る統語形式との関係も考察する。

後期は新しい言語理論に基づく動詞の意味分析を紹介し、伝統的な動詞の意味分析と比較して、その有用性を考察する。

前期、後期ともに講義内容をよりよく理解してもらうために、練習問題を用意し、宿題とすることもある。

【評価方法】

各学年末の試験により評価する。

【テキスト】

使用しない。配布するプリントに添って講義する。

【参考文献・資料】

Meaning and the English Verb 2nd Edition

(G. N. Leech 著 ひつじ書房 [澤田治美注])

The English Verb 2nd Edition

(F. R. Palmer 著 Longman)

英米文学特殊講義 I a・b

ベヴァリー・F. M. カレン

2・3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

Britain shaped a “national” literary identity through borrowing from other languages and infected and inflected other languages and literatures in the course of cultural migrations that occurred in Europe since at least the medieval period onward. English as a language and as a literature, however, has not been contained by national boundaries for some time, and in fact is now more comfortably conceived in the plural, or as uncountable, like a multidirectional flow. In this course, we will look at how British literature has “travelled,” and been re-written in Canadian literature.

【Schedule】

The course will begin by looking at the early borrowing that created the British literary “canon,” and then move on to look at how such works as Shakespeare's *Othello* were re-written in Canadian literature in Ann-Marie MacDonald's *Goodnight Desdemona (Good Morning Juliet)* and Djanet Sears' *Harlem Duet*. We will consider also consider how the modernist poetry of Ezra Pound and the Imagists is “translated” into a distinctly postmodern poetic sensibility by Canadian poets.

【Assessment】

Assessment is ongoing and based on attendance, effort, and participation in discussion. An essay will be assigned and evaluated, as well.

【Textbooks】

Texts will be announced in class.

英語学特殊講義 I a・b

樗木勇作

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

英語統語論入門 (Introduction to English Syntax)

英語の文構造 (sentence structure) について、基礎的な知識を得ることを目的とする。さまざまな英語の構文の構造を明らかにしていくことで、統語論が扱う内容や手法を理解し、英語の文構造の特徴がつかめるようになることを期待する。前期授業では、特定の理論にあまり入り込むことなく、広く一般的な分析法で英語の統語構造について考察する。後期の授業は Chomsky (1995) のミニマリストプログラムの枠組みでの中心概念を取り扱う。

【授業計画】

<前期 a>

1. Basic Sentence Structure
2. Noun Phrase
3. Verb Phrase
4. Locative Phrases, Motion Phrases and Particles
5. Free Relative Clauses
6. Subjects of Phrases
7. Passives and the Easy Construction
8. Modification
9. Special Constructions
10. Negation
11. Conjunction and Ellipsis
12. Time Relations and Aspect

<後期 b>

1. Structure
2. Empty categories
3. Head movement
4. Operator movement
5. Subjects
6. A-movement
7. VP shells
8. Agreement projections

【評価方法】

レポート+平常点 (出席・授業態度)

【テキスト】

English Syntax second edition (C.L.Baker (1995), MIT Press)

English Grammar : a generative perspective (Liliane Haegeman and Jacqueline Gueron (1999) , Blackwell Publishers)

Syntax A minimalist introduction (Andrew Radford (1997), CUP)

English 301 a・b

ポール・C. リンガー

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

A series of fluency practice activities will be used to improve the listening and speaking abilities of intermediate students of English. This course will focus on the development of listening and speaking skills, but will also include activities that develop the student's reading and writing skills.

Communicative activities are provided to stimulate real conversation as much as possible. The students will find that they are strongly motivated by the desire to receive, offer, and exchange information by the realism and the value of the task themselves.

【Schedule】

Each topic will be covered over a 2 or 3 week period and will include the following themes:

- Communication
- Entertainment
- Health and leisure
- Work and the work world
- Current events
- Controversial issues
- travel

【Assessment】

Assessment will be continuous and will be based on the following criteria:

- ATTENDANCE
- CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced.

English 301 a・b

ポール・ルイス

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

During this course, students will practice listening and speaking activities intended to increase their ability to communicate in a wide variety of situations. In particular we shall focus on Learning Strategies and the role of intonation in communicating. At the same time, efficient and effective strategies for learning vocabulary will be considered. The aim of this course is to improve students' fluency, flexibility, and confidence in English.

The course will be presented entirely in English, and students are urged to minimise the amount of Japanese they use in the class.

【Schedule】

Students will work mostly in groups or pairs, practising the strategies outlined above. Among other activities, we shall look at information exchange and negotiation, problem solving, and occasionally role-plays.

【Assessment】

Assessment will be according to class participation, attendance, and occasional homework reports. No test will be given.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

English 301 a・b

ハリー・T. ノリス

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

The aim of the course is to develop students' comprehension of English. This will be a skills course, ie reading, writing, listening and speaking. Popular videos using English subtitles will be studied. Vocabulary found in the videos will be an important part of the discussion and comprehension of the movies. Work sheets and reports will be completed with each movie.

【Schedule】

On the first day of classes the students will be given a selection of CINEX videos to choose from. Once the videos have been selected a three week cycle will include vocabulary study, movie viewing, comprehension discussion and report writing.

【Assessment】

Attendance, classwork, participation and homework will be used for assessment.

【Textbooks】

None.

English 301 a・b

ジョアン・M. ウッドマン

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course is designed to explore aspects of Australian language and culture through analysis of poems, short stories, songs, movies, TV programs, news, etc.

Contemporary and historical examples will be used. A variety of topic areas will be covered, for example : personal problems ; environmental problems; current issues in society etc.

Students will be required to spend considerable time on vocabulary development (including idiomatic expressions) , hence the majority of assessment will be based on vocabulary tests, as well as participation in class discussions/activities.

【Schedule】

Section 1.Topics. Aust. Pop songs / traditional songs / Advice columns

Section 2.Topics. Babe / Crocodile Dundee / Famous Australians

Section 3.Topics. Poet-A.B. Paterson / Man from Snowy River

Section 4.Topics. More pop songs / traditional songs / annual events

Section 5.Topics. Dramas / Movies / Newspaper articles

【Assessment】

-Class activities /reports -30%

-Vocabulary tests - 70%

【Textbooks】

None

NOTE: Students who take my English 301 course can also take my English 302 course,and vice versa.

English 301 a・b

ジョナサン・E. ロング

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

In this course the students will watch videos, without subtitles, based on famous short stories in English. They will also extensively discuss and write in English about these videos in regards to their literary, cinematic and cultural significance. In this way the students will employ all four language skills and critical thought.

【Schedule】

Usually, each video will require three weeks:

1 st Week script

2 nd Week video

3 rd Week discussion

【Assessment】

Assessment is based on attendance, class participation in English and reaction papers to be written for each video .

【Textbooks】

none

English 302 a・b

ジョアン・M. ウッドマン

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course is designed to explore vocabulary and other aspects of language and culture through analysis of poems, short stories, songs, and movies. Contemporary materials will be used, covering such topic areas as :- young people and their changing behaviour; relationships; personal problems; environmental problems; current issues in society etc.

Students will be required to spend considerable time on vocabulary development, hence the majority of assessment will be based on vocabulary tests, as well as participation in class discussions.

【Schedule】

To be decided.

【Assessment】

Class activities /reports -30%

Vocabulary tests -70%

【Textbooks】

None

NOTE : Course content varies, so students who take my English 301 course can also take my English 302 course, and vice versa.

English 302 a・b

ポール・C. リンガー

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course is aimed at intermediate students of English. An integrated approach will be presented where there will be mainly a focus on developing reading and listening skills, but also an inclusion of activities designed to develop the student's speaking and writing abilities. The thematically-organized selections of reading material provides a balanced point of view while helping to nurture a range of analytical and critical thinking skills.

Also included are effective vocabulary skills exercises that are designed to increase students' vocabulary while helping them to cope with new words.

【Schedule】

Each topic will be covered over a two to three week period and will include some of the following themes:

- Cultural differences
- Sports and leisure
- Mysteries of the world
- Our environment
- Business
- Music
- Superstitions and the supernatural
- Multiculturalism and multilingualism

【Assessment】

Assessment will be continuous and is based on the following criteria:

Attendance

Class participation

Homework and assignments

End of semester report

【Textbooks】

FOR YOUR INFORMATION 2 (K Blanchard and C Root-Longman)

English 302 a・b

デイビッド・C. ダイカス

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

The general goal of this course is continue students' development in the four skills. There will be a strong focus on discussion and problem solving activities as a means of exchanging ideas and opinions. The approach will be topic based but will involve mastery of relevant grammatical structures needed to clearly express oneself in such discussions, especially those involving modals and conditional forms to perform communicative functions like criticizing and expressing regret. Another focus will be on learning and using phrasal verbs commonly used in conversational English.

Discussion topics/activities will provide the basis for writing assignments.

【Schedule】

The topics around which lessons will be based will be determined in part after consultations with students. As for specific grammatical structures involving modals and conditional forms, they will be studied starting first with simpler forms and advancing to the more complex ones. They will be studied in connection with discussion topics. Phrasal verbs will be studied independently of discussion topics.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance and completion of exercises/activities during class, homework, occasional quizzes, and an end of term test.

【Textbooks】

To be announced

English 302 a・b

ハリー・T. ノリス

3年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course is designed to be taken in two semesters. (a+b)

The course aims to improve the students' ability to communicate using English.

To help them transmit their ideas to other Japanese people and native speakers of English. The course will show students key points about public speaking that will allow them to speak English confidently in front of small groups. Teaching strategies and techniques, voice control, and use of teaching aids will be studied. Reading, writing, listening and speaking will be addressed throughout the course.

Speaking and listening being the main areas of assessment.

【Schedule】

(a) The first semester course, will be aimed mainly at teaching techniques used to increase confidence when speaking English.

(b) The second semester course, will be aimed at students giving seminars on a variety of topics in English.

【Assessment】

(a) First semester assessment will be based on attendance, speaking ability and improvement, attitude and a report.

(b) Second semester assessment will be based on attendance, research, seminar and a report.

【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

英文学講義演習 I a・b

柳 五郎

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

- I. Pride And Prejudice : 全知的視点から見た humour と subtlety of human psychology の描写。
- II. Wuthering Heights : 崇高な精神の undying life の世界と広大な構造。

<前期>

- I. Pride And Prejudice :
 1. 物質主義と精神主義の小説に於ける通時的傾向と変転
 2. 外面描写の文学傾向の中で、内面描写の小説が台頭し新しい文学が生まれた意義
 3. 作家の全知的視点による humour と subtlety of humour psychology 描写の特徴

<後期>

- II. Wuthering Heights :
 1. 現実と非現実の被膜の世界に独想した undying life の存在
 2. Emily の juvenilia に作詩した詩の世界と作品 Wuthering Heights の比較研究
 3. ダンテの『神曲』、Milton の Paradise Lost との構造的比較

【授業計画】

- I. 全知的視点からの描写によって、表現言語外に生れる、humour と subtlety of human psychology
- II. mysticism による解説で、超越的世界に於ける精神の不滅性。
- III. 東洋的神秘主義と西洋的神秘主義の比較

【評価方法】

それぞれの作品の通時的共時的理解と作品及び人間性の本質、及び言外の意味を解説する能力をテストで評価。

【テキスト】

- I. Pride and Prejudice (Jane Austen OUP)
- II. Wuthering Heights (Emily Bronte A Norton Critical Edition)

英文学講義演習 I a・b

柳原佳枝

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

<英文学とキリスト教文化 I >

欧米の文化の根底をなすものの一つはキリスト教の信仰や精神である。英語という言語そのものにも、又その文学にも、聖書やキリスト教世界の諸相が深く関わっている。この講義演習では、その点を重視しながら、英文学の作品理解を深めることを目指す。

【授業計画】

受講学生によるテキストの読解やレポートを中心に、授業担当者が随時補足する。

<前期>

C. G. Rossetti による詩を取り上げる。多くの作品にみられる、信仰・希望・愛、そして生と死のテーマ、更に色彩豊かな描写など、様々な視点から作品の理解を深める。

<後期>

異なる作家の短編小説及び児童文学などを数編取り上げ、そのキリスト教的主題や背景などを考察する。

積極的な質疑応答や研究発表を通して、作品の読解や鑑賞力を深めると共に、英文学の基礎的知識を習得する努力を重ねたい。

【評価方法】

期末のレポートと平常点（事前の準備、活発な意見の発表、授業に参加する積極的な姿勢など）で総合的に評価する。

【テキスト】

前期：プリント配布。

後期：授業中に随時指示。プリント教材も含む。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

英文学講義演習 I a・b

大野光子

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

アイルランド文学演習では、19世紀末のアイルランド文芸復興運動の中で W. B. Yeats 等が復活させた古代ケルト神話や妖精物語・詩から出発し、時代を遡る形でアイルランド文学史を概観することによって、独自の伝統を理解する。主に詩の読解力をつけるとともに、文学や映像メディアを通してアイルランド社会や文化全般についての知識を深める。

1. ケルトの薄明の中へー妖精と英雄の物語
 - (1) 文芸復興と妖精詩：W. B. Yeats を中心に
 - (2) ケルト神話とキリスト教：口承物語の伝統
 - (3) 妖精とヴィクトリア朝文学：絵画的表現との関係
2. 植民地アイルランドの独立ー貧困と移民の物語
 - (1) アイルランド詩の伝統：古代から19世紀まで
 - (2) 独立運動と文学：D. Hyde, Lady Gregory, J. M. Synge を中心に
 - (3) 詩／小説／劇に見るアイルランド社会（研究発表）

【授業計画】

前期で、詩や物語など英語文献の多読・速読を通して英語力を養成し、併せて英文学の基礎知識を習得したことを前提に、後期はディスカッションを通して作品の解釈・観賞力を高めるとともに、文献リサーチ法を学び、ジャンル別に選択した作品についてグループごとの研究発表を行なう。

【評価方法】

ゼミでの積極的な発言や研究発表を含む平常点と、学期毎のレポートによって成績評価をおこなう。

【テキスト】

Irish Literature - A Reader (Syracuse University Press)

他プリント教材

英語学講義演習 I a・b

橋木勇作

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現代英語学 I

最近の英語学の研究動向を知ること、研究テーマを見出すこと、英語力を向上させることを目標とする。英語を言語学的な点から研究している論考・論文を雑誌や論集から選び、ディスカッションの材料とする。同時に、英字新聞やテレビの英語ニュースを教材にして、英語運用能力の向上を目指す。

【授業計画】

1. 英字新聞講読
2. リスニング練習 (CNN)
3. テキスト精読
4. 論文レポート

【評価方法】

レポート＋小テスト＋平常点（出席・授業態度）。

【テキスト】

Linguistics An Introduction to Language and Communication FIFTH EDITION

(Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harnish (2001), MIT Press \$35.00 (paper))

英語学講義演習 I a・b

五島幸一

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

言語表現を通しておこなわれる日本人と英語文化圏の人々のコミュニケーション行動の違いを比較考察する。例えば、謝り方、支持や応援の仕方、またスピーチの仕方などを考察する。また、新聞、雑誌、テレビや映画などに現れる日本人やアメリカ人のイメージなどもみていく。

【授業計画】

テキストを中心に行うが、副教材としてプリント、ビデオなどを使用する。ゼミでは学生の発表を主体とする。

【評価方法】

授業への参加度およびタームペーパーにて評価する。

【テキスト】

Beyond Culture
(Edward T. Hall 2700円)

英語学講義演習 I a・b

太田浩司

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

このゼミでは言語を人間の社会活動の重要な「道具」とすると同時に「産物」とみなし、我々がそれをどのように使用しながら毎日の生活をしているかを社会言語とコミュニケーションという立場から探っていく。予定しているトピックは以下の通りである。

1. What is a language?
2. Language variation
3. Language attitudes
4. Speech accommodation & Intercultural Communication
5. Politeness
6. Bilingualism

【授業計画】

授業の計画は学期の最初に詳しく説明する。授業形態は前期・後期を通して教科書を読んだのディスカッション、及び実験などのミニグループプロジェクトの発表である。

【評価方法】

出席、個人発表、グループプロジェクト

【テキスト】

未定

英語学講義演習 I a・b

小泉 直

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

英文法再考

最近の文法研究で得られた成果を盛り込みながら、日本人が興味を持ちそうな文法事項を中心に英文法を再考する。また、英語を多面的に捉える目を養うため、時々社会言語学や言語文化学の研究についても紹介する。

【授業計画】

学生が輪番で割り当てられたセクションをレポートし、必要に応じて補足説明を加えていく。

取り上げる文法事項

前期：様々なタイプの文・句

後期：品詞、構文等

【評価方法】

平常点（出席状況や授業での発表）と学期末に課す課題により総合的に評価する。

【テキスト】

Essentials of Modern English Grammar (K. Imai et al. 研究社)

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

米文学講義演習 I a・b

唐澤 恪

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この講義演習では、19世紀から現代にかけてのアメリカの主要な文学作品のうち、主に小説をとりあげて概観する。英文概説書を読み、これを補足する形で授業を行う。学生諸君は、いずれかの作品を選んで読み、卒業論文への手掛かりをつかんでもらいたい。

前期に扱う作家：E.A.Poe, F.Douglass, N.Hawthorne, H. Melville, H. James, M. Twain, W. Cather

後期に扱う作家：F. S. Fitzgerald, E. Hemingway, W. Faulkner, J. Steinbeck, R. Wright, J. D. Salinger, J. Kerouac, T. Pynchon, T. Morrison

以上の作家の作品以外にも、重要と思われる詩人、劇作家、思想家の著作について学んでいく。

【授業計画】

英文概説書の輪読、質疑応答、教師による補足・敷衍という順序で授業を行う。適時に課題を与え、発表を求める予定。

【評価方法】

テスト（前期）、レポート（後期）の成績に平常点を加味して評価する。

【テキスト】

Popular Classics of American Literature
(M. Kowalewski 英宝社)

米文学講義演習 I a・b

池谷敏忠

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

アメリカ近代詩研究と題し、19世紀アメリカの代表的詩人の作品を取り上げ、絵画性、音楽性を考えながら、意味を考察します。

【授業計画】

前期は下記の詩人の作品を取り上げます。

Walt Whitman

E. A. Poe

and others

後期は下記の詩人の作品を取り上げます。

Emily Dickinson

Anne Bradstreet

and others

信頼できる詩集の有名な詩を選んでプリントにし、輪読します。

【評価方法】

レポートまたはテストに演習内容、各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

原書のプリント。

米文学講義演習 I a・b

太田直子

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

20世紀アメリカ小説の研究 I

20世紀アメリカ文学を中心に、代表的な作品を読み、アメリカ文学を概観する。

【授業計画】

Frank Norris, Stephen Crane, Theodore Dreiser,

Sherwood Anderson, Sinclair Lewis, F.S. Fitzgerald

John D. Possos, William Faulkner, Ernest

Hemingway,

John Steinbeck, William Saroyan, Bernard

Malamud,

John Updike.

【評価方法】

ゼミでの発表等の平常点とレポート。

【テキスト】

N.Koriyama *A College Anthology of American Literature* (The Hokuseido Press)

英文講読Ⅰ a・b

中島賢二

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

エドガー・アラン・ポーと並んで推理小説の元祖とされているウィルキー・コリンズの長編推理小説『白衣の女』のさわりの部分をテキストにして、英文を正確に読む訓練をします。なにぶんにも大長編ですので、授業で読まなかった部分は必ず日本語で読んでおいてもらいます。ヴィクトリア朝イギリスの風俗、歴史、社会、フェミニズム、推理小説の歴史、ゴシック小説との関連等もあわせて考えると面白い問題がたくさんありますので、そんな点も一緒に考え学んでいこうと思っています。本を読むことの好きな人の受講を望みます。

【授業計画】

前期 第一部、第二部を読みます。特に、ヴィクトリア朝の社会、フェミニズムなどに焦点を当てて。
後期 第三部を読みます。推理小説、ゴシック小説としての『白衣の女』の特質を考えて。

【評価方法】

レポート、定期試験、授業に積極的に参加したかなど、総合的に判断します。

【テキスト】

ウィルキー・コリンズ作『白衣の女（上）（中）（下）』
（岩波文庫）
プリント配布

【参考文献・資料】

ゴシック小説を読む（小池 滋 著 岩波書店）

英文講読Ⅱ a・b

ディビッド・C. ダイカス

1年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course will involve students reading different types of reading materials for different purposes using different reading skills. The focus will be on developing reading speed and accuracy, and on building vocabulary. In the first part of each class students will study the same materials and practice the same skills using the class textbook. The other part of each class will be devoted to using the SRA reading laboratory materials for both intensive reading and speed reading practice at a level that suits each student's level of ability. Other materials and activities will be used to supplement the textbook and the SRA materials.

【Schedule】

Specific decisions regarding the order in which material will be read, skills practiced, and vocabulary/structures studied will be made after a reading placement test is administered to the class.

【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and participation (since most work will be done in class), 2) occasional quizzes, 3) the amount and quality of work done on the SRA materials as shown in the SRA record book students will keep, and 4) a test at the end of the semester.

【Textbooks】

To be announced

英米事情 a・b

ポール・ルイス

1年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course will examine how Britain and the West are changing, in particular with regard to their unique mixture of tradition and innovation. In many cases, the old stereotypes are no longer relevant, and we shall study the most recent developments in various areas, including culture, society, politics, education, industry, and the arts.

The course will be presented entirely in English, and students are urged to minimise the amount of Japanese they use in the class.

【Schedule】

Each class will feature one topic (e.g., food, theatre, youth culture) ; after some initial input from the teacher and various materials, students will be given the chance to discuss and do other activities.

【Assessment】

Assessment will be according to class participation, attendance, and project work.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

欧米文学思潮 a・b

柳 五郎

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

人は「時代の子」として人生模様を織る。その人生を「再現」し「幻影」を求めた文学も、また「時代の子」である。人は「絶対者、自然、社会」との関係の中で「真・善・美と完成された人間性」を希求する。通時的芸術的西欧思潮の中に人間性と文学の関係を考察する。

<前期>

古代オリエント文明、ギリシア・ローマ文明、古代ギリシア哲学から、ユダヤ教とキリスト教、HellenismとHebraism、the Renaissance、自己疎外、コペルニクスの転回、人間と実存、ホワイトヘッドの有機説、現実存在主義、意識の流れと文学の流れについて。

<後期>

ホメロス、ヘシオドス、ソポクレス、プラトーンとアリストテレス、ウエルギリウス、ベーオウルフ、チョサー、アーサー王、マーロウとシェイクスピア、ミルトン、ポープとデフォー、スターン、オースティン、ディケンズやコンラッドの文学の特徴と人間性の本質について。

【授業計画】

西欧の古代文明・文化から西欧を風靡するHellenismとHebraismの二大源流の流れと変転を人間生活と文学の関係で講義する。

【評価方法】

西洋の人間生活と文学の関係についての全体的把握能力をテストで評価。

【テキスト】

The Directions of European and American Literature
(柳五郎他 中部日本教育文化会)

英文講読Ⅲ a・b

水岡 久

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

作品 *The Merchant of Venice* を通じて「愛」「結婚」「富」「人種問題」について考察する。

- (1) 人肉裁判～ユダヤ人シャイロックがヴェニス商人アントニオの体から1ポンドの肉を切り取る。
- (2) 箱選び～ポーシャの結婚相手を決める際にモロッコの王子は金の小箱を、アラゴンの王子は銀の小箱を、バサーニオウは鉛の小箱を選ぶ。
- (3) 指輪の交換～ポーシャとネリサが、それぞれ夫のバサーニオウとグラシャーノウの愛情度を指輪で試す。
- (4) 駆け落ち～キリスト教徒のロレンゾウと結婚するためシャイロックの娘のジェシカは金銀財宝をもって家出する。

【授業計画】

本講では、読解力を身につけることが主眼であるが、毎時間この作品のテープを聴き、併せて聴解力も養う。読了してから、ビデオを鑑賞する。最初に「シェイクスピアの生涯と作品」と題するレポートと最後に「ヴェニスの商人」に関する小論文を課す。

【評価方法】

定期試験の成績、レポート・小論文の評価、出席・予習状況、受講態度などの総合評価を行う。

【テキスト】

New Tales from Shakespeare (R. L. Green・川地美子 注解成美堂 1,200円)

英文講読Ⅲ a・b

山田久美子

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

19世紀末のイギリスの作家 Oscar Wilde は、文学的、文化的コンテキストの多方面に渡って、現在注目されている。本講義では、Oscar Wilde の童話、短編小説、演劇などを読み、味わう。Wilde の英文や演劇における台詞は簡潔で、ウィットに富み、詩的な美しさがある。しかし、その表現の中には、当時のイギリスの社会、文化的背景から生み出される価値観に対する痛烈な皮肉や風刺、そして、複雑な作者の思想が反映されている。Wilde の英文を読み取ることで、多角的な方面から作品を理解する。

【授業計画】

前期

- “The Happy Prince”
- “The Nightingale and the Rose”
- “The Canterville Ghost”

後期

An Ideal Husband

【評価方法】

授業への参加度、レポート、学期末テストにより総合的に評価する。

【テキスト】

Oscar Wilde, *The Happy Prince and Other Stories* (英宝社)

Oscar Wilde, *An Ideal Husband* (北星堂)

【参考文献・資料】

講義時に適宜紹介する。

英文講読Ⅲ a・b

天野純子

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

20世紀イギリス短編小説を読んでいく。取り扱う作品は、それぞれの作家の特質の一面をよく表わしており、またそれらの作品を通じて伝統あるイギリス小説の良き一端を味わいたい。

【授業計画】

Thomas Hardy, *Old Mrs Chundle*
James Joyce, *An Encounter*
Katharine Mansfield, *The Voyage*
W.S. Maugham, *Masterson*
Graham Greene, *Jubilee* を順に読んでいく。

【評価方法】

出席状況、平常点、定期テストによる。

【テキスト】

Gems of English short Stories (伊藤秀一、内田正子
編注 朝日出版社)

英文学講義Ⅱ a・b

久野幸子

3・4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

今年度は「ユートピア」をキーワードに、英文学史上、重要と思われる作品10数篇を選び、それらを手がかりに、文学的ジャンルとしてのユートピア、ユートピア思想と各時代の中心思想との関係、ユートピア文学とそれらの作品が書かれた社会との関係、ユートピア文学の将来などを考察する。より具体的な理解を目指し、関連する映画や資料などを数多く使用する予定である。

【授業計画】

- 前期 第1回 イン트로ダクション(1)
第2・3回 古代のユートピア思想・ジャンルとしてのユートピア
第4・5回 中世のユートピア思想・ユートピア文学
第6・7・8回 ルネサンスのユートピア思想・ユートピア文学
第9・10回 17世紀のユートピア文学
第11・12回 18世紀のユートピア文学
第13回 まとめ
- 後期 第1回 イン트로ダクション(2)
第2・3回 19世紀前半期のユートピア文学
第4・5回 19世紀後半期のユートピア文学
第6・7・8回 20世紀前半期のユートピア文学
第9・10・11回 20世紀後半期のユートピア文学
第12回 サイエンス・フィクション
第13回 まとめ

【評価方法】

平常点(出席、受講態度など)とレポートで総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

米文学講義Ⅱ a・b

唐澤 恪

3・4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

19世紀のアメリカ小説には、18世紀ヨーロッパに顕著になった人間観の変化を反映するかのようになり、二重的な、あるいは多層的な人物像が数多く提示されている。この講義では、その典型的な実例を観察し、19世紀アメリカ小説についての理解を深めていきたい。

前期には、アメリカ初期小説の作家C. B. Brownの作品から始めて、R. M. Bird, G. Lippard等の作品を取り上げ、後期には、E. A. PoeやN. Hawthorneから、自然主義作家に至る諸作家の作品を取り上げる。作品の抜粋も示し、そのスリリングな面白味を味わってもらいたいと思う。

【授業計画】

作家・作品紹介、作品抜粋の鑑賞、評釈、という順序で講義し、適時に時代背景や用語について解説する。

【評価方法】

適切な範囲についてのテストを行い、これについての評点に平常の学習態度の評価を加味する。

【テキスト】

プリント配布。

英米文学特殊講義Ⅱ a・b

山田幹郎

3・4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

シェイクスピア作『オセロー』の講読と解釈。

白人が支配するヴェニス共和国の将軍でムーア人オセローの悲劇を精読（時に速読）した上で、その批評・解釈史上の問題点について基本的な知識を修得し、さらにその知識を踏まえつつシェイクスピアの悲劇について考える。

【授業計画】

前期

- 1 序論
- 2 第1幕
- 3 第2幕
- 4 第3幕

後期

- 1 第4幕
- 2 第5幕
- 3 『オセロー』批評史とその問題点
- 4 シェイクスピアの悲劇

【評価方法】

レポート及び各学年末試験により評価する。

【テキスト】

Othello (笹山隆 編注 大修館書店)

英語学特殊講義Ⅱ a・b

大室剛志

3・4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

概念意味論の基本的なメカニズムについて講義した後、英語の具体的な構文をいくつか取り上げ、その構文の統語的特徴、意味的特徴などについて論じる。英語学の研究テーマの発見の仕方、英語学での議論の立て方などを学ぶ。

【授業計画】

前期

概念意味論の基本的なメカニズムについての講義、存在文、動名詞構文、挿入文、名詞節としてのif節、半動名詞構文、など。

後期

同族目的語構文、動作表現構文、One's Way構文、特定の同族目的語、No sooner...than構文のバリエーション、I'd rather you didn'tをめぐって、など。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績により評価する。

【テキスト】

入門 生成言語理論（田中伸一、阿部潤、大室剛志著 ひつじ書房）

インターリンガルコミュニケーション a・b

ジョアン・M. ウッドマン

4年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course aims to engage the students in discussions about contemporary Japanese culture, whilst also providing some introductory training for basic interpreting.

Students will have to talk about, and explain, aspects of Japanese culture and lifestyle in English. Participants in the course will be required to display self-confidence in discussions, and demonstrate a learned interest in Japanese culture as well as cultural differences.

Students who have already travelled overseas, or who have a keen interest in communicating with foreigners, will benefit the most from this course.

【Schedule】

- Section 1. Topics. "How to Survive in Japan" .
Section 2. Topics. "Show and Tell"
Section 3. Topics. Beat Takeshi's TV program will be used to stimulate discussion about Japan , from the point of view of 100 foreigners .
Section 4. Topics. Student videos/ "Show and Tell"

【Assessment】

- First semester :- 3 x 10 minute tape recordings - 90%
- class activities - 10 %
Second semester :- 1 x 10 minute Video + script - 60%
- class participation - 40 %

【Textbooks】

None

クリエイティブライティング a・b

キース・イーズリー

4年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

The aim of this course is to develop students' abilities to produce original imaginative writing in English. Models of prose, poetic & dramatic forms will be studied, with a view to students producing their own work in these forms. The course will, therefore, involve some reading & critical discussion, but the emphasis throughout will be on the students' own writing.

The course will be limited to a maximum of fifteen students. Prospective students must bring an example of their own writing to the first class: this may be any form of original, imaginative writing. Eligibility for the course will depend on the quality of this writing.

【Schedule】

In the first semester we will focus on descriptive writing, poetry, and narrative. In the second semester we will also concentrate on dialogue, situation and viewpoint expressed in a number of forms.

【Assessment】

The course involves regular written homework. Assessment will be continuous. There will be no final test.

【Textbooks】

NONE.

英文学講義演習Ⅱ a・b

柳 五郎

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

- I. V. Woolfの *To the Lighthouse* に於ける「意識の流れ」と現実存在主義について。
- II. J. Conradの *Heart of Darkness* に於ける物質的現代社会人の末路と人間の物欲 (darkness) の本質を佛教的遠観的に見る視点について。

<前期>

- I. *To The Lighthouse*.

The stream of consciousnessをL. Sterneの *Tristram Shandy*, G. Eliotの *The Mill on the Floss*, Proustの *Remembrance of Things Past*, H. Bergsonの「純粹持続」を経て、通時的、共時的に人間存在を意識の流れや現実存在主義に求める。

<後期>

- II. *Heart of Darkness*.

機械文明物質主義の時代に生きる人間の物欲 (darkness) の末路をKurtz船長に演出させ、その人生模様を救出に向ったMarlow船長によって、佛教的境地から語らせる過程を考察する。

【授業計画】

- I. 現実存在主義と意識の流れの前提知識として、作品構成、表現技法の特異性と解説を主眼とする。
- II. 人間の本質を物質主義と精神主義の間でdarknessを中心に佛教的に把握する。

【評価方法】

それぞれの作品のprofundity把握、表現言語のconnotationを重点にテストで評価する。

【テキスト】

To the Lighthouse (V. Woolf Hogarth Press London)
Heart of Darkness (J. Conrad A Norton Critical Edition)

英文学講義演習Ⅱ a・b

柳原佳枝

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

＜英文学とキリスト教文化Ⅱ＞

3年次の＜英文学とキリスト教文化Ⅰ＞に引き続き、英文学とキリスト教文化の関わりに視点を置いて英文学の作品研究を進める。

【授業計画】

受講学生による読解や意見の発表、及びレポートを中心に、授業担当者が適宜補足する。

〈前期〉

J. Donne, W. Blake, J. H. Newman, などによる宗教詩を取り上げ、そこにみられる心象や象徴などについて検討し、詩想を考察する。

〈後期〉

G. Greene, M. Spark などによる長編小説を取り上げ、その特性を考察する。

題材は受講学生が選択し、レポートを担当する。

【評価方法】

期末のレポートと平常点（事前の準備、活発な意見の発表、担当した課題についてのレポートの成績、など）で総合的に評価する。

【テキスト】

前期：プリント配布。

後期：授業中に指示。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示。

英文学講義演習Ⅱ a・b

大野光子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

アイルランド文学演習Ⅱでは、ノーベル賞受賞者 Seamus Heaney の作品を含む、20世紀のアイルランド文学を読む。アイルランド国内作家の他、イギリスやアメリカに移住した作家の作品や、現代女性作家や詩人の作品も視野に入れて、文学批評をおこなう。

3. 20世紀のアイルランド文学

—カトリック・アイルランドとナショナリズム

(1) W. B. Yeats と S. O'Casey の女性像をめぐって

(2) J. Joyce の *The Dubliners*

(3) 検閲制度と表現

(4) アメリカ移民とアイルランド映画

4. 現代アイルランド文学

—紛争を越えて

(1) 南北アイルランド社会と文学表現

S. Heaney, M. Longley, B. Friel を中心に

(2) 文学とジェンダー

E. Boland, N. NiDhomhnaill を中心に

(3) 詩／小説／劇／映画に見るアイルランド社会

【授業計画】

「演習Ⅰ」に続いて、詩・演劇・小説の各ジャンルから学生が選択した作品について、グループ毎にリサーチや討論を行い、パソコンによる資料作成や英語によるプレゼンテーションも含めて、2回程度の発表を課す。個々のゼミ論文作成指導も行ない、学生はゼミ論文集を編集・制作する。

【評価方法】

ゼミでの積極的な発言や研究発表を含む平常点と、学期毎のレポートによって成績評価をおこなう。

【テキスト】

Irish Literature - A Reader (Syracuse University Press)

英語学講義演習Ⅱ a・b

橋木勇作

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現代英語学Ⅱ

最近の英語学の研究動向を知ること、研究テーマについての考察を深めること、英語力を向上させることを目標とする。英語の言語学的な研究など、英語についての各自の研究テーマを、英語でプレゼンテーションする。同時に、英字新聞やテレビの英語ニュースを教材にして、英語運用能力の向上も目指す。

【授業計画】

1. 英字新聞講読
2. リスニング練習 (CNN)
3. テキスト精読
4. 英語プレゼンテーション

【評価方法】

レポート+小テスト+平常点 (出席・授業態度)。

【テキスト】

Linguistics An Introduction to Language and Communication FOURTH EDITION

(Adrian Akmajian, Richard A. Demers, Ann K. Farmer, and Robert M. Harnish (1995), MIT Press
\$ 29.00 (paper))

英語学講義演習Ⅱ a・b

小泉直

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

英文で書かれた文法書を、特に日本人が苦手とする文法事項を中心に精読し、英文法に関する知識を深めることを目指す。

使用する文法書は最近の文法研究の成果を取り入れているだけでなく、旧来の規範的な立場を排し、徹底的な事実中心主義の立場から解説を行っているので、新しい文法観の形成にも役立つものと思われる。

【授業計画】

学生が輪番で割り当てられたセクションをレポートし、必要に応じて補足説明を加えていく。

取り上げる文法事項

前期：冠詞、時制・相、法助動詞等

後期：条件文、間接目的語、不定詞・動名詞等

【評価方法】

平常点 (出席状況や授業での発表) と学期末に課す課題とにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に随時プリントを配布する。

米文学講義演習Ⅱ a・b

唐澤 恪

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この講義演習では、プリント資料により、アメリカ史の重要事項を次のような区分で概観し、これと各時代の文化との関連を考察する。

<前期>

1. ヴァイキングたちの北米への進出から南北戦争時代まで。
2. 南北戦争後から大恐慌前まで。

<後期>

3. 大恐慌時代から現代まで。
後期にはさらに、上記の1～3の時代について、主に宗教、文学などの観点から考察する。

【授業計画】

要所要所で宿題を課し、報告を求める。毎回、(学生の報告)→学生の訳読ないし大意発表→質疑応答→教師による注釈、という順序で授業を進める。

【評価方法】

成績評価は、平常点(特に重視する)とレポートによる。

【テキスト】

プリント配布。

米文学講義演習Ⅱ a・b

池谷敏忠

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現代アメリカの代表的詩人の重要な詩を取り上げ、絵画的性、音楽性などを多角的に探究して、思想、情緒を研究します。

【授業計画】

前期は下記の詩人の代表的な作品を取り上げます。

Wallace Stevens

Robert Frost

W. C. Williams

and others

後期は下記の詩人の代表的な作品を取り上げます。

T. S. Eliot

Robert Bly

James Wright

and others

プリントを用いて講義・解説し、討論もします。

【評価方法】

レポートまたはテストと出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

信頼できる原書のプリント。

米文学講義演習Ⅱ a・b

太田直子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

20世紀アメリカ小説研究Ⅱ

William Faulknerの*The Sound and the Fury* (1929)を読む。第4章いわゆる“Dilsey Section”から輪読する。南部の歴史、作品の構成、時代背景を考察する。

【授業計画】

前期：

The Sound and the Fury 第4章

後期：

発表形式で、第1章

第2章

第3章

【評価方法】

レポート及び、平常点（発表）。

【テキスト】

William Faulkner, *The Sound and the Fury*, (Vintage Books)

論文

柳 五郎 柳原佳枝 大野光子 池谷敏忠
唐澤 恪 太田直子 樗木勇作 小泉直

4年 通年 選択 8単位

【授業の概要】

各自が選定したテーマに関して、「論文」担当者（ゼミ担当教員）の指導のもとに卒業論文を完成させる。なお、論文は英語で書き、ワープロを使用するのが望ましい。

【授業計画】

「論文」担当者の指示に従い、「論文」を受講する。さらに、次の各締切日は厳守しなくてはならない。

5月10日（金）	午後4時	提出締切 論文骨子（2～3ページ）
7月10日（水）	午後4時	提出締切 論文梗概（5～6ページ）
10月10日（木）	午後4時	提出締切 論文初稿（約30ページ）
12月10日（火）	午後4時	提出締切 論文

【評価方法】

「論文」担当者を中心に、題目の選定、論旨の展開、文章表現法、注のつけ方等に注目し、総合的に評価する。

【テキスト】

各担当教員の指示に従うこと。

論文の書き方の一般的な説明については、以下の図書を参考にするとよい。

『英文科学生必携ハンドブック』（研究社）

『MLA新英語論文の手引』（北星堂）

『卒論を書こう』（棚木伸明 三修社）

言語学 a・b

増田尚史

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

「言語」という広範な現象のうち、特に形態素としての「単語」と、それに内在する統語的、意味的制約（あるいは規則）とについて、言語学的方法論を踏まえつつ検討を加える。さらに、技術としての形態素解析や、語用論に基づくレトリックの解析についても講究する。なお、個人が晒されている言語環境の再吟味を課題とするショート・レポートを、前後期ともに、適宜課すことを予定している。

【授業計画】

前期 (a)

1. 科学としての言語学
2. 言語学の方法
3. 形態論と形態素としての単語
4. 語形成と統語的制約
5. 語形成と意味的制約

後期 (b)

6. 形態素解析
7. 語彙データ・ベース
8. 心的辞書
9. 語用論
10. 語用論とレトリック

ただし、受講者数等に鑑みて、順序および内容に変更を加えることもある。

【評価方法】

出席状況とショート・レポートの成績とによって、総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜紹介する。

比較文学 a・b

池谷敏忠

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

比較文学は国際間の（国と国との間の）文学的関係の歴史を調べ研究する学問です。この授業はT.S.エリオットの詩と菊村到の小説など日英米仏文学の影響関係を具体的に考察します。さらにエリオットの詩論と芭蕉俳論などの対比研究も試みます。

【授業計画】

前期は次の事項を予定しています。

- 比較文学の定義と本質
- 日本における *The Waste Land* の受容
- T.S.エリオットと立原正秋
- 共同体と個性の文学
- T.S.エリオットと小林秀雄

後期は次の事項を予定しています。

- T.S.エリオットとベルグソン
- 形面上詩人のアルス・ポエティカ
- 芸術作品の創造と伝統の継承
- Spectrum* に見る西脇詩の原型
- T.S.エリオットと西田幾多郎

テキストを用いて講義・解説します。受講生は必ずテキストを持参して下さい。

【評価方法】

レポートまたはテストと各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

比較文学論集（池谷敏忠 晃学出版 2,200円）

外国語としての日本語 a・b

石橋千鶴子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本語の特徴を文法の面から考察し、日本語を母語としない人を対象にした日本語教授法を指導する。

【授業計画】

日本語テキストおよびビデオ日本語教材を用いて、初級日本語教育で扱う文型、文法事項の英語による具体的指導法を考察する。外国語としての日本語の文法基礎知識を得ることが期待される。

【評価方法】

期末試験および日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

未定。

英文学海外セミナー I

大野光子 キース・イーズリー

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

<アイルランド文化・英語夏期研修>

夏期休暇期間中に、本学交流提携大学である北アイルランドのアルスター大学において、アイルランドの歴史・文化・文学及び英語の総合指導を受け、アイルランドと英国国内の研修旅行を行う。修了者には、2単位が認定される。

2002年度の予定は下記の通り。

8月中旬～9月初旬

3週間のアルスター大学等での英語・文化研修、その後1週間の英国・アイルランド国内バス旅行

午前及び午後：主に教室内学習

午後または夜：見学または観劇等

合計約40時間の学習

週末はダブリン、ベルファースト等視察

現地では、ホームステイ

【授業計画】

アルスター大学CELTによる本学学生用特別プログラムで、本学教員は一部同行するのみ。従って、研修期間中は全ての指導は現地教員により英語で行われる。

【評価方法】

CELT教員の評価により本学が単位を認定する。

【テキスト】

現地にて指示。

本プログラムに参加するには、前期開講の「アイルランド文化」あるいは前年までの「イギリス文化」を受講し、単位を取得することが条件となる。

英文学海外セミナーⅡ

大野光子 キース・イーズリー

集中 1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

<イギリス文化・英語春期研修>

春期休暇期間中に、本学交流提携大学であるイギリスのイースト・アングリア大学において、英国の歴史・文化・文学及び英語の総合指導を受けた後、英国内等の研修旅行を行う。修了者には、2単位が認定される。

2002年度の予定は下記の通り。

2月中旬～3月初旬

3週間の UEA 英語・英国文化研修

その後1週間の英国・アイルランド国内バス旅行

午前及び午後：主に教室内学習

午後または夜：見学または観劇等

合計約40時間の学習

週末はロンドン、ケンブリッジ大学等視察

現地では、ホームステイ

【授業計画】

イースト・アングリア大学 CEB による本学学生用特別プログラムで、本学教員は出発時しか同行しない。従って、残る全期間にわたり、全ての指導は現地教員により英語で行われる。

【評価方法】

CEB 教員の評価により本学が単位を認定する。

【テキスト】

現地にて指示。

本プログラムに参加するには、事前に「イギリス文化」または「アイルランド文化」を受講し、単位を取得することが条件となる。

アイルランド文化

ブライアン・カレン

1～4年 前期 選択 2単位

【Course Content】

The course will be centered around Irish history, moving from early history up to the formation of the Irish Republic. The culture, traditions and literature of Ireland will also be presented through short readings, videos, puzzles and activities. Most of the factual information will be presented in a source book. Depending on time, some of this material will not be covered in class. Students are encouraged to read further into their areas of interest in the source book or in the other reference materials which are suggested.

The literature of Ireland shall also be introduced through short pieces from famous Irish writers. There will be a mixture of new and old, including Yeats, Patrick Kavanagh, Oscar Wilde, Roddy Doyle and George Bernard Shaw. The songs of Ireland will also be well-represented in the course, linking into the various topics as much as possible.

【Schedule】

Method : Students will be required to participate actively in class discussions and activities.

【Assessment】

Assessment : Grades will be based on participation, homework and a test.

【Textbooks】

Text book : An original text compiled by the teacher will be made available before the start of the course.

イギリス文化

キース・イーズリー

1～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

英語によるイギリス文化理解のための特別講座
イギリスの文化全般について、特にイースト・アングリア大学で行われる春期研修へとつながる内容を含みながら、英語聴解・発表力を養成すべく、指導するものである。併せて日本文化を相対化する視点・獲得も意図する。
The course will last for approximately twelve weeks, one period a week. Many of the following subject areas will be considered :

Britain's Contribution to World Culture

Money and Work

Language & History

Education

Food & Drink

Traditions, Manners, and Attitudes

Art, Film and Music

Britain's Class System.

Britain & Japan

Everyday Living

These subjects are not exclusive of one another, & their interconnectedness will be emphasised.

Throughout the course, the aim will be to show Britain's place in the World, historically & now. As opportunities arise, the connections between ASU & UEA will be emphasised. Class size will be limited and there may be a test in the first lesson.

【Schedule】

The course will be taught entirely in English, through interactive lectures. Each week there will be a lecture on one of the topics, followed by discussion.

【Assessment】

Assessment will be continual, supplemented by a test at the end of the semester, & an individual written project to be completed by each student during the semester.

【Textbooks】

None

Intensive English 2002 A

ベヴァリー・F. M. カレン ポール・ルイス

1～4年 前期 選択 2単位

【Course Content】

This course will offer motivated students a chance to further develop their English skills by intensive practice. In each class, students will be expected to speak English only, and participate actively in activities designed to promote greater fluency and accuracy of expression, enhance listening comprehension, improve vocabulary, and develop each student's confidence in his or her ability to communicate effectively in English. A variety of media, including video, will be used in the course.

【Schedule】

The course will begin with a listening focus, in which students will be encouraged to actively control their aural understanding through the use of simple but effective strategies to clarify and confirm understanding. In the following weeks, classes will combine speaking and listening practice in entertaining but challenging activities which use authentic video materials as models for speaking. There will be an interview at the end of the term.

【Assessment】

Assessment is ongoing and based on attendance, effort, willingness to speak English exclusively in class, and active participation in all activities.

【Textbooks】

TBA

下記の科目は、本年度開講しません。

Intensive English 2002B

ベヴァリー・F. M. カレン ポール・ルイス

1～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course will continue to offer motivated students a chance to further develop their English skills by intensive practice. In each class, students will be expected to speak English only, and participate actively in activities designed to promote greater fluency and accuracy of expression, enhance listening comprehension, improve vocabulary, and develop each student's confidence in his or her ability to communicate effectively in English. A variety of media, including video, will be used in the course.

【Schedule】

As in the first semester, this course will begin with a listening focus, in which students will be encouraged to actively control their aural understanding through the use of simple but effective strategies to clarify and confirm understanding. In the following weeks, classes will combine speaking and listening practice in entertaining but challenging activities which use authentic video materials as models for speaking. There will be an interview at the end of the term.

【Assessment】

Assessment is ongoing and based on attendance, effort, willingness to speak English exclusively in class, and active participation in all activities.

【Textbooks】

TBA

英米文学特殊講義Ⅲ

英語学特殊講義Ⅲ

インターリンガルコミュニケーションa・b

ジョアン・M. ウッドマン

4年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course aims to engage the students in discussions about contemporary Japanese culture, whilst also providing some introductory training for basic interpreting.

Students will have to talk about, and explain, aspects of Japanese culture and lifestyle in English. Participants in the course will be required to display self-confidence in discussions, and demonstrate a learned interest in Japanese culture as well as cultural differences.

Students who have already travelled overseas, or who have a keen interest in communicating with foreigners, will benefit the most from this course.

【Schedule】

- Section 1. Topics. "How to Survive in Japan" .
Section 2. Topics. "Show and Tell"
Section 3. Topics. Beat Takeshi's TV program will be used to stimulate discussion about Japan , from the point of view of 100 foreigners .
Section 4. Topics. Student videos/ "Show and Tell"

【Assessment】

- First semester: 3 × 10 minute tape recordings - 90%
- class activities - 10 %
Second semester : 1 x 10 minute Video + script - 60%
- class participation - 40 %

【Textbooks】

None

クリエイティブライティングa・b

キース・イズリー

4年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

The aim of this course is to develop students' abilities to produce original imaginative writing in English. Models of prose, poetic & dramatic forms will be studied, with a view to students producing their own work in these forms. The course will, therefore, involve some reading & critical discussion, but the emphasis throughout will be on the students' own writing.

The course will be limited to a maximum of fifteen students. Prospective students must bring an example of their own writing to the first class: this may be any form of original, imaginative writing. Eligibility for the course will depend on the quality of this writing.

【Schedule】

In the first semester we will focus on descriptive writing, poetry, and narrative. In the second semester we will also concentrate on dialogue, situation and viewpoint expressed in a number of forms.

【Assessment】

The course involves regular written homework. Assessment will be continuous. There will be no final test.

【Textbooks】

NONE.

英文学海外セミナーⅠ

大野光子 キース・イーズリー

集中 2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

＜アイルランド文化・英語夏期研修＞

夏期休暇期間中に、本学交流提携大学である北アイルランドのアルスター大学において、アイルランドの歴史・文化・文学及び英語の総合指導を受け、アイルランドと英国国内の研修旅行を行う。修了者には、2単位が認定される。

2002年度の予定は下記の通り。

8月中旬～9月初旬

3週間のアルスター大学等での英語・文化研修、その後1週間の英国・アイルランド国内バス旅行

午前及び午後：主に教室内学習

午後または夜：見学または観劇等

合計約40時間の学習

週末はダブリン、ベルファースト等視察

現地では、ホームステイ

【授業計画】

アルスター大学 CELT による本学学生用特別プログラムで、本学教員は一部同行するのみ。従って、研修期間中は全ての指導は現地教員により英語で行われる。

【評価方法】

CELT 教員の評価により本学が単位を認定する。

【テキスト】

現地にて指示。

本プログラムに参加するには、前期開講の「アイルランド文化」あるいは前年までの「イギリス文化」を受講し、単位を取得することが条件となる。

英文学海外セミナーⅡ

大野光子 キース・イーズリー

集中 2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

＜イギリス文化・英語春期研修＞

春期休暇期間中に、本学交流提携大学であるイギリスのイースト・アングリア大学において、英国の歴史・文化・文学及び英語の総合指導を受けた後、英国内等の研修旅行を行う。修了者には、2単位が認定される。

2002年度の予定は下記の通り。

2月中旬～3月初旬

3週間の UEA 英語・英国文化研修

その後1週間の英国・アイルランド国内バス旅行

午前及び午後：主に教室内学習

午後または夜：見学または観劇等

合計約40時間の学習

週末はロンドン、ケンブリッジ大学等視察

現地では、ホームステイ

【授業計画】

イースト・アングリア大学 CEB による本学学生用特別プログラムで、本学教員は出発時しか同行しない。従って、残る全期間にわたり、全ての指導は現地教員により英語で行われる。

【評価方法】

CEB 教員の評価により本学が単位を認定する。

【テキスト】

現地にて指示。

本プログラムに参加するには、事前に「イギリス文化」または「アイルランド文化」を受講し、単位を取得することが条件となる。

アイルランド文化

ブライアン・カレン

2～4年 前期 選択 2単位

【Course Content】

The course will be centered around Irish history, moving from early history up to the formation of the Irish Republic. The culture, traditions and literature of Ireland will also be presented through short readings, videos, puzzles and activities. Most of the factual information will be presented in a source book. Depending on time, some of this material will not be covered in class. Students are encouraged to read further into their areas of interest in the source book or in the other reference materials which are suggested.

The literature of Ireland shall also be introduced through short pieces from famous Irish writers. There will be a mixture of new and old, including Yeats, Patrick Kavanagh, Oscar Wilde, Roddy Doyle and George Bernard Shaw. The songs of Ireland will also be well-represented in the course, linking into the various topics as much as possible.

【Schedule】

Method : Students will be required to participate actively in class discussions and activities.

【Assessment】

Assessment : Grades will be based on participation, homework and a test.

【Textbooks】

Text book : An original text compiled by the teacher will be made available before the start of the course.

イギリス文化

キース・イーズリー

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

英語によるイギリス文化理解のための特別講座

イギリスの文化全般について、特にイースト・アングリア大学で行われる春期研修へとつながる内容を含みながら、英語聴解・発表力を養成すべく、指導するものである。併せて日本文化を相対化する視点・獲得も意図する。

The course will last for approximately twelve weeks, one period a week. Many of the following subject areas will be considered :

Britain's Contribution to World Culture

Money and Work

Language & History

Education

Food & Drink

Traditions, Manners, and Attitudes

Art, Film and Music

Britain's Class System.

Britain & Japan

Everyday Living

These subjects are not exclusive of one another, & their interconnectedness will be emphasised.

Throughout the course, the aim will be to show Britain's place in the World, historically & now. As opportunities arise, the connections between ASU & UEA will be emphasised. Class size will be limited and there may be a test in the first lesson.

【Schedule】

The course will be taught entirely in English, through interactive lectures. Each week there will be a lecture on one of the topics, followed by discussion.

【Assessment】

Assessment will be continual, supplemented by a test at the end of the semester, & an individual written project to be completed by each student during the semester.

【Textbooks】

None

Intensive English 2002 A

ベヴァリー・F. M. カレン ポール・ルイス

1～4年 前期 選択 2単位

[Course Content]

This course will offer motivated students a chance to further develop their English skills by intensive practice. In each class, students will be expected to speak English only, and participate actively in activities designed to promote greater fluency and accuracy of expression, enhance listening comprehension, improve vocabulary, and develop each student's confidence in his or her ability to communicate effectively in English. A variety of media, including video, will be used in the course.

[Schedule]

The course will begin with a listening focus, in which students will be encouraged to actively control their aural understanding through the use of simple but effective strategies to clarify and confirm understanding. In the following weeks, classes will combine speaking and listening practice in entertaining but challenging activities which use authentic video materials as models for speaking. There will be an interview at the end of the term.

[Assessment]

Assessment is ongoing and based on attendance, effort, willingness to speak English exclusively in class, and active participation in all activities.

[Textbooks]

TBA

Intensive English 2002 B

ベヴァリー・F. M. カレン ポール・ルイス

1～4年 後期 選択 2単位

[Course Content]

This course will continue to offer motivated students a chance to further develop their English skills by intensive practice. In each class, students will be expected to speak English only, and participate actively in activities designed to promote greater fluency and accuracy of expression, enhance listening comprehension, improve vocabulary, and develop each student's confidence in his or her ability to communicate effectively in English. A variety of media, including video, will be used in the course.

[Schedule]

As in the first semester, this course will begin with a listening focus, in which students will be encouraged to actively control their aural understanding through the use of simple but effective strategies to clarify and confirm understanding. In the following weeks, classes will combine speaking and listening practice in entertaining but challenging activities which use authentic video materials as models for speaking. There will be an interview at the end of the term.

[Assessment]

Assessment is ongoing and based on attendance, effort, willingness to speak English exclusively in class, and active participation in all activities.

[Textbooks]

TBA

言語文化特殊講義 4 a・b

鄭澤善

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

半年間の勉強を通じて、中国の風土、歴史、食文化、民族、宗教、信仰等を概略的に紹介しながら、現代日本の文化と比較してもらい、相互理解を目指す。中でも、儒家文化の紹介に重点の置き、現代中国社会への影響について説明する。

【授業計画】

- (1) 中国の風土及び歴史
- (2) 民族、宗教、信仰
- (3) 食文化
- (4) 儒家文化
- (5) 儒家文化の現代社会への影響

【評価方法】

レポートに出席率を加味して総合評価する。

【テキスト】

プリントを使用する。

言語文化特殊講義 5 a・b

松本雄子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

今日でも、多くの日本人が「日本は単一民族社会である」と公言してはばからない。これは、多様性との共存を否定し続けてきた日本社会の偏見に満ちた考え方の表れである。偏見や差別という問題を、様々な角度から検討し、多様性の共存という考え方を学ぶ。

【授業計画】

様々なテーマにそった映画やドキュメンタリーを使い、ディスカッション中心の授業。映画は、全員に前もってAVセンターで見てもらい、授業はディスカッション担当者が中心になり進めていく。担当者には、映画を見るだけではなく、その時のテーマについてあらかじめ調べたことを発表してもらおう。ドキュメンタリーはなるべく授業時間を使って見る。前期は国内外における人種問題、移民問題等に焦点をあて、後期は在日外国人、性差別、人権問題等を中心に検討する。

【評価方法】

ディスカッション及び発表、授業への参加

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

言語文化演習Ⅱ a・b (コミュニケーション論)

ジョリー幸子

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

当演習は3年生の言語文化演習Ⅰ a, bに継続するもので、言語よりも更に重要であると言われる「非言語コミュニケーション」について研究・追求するものである。

【授業計画】

第1週	コースオリエンテーション	
2	研究企画と方法論 (Research Methodology)	
3	文献録作制 (Bibliography・Reference)	
4	Speech: Research (Reading・Discussion)	
5	” ” (” ”)	
6	” ” (” ”)	
7	” ” (” ”)	
8	” ” (” ”)	
9	” ” (” ”)	
10	” ” (” ”)	
11	” ” (” ”)	
12	” ” (” ”)	
1	Project Presentation: Group	1 & 2
2	”	3 & 4
3	”	5 & 6
4	”	7 & 8
5	”	9 & 10
6	”	11 & 12
7	”	13 & 14
8	”	15 & 16
9	”	17 & 18
10	”	19 & 20
11	”	21 & 22
12	Summary and Conclusion	

【評価方法】

演習への出席、ディスカッションへの参加、発表、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト】

1. Nonverbal Codes. Brent D. Ruben. Kiri-hara Shoten, 1985.
2. 日本の常識はどこまで通じるか：異文化交流で失敗しないために。ジョリー幸子。風媒社 1999.

【参考文献・資料】

比較生活文化事典 (金山盲夫 大修館)
Gestures: DOs and TABOOs of Body Language Around the World. (Roger E. Axtell, Wiley)

言語文化演習Ⅱ a・b (批評理論)

杉本一直

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

演習Ⅰに引き続き、現代文学の講読と作品評論を行なう。演習Ⅱでは評論により重点を置き、ロシア・フォルマリズムに始まる現代の文学理論を学ぶ。

【授業計画】

- ◆文学理論については以下の項目を学ぶ。
 - a. ロシア・アヴァンギャルド文学とロシア・フォルマリズム
 - b. ロマン・ヤコブソンと構造主義
 - c. メタフィクションとディコンストラクション批評
 - d. 受容理論と「読者」
- ◆文学作品は以下の作家の作品を講読する。

ポール・オースター、ホルヘ・ルイス・ボルヘス、アルベール・カミュ、ヴィクトル・ペレーヴィン、イタロ・カルヴィーノ、安部公房、ウラジーミル・ナボコフ
- ◆また、卒業論文(またはゼミ終了論文)の計画、資料収集、執筆の過程において、各学生が経過発表を行う。

【評価方法】

研究発表とレポートによる。

【テキスト】

プリント配布、授業中に指示した書籍。

言語文化演習Ⅱ a・b (翻訳論)

B. サン・ジャック

4年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

Cultures in Contrast

文化とは、具体的に何であるのか、又、文化は人間とどういう関係があるのかを研究することがこのゼミの目的である。

日本と色々な国の文化を比較対照しながら、その国の色々な様相－教育制度、結婚、レジャー、住宅、食物、テレビ、政治等－を日本文化と比較する。後期日本の国際化も研究する。

外国の文化を勉強することによって、自分の文化をもっと深く理解する。ゼミでは、英語と日本語の研究資料を使い、使用言語は：日本語と英語。

CULTURES IN CONTRAST

- A) During the first semester, a selection of articles from British and American newspapers and journals will be read and discussed during the seminars. These articles will deal with various aspects of British and American cultures, comparing them with similar aspects of Japanese culture.
- B) The second semester will also consider the Japanese Kokusaika. Readings for Kokusaika will be taken from various papers published by Prof. Saint-Jacques

【Assessment】

Presentations.

【Textbooks】

Studies in Language and Culture, 1995. (B. Saint-Jacques)

言語文化演習Ⅱ a・b (現代英米思想)

松本青也

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現代英米思想を探る。

アメリカの現実を伝える資料を中心に、英米が直面する課題と背景文化との関連を様々な角度から考えます。

【授業計画】

前期は英米で製作された TV 番組や英米の新聞雑誌記事などを資料として分析しながら、その背景にある英米思想を歴史的形成過程と他文化との比較対照という二つの観点から掘り下げます。

後期は各自の研究テーマについての発表を中心に、討論、ゼミ合宿などを経て、最後に全員執筆の研究論文集『現代英米思想 2002』を作成します。

なお、受講者はインターネット利用のための講習会を受け、手続を完了して下さい。

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

(自作教材)。

言語文化演習Ⅱ a・b (対照言語学)

窪田守弘

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

3年次の演習として、映画製作やシナリオの書き方を一通り学んだので、学生が本格的に自己の研究課題を仕上げするための準備をする。このゼミでは既に対照言語学的な視点から映画字幕を分析して来たので、今後は各自が自分なりの視野から研究テーマを絞って考えていくようにする。卒業作品はあくまで自己の思想をいかに体系化するかが問題となるので、丹念に分析する必要がある。

<前～後期>

ゼミは各自の研究テーマを毎回発表し、それにコメントを加えていく形式にする。学生は、発表を通じて課題を完成し、最終的にそれが卒業作品となるよう配慮する。

【授業計画】

発表者が毎回レジメを配布し、それに沿って研究発表を行なう。

【評価方法】

毎回の発表内容や態度、作品などで最終的に評価する。

【テキスト】

①文章の書き方 (辰濃和男著 岩波新書 700円+税)

言語文化演習Ⅱ a・b (英語コミュニケーション)

アンドリュース・J. ムーディー

4年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This course will continue the examination of English in international contexts. While the first year course focused on language policies and features of specific countries, the second year will instead focus on phenomena that are common to World Englishes. In addition, students will be asked to prepare aゼミ論文 at the end of the class, and much effort will be spent to choose topics, conduct research, and prepare a manuscript. Consequently, much of the class will also focus on teaching the act of research and writing.

【Schedule】

Topics include:

- ・ diglossia
- ・ language and identity
- ・ standard vs. vernacular language
- ・ language policy
- ・ English medium education

【Assessment】

homework 30%
oral report 30%
final report 40%

【Textbooks】

A writing handbook will be announced at the first class as the course textbook.

言語文化演習Ⅱ a・b (英語コミュニケーション)

ジェニファ・J. マギー

4年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

Diaries (日記) are common both in Japan and in English-speaking countries, as a way of recording the thoughts of a person and a record of the time he or she lived. Diaries offer a unique way to learn about a culture, as a person writes about the small things that happen in a day. Instead of learning about large historical events, the diary reader usually learns about the daily life of a person and that person's world. This class will use diaries as a way of learning more about the English language and as a way of learning more about a specific time and place in English-speaking culture. Each student in this class will choose one or two diaries on the first day of class and will become experts on that person and the time and culture that person lived in.

【Schedule】

Classes will be part lecture (on the functions of diary writing, famous diaries, etc.), and part student reports about their writers.

【Assessment】

Students will be graded on attendance, reports that show a high level of background reading about your writer, and a test at the end of each semester that covers basic information about the different writers.

【Textbooks】

Each student will buy a copy of the diary he or she chooses. Background readings can be in Japanese.

言語文化演習Ⅱ a・b (英語コミュニケーション)

ダニー・T. モルデン

4年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This class will introduce many aspects of American culture through the use of science fiction - and its most popular expression in the United States: Star Trek. Star Trek is a program that was first shown in 1966. In various forms this program has been watched for the past 34 years. It is an important part of American culture. Other cultures may also be examined through their works of science fiction.

【Schedule】

The topics to be covered include:

1. A study of science fiction as a genre
2. The 34 year history of Star Trek in the United States.
3. The influence of science fiction on culture
4. The influence of culture on science fiction

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no required textbook, but students will select other works of science fiction - in any form, book, television show, movie, etc. to examine.

日本語教授法Ⅱ a・b

山内啓介

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本語教育の教科書をとりあげて分析する。
日本語教授の実践的知識を得る。
日本語授業のシミュレーションを行う。
日本語教師の能力とは何か、を考える。
語学教育における学習者論、教師論、教材論のうち、教師の立場について講義と模擬授業を行う。教科書の分析には文型積み上げ方式 (AOTS) を用いる。

【授業計画】

前期

- 1 日本語教育入門・初級の文法授業概要
- 2 表現文型とオーラル・アプローチ
- 3 教室作業の実際をシミュレーション
- 4 話し言葉教材と書き言葉の習得

後期

- 5 日本語教育のニーズアナリシス
- 6 日本語能力試験の標準表
- 7 日本語教育能力資格について
- 8 日本語教育の教授法とは何か

なお、コースデザインによる教育方法をあわせて考察するのでテキストを用いる。

【評価方法】

簡単な試験を学期中に、5回の予定。(60%)
出席を重視。(20%) 授業の参加。(20%)

【テキスト】

『新日本語の基礎』スリーネットワーク

【参考文献・資料】

『日本語の教え方の秘訣』(上・下) (有馬綾子 スリーネットワーク) [授業には購入しなくてよい]

日本語教育教材論

山内啓介

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語教育の教材は教科書、教具、資料にわけて捉えられ、また、教室環境と教師自身が教材となっていた。教授法の展開から、AL (Audio Lingual) メソッドにおける画期的な教具の開発が行われた後、今日ではPAL時代になって、おおきな変化が現れた。日本語教材でも求められているのは、たとえて言うなら、“とっさの一言” ふうの会話である。日本語の対人コミュニケーションを、そのストラテジーの視点で分析したわかりよい日本語会話である。マルチメディア対応の教材の開発が進められなければならない。日本語資料で扱いやすい、役立つ教材を考察してみたい。

【授業計画】

日本語教育で使われる教材の分析を行い、利点と欠点をメソッドとアプローチの違いに位置付け、提示文と語句を場面と文化的背景に捉えなおして、日本語会話の構成を追求して製作を行う。この講義を通して、会話集の実践的演習を試みるので、コミュニケーションの重要性を認識できるように進めたい。

【評価方法】

講義の理解。(60%) 出席を重視。(20%)
教材の製作。(20%)

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

各種市販の教科書。
会話用に『生活場面事典』(三修社、西村政人・山内啓介他)、集中教育用に『初級日本語』(久野かおる・山内啓介他) などがある。

日本語教授法Ⅲ（教育実習）

窪田守弘

集中 4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語教育の実際の状況を知るため、映像や資料を使って実践的な実習を行なう。この教育実習は専門的な内容となるため、これまでに日本語教育に関連する科目を履習しておくことが望ましい。

本学は中国の南京市にある南京師範大学と姉妹校提携を結んでいるが、そこの日本語学科で実施した日本語教育実習の内容を中心に教育実習を行なう。特に、本学学生の研究授業などを撮影したビデオを主な教材として、実践的な内容にする考えである。

【授業計画】

南京師範大学での研究授業のビデオを参考にしながら、学生が実際に模擬授業を行う予定である。

【評価方法】

実習に関して独自の考えをまとめたレポートや、出席状況や態度などで、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布するが、「実習ノート」を作成する予定である。

論文

ジョリー幸子 杉本直 日, サン・ジャック 松本青也

窪田守弘 アンドリュウ・J. ムーティアー ジェニファ・J. マギー ダニー・T. モルデン

4年 通年 選択 8単位

【授業の概要】

<論文提出までの主な日程> (詳細は掲示)

- ・ 4月上旬履修登録
- ・ 4月22日(月)「依頼書」提出締切り(4月1日以降、学部準備室)
- ・ 5月20日(月)「論文概略」提出締切り(5月1日以降、学部準備室)

以後、指導の日時、梗概提出、初稿提出など、完成論文提出までの詳細は指導教員の指示による。

- ・ 12月20日(金)午後4時:「論文」提出締切(12月10日以降、学部準備室で受付)

上記いずれの締切に遅れても論文提出の資格を失う。

図書館情報学概論Ⅰ

村主朋英

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学／情報学／図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源／指定図書
2. 情報の流通過程
情報の流れ／情報メディア
事例：学術情報の流通過程
3. 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史／情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み／構造的な理解
認識・認知・こころ／人間・人・ヒト

【評価方法】

定期試験

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

『図書館情報学用語辞典』日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 約3,800円

図書館情報学概論Ⅱ

村主朋英

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

1. 図書館・情報サービスの世界
構成要素と機能／情報システムとしての図書館
2. 館種ごとの概説
国立図書館／大学図書館／公共図書館／学校図書館／専門図書館
3. 協力と競合
図書館ネットワーク／Bibliographic Utility
競合する情報サービスの中で／電子図書館の概念
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の将来

【評価方法】

定期試験と夏休みレポート

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

『図書館情報学用語辞典』日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 約3,800円

卒業論文ゼミⅠ

野添篤毅

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

自然科学分野、とくに生物医学、健康分野における各種情報の流通過程で起こっている種々の問題について卒業研究を行っていくための足がかりを得るためのセミナーを行う。

【授業計画】

受講生の関心のあるテーマについて、最新の海外の学術研究論文を、デジタル情報資源などによって調査、収集し、その中から適切なものを個人個人が読みレポートをまとめ、発表し、討論していく。

【評価方法】

ゼミへの参加度および毎回のレジュメ。

【テキスト】

その都度、指示する。

卒業論文ゼミⅠ

岡澤和世

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報学の誕生とその時代背景を振り返り、その軌跡を共通認識として、情報行動を中心に情報システムとの関係を論じる。

特に、社会と人間と情報を中心テーマに、人間と機械のインターフェースや人への影響などの問題点を利用者の観点から評価し、社会と人間と機械の賢明な関係を模索する。講義中心の授業よりも、自主的な参加型授業を行う。

オリエンテーション

1. 情報学の起源
 - 1) 図書館学の歴史と教育
 - 2) Meadowsの考え
 - 3) Sheraの考え
2. 情報学の研究範囲
 - 1) 情報学の基準
 - 2) B. C. Vickeryの範囲
 - 3) 情報学の主要論文
3. 情報学の基礎
 - 1) B. C. Brookes
 - 2) 社会と情報
 - 3) 情報の研究-F. Machlupら
4. 課題と展望

【授業計画】

講義は教科書を使って共通確認を共有する。その後、各自の意見や考えを出し合い討論する。

新聞記事などを使って人間・メディア・社会についての問題を考える。

【評価方法】

レポート 卒業論文

【テキスト】

情報学講義ノート<3> (岡澤和世 敬文堂, 1989)

インフォ・リッチ:インフォ・プア

(Travor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂, 1997)

卒業論文ゼミⅠ

西荒井学

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報システムの構築に必要な情報処理技術、ならびにプログラミング技術に関わる問題を扱う。この範囲内で受講者各自が設定すべき卒業論文のテーマについての指導を行っていく。

- 1) 卒業論文の書き方
- 2) テーマの選び方
- 3) 基本図書の調査と内容紹介
- 4) 先行研究についての調査と紹介
- 5) 卒論テーマの決定と研究方法

【授業計画】

受講者各自が、支持された内容について、指定日時までに必要な作業を実施してくる。これら作業内容に関して、作業方法、作業結果、問題点などについて、各自が報告する。

報告された内容については、受講者全員で検討していく。受講者全員が、4年次での卒論作成作業に問題なく移行できるように準備をする。なお、情報処理技術ならびにプログラミング技術における新しい専門用語などについても、折りに触れて学習していく。

【評価方法】

提示課題についての進捗状況、提示課題の報告内容、平常の作業活動内容、課題レポートなどによって総合評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

卒業論文ゼミⅠ

山崎茂明

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションと情報メディアに着目して、さまざまな視点から考察してみたいと思います。卒業論文テーマの明確化のために、関連文献の収集とレビューを行ない、調査対象の特定と方法について検討する。そして、論文発表と口頭発表のためのプレゼンテーション技法について学ぶ。

【授業計画】

みなさんが取りあげるテーマは多岐にわたると思いますが、ゼミ学生相互の意見交換はお互いに有益なものになると考えますので、ゼミを発表と討論の場として活用してください。今ひとつテーマをしばらく切れないといった悩みも問題解決のための一歩と考えていますので、そのことに正面から向き合うよう希望します。英文論文は良いものを選んでじっくり取り組んでみてください。多様な考えや新しいアプローチなど、みなさんの世界を広げてくれるはずです。

【評価方法】

卒業論文、レポート。

【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

卒業論文ゼミⅠ

林 博司

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

生命現象の中心である自己複製、種の多様化、環境への適応等の現象を司っている情報を整理し、新しい情報を産み出す事を目的として卒論をかく。取り上げる問題には脳神経系、内分泌系、免疫応答系、消化栄養系、生殖系がある。これらに関する情報整理、データベースの利用と開発を理解する。

上記の身体情報系統についての疾患と予防・治療・原因の整理。

遺伝情報を変化させるバイオテクノロジー技術の整理。

突然変異・遺伝子組み換えに関する情報の整理。

環境破壊因子・環境改善策・地球環境の変化等に関する政策と活動の整理。

ゲノム解析、ゲノムの機能解析に関する知見の整理。

以上のトピックス以外の生命情報に関する研究に関しても、各人の興味あるテーマを選んで、それらの歴史・現状問題点を関連論文の収集、整理を通じて分析する。

基本的には卒論をスタートさせるための基盤の検討とテーマの選択を目的とし、そのための準備である。

【授業計画】

関連論文、総説を収集し理解し、随時まとめた原稿を討論の対称とし、論文にするための方法を考察する。卒業論文作成に役立つ資料と論議の進め方を学習する。英文の要旨の作成を行う。

【評価方法】

まとめた原稿を提出し、その内容と発表を持って評価し、学期の間の進歩を高く考慮する。出席とゼミ活動を含めた総合評価とする。

【テキスト】

特に定めません。日経サイエンスなどの科学雑誌に注目して下さい。

卒業論文ゼミⅠ

山本 進

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

卒論のテーマとして取り上げる分野—館種を問わず図書館現場における『資料組織』・『サービス』・『施設と設備』・『図書館サービスの地域計画と図書館のシステムサービス』・『図書館協力』・『図書館のコンピュータ導入』・『図書館員の専門性』等—配付資料（レジュメ）によって解説を行う。

【授業計画】

レジュメによる解説と、私からの問題提起、それに対する全員でのディスカッション、その中から問題意識を喚起し、ある程度の方向性を見出して、それらについてのノウハウを与え卒論の仮テーマを考える。

1～3月中に、公共図書館・大学図書館の現場で学外研修を実施し、卒論テーマを決定し、文献収集のうえ卒論の骨組みを決める。

【テキスト】

使用しない。

卒業論文ゼミ I

菅野育子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館情報学の中心課題の一つである情報流通を、情報メディアという観点から検討することを目的とする。その際、情報メディアの定義を広くとらえ、図書や雑誌といった伝統的な情報メディアから、データベースを始めとする電子情報源まで取り上げる。これらの情報メディアがどのように生産、加工、蓄積、利用され、その内容である情報が知識となっていくのかについて検討する。卒業論文は、上記のテーマに基づき実際に調査を行い、その成果をまとめる。

【授業計画】

以下のようなスケジュールで行う。

9月～3月 文献収集、テーマ決定

「卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ」平成15年度開講の予定

2003年4月～8月 データ収集・分析

9月 中間発表会

10月～12月 卒論執筆

2004年1月 卒論発表会

【評価方法】

調査活動と卒業論文執筆活動を対象とする。

【テキスト】

『図書館情報学のための調査研究法』（緑川信之他 勁草書房）

卒業論文ゼミ I

三和義秀

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現在のハイパーテキスト・システムの仕組みやその応用分野を理解し、既存のハイパーテキスト・システムの機能を評価しながら本質的な問題点を探る。

ハイパーテキストが応用されているシステム（CD-ROM百科事典、WWWなど）を実際を使ってそれらシステムの機能を評価し、さらにその仕組みについて理解する。特に、インターネットとハイパーテキストの相互関係及びJava、VRML (Virtual Reality Modeling Language)、CGI (Common Gateway Interface) またはC言語によるプログラミングに焦点を当てる。この範囲内で各自の卒論テーマの決定及び卒論執筆に向けての準備作業の指導を行う。

【授業計画】

講義及びコンピュータを使った実習にて進める。

【評価方法】

レポートにて評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

卒業論文ゼミⅠ

村主朋英

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

卒業論文のための研究の準備を行う。
各自の問題意識を醸成し、それと研究動向についてのレビューをもとにテーマを決め、研究に入る。

【授業計画】

1. 仮テーマ決定
2. 用語調査と概念マップ作成
3. 関連分野の同定
4. 基本文献の収集・分析
5. 研究テーマの決定
6. 図書館情報学と自分のテーマの関係付け

【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）、最終レポート

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版（丸善）（諸君がすでに履修した別講義で使用）

卒業論文ゼミⅠ

伊藤真理

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

卒業論文に向けて研究準備を行う。人文学分野を中心として、各自の興味のあるテーマについて関連文献の収集、分析を行い、卒業論文テーマの決定および研究方法を検討する。

【授業計画】

まず論文作成について概説する。履修者は各自の関心テーマに基づいて、4年次での卒業論文作成作業に必要な文献収集を行い、文献のまとめを報告する。各自の報告を履修者全員で討議、検討し、研究テーマ、調査方法決定の準備段階とする。

【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

【テキスト】

使用せず。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

野添篤毅

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

3年後期に行った卒業論文ゼミⅠによって、絞り込まれた卒業研究のテーマに沿って調査・研究、論文作成の指導を行う。

【授業計画】

毎回、自己のテーマについてのレポートをまとめ、発表し、討論していく。

【評価方法】

ゼミへの参加度および毎回のレジュメ。

【テキスト】

その都度、指示する。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

岡澤和世

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現在既存の情報システムが利用者の多様な要求に応えられない理由を明らかにし、情報技術へのヒューマン・ファクターと人間工学の導入の必要性を指摘する。利用者を中心に据えた情報技術の方法と道具を考察する。ゼミの目的は変動の激しい情報環境に生きている私たち利用者が、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解能力（リテラシー）を習得し、活用する方法を考察することである。

<前期>

オリエンテーション：情報環境

1. 情報と知識を結ぶ鎖
2. 情報アクセス
3. 情報瞬間
4. 情報と文化の関係
5. 情報メディア
6. 書物の歴史
7. 図書館の役割
8. 情報と女性
9. レポートの書き方

<後期>

オリエンテーション：卒論について

1. 情報環境
2. 情報学の歴史
3. 情報過多現象
4. 人間工学
5. インターネット
6. 情報政策
7. 情報の要求と利用
8. 情報社会の展開過程
9. 将来の情報環境

【授業計画】

前期は講義を中心に行なう。後期は各自の卒論テーマに従って解説する。

【評価方法】

レポート。卒業論文。出席回数。

【テキスト】

情報学講義ノート<3>（岡澤和世 敬文堂 1989）

インフォ・リッチ：インフォ・ブア

（Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997）

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

長澤雅男

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

前期には、標準的な論文作成スケジュールに準拠し、各自が選んだ論文のテーマ、調査・研究の方法に基づいてスケジュール表の提出を求めた上で、関係資料・データの収集、文献資料の利用評価のあり方、論文構成上の問題等にわたって順次解説するとともに、論文作成過程にしたがい、参加者相互の批判検討を通して論文の構成・内容の充実を図る。

後期には、共通の指導事項についてクラスにおいて授業を行うとともに、各自の論文作成の進捗状況に応じて、よりよい卒業論文を仕上げることを目標にして個別の相談に応じる。

【授業計画】

前期

1. 研究テーマの報告・クラス討議
2. 文献調査その他の調査方法
3. 関係論文の抄録作成・クラスレポート

後期

4. 論文の文章表現法
5. 論文の構成要素－執筆規程の理解
6. 注記、引用、参考文献

前期はグループ指導と討議を中心に、後期は個別指導を中心に進める。

【評価方法】

クラス討議と平常点

【テキスト】

使用せず。必要に応じてプリントを配付する。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

西荒井学

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

3年次履修科目である卒業論文ゼミⅠにおいて、各自が設定した卒業論文のテーマに従い、卒論指導を行う。

作業スケジュール

- 1) 卒業論文タイトルの決定 (4月)
- 2) 卒論(章)の構成 (5月上旬)
- 3) 文献リスト作成 (5月下旬)
- 4) 卒論(節)の構成 (6月)
- 5) 1節分の論文執筆仮提出 (7月下旬)
- 6) 中間発表 (8月下旬～9月上旬)
- 7) 卒論仮提出 (11月中旬)
- 8) 卒論本提出 (12月中旬)

【授業計画】

受講者各自が、卒論作成年間スケジュールに従い、それぞれ指示された内容について、指定日時までに必要な作業を実施してくる。受講者各自の卒論テーマに関する問題点について、受講者同志互いに発表、討論していくことにより、卒論完成に向けての相乗効果を図っていく。なお、中間発表は、夏期休暇中に合宿にて行う場合もあるので、注意すること。

【評価方法】

卒論作成作業の進捗状況、報告内容などについても一部考慮しない訳ではないが、その大半は提出卒業論文の内容により評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

山崎茂明

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現代社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションと情報メディアに着目して、さまざまな視点から考察してみたいと思います。4年次後期には、論文テーマについての文献レビューや調査データについて、さらに発表と討論を積み重ね卒業論文をまとめていきます。

【授業計画】

みなさんが取りあげるテーマは多岐にわたると思いますが、ゼミ学生相互の意見交換はお互いに有益なものになると考えますので、ゼミを発表と討論の場として活用してください。今ひとつテーマをしばらく切れないといった悩みも問題解決のための一歩と考えていますので、そのことに正面から向き合うよう希望します。英文論文は良いものを選んでじっくり取り組んでみてください。多様な考えや新しいアプローチなど、みなさんの世界を広げてくれるはずです。

【評価方法】

卒業論文、レポート。

【テキスト】

講義内容に関する基本文献を随時配付する。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

山本 進

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

3年後期の「卒業論文ゼミ」において決定した卒業論文のテーマに従って、論文の構成・使用文献等についての集団指導及び個別指導を行い、夏休み前までには卒業論文の全体構成が眼に見える形になるよう、組み立てを終える。

【授業計画】

卒業論文に調査や調査統計が必要な場合は、調査の内容や項目、方法・結果の集約と纏めについて、具体的な調査の実施方法について指導を行う。

卒業論文の進捗状況中間発表のため、9月の上・中旬に2泊3日のゼミ合宿を実施し発表や討論を行う。

12月上旬卒業論文の提出、1月中旬に行われる卒業論文の発表に向けて指導を行う。

【テキスト】

使用しない。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

三和義秀

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

各自の研究テーマに関する指導を行う。

卒業論文を完成するために、各自のテーマに従った先行研究の理解やシステム構築のためのプログラミングを行う。

【授業計画】

個別指導及び各自研究の進捗をゼミ生全員で発表・討論する。

【評価方法】

卒業論文にて評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

村主朋英

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

卒業論文のための研究過程に沿って指導する。

卒論ゼミは、学術論文を作成するための機関である。ゼミでは、ほかのゼミ生や担当教員との意見交換を行いながら、基本的には自分で判断し、自分のモチベーションを機動力に研究を進める必要がある。

【授業計画】

1. 先行研究の分析、研究動向の把握
2. 問題設定
3. 研究方法の決定
4. 研究計画の策定
5. 研究の実施
6. 論文の企画・執筆

【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）。

【テキスト】

なし。

図書館情報学特殊演習 I

野添篤毅

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

自然科学分野、とくに生物医学分野における学術情報資源を探するための種々の手段（マニュアル、オンライン、CD-ROM、インターネット）、デジタル化されたツールについて演習形式で学んでいく。

取りあげるテーマとしては、

MEDLINE データベース (PubMed) の索引手法と検索、原文の収集、および検索文献の質的評価の実習

を予定している。インターネットを使用するので情報科学教育センターでIDを取得すること。

【授業計画】

上記のテーマについて演習を行い、レポートをまとめる。また、演習成果の発表会を各学期末に行う予定。

【評価方法】

演習への参加度およびレポート。

【テキスト】

その都度、指示する。

図書館情報学特殊演習 I

岡澤和世

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

「情報環境」というコンセプトに焦点を当て、現代社会の情報問題を考える。演習を中心に各自の中心のテーマを決め、相互理解を深めていく。

今、情報環境が大きな変貌を遂げようとしている。高度情報化社会に生きている私たちは変わりゆく情報環境について認識を深め、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解力（リテラシー）を発揮するよう求められている。本講義では、そのために必要な情報は何かを中心に論じる。

【授業計画】

オリエンテーション：情報環境

1. 情報環境とニューメディア
2. 情報メディア
3. 情報アクセス
4. 情報不均衡
5. 情報と知識を結ぶ鎖
6. 記憶と情報
7. ニューラル・ネットワーク
8. 言語と会話
9. 書物の歴史
10. 女性と情報
11. インフォ・リッチ：インフォ・プア
12. 情報の質
13. 情報過多
14. 情報と文化の関係
15. 情報と漫画
16. 情報と広告
17. 情報とテレビ
18. 情報の一極集中化
19. 社会変化
20. 情報社会の展開過程と現状

【評価方法】

小論文と出席日数。

【テキスト】

情報学講義ノート〈3〉(岡澤和世 敬文堂 1989)

インフォ・リッチ：インフォ・プア

(Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997)

図書館情報学特殊演習 I

西荒井学

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

各自が設定したテーマに応じ、プログラム言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアを使用して、実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）を行い、それらの内容を演習形式で学習していく。

- 1) テーマの決定
- 2) プログラム設計
- 3) プログラミング
- 4) テスト
- 5) 仕様書の作成
- 6) 評価

【授業計画】

受講者各自が設定したテーマに従って、毎時間実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）に必要な各種作業を実施していく。取り扱うプログラミング言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアについては、情報科学センターが所有するソフトウェアの範囲内であれば、それ以上の条件は別に設定しない。ただし、表計算ソフトウェアなどのアプリケーション・ソフトウェアを使用する場合には、マクロを使用するなど、唯一、プログラミングの要素を含むことを条件とする。

なお受講者各自に対して、最終的には、開発の目的、プログラム設計書（入力、出力、ファイル、プロセス）、ソース・リスト、操作マニュアル、総合評価からなるレポートの提出を義務付ける。

【評価方法】

プログラム開発の理解度ならびに進捗状況、課題レポートなどによって評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

図書館情報学特殊演習 I

山崎茂明

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

フォーマルコミュニケーションの最も主要なメディアとして発展してきた学術雑誌を主たるテーマにして、学術雑誌の創刊時を中心とした歴史的アプローチ、現在の出版状況を数量的に把握する生態論的アプローチ、電子ジャーナルを中心とした未来論的アプローチ、レフェリーシステムに代表される本質論的アプローチ、投稿や雑誌の利用に焦点をあてた行動的アプローチなど、さまざまな視点から学術雑誌の機能を検討します。ゼミ参加者は情報学III（科学コミュニケーション）と情報メディア論V（科学技術情報）を履修し、そこで話されている内容に興味ある方が適切です。

3年時には、執筆、投稿、審査、編集、流通といったプロセスを、著名な総合科学雑誌NATURE誌を例にして、その歴史的な発展や電子化への取り組み、ニュースメディアとの関係、記事の種類と役割など、具体的に取りあげます。また、レフェリーシステムの役割をロールプレイにより体験し、信頼性の高い学術情報がいかに形成されているかを理解してみましょう。実際に多くの学術雑誌を手に触れながら、どのような人が、どんな目的で発表し、読んでいるのか、科学研究世界への想像力を持って取り組みたい。

【授業計画】

各自やグループにおける問題解決のプロセスを実践的に学ぶ機会としたい。そのために、基本文献の概要と動向のまとめ（文献レビュー）、論文のまとめかたと会議でのプレゼンテーション（PowerPoint実習を含む）など、調査と発表のための基礎知識もとりあげます。

【評価方法】

総合研究報告、レポート。

【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

図書館情報学特殊演習 I

林 博司

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

生命現象の中心である自己複製、種の多様化、環境への適応等の現象を司っている情報を収集・整理・分析・評価するための手法を学習する。自然科学のレビュー誌、紹介記事等を元にデータベースの構築をする為の基礎を研究する。資料は国内紙に留めず英文のバイオ関係科学誌からも取り入れる。4年生時の特殊演習のための基礎を作る。

邦文・英文の生命科学雑誌・学術雑誌・レビュー誌の紹介。

現在の論文検索システムの紹介とその利用。

キーワードに依る検索とキーワードの設定。

遺伝子・ゲノム・タンパク質分子の機能等のデータベースの紹介。

遺伝情報の解説・セントラルドグマ等の理解。

古典進化学と分子進化の理解。

演習では情報の作成・情報の伝達等について広範な知識を習得し、それを基に、情報の整理と利用度の拡張・新方式の作成を行う為の基礎作りをする。そのために、これまでの講義の内容の復習も取り入れる。

【授業計画】

講義以外は演習室を利用し、可能な限り実際のプロセスを楽しんでもらう。その為に文献を読む・整理する等に力を注ぐ。

【評価方法】

レポート、出席状況、論文・レビュー等の内容の把握努力で評価する。

意見の発表の頻度・内容を評価対象とする。

【テキスト】

特に定めない。

図書館情報学特殊演習 I

山本 進

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

取り上げるテーマは、館種を問わず、図書館の現場における資料組織、サービス、図書館の施設設備、図書館建築の諸問題、図書館サービスの地域計画、図書館サービスの測定と評価、図書館員の専門性等の諸問題について論ずる。

【授業計画】

講義内容に沿った資料を配付し、順次論述を進め、その中から、毎月1回程度レポートの提出を義務づけ、問題意識の集約を図る。

1～3月中に、公共図書館・大学図書館の現場で学外研修を実施し、研究テーマを確定したうえ文献収集を行い論文の骨組みを決める。

【テキスト】

使用しない。

図書館情報学特殊演習 I

菅野育子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館情報学関連のテーマを題材に、ホームページを作成することを目的としている。

テーマを選び、関連文献を収集する。その文献の要旨や評価について、レジュメと口頭で発表を行う。一年間の発表内容をまとめて、ホームページを作成する。これらの活動を通して、ホームページ作成技術、文献の探索方法、DB検索技術、文献の読解力やプレゼンテーションの技術の習得をめざす。

- (1) 電子メールの利用 (共同作業のため連絡調整)
- (2) 情報検索と文献収集 (DIALOG、JOIS、INTERNET、その他の二次資料を利用)
- (3) 原稿作成
- (4) ホームページ作成用エディターの利用 (Web作成のため)
- (5) レジュメの作成 (作業過程や決定事項の記録)
電子情報源における著作権の勉強会 (Web公開の準備)
- (6) ホームページ上での写真掲載の許諾申請

【授業計画】

- 2002年9月 4年生の中間発表会に出席
10月～ テーマの決定
文献検索、収集、講読、評価
- 2003年1月 ホームページの構成の決定
4年生のホームページ評価活動に参画
- 「演習II・III」2003年度開講の予定
- 2003年4月～ データ作成と入力
- 2004年1月 ホームページの評価、最終発表会

【評価方法】

毎回の発表内容とホームページ作成作業に基づいて評価する。

【テキスト】

使用せず。

図書館情報学特殊演習 I

三和義秀

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ハイパーテキストの仕組みを理解して本質的な問題点を探り、その改善手法について討論する。その範囲内で最終レポートのテーマ等を決定する。

CD-ROM百科事典やWWWなどを実際に使ったり、HTML、Java、VRML (Virtual Reality Modeling Language)、CGI (Common Gateway Interface) などを使ってホームページを作りながらハイパーテキスト・システムの機能を評価して本質的な問題点を探る。また、それら問題の解決手法の関する先行研究を調査する。

【授業計画】

講義及び実習で進める。

【評価方法】

レポートにて評価。

【テキスト】

授業中に指示する。

図書館情報学特殊演習 I

村主朋英

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

私の特演ゼミでは、情報史研究に関わる演習を行なう。情報史とは、まず第一に情報に関わる事物（情報活動・情報技術・情報サービス・情報学の理論・情報専門家など）についての歴史である。それに加えて、科学技術・哲学・文学・芸術・芸能・音楽、また教育や法律など、人間の生活や社会活動に関わるあらゆる事象も情報史の対象と考えることができる。

そうした対象の中から、各自でテーマを決め、探求を進める。

3年次においては、予備知識・基礎知識をかため、問題意識を育むための作業を行う。

【授業計画】

1. テーマの設定
2. 用語調査と概念マップ作成
3. 年表の枠組みの検討
4. 基本文献の同定・講読
5. 年表（概略版）の作成および基礎知識のまとめ

【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）、最終報告書。

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版（丸善）
（諸君がすでに履修した別の講義で使用）

図書館情報学特殊演習 I

伊藤真理

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

インターネットが普及している今日において、情報の組織化の意義について理解を深めることを目的とする。人文学分野の電子情報資源を対象として、情報の組織化について演習を通して検討する。

【授業計画】

3年次では、電子情報資源の組織化に関する基礎的な知識の習得を中心とする。前半は講義形式で電子情報資源を対象とした様々な記述フォーマットなどについての基礎知識を学び、後半は実習を通して理解を深める。

【評価方法】

平常点、レポートの総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

野添篤毅

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

自然科学分野、とくに生物医学分野における学術情報資源を探すための種々の手段（マニュアル、オンライン、CD-ROM、インターネット）、デジタル化されたツールについて演習形式で学んでいく。

取りあげるテーマとしては、

- a. インターネットでアクセスできる生物医学関係の情報資源の調査・分析・評価（4年前期）
- b. インターネットによる情報発信の実習（4年後期）

など、を予定している。インターネットを使用するので情報科学教育センターでIDを取得すること。

【授業計画】

上記のテーマについて演習を行い、レポートをまとめる。また、演習成果の発表会を各学期末に行う予定。

【評価方法】

演習への参加度およびレポート。

【テキスト】

その都度、指示する。

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

岡澤和世

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

「情報環境」というコンセプトに焦点を当て、現代社会の情報問題を考える。演習を中心に各自の中心のテーマを決め、相互理解を深めていく。

今、情報環境が大きな変貌を遂げようとしている。高度情報化社会に生きている私たちは変わりゆく情報環境について認識を深め、氾濫する情報に溺れることなく、正しい情報理解力（リテラシー）を発揮するよう求められている。本講義では、そのために必要な情報は何かを中心に論じる。

【授業計画】

オリエンテーション：情報環境

1. 情報環境とニューメディア
2. 情報メディア
3. 情報アクセス
4. 情報不均衡
5. 情報と知識を結ぶ鎖
6. 記憶と情報
7. ニューラル・ネットワーク
8. 言語と会話
9. 書物の歴史
10. 女性と情報
11. インフォ・リッチ：インフォ・プア
12. 情報の質
13. 情報過多
14. 情報と文化の関係
15. 情報と漫画
16. 情報と広告
17. 情報とテレビ
18. 情報の一極集中化
19. 情報倫理
20. 情報社会の展開過程と現状

【評価方法】

出席とレポート。

【テキスト】

情報学講義ノート〈3〉（岡澤和世 敬文堂 1989）

インフォ・リッチ：インフォ・プア

（Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997）

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

長澤雅男

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

前期には、印刷メディアおよび電子メディアを併用した文献探索演習を行うことによって効率的な探索手法を習得することを目指す。後期には、これまでに習得した情報と文献の探索手法を応用して、各自が選択したテーマと作製企画に基づいて、二次資料（データベース）を作製する。その過程で、索引法、書誌作成法に重点をおいて指導する。

【授業計画】

1. 情報の加工と再編成
2. 二次資料作製企画
3. 二次資料のデータ採集
4. 書誌データの記述
5. 解題・抄録等の作成
6. 二次資料のフォーマット

前期には、文献および情報の探索演習と併行して、二次資料作製手順について説明し、各自（2人以上の共同作業も認める。）が選んだテーマに関する二次資料（データベース）の作製企画を立てる。

後期には、前期に各自が提出した二次資料作製企画に基づいて、スケジュールに沿って作製作業を進めることができるよう個別指導を行う。

【評価方法】

前期は平常点、演習レポート、二次資料作製企画書の総合評価。後期は平常点、演習レポート、提出した二次資料のファイル（フロッピーディスク）と冊子の総合評価。

【テキスト】

使用せず。必要に応じてプリントを配付する。

【参考文献・資料】

情報と文献の探索 第3版（長澤雅男著 丸善）
書誌作成マニュアル（日本索引家協会編 日外アソシエーツ）

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

西荒井学

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

各自が設定したテーマに応じ、プログラム言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアを使用して、実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）を行い、それらの内容を演習形式で学習していく。

- 1) テーマの決定
- 2) プログラム設計
- 3) プログラミング
- 4) テスト
- 5) 仕様書の作成
- 6) 評価

【授業計画】

受講者各自が設定したテーマに従って、毎時間実際にシステム構築（もしくはプログラム開発）に必要な各種作業を実施していく。取り扱うプログラミング言語あるいはアプリケーション・ソフトウェアについては、情報科学センターが所有するソフトウェアの範囲内であれば、それ以上の条件は別に設定しない。ただし、表計算ソフトウェアなどのアプリケーション・ソフトウェアを使用する場合には、マクロを使用するなど、唯一、プログラミングの要素を含むことを条件とする。

なお受講者各自に対して、最終的には、開発の目的、プログラム設計書（入力、出力、ファイル、プロセス）、ソース・リスト、操作マニュアル、総合評価からなるレポートの提出を義務付ける。

【評価方法】

プログラム開発の理解度ならびに進捗状況、課題レポートなどによって評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

山崎茂明

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

フォーマルコミュニケーションの最も主要なメディアとして発展してきた学術雑誌を主たるテーマにして、学術雑誌の創刊時を中心とした歴史的アプローチ、現在の出版状況を数量的に把握する生態論的アプローチ、電子ジャーナルを中心とした未来論的アプローチ、レフェリーシステムに代表される本質論的アプローチ、投稿や雑誌の利用に焦点をあてた行動的アプローチなど、さまざまな視点から学術雑誌の機能を検討します。4年次には、個人やグループで特定テーマを設定し、最終的には「特殊演習報告書、総合研究：学術雑誌」としてまとめることを目標にして、調査と発表をおこなっていきます。

【授業計画】

各自やグループにおける問題解決のプロセスを実践的に学ぶ機会としたい。文献検討だけでなく、訪問調査、見学なども取り入れ、実践的に考えていきたい。

【評価方法】

総合研究報告、レポート。

【テキスト】

講義内容に関係する基本文献を随時配付する。

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

山本 進

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

3年後期で問題意識の集約をした事項について、研究のテーマを決定し、論文の構成・使用文献等についての集団指導及び個別指導を行い、夏休み前までには研究論文の全体構成が眼に見える形になるよう、組み立てを終える。

【授業計画】

研究論文に調査や調査統計が必要な場合は、調査の内容や項目、方法・結果の集約と纏めについて、具体的な調査の実施方法について指導を行う。

12月上旬研究論文を提出。

【評価方法】

指導教員が日常の受講態度、出席状況、提出研究論文の内容等を審査し評価する。

【テキスト】

使用しない。

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

逸村 裕

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

各自の研究テーマを発展させ、「卒業研究」作成を目指す。

研究進捗状況の確認を行なう。

【授業計画】

3年次の図書館情報学演習aを基礎として演習を行う。

【評価方法】

演習への参加をもとに評価を行なう。

【テキスト】

使用せず。

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

三和義秀

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

各自のレポート・テーマに関する研究を行い、レポートを完成する。

各自の研究内容に関するシステム構築のためのプログラミングを行う。

【授業計画】

講義及び実習で進める。

【評価方法】

レポートにて評価。

【テキスト】

授業中に指示する。

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

村主朋英

4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

3年次に引続き、情報史研究に関わる演習を進める。ゼミの最終報告書となるプロダクトは、下記のいずれかのパターンとする（どれか一つ、または複数のパターンの組み合わせ）。

- (1) 叙述（物語・描写）
- (2) 詳細な年表（年表データベース、ハイパー年表）
- (3) 論考（仮説・検証）
- (4) 史料データベース作成
- (5) その他（WWW ページ作成など）

【授業計画】

1. 問題の分析と仮説の設定
2. 史料の網羅的収集
3. 史料から得られる情報の分析・総合
4. プロダクト（報告書）の作成
5. プレゼンテーション（口頭発表等）

【評価方法】

平常点（出欠、課題の提出状況）、最終報告書

【テキスト】

使用せず。

調査研究法Ⅰ（調査の基礎）

菅野育子 三和義秀 村主朋英 伊藤真理

集中 オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

図書館情報学における研究・調査のために必要な基礎的知識と技術を習得することを目的とする。

- 1 図書館情報学の研究方法
 - 1.1 図書館情報学研究の特徴
 - 1.2 図書館情報学の調査方法
社会調査法／記録資料の分析
- 2 研究計画と調査方法
 - 2.1 研究目的
 - 2.2 調査目的と対象
- 3 研究関連文献の探索と入手
 - 3.1 文献探索の方法
 - 3.2 二次資料の利用法
 - 3.3 原報入手の方法と書誌記述
- 4 学術文献の読み方・書き方
 - 4.1 学術文献をなぜ書くか・なぜ読むか
 - 4.2 学術文献をどう書くか・どう読むか
- 5 統計的方法
 - 5.1 Lotus 1・2・3を用いたデータの入力と分析
 - 5.2 統計的方法と表・グラフおよび算術的記述

【評価方法】

出席回数、授業中の課題、期末試験の結果を総合的に評価する。

【テキスト】

図書館情報学のための調査研究法（緑川信之也 勁草書房）

調査研究法Ⅱ（研究方法論）

菅野育子 三和義秀 村主朋英 伊藤真理

集中 オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

図書館情報学における研究・調査の事例を参考にしながら、実際に文献講読とレビュー作成、統計的手法を用いたデータ整理を行う。この過程において、研究・調査のための知識と技術を習得する。

- 1 図書館情報学の研究目的と調査方法の事例
 - 1.1 科学コミュニケーションの解明
ビブリオメトリックス／インフォーマル・コミュニケーション
 - 1.2 情報検索システムの構築と評価
データベースの構築例／データベース・二次資料の評価
 - 1.3 図書館サービスの評価
図書館建築／蔵書回転率／OPACの利用
- 2 レビュー作成の方法
 - 2.1 引用の形式と文体
 - 2.2 文献の引用に基づく論述の方法
 - 2.3 レビューの文体
- 3 Lotus 1・2・3を用いた統計的方法
 - 3.1 データの収集
無作為抽出法／標本の大きさ
 - 3.2 データの整理と表示
度数分布表、ヒストグラム、算術平均、標準偏差
 - 3.3 データの検定と分析
相関係数／SQRT関数

【評価方法】

出席回数、授業中の課題、期末試験の結果を総合的に評価する。

【テキスト】

図書館情報学のための調査研究法（緑川信之也 勁草書房）

プラクティカルイングリッシュ

山崎茂明

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館員や情報専門家として働くときに必要と思われる英文資料や情報源を教材として取りあげ、読解力と背景となる事象へのアプローチを学ぶ。職業人として求められる身近な英語の文章を読んでいく。

【授業計画】

例えば、求人広告欄、書評、ニュース記事、学会参加申し込み、雑誌講読申し込み、図書購入、施設訪問手紙、図書館案内パンフレット、ホームページ、レファレンス資料の前書き、百科事典の記述項目などをとりあげる。参加者は、必ず英和辞典を持参すること。時間内での英訳や自宅での課題など予定している。

【評価方法】

訳読レポート、試験。

【テキスト】

課題文や資料を随時配付する。

プロフェッショナルリーディング

村主朋英

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

情報学・図書館学の学術論文等、専門的な文献を読解し利用する技能を養うための科目である。演習を中心に進めるが、英文であることを意識せずに効果的・効率的に読むことをめざすため、高度な英語力は要求しない。4年生の履修も大いに歓迎する。

【授業計画】

1. 論文の流れの掴み方
文章の構造的性/効率的な読解のテクニック/
専門用語を憶えることの意義
2. 演習(1):短文全訳で腕試し
3. 演習(2):文脈のわかっている英文の読解
4. 演習(3):長文の斜め読み
5. 演習(4):コンピュータ関連の英文
6. レジュメの作り方
レジュメの要件/読みながらのレジュメ作成

【評価方法】

- (1) 平常点(出欠および宿題の提出状況)
- (2) 試験(情報関連の専門用語、短文読解)
- (3) レポート(外国語論文を読んでレジュメを作成)

【テキスト】

図書館情報学用語辞典(日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 税別定価3,800円)

そのほか、各自英和辞典を持参すること。

情報学 I (生命情報増幅)

林博司

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

生命は多くの情報システムによって支えられている。原始生命以来存在する先天的な遺伝情報系について学ぶ。

- 1:地球の誕生と生命の起源
- 2:遺伝子とは何か
- 3:核酸の構造と遺伝暗号
- 4:遺伝情報の伝達と発現
- 5:タンパク質の構造と機能
- 6:情報発現の制御機構
- 7:遺伝子像の変遷
- 8:遺伝子による生命現象の支配
- 9:遺伝情報系と言語情報系

【授業計画】

テキストに沿って体験的、視聴覚的に学ぶ。

【評価方法】

出席率、発言、レポートなどを基に総合的に評価する。

【テキスト】

生物の情報システム(竹村彰祐・大井龍夫著 講談社サイエンティフィク 2,800円)

情報学Ⅱ（生命情報増幅）

林 博司

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

生命は多くの情報システムによって支えられている。ここでは後天的な情報システムである脳神経系の情報処理について学ぶ。

- 1：脳科学の歴史
- 2：脳の構造と機能
- 3：神経細胞の成り立ちと神経回路
- 4：脳の可塑性
- 5：記憶のメカニズム
- 6：意識・感情についての理解
- 7：感覚系の進化
- 8：情報とは何か

【授業計画】

テキストに沿って体験的、視聴覚的に学ぶ。

【評価方法】

出席率、発言、レポートなどを基に総合的に評価する。

【テキスト】

生物の情報システム（竹村彰祐・大井龍夫著 講談社サイエンティフィク 2,800円）

【参考文献・資料】

情報生物学入門（鈴木英雄ほか著 培風館 2,427円）

情報学Ⅲ（図書館と情報検索の歴史）

村主朋英

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。古代から、ルネサンス期までを対象とし、IVに引き継ぐ。

【授業計画】

0. オリエンテーション
歴史を学ぶ意義／情報化社会論と情報史
1. 古代文明のメディアと情報・知識
2. ギリシア・ローマにおける革新
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命
5. 学術情報流通システムの成立

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

『歴史のなかの科学コミュニケーション』勁草書房
『図書館情報学用語辞典』日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 約3,800円

情報学Ⅳ (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。Ⅲに続き、近代および現代を対象とする。

【授業計画】

1. 図書館の世紀
近代公共図書館／国立図書館の確立／図書館界の成立／書誌の発達
2. 図書館学とドキュメンテーション
3. 情報技術の起源
4. 情報検索サービスの成立
5. 情報学の成立
6. 情報史の現在
7. 理想の情報検索システムを求めて
Vannevar BushとMemex構想をもとに

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

『歴史のなかの科学コミュニケーション』勁草書房
『図書館情報学用語辞典』日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 約3,800円

情報学Ⅴ (科学コミュニケーション)

山崎茂明

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現在社会の発展を基礎づけている科学研究活動を対象にして、コミュニケーションとメディア、研究組織と評価に着目して、具体的な事例をもとに検討したい。科学研究の諸層を概観することからはじめ、論文の執筆と投稿、論文審査、出版倫理と不正行為、科学ジャーナリズムなど科学コミュニケーションの実態を理解し、さらに研究活動の分析・評価まで取りあげたい

1. 科学の科学、科学研究の目的
2. 研究資金、研究者、成果としての学術論文
3. 17-19世紀の科学研究
4. 学会、会議、学術雑誌、インフォーマルコミュニケーションとフォーマルコミュニケーション
5. 学術論文とは
6. 学術雑誌と科学コミュニケーション
7. 論文発表の実態
8. 論文審査 (レフェリーシステム)
9. 科学研究の不正行為
10. 科学ジャーナリズムの役割
11. 研究動向調査
12. 研究者と研究機関の評価

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート (授業時間内)。

【テキスト】

山崎茂明「生命科学論文投稿ガイド」中外医学社

【参考文献・資料】

背信の科学者たち (Broad, W. 化学同人)
リトルサイエンス・ビッグサイエンス (Price, D.J.D. 創元社)
アメリカの研究費とNIH (白楽ロックビル 共立出版)
日本の学会 (新堀通也 日本経済新聞社 (新書))

情報処理概説Ⅰ

西荒井学

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

情報処理に必要なコンピュータのハードウェアおよびソフトウェアに関する基礎知識の習得、ならびに情報処理機器の基本操作、技法をコンピュータ実習に重点を置きながら習得していく。特に、コンピュータ技術は日進月歩の勢いで変化してきているが、その原理・原則には不変、かつ共通している部分が少なくない。本授業では、情報のコンピュータ内部表現、コンピュータの基本機能など、ハードウェアならびにソフトウェアにおいて普遍的なコンピュータ技術基盤に焦点を絞って学習していく。

- 1) コンピュータの歴史的発展過程
- 2) 情報の表現と情報単位 (1)
- 3) 情報の表現と情報単位 (2)
- 4) コンピュータの仕組
- 5) キー・タイピング練習：実習
- 6) 基本ソフトウェアと応用ソフトウェア
- 7) 基本ソフトウェアの操作・実習
- 8) 応用ソフトウェアの操作：ワープロ・ソフト基礎実習
- 9) 応用ソフトウェアの操作：ワープロ・ソフト応用実習
- 10) ネットワークの利用 (電子メール)：実習
- 11) ネットワークの利用 (WWW)：実習
- 12) 情報処理方式とシステム形態
- 13) 計測・制御システムの機能と特徴
- 14) 情報構造 (ファイルとデータベース)
- 15) 情報処理技術の応用分野と今後の情報処理

【授業計画】

講義と情報科学センターにおけるコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。

【評価方法】

学期末試験ならびにコンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報処理のテクニック (西荒井 学・三和 義秀 共立出版)

情報処理概説Ⅱ

西荒井学

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

情報処理技術におけるソフトウェアの意義、ならびに有用性について、基礎的なプログラミング実習を通して、必要な基礎知識を習得していく。また、パッケージ系ソフトウェアとユーザー・ジョブ・プログラムの本質的な相違点を理解すると共に、ソフトウェア開発の本質的意義、および基本的な技法について学習していく。

なお、プログラミング実習については、VB (Visual Basic) を使用することから、VBの特徴、機能等についても併せて触れていく。

- 1) 開発系ソフトウェアの種類と歴史
- 2) パッケージ系ソフトとユーザー・ソフト
- 3) 表計算ソフトウェア基礎：実習
- 4) 表計算ソフトウェア応用：実習
- 5) プレゼンテーション・ソフト：実習
- 6) 情報処理ステップ
- 7) プログラム開発基礎手順 (問題解析、開発)
- 8) VB (Visual Basic) の特徴と機能
- 9) プログラミングの前に、VBの起動、操作：実習
- 10) 演算処理、プロジェクトの保存／呼び出し：実習
- 11) 判断分岐、繰り返し処理：実習
- 12) 関数の利用、配列：実習
- 13) モジュールの追加、変数の共有：実習
- 14) VBアプリケーション開発練習1：実習
- 15) VBアプリケーション開発練習2：実習

【授業計画】

講義と情報科学センターにおけるコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。

【評価方法】

学期末試験ならびにコンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報処理のテクニック (西荒井 学・三和 義秀 共立出版)

ネットワークリテラシ

三和義秀

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報社会を形成する重要な社会技術のひとつであるネットワーク技術について、その機能の有用性と脆弱性を主に実習を積み重ねながら習得していく。特に、現在の重要な情報基盤であるインターネット環境に焦点を当て、情報の受発信に係る操作・作成技法を学習する。操作技法については、電子メールおよびWWW (World Wide Web) での応用操作技術、ならびに作成方法については、WWW上でのホームページを効果的に作成・運用していく技術、CGIプログラミングを通してのネットワーク構築、およびセキュリティ技術を本授業の中心課題とする。

なお、授業内容に準じて、ネットワーク技術利用の意義、作成する情報コンテンツに対する配慮や心構え、および情報倫理、セキュリティの問題についても触れていく。

【授業計画】

- 1) コンピュータ技術とネットワーク技術の概要
- 2) インターネット環境の基礎
- 3) 電子メールの応用操作技術 (1) : 実習
- 4) 電子メールの応用操作技術 (2) : 実習
- 5) WWWの応用操作技術 : 実習
- 6) Web ページの基本構造とHTMLタグ
- 7) Web ページの作成 (HTMLの記述1) : 実習
- 8) Web ページの作成 (HTMLの記述2) : 実習
- 9) Web ページの作成 (画像の貼り付け) : 実習
- 10) CGIの仕組みと機能
- 11) CGIプログラミング (プログラミングの手順) : 実習
- 12) CGIプログラミング (基本文法) : 実習
- 13) CGIプログラミング (ネットワーク構築技術) : 実習
- 14) CGIプログラミング (セキュリティ技術) : 実習
- 15) まとめ (情報発信の意義と責任)

【評価方法】

出席回数、課題 (プログラミング)、および定期試験により評価を行う

【テキスト】

授業時に指示する

プログラミング論

三和義秀

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

適切な情報処理を実現するにあたって、ユーザー・ジョブ・プログラムの開発は、必要不可欠な場合が多い。このようなことから、本授業では、プログラミングの必要性、意義を理解すると共に、原則的なプログラム開発手順ならびにアルゴリズムを中心とするプログラム開発に必要な基礎知識を習得する。

なお、具体的なプログラム開発手順およびアルゴリズムを正しく理解していくために、本授業では、UNIX/Cを用いる際のプログラミングにおける問題点や考え方を例示していく。よって、プログラミングの問題点と共に、UNIXについても併せて触れていくこととする。

【授業計画】

- 1) アルゴリズム (1)
- 2) アルゴリズム (2)
- 3) プログラミングとコーディング
- 4) フローチャート
- 5) UNIXセッションとコマンド
- 6) UNIXのエディタ (1)
- 7) UNIXのエディタ (2)
- 8) C言語プログラムの開発手順 (1)
- 9) C言語プログラムの開発手順 (2)
- 10) 情報の表現方法 (1)
- 11) 情報の表現方法 (2)
- 12) 変数とデータ型 (1)
- 13) 変数とデータ型 (2)
- 14) 書式指定子
- 15) 算術演算子

【評価方法】

出席回数、レポート、及び定期試験により評価を行う。

【テキスト】

情報処理のテクニック (西洗井 学・三和 義秀 共立出版)

プログラミング実習

三和義秀

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

プログラミングは、単なる机上の問題として理解していくことだけでは、残念ながら、真の意味での理解には繋がらない。本授業では、C言語とJavaを用いて、実際に手続き指向、並びにオブジェクト指向のプログラミング実習を重ねていくことにより、プログラミングの基礎能力を養うと共に、プログラミングの本質を理解していく。

提示するプログラミング実習課題に関して、問題の解析から最終的なコーディングに至るまでの一連の作業を繰り返していくことにより、基本的なプログラミング・テクニックを習得していく。なお、実習課題を解決するのに必要な処理の概要ならびに技術的な問題については、適宜、補足的に説明していくこととする。

【授業計画】

- 1) プログラム制御 (1)
- 2) プログラム制御 (2)
- 3) プログラム制御 (3)
- 4) 配列の考え方
- 5) 配列の処理 (一次元)
- 6) 配列の処理 (多次元)
- 7) アルゴリズムとプログラミング (1)
- 8) アルゴリズムとプログラミング (2)
- 9) アルゴリズムとプログラミング (3)
- 10) C言語による関数設計 (1)
- 11) C言語による関数設計 (2)
- 12) Javaによるクラス設計 (1)
- 14) Javaによるクラス設計 (2)
- 15) Javaによるクラス設計 (3)

【評価方法】

出席回数、レポート、及び定期試験により評価を行う。

【テキスト】

入門Javaプログラミングのテクニック (三和 義秀 共立出版)

プログラム設計応用 I (C)

三和義秀

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

構造化プログラミングの技法とUNIX/Cによるプログラミングを行う。さらにオブジェクト指向の考え方を学び、Visual C++によるプログラミングを行う。

【授業計画】

- 第1回から第2回 記憶クラス
- 第3回から第4回 アドレスとポインタ
- 第5回から第6回 構造体
- 第7回から第8回 ファイル操作
- 第9回 オブジェクト指向プログラミング
- 第10回から第13回 Visual C++によるオブジェクト指向プログラミング

【評価方法】

定期試験、レポート及び出席回数にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

【テキスト】

授業中に指示する。

プログラム設計応用Ⅱ (COBOL)

西荒井学

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

近年、アプリケーション・ソフトウェアの中でも多様なパッケージ・ソフトウェアが提供されることが多くなってきている。しかしながら、提供されるパッケージ・ソフトウェアだけで、すべてを充足することは困難を極める場合が少なくない。本授業では、事務処理用言語であるCOBOLを使用して、実際のプログラム作成に関する基礎技術を学習していくことにより、プログラミングの本質を理解していく。

プログラミングは、単なる机上の問題ではなく、実際にコンピュータ実習を重ねていくことにより、理解を一層深めていくことができる。よって、授業内では出来る限りCOBOLプログラムを数多く作成していくことにより、プログラミングの本質的な問題点を理解していくと共に、COBOLというプログラム言語が持っている本質的な特徴を理解していく。なお、COBOLプログラミングの実習については、情報処理における基本的な処理プロセスを題材にした実習問題を解決していく。

- 1) プログラミングの必然性と基本手順
- 2) COBOLの基本構造と特徴
- 3) 予約語、利用者定義語、コーディング書式
- 4) 識別部の役割とコーディング
- 5) 物理装置と論理装置に対する考え方
- 6) 環境部の役割とコーディング
- 7) ファイルの構造とレベル番号
- 8) データ部の役割とコーディング 1 (FILE記述、レコード記述)
- 9) データ部の役割とコーディング 2 (作業領域、出力編集)
- 10) 手続き部の役割とコーディング 1 (手続き名、入出力文)
- 11) 手続き部の役割とコーディング 2 (制御文、その他)
- 12) プログラミング実習 1 (実習問題A～H)
- 13) プログラミング実習 2 (実習問題A～H)
- 14) プログラミング実習 3 (実習問題A～H)
- 15) プログラミング実習 4 (実習問題I～)

【授業計画】

全授業回数数の内、前半はCOBOL言語に関する文法について解説していく。後半は、提示された課題プログラムの作成を各自実習形式で行なう。

【評価方法】

提出課題プログラム数、提出課題プログラムの内容、ならびに学期末試験にて総合評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず (プリント配布)

プログラム設計応用Ⅲ (Java)

三和義秀

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

オブジェクト指向の考え方を学び、Javaを用いてオブジェクト指向プログラミングの基礎を習得する。

【授業計画】

- 第1回 オブジェクト指向、オブジェクト指向プログラミングとは
- 第2回 Javaの特徴とJavaプログラムの開発環境
- 第3回から5回 クラス設計とJavaのプログラム構造
- 第6回から9回 オブジェクトとコンストラクタ
- 第10回から第11回 クラスの継承と抽象クラス
- 第12回から第13回 アクセス制御

【評価方法】

定期試験、レポート及び出席回数にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

【テキスト】

入門Javaプログラミングのテクニック (三和義秀 共立出版)

データ管理論Ⅰ（表計算と統計）

三和義秀

集中・通常授業各1コマ 3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

調査研究において収集したデータを整理・分類し、それらの性質や状態を数量的に表現して全体としての法則性を見つけ出すための手法と、どのようにコンピュータを統計処理に活用するかについて表計算ソフト Excel を使って学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 統計とは何か、度数分布表とヒストグラム
- 第2回 データ入力、表・グラフの作成
- 第3回 関数の使い方
- 第4回 統計量の求め方
- 第5回 度数分布表、ヒストグラムの作成
- 第6回 ドットプロット、クロス集計表の作成
- 第7回 平均値、範囲、最頻値、分散と標準偏差等の意味
- 第8回 代表値と散布度を求める
- 第9回 確率分布と正規分布
- 第10回 2項分布と標準正規分布
- 第11回 相関係数の求め方とその意味、回帰分析
- 第12回 散布図の作成、相関係数、回帰係数
- 第13回 検定の仕組みと方法

【評価方法】

定期試験、レポート及び出席回数にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

【テキスト】

Excelで学ぶ“やさしい統計処理のテクニック”（三和義秀 共立出版株式会社）

データ管理論Ⅱ（DB構築）

原伸之

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

パソコン活用の3本の柱の1つである「データベース」を取り上げる。世の中のコンピュータ利用の大部分が、このデータベース利用であると言っても過言ではない。金融機関での預金の出し入れ、座席の予約さらにコンビニでの商品管理など。これらは、データベースの応用システムである。

授業では、これらのシステムの核となっている「データベース」の理解・構築技法・利用方法を講義と実技で体験・習得する。

1. データベース概論

…データベースとは

データベースの構築技法

関係データベースの設計

2. データベース・ソフトウェア「ACCESS」

データベースの定義

データベースの構築

データベースの利用

3. 関係データベースの構築

…事例を作成・体験

Wordで作成した文書のデータベース化

インターネットから取り込んだ画像のデータベース化

諸関数を使用したデータ解析

4. 構築したデータベースの事例発表

…習得したデータベースの構築技法を使って、身近なところで考えられるデータベースを構築し、その活用をレポートする。

【授業計画】

配布されたプリントに基づいて、講義・実習を行う。カード型データベースでは、「住所録」を事例として取り上げる。また、関係データベースでは、小売業などでの商品管理を事例として構築する。

【評価方法】

習得した技術および知識を基にして、各自が構築した「身近なところで考えられるデータベース」の内容を評価し、成績とする。

【テキスト】

プリント配布。

情報システム設計基礎論Ⅰ

西荒井学

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

情報システムの設計・開発に必要なシステムの概念、システム設計の基本的枠組や基本的な設計手順、ならびに設計技法について学習していく。通常の住宅建設においても、施主の要望を十分に充足することができるように、種々の建築設計が行われ、各設計書に基づき実際に施工・工事がなされていく。このことは、システム構築においても、建築設計とは設計内容等の差異はあれ、決して例外ではない。本授業では、システムの具体的な設計内容に重要な影響を及ぼすシステム設計の考え方や設計技法について理解していく。

なお、コンピュータ技術の急速な進展に伴い、システムは巨大化、高度化してきた。この結果、システム技術においても専門化、多様化してきており、システム設計自体にも変化が見え隠れしてきている。このようなことから、授業内容に準じて、システム設計に関わる技術背景や技術変遷等についても、その都度解説していく。

- 1) システム化の必然性と情報システムの種類
- 2) システムの定義と概念
- 3) システムの基本機能とシステムの階層性
- 4) システム設計手順の全体像
- 5) システム設計へのアプローチ
- 6) コンピュータ業務区分とS Eの役割
- 7) S Eの基本的要件
- 8) ソフトウェア開発の現状と問題
- 9) ソフトウェア工学（開発技法、開発工程）
- 10) コンピュータ・システムの処理形態
- 11) コンピュータ技術と通信技術の進展
- 12) システム分析の意義と内容
- 13) 要求分析の必然性
- 14) 環境調査から機能分析まで
- 15) 基本設計の内容と重要性

【授業計画】

毎週講義終了10～15分間を使用して、小テストを実施する。

【評価方法】

小テスト、課題レポート、ならびに学期末試験にて総合評価する。

【テキスト】

図解システム設計の基礎（加藤英雄 共立出版）

情報システム設計基礎論Ⅱ

西荒井学

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報システム設計は、究極的にはプログラム開発に至るまでの一連の情報システム構築手順において、重要な要素を担っている。システム設計の良し悪しが、情報システムの有効性、効率性、ならびに運用性の良否に帰結する。本授業では、情報システム設計手順における概要設計および詳細設計に焦点を絞り、具体的なシステム設計内容ならびに設計技法について学習していく。

なお、具体的な概要設計および詳細設計における考え方、方法を学習していくと共に、情報システム設計の成果であるソフトウェア・ドキュメントの意義や作成方法、および各システム設計段階における問題点についても解説していく。簡単な事例システムを取り上げ、実習形式を中心にして具体的に学習する。

- 1) 情報システム設計の意義と役割
- 2) 基本設計、概要設計、詳細設計の3段階
- 3) コードの機能とコードの種類
- 4) コード設計の意義と設計内容（実習を含む）
- 5) ユーザー・インターフェースについての考え方
- 6) 出力設計の意義と設計内容（実習を含む）
- 7) 入力設計の意義と設計内容（実習を含む）
- 8) ファイル設計の意義と設計内容（実習を含む）
- 9) データベース設計への展開
- 10) 情報処理における基本処理パターン
- 11) プロセス設計の意義と設計内容（実習を含む）
- 12) システム障害における障害対策・保守
- 13) 信頼性設計の意義と設計内容（実習を含む）
- 14) ソフトウェア・ドキュメントの種類と特質
- 15) システムの評価、システム監査

【授業計画】

毎週講義終了10～15分間を使用して、小テストを実施する。

【評価方法】

小テスト、課題レポート、ならびに学期末試験にて総合評価する。

【テキスト】

図解システム設計の基礎（加藤英雄 共立出版）

情報システム論Ⅰ (情報システム開発)

西荒井学

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報システム開発の骨格ならびに開発工程における技法や問題点について、実際にシステム開発手順を実習形式にて学習していくことにより習得していく。特に、情報ファイルの設計ならびに管理の問題、中でも電子化されていく情報ファイルの問題に焦点を当てて解説していく。また、最近の電子情報の多くが、文字情報からイメージ情報にまで拡大してきている現状を踏まえ、今後の電子情報ファイルが抱える課題や将来象についても触れていく。

なお、システム開発実習については、簡単な文書データ検索システムのサブ・システム構築を事例に取り上げるが、授業では個人単位でのシステム開発実習とグループ単位でのシステム開発実習を併せて実施していく。開発実習で利用するソフトウェアは、本来、プログラム言語の利用が望ましいが、本授業ではExcelのマクロ、あるいはVBA (Visual Basic for Application) を対象とする。

- 1) システム開発の概要と意義
- 2) システム開発工程手順
- 3) 電子ファイリング・システムの必要性
- 4) 電子ファイリング・システムの機能と特徴
- 5) 画像イメージと記録媒体
- 6) 電子ファイリング・システムの適用分野
- 7) 事例：文書データ検索システムの機能と特徴
- 8) ExcelのマクロとVBAの概要
- 9) マクロの利用方法
- 10) システム開発実習1 (個人別課題)
- 11) システム開発実習2 (個人別課題)
- 12) システム開発実習3 (グループ別課題)
- 13) システム開発実習4 (グループ別課題)
- 14) システム開発実習5 (グループ別課題)
- 15) システム評価

【授業計画】

前半では、システム開発全般に関する問題について講義を実施する。後半では、受講者をグループに分け、簡単なシステムを実際に開発する。

【評価方法】

出席状況、課題レポート、実習課題の成果、ならびに学期末試験にて評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず (プリント配布)

情報システム論Ⅱ (情報ネットワーク)

野添篤毅

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

研究・教育活動を支援する大学・学術図書館における学術情報サービスの基盤となる情報ネットワークについて論じる。とくに、米国で構築されている、情報資源マネジメントを基礎とした医科大学における情報システム、そして米国国立医学図書館を中心とした医学・医療情報ネットワーク、インターネット上の仮想図書館であるデジタル図書館について考察する。

1. 学術情報資源マネジメントの考え方
 2. 情報マネジメントを基礎とした未来の図書館へのシナリオ
 3. 組織内における情報ネットワークの構築
 4. 統合型学術情報マネジメント・システムIAIMSの考え方
 5. IAIMSの実現例
 6. わが国の学術情報ネットワーク
 7. 米国の全国情報基盤構想 (NII) とHPCC計画
 8. インターネットと図書館サービス
 9. 米国国立医学図書館を中心としたデジタル情報資源サービス・ネットワーク
 10. デジタル図書館の研究開発動向
- インターネットを用いたレポートを課するので、情報科学教育センターでIDを取得すること。

【評価方法】

レポート (2回程度) および小テスト。

【テキスト】

プリントを配布予定。

情報システム論Ⅲ (大学図書館)

澁川雅俊

集中 3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

大学図書館は、世代を越えて引き継がれた知の連鎖の維持と知の蓄積の保持を伝統とし、歴史的に形成された主張と技術をその時々の知的探求の欲求に応じて革新してきた。この文脈において大学図書館は、変わらなければならない側面と、進化の様相がいかにあろうとも変わってはならない側面を合わせもっている。そして現状は、まさに転換への模索の最中にある。その転換に備えながら、大学図書館は、学術情報のロジスティクスのコンセプトの下で、伝統を継承しつつ革新的運営を図らなければならない。

【授業計画】

- 1 インTRODクドトリー・ノート
- 2 教育研究と図書館活動
- 3 大学図書館の基本機能・構造
- 4 大学図書館のシステムとマネジメント
- 5 マネジメントの基本〔1〕財源と人的資産
- 6 マネジメントの基本〔2〕資料と事務システム
- 7 多面化する大学図書館のマネジメント
- 8 大学図書館マネジメントの新しい手法
- 9 大学図書館の現状
- 10 大学図書館のダイナミックス
- 11 大学図書館の新しいパラダイム
- 12 クローヅング・ノート
- 13 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験・課題レポート・出席状況の成績によって総合的評価。

【参考文献・資料】

テキストや基本参考書はとくに指定しないが、参考文献を各セッションで配布するシノプス（講義要項）に示す

情報サービス基礎論Ⅰ

逸村 裕

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

情報化社会は社会における産業構造の変化をもたらしている。「情報」を扱う産業は、急速に増大し、社会に大きな影響力を与えている。この科目では、現代社会において特徴的な情報産業の現状を概観し、「情報」を商品化するプロセスを考察するとともに、すべての職業において進展している「情報化」の持つ意味を検討する。また進路としての情報関連産業について論じる。さらに、情報産業の事例紹介を論じ、職業倫理と勤労観についても言及する。

【授業計画】

1. 情報化社会と情報産業
2. 情報産業の概況
3. 産業と職業における情報の意味
4. 情報産業とIT化
5. 情報サービス事例1：ソフトウェア産業
6. 情報サービス事例2：メディア産業
7. 情報サービス事例2：通信産業
8. 情報サービス事例2：出版産業
9. 情報サービス事例3：図書館情報
10. 情報サービス事例4：マルチメディアリソース
11. 情報サービス事例5：情報分析・シンクタンク
12. 情報産業におけるキャリアパターン
13. 情報産業における勤労観と職業倫理

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。「インターネット講習会」を受講しておくこと。

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。
詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

情報サービス基礎論Ⅱ

逸村 裕

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス（奉仕—直接サービス）
 - A. 貸出閲覧
 - B. レファレンスサービス
 - C. 相互協力
 - D. 視聴覚資料
 - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス（資料組織—間接サービス）
 - A. 選書
 - B. 取書
 - C. 整理
 - D. 雑誌
 - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
 - A. 蔵書
 - B. 人的サービス
 - C. その他のサービス

【授業計画】

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。「インターネット講習会」を受講しておくこと

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

情報メディア基礎論Ⅰ・Ⅱ

菅野育子

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点を考え、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

1. 情報流通と情報メディア
学術情報の生産のメカニズム／学術情報の流通モデル
2. 情報メディアの分類と種類
3. 情報メディアの階層化
物理的階層／書誌的階層／機能的階層
4. 情報メディア 一次情報のためのメディア
図書（定義／出版流通過程と関連する制度／学術図書の機能）
雑誌（定義／学術雑誌の機能／雑誌論文の構成）
テクニカルレポート（定義、NTIS）
特許資料（各国の特許制度／特許情報の流通過程）
規格資料（国際規格／国内規格／標準化活動）
5. 情報メディア 二次情報のためのメディア
情報の加工（代替、編集、濃縮）／書誌／索引／抄録／百科事典
6. データベース（DB）
DBシステムの歴史／DBの種類と内容／オンライン情報
検索とCD-ROMの利用
7. 情報メディアの分析とビブリオメトリックス
ビブリオメトリックスの定義／引用分析
8. 情報流通における標準化と情報メディア
ISBN,ISSN,ISMN／SGMLタグと論理構造
9. 情報の電子化と情報メディア
電子編集と電子出版／電子雑誌／電子図書

【授業計画】

配布資料を用いて講義を行なう。

【評価方法】

出席回数と定期試験の成績で評価する。

【テキスト】

使用せず。

情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

三和義秀

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るツールの活用方法、情報メディアと情報通信（ネットワーク）技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質的問題、およびその設計・開発手法についても触れていく。

【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) 図形・画像処理とソフトウェア
- 7) 情報通信とメディア
- 8) マルチメディアと情報通信技術
- 9) ネットワーク技術とインターネット
- 10) 放送の高度化とマルチメディア
- 11) 通信の高度化とマルチメディア
- 12) インターネットとシミュレーション
- 13) インターネットでの情報の検索手法
- 14) ハイパーテキストの仕組みと本質的問題
- 15) ハイパーテキスト・システムの作成手法

【評価方法】

出席回数、レポート、および定期試験により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

情報メディア論Ⅱ（書誌情報DB構築）

上田修一

集中 3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

この授業では、まず、書誌（文献）データベースは、どのような展開をとげ、現在どのような状況にあるのか、そして、図書館情報学の中で書誌データベースの構築はどのように位置づけられるのか（なぜ書誌データベースを作るのか）を述べます。その後で、書誌データベースの作成方法について、書誌記述、主題索引法を中心に説明していきます。内容は以下の通り。

1. 書誌コントロールとデータベース
2. 書誌データベースサービス
3. 書誌データベースの作成手順
4. データ項目 演習：データ項目
5. 主題と索引法 演習：索引作成
6. 索引法 演習：索引作成
7. シソーラス
8. シソーラス作成
9. 演習：シソーラス作成

【授業計画】

集中講義。前半は講義を主体としますが、後半のデータ項目の選定、索引作成、シソーラスの作成については、授業内で簡単な演習を行ってもらいます。履修者数が実習室に収容可能であれば、Microsoft Accessを使ったデータベース作成を行います。

【評価方法】

出席は取りません。しかし出席を取るかわりに6回にわたって演習の結果の提出を求めます。また、最後に試験を行います。提出物は、A、B、C、Dの4段階で評価を行い、これに試験の成績を加味して、総合評価を行います。提出物がない場合、試験を受けない場合は評価の対象とはしません。

【テキスト】

プリントを配布します。

情報メディア論Ⅲ (医学情報メディア)

野添篤毅

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

科学分野での効果的な情報サービスを行うための基礎として自然科学分野の学術情報の発生から加工・利用までの一連の過程について学ぶ。とくに生物医学分野の学術情報の流れを中心に論じる。

1. 自然科学分野の研究の広がり
2. 科学研究活動の指標
3. 研究活動と情報活動
4. 情報の発生・加工・利用のサイクル
5. 一次情報－学術雑誌
6. 二次情報－抄録誌・索引誌・データベース
7. 主要な情報機関の活動－米国国立医学図書館
8. 文献データベースMEDLINE－入力から出力まで
9. わが国の学術情報サービスの動向
10. 学術情報サービスの最近のトピックス

【評価方法】

レポート（2回程度）および小テスト。

【テキスト】

医学文献サーチガイド 第2版（山崎茂明 日本医書出版協会 2,575円）

情報メディア論Ⅳ (人文社会情報メディア)

菅野育子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 - 3.1 美術分野
 - 3.2 音楽分野
 - 3.3 文学
 - 3.4 ビジネス分野
 - 3.5 法律分野
 - 3.6 心理学
 - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

レポートと出席度によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

情報メディア論V (科学技術情報メディア)

山崎茂明

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

自然科学領域における二次情報源としての文献データベースと一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。文献データベースの理解は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。また、学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。

1. 文献情報の世界
2. 文献調査
3. 医学情報へのアプローチ
4. 文献データベースの世界
5. 癌領域のデータベース
6. 引用索引データベース
7. 学術雑誌の歴史と生態
8. 総合科学雑誌とはなにか
9. レビュー誌とレター誌の重要性
10. 電子ジャーナルと電子出版
11. 電子情報環境と電子メディア (データベース、一次雑誌)

参考資料：

Lambert, J. 『電子時代の学術雑誌』日本図書館協会
Thompson, J.W. 『出版産業の起源と発達』出版同人
中山茂 『歴史としての学問』中央公論社
山崎茂明 『生命科学論文投稿ガイド』中外医学社

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート (授業時間内)。

【テキスト】

医学文献サーチガイド 第2版 (山崎茂明 日本医書出版協会)

情報検索演習 I

櫻木貴子

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

各種資料と情報ネットワークの現状を講義と演習で学び、情報リテラシーを修得する。ネットワークの意義と問題点を理解する。

【授業計画】

- (1) WWW、図書館、レファレンスブックを体験する。
- (2) 図書、および図書に関する書誌ないし目録データベースを演習形式で学ぶ。
- (3) コンピュータ検索とマニュアル検索の初歩を学ぶ。
- (4) 検索した情報のうち、文献情報を書誌データベース化する。

受講の前提として「インターネット講習会」と「図書館オリエンテーション」の受講が必須である。

【評価方法】

出席、レポート、試験の総合評価。

【テキスト】

なし (プリント配布)。

情報検索演習Ⅱ

伊藤真理

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

学術論文を中心として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握と検索結果に対する評価について理解する。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術論文の検索
 - 2.1 インターネット検索
 - 2.2 CD-ROM検索
3. オンライン情報検索システム
 - 3.1 JOIS
 - 3.2 DIALOG
4. テーマ検索

【評価方法】

小テストおよび期末テストと、テーマ検索のレポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅲ

菅野育子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報検索システムの効果的な活用に必要な知識と技術を習得する。各種システムやDBの検索方法を学び、システムごとの特徴や問題点を検討する。その際、書誌情報の蓄積過程（書誌記述、索引語）での問題点と、検索過程（検索方式、コマンド、検索効率）での問題点を総合的に検討した上で、システムの評価方法を習得する。

1. 情報検索システムの構築と利用
情報の蓄積と検索／情報システムの種類
2. DBの機能と特徴
 - 2-1 DIALOG／DIALINDEX
クロスファイルの機能／OneSearch
 - 2-2 DIALOG／MEDILINE（医学）
MeSH／オンライン・シソーラス
 - 2-3 STN-International／CA（化学）
抄録誌との比較／化学物質からの検索
 - 2-4 PATOLIS（特許）
LEGAL STATUS／特許引用
 - 2-5 日経ニューステレコン（経済／新聞記事）
全文DB／自然語検索
 - 2-6 DIALOG／SOCIAL SCISEARCH（社会科学）
／引用索引
引用関係による検索／ビブリオメトリクスでの利用
 - 2-7 DIALOG／LC MARC
図書検索／OPACとの比較
 - 2-8 検索エンジン
3. 情報検索システムの比較
4. 情報検索システムの問題点
レコードの質／コマンド体系／検索効率

【授業計画】

8号棟情報検索室で実習を中心に進める。受講生の理解度を確認しながら進める。最後に「情報検索システムの評価」に関するレポートをまとめる。

【評価方法】

出席回数と、小テスト、最終レポートを評価の対象とする。

【テキスト】

使用せず。

情報メディア分析論

菅野育子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

情報の生産と利用のプロセスにおいて、有効で迅速な情報流通を可能にするためには、情報の分析が重要な鍵となる。情報の効果的な分析は、情報の利用者の要求、情報提供者の目的が一致するところにあると考える。このような立場から現在行われている情報メディア分析の各種方法を検討する。

【授業計画】

- 1 データとメタデータ
- 2 メタデータと標準化
- 3 書誌記述法
 - 3.1 MARC
 - 3.2 CORC
 - 3.3 EAD
 - 3.4 MDS
- 4 主題分析
 - 4.1 分類法
 - 4.2 索引法
 - 4.3 シソーラスの活用
 - 4.4 4W法
- 5 抄録法
- 6 メタデータと情報メディア

【評価方法】

定期試験と出席率で評価する。

【テキスト】

使用せず。

情報利用論 I (情報探索行動論)

岡澤和世

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

情報社会に関する史的展開、情報と知識の性質、コミュニケーションについて論じる。焦点は、情報とは何か、利用者の住む情報社会とはどんな社会か、情報と人、文化との相互関係、アクセス権利の倫理面、データ保護、個人のプライバシー、インターネットなど情報技術がもたらす諸問題についてである。これらを情報環境との関係から概説する。

【授業計画】

- 1) 情報社会とは
- 2) 情報社会に至る史的展開
- 3) 情報と知識の性質
- 4) 情報の質と信頼性
- 5) 情報の理解とコミュニケーション
- 6) 情報、知識、文献の管理
- 7) 情報社会の特徴
- 8) 情報倫理－権利と義務
- 9) 情報倫理－知的所有権とデータ保護
- 10) 情報社会と人間
- 11) 情報と文化的問題
- 12) 情報と経済的問題
- 13) 情報と政治的問題
- 14) 情報環境
- 15) 情報教育と未来

【評価方法】

出席とレポート

【テキスト】

インフォ・リッチ：インフォ・ブア

(Trevor Haywood 岡澤和世訳 敬文堂 1997)

その他配布資料

情報利用論Ⅱ (情報探索行動論)

岡澤和世

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

教育を受けたいという強い希望、誰もが自由に情報を利用できるアクセス機会の平等を求める運動、民主主義の伝統、そして誰にも頼らない自主探索意欲が巧妙に入り混じってできたのが図書館である。そしてその理想は常に利用者の要求を満足させるところに置かれてきた。しかし、20世紀になると様々なテクノロジーが開発され、従来の図書館が大きく様変わりし始め、それに伴って情報を探す利用者の行動も変わり始めた。この講義では、情報行動について論じる。ニューメディア、インターネット、情報環境などについても概説する。

【授業計画】

オリエンテーション

1. 情報の伝達と利用
 - 1) 情報の定義
 - 2) 情報の特質
2. 科学のコミュニケーション
3. 研究活動とインフォーマル・コミュニケーション
 - 1) インフォーマルコミュニケーションの研究
 - 2) 見えざる大学
 4. 見えざる大学の調査研究について
5. 情報利用者調査と用語の説明
6. User Studyの概説とUser Studyの方法論
7. 方法の種類
8. 比較・検討
9. User Studyの調査例
10. 行政

【評価方法】

小テストで評価。

【テキスト】

情報学講義ノート<1><2> (岡澤和世 敬文堂 1990)

情報学特殊Ⅲ (情報史の探究)

村主朋英

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人類の歴史全体の中で情報が果たしてきた役割を考えるために、図書館史や情報検索の歴史を拡張・発展させ、コンピュータ史とコミュニケーション史を統合した情報史の概念を追究する。

【授業計画】

0. オリエンテーション：情報の概念／コミュニケーションの概念／歴史の概念
 1. 情報史の構造
 1. 1Stevensの情報史の概念
 1. 2情報史のモデル：情報空間の概念
 2. コミュニケーション史：洞窟絵画から／イニス／マクルーハン／コミュニケーション史の動向
 3. 情報史探求へのステップ
 3. 1歴史家による情報研究の成果
 3. 2情報史の構成要素：情報史における既存の著作／情報史の多面性
 3. 3図書館情報学の歴史と図書館情報学から見た歴史：上田修一の方法／桂英史の考え方
 4. 総合的な情報史の素描

【評価方法】

試験。

【テキスト】

歴史のなかのコミュニケーション (新曜社 税別定価 3,800円)

情報学特殊IV (情報伝達論)

五島幸一

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

コミュニケーションと称される学問領域を概観し、その基本的な概念を学ぶ。本講義で考察するコミュニケーションとは、人間が行なうコミュニケーション活動に限定し、様々な形態のコミュニケーションを見ていくことによって、その特質について検討する。

個人内コミュニケーション、対人コミュニケーション、グループ・コミュニケーション、異文化コミュニケーション、マスコミュニケーション、レトリックなど、いわゆるコミュニケーション研究として包括される領域について考察する。具体的な研究例とともに、その理論を検討し、コミュニケーションの特質を学ぶ。

【授業計画】

テキストを中心に、随時プリント教材も配付する。

【評価方法】

授業への参加度、および学期末テストにて評価する。

【テキスト】

異文化コミュニケーション (古田暁監修 石井敏・岡部朗一・久米昭元著 有斐閣)

レファレンスサービス論

長澤雅男

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館における情報サービスという広い観点から情報提供の問題を解説するが、とりわけレファレンスサービスを重点的に取り上げ、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセスのあり方について理解を深めることを主な目的とする。この科目は、「レファレンスメディア論」と相互に補完するものとして扱う。講義を中心に進める。

【授業計画】

1. 情報ニーズに応える情報サービス
2. レファレンスサービスから情報サービスへ
3. レファレンス機能に基づくレファレンス業務
4. レファレンスサービスのための情報源
5. レファレンスプロセス
6. 質問の受付から内容の確認へ
7. 質問内容の分析から探索の実行へ
8. 質問回答とレファレンスプロセスの終結
9. レファレンスサービスの組織と運営

【評価方法】

期末試験(多肢択一式問題)を予定しているが、出題形式については、試験日の1、2週間前に改めて説明する。

【テキスト】

レファレンスサービス—図書館における情報サービス (長澤雅男 丸善 2,369円)

レファレンスメディア論

長澤雅男

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

レファレンス質問の処理に役立つ情報源の種類とその特性を理解し、情報と文献の探索技術を習得できるようにするため、各種の参考図書、データベース等、探索ツールとしての印刷メディアと電子メディアの特性を解説したうえで、質問事例を用いて情報および文献の探索方法について演習を行う。

【授業計画】

1. レファレンスサービスにおける情報源/問題解決と情報源/記録メディア/参考図書とデータベース
2. 参考図書・データベース関係の情報源/参考図書の解題書誌/書誌の書誌/データベースディレクトリ
3. 図書・叢書関係の情報源/書誌/目録(所蔵目録、総合目録)/叢書合集索引
4. 逐次刊行物関係の情報源/逐次刊行物リスト/新聞雑誌記事索引/抄録誌
5. 人物・団体関係の情報源/人名事典/名鑑/人物文献索引
6. 歴史関係の情報源/歴史事典/年表/年鑑類
7. 地理関係の情報源/地名事典/地図帳/地名索引
8. 事物・事象関係の情報源/事典/便覧類/図鑑類
9. 言語・文字関係の情報源/国語辞書/特殊辞書・諺語辞書/用語索引・詩歌索引

講義と演習(主として時間外に問題回答演習を行い、レポートを提出)。

【評価方法】

レポート、期末試験(出題形式は試験日の1、2週間前に説明する)の総合評価。

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版(長澤雅男 丸善 3,296円)

資料組織論

伊藤真理

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と主題分析について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
資料の組織化;資料組織業務の位置づけ
- 第2回 目録について
- 第3回 書誌コントロール
書誌ユーティリティ
- 第4回 目録規則の標準化、統一
- 第5回 記述目録と主題目録
記述目録(1) AACR 2r、NCR
- 第6回 記述目録(2) アクセス・ポイントの選定;標目形
- 第7回 記述目録(3) 典拠管理
- 第8回 主題目録(1) 分類法
- 第9回 主題目録(2) 分類法
- 第10回 主題目録(3) 件名標目表
- 第11回 MARC
- 第12回 インターネット情報資源: CORC
インターネット情報資源の記述: Dublin Core

【評価方法】

平常点、小テスト、期末試験

【テキスト】

テキストは特に指定しない(プリント配布)

資料組織演習

岡澤和世

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間が他の動物と決定的に異なる点は、人間が時間と空間を越えて、情報を蓄積して、必要な時に再現する能力を持っていることである。それを体内（脳）だけでなく、体外の貯蔵庫（図書館）に蓄えることを学んだことである。もう一つ特筆すべき人間の知恵は、その体外貯蔵庫の中身を簡単に再現できるように整理したことである。人間のインテリジェンスの始まりであり、専門職としてのライブラリアンの誕生である。本講義では演習問題を中心に、分類と目録の目的・機能を明らかにし、現在使われている分類・目録の問題点を通して図書の実態に即した分類法を与える。

【授業計画】

オリエンテーション 図書館における図書の分類
前期の講義についての復習テスト

1. 分類とは何か（2回）
 1. 1 基本用語の整理
 1. 2 分類と図書の歴史
2. 図書分類とその基本的条件（2回）
 2. 1 分類表の種類とその特性
 2. 2 基本的条件
3. 特殊分類法（3回）
 3. 1 十進分類法
 3. 2 ファセット分類法
 3. 3 その他
4. 目録とは何か（2回）
 4. 1 目録の機能
 4. 2 目録作業
5. 現代図書館と情報サービス（2回）
 5. 1 自動目録
 5. 2 図書の検索法

【評価方法】

試験は行わない。各週毎の宿題及び作成した目録カード、小テスト、レポート、出席日数で評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

情報学講義ノート〈1〉（岡澤和世著 敬文堂 1987）
情報学講義ノート〈2〉（岡澤和世著 敬文堂 1989）
情報検索理論の基礎（中村幸雄著 共立出版株式会社 1998）
目録と分類（L.M.チャン上田修一他訳 勁草書房 1987）
図書館のサービスの再構築（M.K.バックランド 高山正也他訳 勁草書房 1994）

資料組織演習

伊藤真理

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、実習を通してより深い理解と習得を目的とする。

目録規則は、国際的な標準規則として認められている英米目録規則を用いる。主題分類法では日本十進分類法と、米国議会図書館件名標目表を取り上げる。洋書と電子情報資源を対象として、実際に書誌レコードを作成する。

【授業計画】

- 第1回 目録作業の概要
- 第2回 記述目録法
- 第3回 英米目録規則第2版（1）
- 第4回 英米目録規則第2版（2）アクセス・ポイント
- 第5回 英米目録規則第2版（3）標目形
- 第6回 主題目録法（1）分類：日本十進分類法
- 第7回 主題目録法（3）件名：米国議会図書館件名標目表
- 第8回 MARCについて（1）
- 第9回 MARCについて（2）
- 第10回 CORC（1）システムの概要
- 第11回 CORC（2）ダブリンコア
- 第12回 CORC（3）

【評価方法】

実習およびレポート提出

【テキスト】

テキストは特に指定しない（プリント配布）

図書館経営論

山本 進

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業計画】

0, オリエンテーション・図書館の経営論の意義	1回
1, 図書館館種別の経営上の問題点と管理原則	1回
2, 図書館学の五法則と図書館員の関わり	1回
3, 図書館の自由に関する宣言	2回
4, 図書館員の倫理綱領	2回
5, 図書館員と労働基準法解説	1回
6, 図書館関係法規と図書館の基準解説	1回
7, 図書館サービスの測定と評価（実例課題によるレポート提出）	1回
8, 図書館計画の立案と実例解説	2回
9, 生涯学習と図書館及び利用者教育	2回
※講義の中から関心のある事項についてレポート提出	2回

【評価方法】

期末テスト実施—記述式、前期全体の講義の中から問題を2～3問と、提出されたレポートと記述試験の採点とを併せて評価する。

【テキスト】

講義レジュメを配付する。

図書館学特殊 I

山本 進 山崎茂明 菅野育子 伊藤真理

オムニバス 3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「図書館実習」を受講するための前提科目。
各教員が実務的な内容を主としてオムニバス形式で担当する。

【授業計画】

1. 図書館の勤務時間と勤務内容
2. 図書館の職階制と司書職制度
3. 学校図書館法上の司書教諭問題
4. 統計から見た図書館の現状
5. 図書館と様々な情報サービス
6. 図書館とIT技術、メタデータ

【評価方法】

レポートとテストによる総合評価

【テキスト】

プリント配布

図書館実習

山本 進 山崎茂明 菅野育子 三和義秀

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

各図書館現場での実習を行う。

前提科目として必ず「図書館学特殊Ⅰ」を受講すること。
平成13年度は(1)から(4)それぞれ6日間程度の実習を行う。

- (1)愛知県図書館等、受入実績のある図書館での実習
- (2)北京図書館実習(北京大学および北京国家図書館、愛知淑徳大学図書館での補習実習)
- (3)愛知淑徳大学図書館での実習
- (4)自己開拓(地方の場合のみ)

それぞれには定員枠がある。詳細は図書館学特殊Ⅰ第一回講義にて述べる。

【授業計画】

実習受入先の図書館の作成した実習カリキュラムに従い、実習受入館の指導者によって行う。

【評価方法】

実習受入先の図書館の評定に基づく。

【テキスト】

実習受入先の作成した資料による。

図書館学特殊Ⅲ (児童サービス論)

堀川照代

集中 4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

わが国の公共図書館児童サービスがモデルとしてきた米国のその歴史を振り返りながら、児童サービスの意義と定義、児童資料、サービスの内容・方法などを概説し、公共図書館における児童サービスの位置づけや児童図書館員の専門性について考える。

【授業計画】

1. 児童サービスの意義
2. 児童資料の特色と選択
資料の種類と特性
資料の組織化
出版と流通 など
3. 児童サービスの業務
資料提供サービス、フロアワーク
レファレンスサービス
集会・行事、展示・PR
4. 児童サービスの方法・技術
ストーリーテリング、読み聞かせ、
ブックトーク、書評
5. 児童サービスの運営
管理運営、評価、施設・設備、
児童図書館員の役割・能力
6. ヤングアダルト・サービス
7. 各種機関との連携・協力
学校との連携・協力
幼稚園・保育所との連携・協力

【評価方法】

出席状況やレポートなどによって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

絵本と想像性：三歳まえの子どもにとって絵本とは何か
増補版(佐々木宏子著 高文堂)
児童サービス論(堀川照代編著 日本図書館協会)

生涯学習概論

古野有隣

集中 3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～
ユネスコ以降わが国における推移
生涯教育のめざすもの
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係
生涯教育と社会教育
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態
行政社会教育の主要領域
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望
生涯学習関連施設の範囲
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者
生涯学習指導者の範囲
生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

個人コミュニケーション論Ⅰ（認知心理学）

岩原昭彦

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次な情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシミュレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているのかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかを検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に解明していきたい。

【授業計画】

1. 短期記憶
2. 長期記憶
3. 潜在記憶と顕在記憶
4. 符号化・処理・作業記憶
5. 想起と忘却
6. 日常記憶
7. 知識
8. 談話認知
9. 単語認知と読み
10. 理解
11. 発話と思考
12. 言語と意志伝達

【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

個人コミュニケーション論Ⅱ (認知心理学)

岩原昭彦

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の脳の中にはさまざまな意識的・無意識的な処理過程が存在している。意識されない刺激情報も私たちの認知や行動に影響を及ぼしている。その事実やその脳内のプロセスを実験結果や脳損傷患者の症例から解き明かすことが本講義の目的である。さらに、「人間はなぜ間違いを犯すのか?」、「人間は自分のとった行動をどれほど理解しているのか?」という問題についても検討してみたい。

【授業計画】

1. 幻覚
2. 認識と失認
3. 閾下知覚
4. 自動的処理過程
5. 潜在記憶
6. 記憶障害
7. 記憶錯誤
8. 感情と認知
9. 自己と他者
10. 意志決定
11. 思考のバイアス
12. 判断のバイアス

【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

博物館概論

長谷川銕治

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

博物館とは何かからはじめて、その発達の歴史をたどり、日本と世界の博物館を概観する。

- ア はじめに…学芸員の資格、博物館学とは何かなど学習の基礎となる事項を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に「博物館」とは何かを考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の歴史を概観するにあたって、その始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの人々の文芸に対する態度の探求と博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の発原Ⅰ…王権の誇示の手段としての財宝の展示などから博物館を考える。
- カ 近代博物館の発原Ⅱ…市民革命などの動きにあわせて市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世から現代までを主要な博物館を例にとり、その特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…独立から現代までをヨーロッパの博物館と対比しつつ、その特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど、今後の博物館の形態をみずえて、新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・大陸文化の請来から床の間の普及まで
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の発原
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館
 - ・戦後の再発

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説 (長谷川銕治 戸谷印刷)

博物館概論

早川正一

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。十分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性
専門職員としての「学芸員」とは何か
博物館と美術館の発達とその時代背景
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
博物館の分類と現代性
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
博物館の相互協力と情報の活用

毎時間、入念にノートをさせる。コピーは許さない。無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。

長谷川銑治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅰ

長谷川銑治

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

博物館について、その機能、役割、組織、運営、学芸員、施設・設備、情報化、協力などにふれ、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義づけられていることを念頭におき、その機能について考える。
- イ 博物館の分類…種類別、設置者別、制度別などの分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織の状態をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…現在、学芸員のおかれている地位、実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。外国のCURATORとも比較してみる。
- カ 予算など…博物館のマネジメントについて、予算を中心に考える。
- キ 博物館の施設・設備…人文系博物館・動物園・植物園・水族館などについて、その設置基準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…博物館はもちろんのこと、大学・研究機関などとの連携について考える。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅰ

早川正一

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。

博物館や美術館の展示と陳列構造
博物館がとり扱う資料の収集と保存
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
文化財の種類と保護にかかわる諸問題
生涯学習の必要性と博物館の関連事業

毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。

博物館学論考（長谷川銹治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

長谷川銹治

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

博物館は「もの」による生涯学習の機関である。そこで、博物館資料とは何かの定義づけからはじめ、資料の取扱い方を含めて学習する。また、博物館の調査・研究についても考えとともに、文化財の保護についても考察してみる。

- ア 博物館の資料…「物」が博物館資料と位置づけられるのはどのようなことかを考え、一次資料、二次資料の具体的な内容を知る。
- イ 博物館資料の実際…資料について実技を含めて具体的に学ぶ。
- 1 資料の収集
 - 2 資料の取扱い
 - ・掛軸
 - ・古文書
 - ・和装本
 - ・やきもの
 - ・茶碗
 - ・瓦など
 - 3 資料の整理・保存
 - 4 資料の保全
- ウ 資料情報の管理…資料情報の管理についてその実際と今後の方向を探る。
- エ 調査・研究…博物館における調査と研究、成果の公表などについて考えていく。
- オ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状、実態、問題点などについて考察する。
あわせて世界遺産についても考えてみる。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義し、実技も行う。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的な事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
 2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
 3. 資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。やきもの、和装・巻子本、掛け軸その他で実習する。
 4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
 5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
 6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
 7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
- また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、準備について説明する。

【評価方法】

実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銕治）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

博物館学各論Ⅱ

川合剛

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

博物館は「もの」「ひと」「ば」という3要素で構成されるといわれている。この授業では、そのうちの「もの」＝博物館資料について、博物館の活動のなかでの役割を考える。

【授業計画】

- 「もの」に触れる実技の時間をできるだけ多くとる。ビデオなどの視聴覚機器も使って、「もの」について具体的なイメージを得ることができるようになる。
- (a) 博物館と「もの」（博物館の機能と目的、博物館資料とは何か、資料収集の方法など）
 - (b) 「もの」はどのように取り扱うのか（資料を取り扱う知識と技術—やきもの、軸もの、和本など）
 - (c) 「もの」はどのような手続きを経て博物館資料となるのか（資料を記録する技術、ドキュメンテーションなど）
 - (d) 「もの」をどのように守るのか（資料の保管と保存、防虫・防霉対策、災害対策など）
 - (e) 「もの」をどのように利用するのか（資料の活用方法—展示論に向けて）
 - (f) 調査・研究と博物館

【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出、(時間内)小テストの結果などにより評価する。

【テキスト】

『博物館学概説』（長谷川銕治 戸谷印刷）。

プリントを配付する。

【参考文献・資料】

適宜、参考となる文献、論文を紹介する。

博物館実習

長谷川鏑治

4年 通年 選択 3単位

【授業の概要】

学芸員の基本的な役割について、人文系博物館に例をとり、講義、展示演習、博物館見学などを通して、実践的に学習する。

ア 展示論……展示とは何かからはじめて、展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。

- 1 展示とは
- 2 展示のポイント
 - ・動線 ・視線
 - ・照明
 - ・温度 ・湿度
- 3 展示の施設
- 4 展示のプロセス
- 5 展示と保全

イ 普及・教育論……生涯学習が重要課題となっている現代社会にあつて、博物館が果たす役割はどんなものかを探っていく。

ウ 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。

エ 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。

オ 海外特別実習……夏休み中に希望者と海外の博物館の見学に出かけ現地で学習する。

カ 県外実習……エ、オに参加できない者は、9月に県外へ博物館の見学に出かける。

【授業計画】

授業概要の展開順にそつて講義・実習・見学をすすめる。

【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にかならず参加し、それぞれレポートを提出する。
- ・実習にあつてはすすんで学習する姿勢で臨む。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

改訂博物館学論考（長谷川鏑治 戸谷印刷）

博物館実習

秋元悦子

4年 通年 選択 3単位

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあつて、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的事例をふまえながら、学んでゆく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の実習……各自で模擬展示の計画書を作成し、展示方法やその活用を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後になう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、模擬展示の口頭発表およびその計画書で評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川鏑治）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

博物館実習

松村冬樹

4年 通年 選択 3単位

【授業の概要】

「展示」は博物館における「顔」とも評されるが、最高の広報普及活動でもある。この授業では、さまざまな施設の見学を含め、「展示」の知識と実践を学ぶ。

【授業計画】

「展示」を疑似体験できるよう「実技」の時間をできるだけ多くとる。

- (a) 「展示」とは
- (b) 展示のプロセス
- (c) 展示の実際（仮想展覧会企画）
- (d) 展示と解説
- (e) 印刷物（ポスター、ピラ、図録）
- (f) まとめ

* 1 土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。

* 2 夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。

* 3 夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。

※ * 2、* 3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

【評価方法】

出席状況は重視する。「館務実習」にむけての意欲や社会常識も評価の対象とする。

【テキスト】

『博物館学論考』（長谷川鏑治 戸谷印刷）

プリントを配付する。

下記の科目は、本年度開講しません。

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

菅野育子

卒業論文ゼミⅡ・Ⅲ

伊藤真理

図書館情報学特殊演習Ⅰ

長澤雅男

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

菅野育子

図書館情報学特殊演習Ⅱ・Ⅲ

伊藤真理

情報利用論Ⅲ（問題解決と情報活用）

田村俊作

情報利用論Ⅳ（ビジネス情報の分析）

高山正也

情報学特殊Ⅰ

情報学特殊Ⅱ

図書館学特殊Ⅱ（図書館建築）

図書館学特殊Ⅳ（書誌学）

図書館学特殊Ⅴ（メディア・センター）

文化社会学

梶谷素久

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本文化の一部となっていると思われる社会学のグローバル化（又はローカル化）について、社会学の導入期と現代を対比させていく。講義演習形式で隔週開講。

【授業計画】

- 10月・11月 スペンサーと日本社会学の形成
- 12月・1月 戦後の社会学とアメリカ化・ローカル化（1990年にUCLA、1990年代にヨーロッパの大学・大学院で教えた体験も話す。）

【評価方法】

平常点と、冬休み中に作製させる小論文による（ワープロ用紙A4で10枚=12,000字）

【テキスト】

梶谷素久著『新 社会学と日本』学文社（2002年4月1日）

【参考文献・資料】

適宜コピーを配布するほか、授業中にも示す。テキストには年表などがついているので活用すること。

スピーチ・コミュニケーション

松本雄子

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

“文化の違う人はコミュニケーションの方法が違う”とよく言われるが、どのように違うのか？ここでは「異文化間コミュニケーション」の基礎知識と、文化がどのようにコミュニケーションに影響しているのか等を講義する。

最初は「コミュニケーション学」の基礎知識に重点を置いて授業を進め、後半は文化とコミュニケーションについて講義する。

【授業計画】

講義だけではなく、ビデオやグループディスカッション等を取り入れて授業を進める。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

異文化コミュニケーション（古田暁監修 石井敏・岡部 郎一・久米昭元著 有斐閣）

ジェンダー心理学

小倉千加子

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

心理学研究において新たに発明されたジェンダーという概念を中心に取り上げる。幅広い領域にわたって問題提起を行い、短期間に蓄積された膨大な研究結果を概観する。

【授業計画】

1. 心理学におけるジェンダー概念の登場
2. ジェンダー・パラダイムとジェンダー・イデオロギの歴史
3. 性差研究とジェンダーロール・ステレオタイプ
4. ジェンダー・アイデンティティ発達と幼児期経験
5. ジェンダー・アイデンティティ-青年期の自己同一性との関係
6. 能力・学力・動機づけ
7. 女性とコミュニケーション
8. ジェンダーと精神病理
9. セクシュアリティの発達
10. 性同一性障害

【評価方法】

出席状況と試験により評価。

【テキスト】

なし

家族社会学

山本正和

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

家族を社会的な研究のレベルで理解する。従来の日本の社会学での家族研究は、制度的レベルから構造的な把握へ、さらに関係的なレベルへと展開しているが、本授業では、そうした研究史の展開に応じて、その時々の実証的研究の代表的な文献を挙げながら論議を進めたい。

1. 社会学の立場からの家族理解
2. 家族の概念・定義・分類・類型
3. 「核家族」の意味理解とその批判的論議/日本における「核家族」論の展開
4. 日本家族の研究史/「家」研究の展開
5. 地域社会の変容と家族/産業化、都市化と家族/地域政策と家族
6. 日常的な対象としての家族とその問題性/家族問題の所在

【授業計画】

テキストを使用し、できるだけその内容に従う予定だが、時間的にはテキストの総ての範囲をカバーしきれないかも知れない。講義は、論述の形で行う。

質問は、授業時でも受けつけるので積極的にしてほしい。

【評価方法】

学期末の試験による。出席は評価の材料にならないが、出席することは当然である。

【テキスト】

新しい家族社会学 (森岡清美ほか編、培風館)

キャリア発達

宗方比佐子

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講では、キャリア発達過程において多くの人が遭遇する重要なテーマを時系列的に取りあげ、各テーマに関する理論的研究および実証的研究を紹介する。また、人のキャリア発達がどのような要因によって促進され、阻害されるのかを論じ、キャリア発達に対するより深い理解を促す。

【授業計画】

- 第1講 キャリア発達とは何か
- 第2講 キャリア発達研究の歴史
- 第3講 職業選択
- 第4講 初期キャリア
- 第5講 メンタリング
- 第6講 職務満足
- 第7講 ワーク・モチベーション
- 第8講 組織コミットメント
- 第9講 職場におけるリーダーシップ
- 第10講 職業性ストレス
- 第11講 失業・転職・退職
- 第12講 キャリア発達に関する今日の問題
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績、出席状況、受講態度によって総合的に評価する。

【テキスト】

キャリア発達の心理学 (渡辺・宗方編著 川島書店)

【参考文献・資料】

Theories of Career Development 4th Eds. (Samuel H. Osipow and Louise F. Fitzgerald Allyn and Bacon)

カウンセリング

江口昇勇

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人の話を傾聴するとき、我々はその話の中から自分に都合の良い部分だけを切り取って聞いていたり、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てているというのが実際である。そうした現実を体験的に理解するために傾聴の6パターンを実習し、自分の傾聴における癖を学ばせたい。カウンセリング・マインドにおいては従来、ロジャースのいう受容、共感に力が置かれ過ぎていていると思われるので、授業では自己一致の重要性を伝えたい。

【授業計画】

- 1) 臨床心理学における方法論 (事例研究法、関与観察法、臨床心理学と統計) 研究方法の問題; 主観性の克服と現象学的接近、調査法における資料の信頼性: 「倫理綱領」臨床心理学的接近の危険性
- 2~3) 臨床心理学の理論と「人間論」について
 - <a>行動理論 (パプロフ・ハル・スキナー・ワトソン)
 - ロジャース (ジェンドリン) の人間中心療法
 - <c>精神分析 (自我心理学と対象関係論、自己心理学)
 - <d>分析心理学 (ユング派) の人間論
- 4~5) 心理査定と心理診断; 心理査定の功罪、人格病理と家族病理、社会病理の側面
- 6~8) VTR; グロリアと3人のカウンセラー; ロジャースの解説、パールズの解説、エリスの解説
- 9~10) 傾聴の各種パターンを実践する
- 11) 個人心理療法からコミュニティへ; 時代の要請の中で自分の臨床活動をたえず組み立てる。スクールカウンセラー体験、虐待のコミュニティ・アプローチ
- 12~13) 臨床心理士をめざす学生へ; 自我の野心と魂の野心、傷つきの体験、傷つき易さ、傷の深さ、トラウマと癒す力との相関性、深い傷つきが癒す力を深くする、しかし、そのためには傷の癒しが完了していることが前提となる

【評価方法】

講義終了後に試験、あるいはレポート課題を与え、それを評価対象とする。

【テキスト】

テキストは使用しない。必要な資料をその都度、授業中に配布する。

パーソナリティ論

松田 惺

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

パーソナリティとは何か、パーソナリティについての心理学研究はどのように行われているか、代表的なパーソナリティ理論は何か、パーソナリティはどのように発達するか、パーソナリティの発達に影響する要因は何か、そして自分のパーソナリティをどのように把握するか、などについて講義する。

パーソナリティのとらえ方、性格や気質との対応関係、研究方法について、具体的なパーソナリティ測定・診断のための方法を紹介しながら検討を進める。

パーソナリティ理論についても、従来の精神分析理論や認知理論、学習理論に加えて、帰属理論やモデリング理論などとの関連、文化の問題、個性的あり方の問題などについても考察したい。

また、自我像、自尊心、自己効力感など、自分自身とのかかわりの中で、パーソナリティというものを再吟味することの意味を考えたい。

【授業計画】

主として講義になるが、できるだけ講義でとりあげたパーソナリティ調査・検査等を、自分自身について実施し、自己理解を深める一助にする。

【評価方法】

テストを行う。

【テキスト】

性格心理学への招待 (詫摩武俊他著 サイエンス社 2,060円)

情報処理モデル

齋藤洋典

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の情報処理活動における記憶と感情に焦点をあて、それらに関して提起されているモデルを概観し、それによって人間についての理解を深めることを目的とする。私たちは、「何を見ても何かを思い出す」。その際に、思い出される対象は、言葉であったり、特定の状況や場面であったり、あるいはそれらに付随する感情であったりする。このように思い出すという現象そのものは、通常考えられている以上に多岐にわたるにも関わらず、思い出すという行為自体が、日常的に極めて自然に行えるために、想起を実現しているメカニズムの不思議さに気づくことは希である。

同様に文字を見て、私たちは、語の読みや意味を想起できるが、その想起の過程を意識することは、希である。本講義では、日常的な記憶と感情に関わる事例をとりあげ、それらの背後に潜む人間の情報処理活動のメカニズムに注目する。具体的には、講義の前半では人間の知的な処理活動として「読み (reading)」に焦点をあて、後半では感性や感情の関わる処理活動として「思い出」に焦点をあてる。そして、これらの情報処理活動の過程を説明するために提起されているモデルを通じて、心的活動のモデルについて再考を促す。

講義全体を通じて、具体的には・実験・調査の計画立案、データの処理、結果の解釈、モデル提起の必要性を説き、人間の知識の「つながりと広がり」、及びその「運用と意義」について考えることの重要性に触れる。

【授業計画】

講義は、実験や調査のデモンストレーションとそれによって得られるデータに基づいて、具体的事例やデータを参考に進める。このために、講義と、その理解を促すためのデモンストレーションとを講義内で併用する。

【評価方法】

デモンストレーションへの参加、講義内での課題提出など、複数の項目を総合的に評価し成績の査定を行う。

【テキスト】

参考図書を授業時間に随時指示する。

語彙と辞書 言語の科学 第3巻 (岩波書店 1997)

比較行動論

石井 澄

集中 4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ヒトの行動はどこまで動物的であり、また逆に動物にはどこまでヒトに近い能力があるのか。異なる種の生得的あるいは習得的な行動の特質を分析し、それらを比較することによって、ヒトという種が進化の過程においてどのように位置づけられるかを考える。

1. 比較行動研究の歴史：ヒトと動物の行動に関する視点の変遷
2. 生得的な行動の特質：種に特殊な行動の機構と機能
3. 学習行動の特質：ヒトのモデルとしての動物行動の研究
4. 動物の知的行動：比較認知科学の発展
5. ヒトの本能的行動：ヒューマン・エソロジー
6. 行動の可塑性と動物の「こころ」

【授業計画】

行動の特徴は視覚的に示すことによってもっともよく理解できる。そこで、重要な行動については OHP あるいは VTR を用いて解説する。

【評価方法】

最後の時間に筆記試験を行なう。

【テキスト】

使用しない。

広告・広報メディア論

大脇 錠一

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

普段日常生活の中で、毎日多くの広告に接しているにもかかわらず、大部分の諸君はその広告に関して殆ど無意識に過ごしてきたと思われる。しかし、広告は企業のコミュニケーション (CC) 活動の一環として重要な役割を担っており、企業のマーケティング活動の中核の機能を果たしている。また、パブリック・リレーションズ (PR) としての広報・広聴活動も広告とともに企業コミュニケーションの両輪を形成している。これらの関係を講義によって理解させる。

【授業計画】

<前期>

第1講企業コミュニケーション (CC) とは

- 2 CCの種類
- 3 PRと広告の違い
- 4 PRと広報の関係
- 5 広告の歴史
- 6 わが国におけるPRの歴史
- 7 CCメディアの種類
- 8 新聞・雑誌メディアの特性
- 9 ラジオ・テレビメディアの特性
- 10 その他のCCメディアの特性
- 11 パブリシティについて
- 12 受け手に与える影響
- 13 広告・広報の効果測定
- 14 今後のCCについて

* 期中に一度、予告なしでペーパーテストを実施する。

【評価方法】

出席率を30%、期中のペーパーテスト20% (実施時期は予告しない)、期末のペーパーテスト50%の割合で評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

小林太三郎・嶋村和恵監修『新しい広告』電通

ジャーナリズム論

五十川仁達

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

通信技術の進歩であらゆる分野の情報量が爆発的に増大、世界の政治・経済・社会のシステムに大きな変化をもたらしている。こうした激変する情報化社会の中で、自己を確立、自らが進むべき方向を見だしていくためには、情報を取捨選択し、それを生かす力を身につけなければならない。37年余に及ぶ編集一筋の新聞記者としての経験を踏まえ、取材と編集、企画・キャンペーンの立て方、誤報・虚報、プライバシーと報道など具体的なジャーナリズムの世界を講義する。

具体的テーマは

- ① IT革命と激動する社会
- ② 新聞小史と現状、新聞社の舞台裏・記者クラブ、報道協定、黒板協定、記者生活
- ③ 紙面編集 編集局の構成、新聞文章と紙面構成、用字・用語
- ④ 企画、キャンペーン、インタビューの実際
- ⑤ 時事問題、その裏にある民族・宗教の歴史
- ⑥ テレビ 放送メディアの変容、多チャンネル化
- ⑦ 異文化間コミュニケーション
- ⑧ 事実報道と問題点：誤報・虚報
- ⑨ 報道の倫理：報道とプライバシー
- ⑩ 情報化社会の問題点
- ⑪ クローン技術と倫理
- ⑫ ヒト最大の情報ゲノムなど

【授業計画】

講義が中心。人は、多くの問題に直面、その問題を判断し、自分で選び取って行かなければならない。情報化社会が進展、世界の出来事が私たちの日常生活にかかわってくる。このため、問題を大枠でとらえ、基本的な問題点を知り、全体的な視野で考えなければならない。基本となる問題とアプローチの仕方の一端を伝えたい。

【評価方法】

受講態度とレポート。出欠席は調査。

【テキスト】

テキストは使用せず、必要に応じてコピーなどを配布する。参考図書などはテーマに応じて紹介。

コミュニケーション専門演習2

植村勝彦

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

3年次の「コミュニケーション専門演習1」をふまえて、調査法、面接法などの、データを直接収集・分析するという実証的研究法により、卒業論文を作成することが課題と目標である。

【授業計画】

3年次末までに確定した各自のテーマに従って、調査や面接の項目を作成し、対象者を得て、実施・分析・論文作成に至るまでの全過程について、指導・助言する。

前期は、毎回個人発表を行い、進捗状況に応じての助言・指導をする。とくに調査票の完成までの段階に全力を注ぐ。

夏休み前から後期授業の開始時期にかけて調査を実施する。

後期は、各自のデータに基づき、解析の方法の解説と実践の個別指導を中心に進める。11月上旬に中間発表会を行い、12月上旬に下書きを提出してもらい、添削する。

【評価方法】

毎回の個人発表、および作成された論文によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

コミュニケーション専門演習2

宇野善康

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

この授業は、コミュニケーション専門演習1に準じてすすめます。

コミュニケーション専門演習2

江口昇勇

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

4年では便宜上、ゼミを時間的に自己探求を行うグループと臨床心理学研究を行うグループとに分けて行う。自己探求グループでは3年の延長として自己の問題に直面化し、自分が取り組むべきコンプレックスとの格闘を行う。その際、個々人の中心となるシンボルを球体アクティブ・イメージーション体験によって拡充、あるいは直接的に扱うことで発展させる。その他にも、夢の分析やカラーージュ療法、描画法、箱庭療法を用いる場合もある。臨床心理学研究を行うグループでは、これまでに、3年から継続している養護施設や障害児(者)施設における利用者とのボランティアのかかわり、あるいは絵画グループでのかかわり等であったクライアントに対して事例研究法的に接近を試みる者、調査法と臨床面接法を併用しながら臨床的テーマ(摂食障害、女性性の問題、心身症的問題等)に接近する者、実験的な手法でカウンセリング場面での治療的人間関係や転移・逆転移に焦点づけた研究を行う者等がいた。

【授業計画】

毎時間、発表者を決めて自己探求、対象研究の進行状況を報告する。事例研究の場合には、ゼミの時間がグループ・スーパービジョンの場となるし、主観性の濃い研究においては、ゼミの場でグループ検討することで客観性に近づく作業を行うことになる。なお、毎年、ゼミの時間だけでは足りなくなるので、合宿を行ったり、日曜日に登校して不足分を補うことが必ずあるので、時間に余裕を持ってない人はゼミを選ばない方が無難である。卒業論文のゼミでのめ切は12月1日となっている。

【評価方法】

ゼミでの積極的な参加態度、その都度のレポートの内容、自己に向かう姿勢、等を考慮する。何より自己に向かう姿勢は自ずと外に現れるものであり、自分に甘くなれば当然見えてくるものも見えなくなるので、成績評価は教員によるばかりでなく、むしろ自己申告する形となる場合が多い。

【テキスト】

その都度、指示する。

コミュニケーション専門演習2

遠藤雄久

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

前期中は各自の卒業研究についての発表を中心に進める。発表は前週に作成し配布したレジュメにもとづいて行う。レジュメの作成、発表の技法にも習熟するよう努める。後期は、論文完成のための個人指導を行う。

【授業計画】

- (1)メディア論文購読1
- (2)メディア論文購読2
- (3)メディア論文購読3
- (4)各自研究テーマ発表
- (5)論文作成の指導
- (6)各自研究テーマ発表・指導
- (7)各自研究テーマ発表・指導
- (8)各自研究テーマ発表・指導
- (9)各自研究テーマ発表・指導
- (10)各自研究テーマ発表・指導
- (11)各自研究テーマ発表・指導
- (12)各自研究テーマ発表・指導

【評価方法】

平常の研究態度によって評価する。

【テキスト】

使用しない。

コミュニケーション専門演習2

斎藤和志

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

3年次の「コミュニケーション専門演習1」で計画立案した卒業研究を実行に移し、対人行動に関する研究知見を卒業論文としてまとめあげることを最終的な目標とする。各学生は、明確な問題意識と自覚をもって自主的に研究活動に取り組みなくてはならない。

各学生の進度に応じて進める。学生の自主性を尊重する。

【授業計画】

1. 問題意識の明確化と目的の具体化および研究方法の検討
2. データの収集およびその分析
3. 結果の考察と卒業論文の作成

【評価方法】

卒業論文作成の過程と成果によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

コミュニケーション専門演習2

清水 遵

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

3年次に計画した実験について発表、討論を行い、卒業論文完成のための指導をする。

実験では、脳波、心電図、呼吸、筋電図、皮膚電気活動、血圧などの電気生理学的指標を用いるが、これに加え、近年、心理学の分野でも注目されてきている精神内分泌物質（ホルモン等）を指標として用いる。

【授業計画】

以下の研究テーマのうち、同領域のテーマをもつ3～4人を1グループとし、グループ単位で研究指導する。

1. 環境の快適性に関する研究
 - 香りの感情に及ぼす影響
 - 音（音楽）の感情に及ぼす影響
 - 色（照明）の感情に及ぼす影響
2. アニマルセラピーが高齢者の感情コントロールに及ぼす効果
3. オーディオ・ビジュアル通信コミュニケーションにおける信号遅延の影響

【評価方法】

研究に取り組む姿勢および卒業論文で評価する。

【テキスト】

使用しない。

コミュニケーション専門演習2

杉本助男

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

卒業研究のための実験計画を立て、同時に関連論文を購読する。卒業論文のテーマは下記から選択する。

1. 誘発電位の個人差と行動特性
2. コーヒー、香りなどの鎮静、覚醒効果に関する生理心理学的研究
3. 感情と顔面表情との関係に関するポリグラフ研究
4. 対人同調のポリグラフ研究
5. 睡眠や生体リズムに関する生理心理学的研究
6. 脳障害部位と行動特性に関する臨床神経心理学的研究
7. 脳の老化と行動特性に関する臨床神経心理学的研究

【授業計画】

上記テーマについての実験を遂行し、その結果の分析を行い、卒業論文へとつなげていく。

【評価方法】

実験計画、結果の分析等から評価する。

コミュニケーション専門演習 2

西出隆紀

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

3年次の内容を更に発展させて、心理臨床に必要な知識と技術を身につける。

また、卒業論文を作成するために、文献収集や研究法などの基礎を学び、実際にデータを収集して分析・考察をする。

【授業計画】

<前期>

1. 卒業論文指導

卒業論文の作成に向けて、各人が興味を持つ内容に関する論文をレポーター形式で発表してもらい、討論をする。

2. 体験実習

投影法を中心に心理臨床、特に病院臨床分野に必要な検査の実習を行う。

<後期>

1. 卒業論文指導

各自が卒業論文作成の進行状況をまとめて報告し、参加者全員で問題点などを討議しつつ、よりよい論文作成を目指す。おおよそ各自の発表は以下の過程をたどることになる。

1. 問題意識と研究目的の検討
2. 研究方法の検討
3. 結果と考察の検討
4. 論文提出前の全体的検討
5. 執筆した卒業論文の発表

【評価方法】

出欠と授業態度を中心にして成績評価する。

【テキスト】

その都度指定。

コミュニケーション専門演習 2

古井 景

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

3年次のコミュニケーション専門演習1によって獲得された知識、理論構築能力、言語的表現能力を屈指し、それぞれが挙げた検討課題について卒業論文という形でまとめ上げる。学問とは、自ら問い・自ら学び、そこから得られた知識を智慧とし、人生の糧とするものである。単なる事務的作業では、許されない。

【授業計画】

参加者全員での文献講読・討論を中心とし、必要に応じて卒業論文作成のための個別指導を行う。

【評価方法】

まとめられた卒業論文を基に評価する。

“学士”の称号を得るにふさわしい論文でなければ、評価の対象とはならない。

【テキスト】

使用せず。

コミュニケーション専門演習2

吉崎一人

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

卒業研究完成を目指す。
各自自分のテーマにそって、実験を実施し分析する。自分の研究に関連する文献を購読し、発表する。

【授業計画】

各自卒業研究の進行状況並びに、関連論文の紹介を行う。

【評価方法】

授業への出席状況、卒業研究論文、卒業研究に取り組む姿勢、研究結果のプレゼンテーションを総合的に評価する。

【テキスト】

心理学 実験・研究レポートの書き方 (B・フィンドレイ著 細江・細越 訳 北大路書房 ¥1,300)

応用コミュニケーション1

斎藤和志

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

対人行動について、コミュニケーション学科在籍4年間で学びとったことを、「小論文」という形にまとめあげることがこの演習の目的である。各学生は、自覚をもって自主的に研究活動に取り組みなくてはならない。

各学生の進度に応じて進める。学生の自主性を尊重する。

【授業計画】

1. 問題意識の明確化と小論文の方針決定
2. 資料データの収集とその整理・分析
3. 全体的考察と小論文の作成

【評価方法】

小論文作成の過程と成果によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

応用コミュニケーション2

遠藤雄久

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

メディアを批判的に読み解く「メディア・リテラシー」を身につけることを目的とする。テキスト『新版 現代文化を学ぶ人のために』の講読を中心に各自の研究テーマを確定するよう指導する。

【授業計画】

テキスト『新版 現代文化を学ぶ人のために』の
第6章 ジャーナリズムのまなざし—客観報道と好奇心
第7章 映像化社会の成立と映画の変容
第9章 ポピュラー音楽へのアプローチ
第12章 「私らしさ」の神話

—ファッションという制度—

第13章 スポーツと日常生活に見る滑走感覚
第15章 愛と性をめぐる文化
以上の六つの章のうち各自の関心のあるものを選んで熟読し、それぞれレジメを作成する。レジメをもとに発表を行う。これを通じて小論文のテーマを確定するよう指導する。

また、その時々メディアに関連したトピックスを資料に作成し配布し、メディア論的視点から解説を加え全員で論議を深める。

【評価方法】

小論文の内容で評価する。

【テキスト】

新版 現代文化を学ぶ人のために (井上俊編 世界思想社)

応用コミュニケーション3

西出隆紀

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

各自のテーマに基づいた小論文作成のための指導を行う。各自関心のある心理学的テーマを取り上げ、小論文にまとめる。毎週数名が発表者となり、参加者全員の討議でその小論文がより良いものになることを目指す。

【授業計画】

演習形式で進める。小論文作成に関わるので、欠席は殆ど許されないと考えてほしい。

おおよそ各自の発表は以下の過程をたどることになる。

1. 関連論文の紹介
2. 問題意識と研究目的の検討
3. 研究方法の検討
4. 結果と考察の検討
5. 執筆した小論文の発表

【評価方法】

出欠・授業態度と小論文の出来で評価する。従って受講は小論文の指導を受けようとする学生に限る。

【テキスト】

その都度指定。

応用コミュニケーション4

江口昇勇

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

自己探求を目的とし様々な臨床心理学的接近を試みる。この授業は江口小ゼミにおける自己探求の総仕上げの場として位置づけられている。小ゼミでは自主ゼミながら3年次と4年前期までに様々な状況を想定しての自己紹介、感受性訓練、F-C-C-D（円枠家族描画法）による家族力動の解明、言語連想検査と自分史による個人分析を行ってきており、この授業だけを単独で受講すると理解しづらいことがあるので承知しておくこと。この授業ではこれまでの作業で明らかになっている個人のコンプレックスの解消、あるいは克服に向けた作業が球体アクティブ・イマジネーション体験を用いて行うことになる。授業の一部で、ドリーム・ワーク＝（夢を参加メンバーで共有する作業）を行う予定であるので、受講生には夢の記録が義務づけられている。

【授業計画】

ここでは3年からの一連の作業を紹介する。授業では最後の部分を実践することになる。(1)ゼミのオリエンテーション、(2)様々な状況を設定しての自己紹介、(3)感受性訓練、(4)F-C-C-D（円枠家族描画法）を通じて家族力動を探る、(5)言語連想検査によりコンプレックスを探る、(6)自分史により個人分析を行う、(7)球体アクティブ・イマジネーション体験によるコンプレックスの克服、離脱をさぐる。実践中心の講義であるため、欠席が続くと自分の居場所がなくなり、参加しにくくなる。自己理解という作業は「苦勞した分だけ自分のものになる」ということが鉄則である。逃げたり、手を抜けばどこまでもそれは可能であるが、それでは意味を失うだけで時間の無駄となる。

【評価方法】

ディスカッションにおける発言内容、応答における積極的姿勢、レポート課題によって評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。必要なものはコピーを配布する。

【参考文献・資料】

なし。

応用コミュニケーション5

吉崎一人

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

小論文の完成を目指す。

【授業計画】

自分の研究に関連する研究の論文を購読する。実験計画、実施の指導、小論文執筆指導を個別に行う。

【評価方法】

小論文と卒業研究に取り組む姿勢で評価する。

【テキスト】

心理学 実験・研究レポートの書き方（B・フィンンドレイ著 細江・細越 訳 北大路書房 ¥1,300）

応用コミュニケーション6

杉本助男

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情動表出と認知、情動刺激の学習等に及ぼす効果などの論文を購読し、以下のようなテーマについて、実験研究、質問紙研究、または文献研究を行い、小論文を作成、提出する。

1. 顔の非対称と行動特性や感情に関する研究
2. 香りの人に及ぼす効果の生理心理学的研究
3. 睡眠と行動特性に関する生理心理学的研究
4. 生体リズムに関する生理心理学的研究
5. 脳と人間行動に関する文献研究

【授業計画】

各自の選んだテーマに関する論文を購読し、そのテーマに関して具体的研究計画を立て、研究を遂行する。

【評価方法】

論文購読、研究計画、小論文の内容等から評価する。

応用コミュニケーション7

清水 遵

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

複雑で激変する現代社会にあつて、われわれが如何に安定した生活を営んでゆくかの問題をストレスに焦点を当て論じ、小論文完成のための指導をする。

【授業計画】

授業を前半と後半に分け、前半講義したテーマの論文を宿題と課し、後半はそれらに関して各人にレポーター形式で発表させ、討論することで小論文のテーマを決定する。

1. ストレスの仕組み
生理的メカニズム
心理的メカニズム
2. ストレスの反応と対応
生理的ストレス反応の測定法
心理的ストレス反応の測定法
3. 生活とストレス
家族のストレス
学校のストレス
職場のストレス

【評価方法】

小論文で評価する。

【テキスト】

配布プリント。

応用コミュニケーション8

古井 景

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

大学生として獲得された知識、理論構築能力、言語的表現能力を屈指し、それぞれが挙げた検討課題について小論文という形でまとめ上げる。学問とは、自ら問い・自ら学び、そこから得られた知識を智慧とし、人生の糧とするものである。単なる事務的作業では、許されない。

【授業計画】

精神力動論に関する文献講読・討論を中心とし、併せて、事前に作成された各自の小論文に対して、さらに内容を深めて完成させるための個別指導を行う。

授業履修時点までに各自で小論文を作成しておくこと。4年後期第一回目の授業開催時を『第1回小論文提出期限』とする。各自必要に応じて、担当教員（古井）と連絡を取り小論文作成に勤めること。

【評価方法】

まとめられた小論文を基に評価する。

小論文といえども“学士”の称号を得るにふさわしいものでなければ、評価の対象とはならない。

【テキスト】

使用せず。

教職入門

小木曾通男

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業計画】

1. 東西の優れた教育者を取りあげ、教育とは何か、教育者とは何かを考える契機とする。
2. 近代市民社会の教育需用の増大と教育養成についてイギリス、アメリカにおける教員養成の概要及び日本における教員養成を歴史的に概観する。
3. 社会構造の変化の著しい現代社会における教員への期待について、地域構造、家族構造、職業構造等の変化に伴い教員の役割の変化と多様化・個性化した保護者・生徒の教員への期待と変化への対応を考える。
4. 中学校、高等学校における望ましい教員像とは何かを学級担任、教科担任、部活顧問、進路指導、生徒指導において各人の体験をもとに考えてみたい。
5. 信頼される教員とはどんな教員か、生徒の人間性の尊重とは何か、生徒との望ましいコミュニケーションのあり方を考えてみたい。
6. 21世紀の教育を担う教員の在り方を求め、社会の進歩と変化に対応する不断の研修と教育技術の開発により、常に新鮮な教育を行う努力は教員にとって不可欠であることを理解する。

【評価方法】

授業中にテキストに添付した用紙に記載する感想文とレポートによる総合評価とする。

【テキスト】

「教職入門」200円

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教職入門

梅村敏郎

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業計画】

- 1 教師像の変遷
- 2 現代の理想的教師像
 - (1) 教科指導者としての教師
 - (2) 特別活動の指導者としての教師
 - (3) 教師とカウンセリング
 - (4) 学級経営者としての教師
 - (5) 教師と校務
 - (6) 共生社会における教師の仕事
- 3 家庭人としての教師
- 4 市民としての教師
- 5 子どもの未来を開く魅力ある人間としての教師
- 6 まとめ

【評価方法】

単に筆答試験によらず、授業中の発言、質問、出席回数、レポート等によって多面的に評価を行う。

【テキスト】

特定の書物を教科書として使用しない。参考書は授業中に適宜紹介する。

教師論

佐藤実芳

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度
 - (1) 戦前の教員養成
 - (2) 戦後教育改革と教員養成
 - (3) 教職課程の仕組
 - (4) 教員の採用
2. 種々な教師に学ぶ
 - (1) 大学生の教育実習
 - (2) 新採用教員の一年
 - (3) 個性的な教師
 - (4) 苦悩する教師
 - (5) 聾学校の教師の挑戦
3. 教師物語に学ぶ

【評価方法】

レポート、受講態度などにより総合的に評価する。

教育原理

佐藤実芳

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。本講義では、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 教育とは何か
3. 人間と教育
 - ・動物学からみた人間の特殊性
 - ・人間の成長と環境
 - ・教育の重要性
 - ・人間形成の場
4. 教育の本質
 - ・注入主義
 - ・開発主義
5. 教育の目的
 - ・教育目的とは
 - ・教育目的の歴史の変遷
6. 現代の教育

【評価方法】

定期試験、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

教育原理—教育の目的、方法、制度—（七訂版）（教師養成研究会編著 学芸図書）

教育原理

五島敦子

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。本講義では、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業計画】

1. 教育とは何か
 - (1) 生物としてのヒト
 - (2) 発達と環境
 - (3) 教育と教化
2. 学力とは何か
 - (1) 発達観と教育計画
 - (2) 病める学力
 - (3) 新学力観
3. 教育の目的
 - (1) 教育の目的と目標
 - (2) 教育の方法
 - (3) 教職の専門性
4. 子どもの権利と現代の教育問題
 - (1) 子どもの権利の発見
 - (2) いじめと不登校
 - (3) 社会的弱者のための権利保障

【評価方法】

定期試験、レポート、受講態度による総合評価

【テキスト】

やさしい教育原理 (田嶋一他著 有斐閣アルマ)

教育思想史

梅村敏郎

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなくて、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業計画】

- 1 教育思想史を勉強することの意義
- 2 コメニウス
- 3 ルソー
- 4 ペスタロッチ
- 5 フレーベル
- 6 デューイ

【評価方法】

評価はレポートの提出、あるいは資料持ち込み自由の試験による。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。参考文献は授業中に適宜紹介する。

欧米教育文化史

江藤恭二

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」とは具体的に何を意味するのか、という点に焦点をあて、欧米教育・文化の全体的・構造的な変遷過程に着目しつつ、比較教育史的なアプローチを試みる。

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育・文化
3. ルネサンスと宗教改革
4. 近代教育・文化の生誕と展開
5. 啓蒙思想と教育
6. 市民革命期の教育思想
7. 産業革命と教育

【授業計画】

講義方式、時折、欧米文化に関する Video 教材を用いる。

【評価方法】

試験又はレポート。

【テキスト】

西洋近代教育史（江藤他編 学文社 2,300円）

教育心理学 I

富安玲子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達を概観し、発達課題について考えると共に、障害のある幼児、児童、生徒への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とした。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害のある幼児、児童、生徒の理解と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ／
 - 原因帰属をめぐって／知的好奇心の喚起／
 - 報酬の意味／目標のありかた

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学Ⅱ

富安玲子

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間を発達可能性をもつ存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めると共に、自分自身の自己形成のプロセスへの関心も深め、自己理解を促進していくことも視野に置いて学んでいく。

【授業計画】

- 1 教職課程の中での発達の心理学
－発達の心理学を学ぶ／発達の心理学から学ぶ－
 - (1)教育の対象者への理解
 - (2)教育対象の理解から自己理解へ
 - (3)発達の可塑性（可変性）の存在と限界
 - (4)青年期の意味
- 2 発達と学習
 - (1)発達を規定する要因 (2)成熟と学習
 - (3)発達の個人差 (4)発達と教育
- 3 自己意識の発達
 - (1)「自分」の諸相
 - (2)乳児期 「自分でない」世界の認識から
 - (3)幼児前期 第一「反抗」期
 - (4)幼児後期 自我と他我
 - (5)児童期 他律的規範への順応
 - (6)青年期 第二の誕生／アイデンティティの確立
 - (7)成人期以降
- 4 生涯発達の視点と生き方
－自分探しの旅と人間関係－

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

加藤文字

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

障害児についての基本的理解をし、障害児の教育的環境、福祉施設の役割などの実情を理解する。また、就学指導の仕組みを理解し、特殊教育の現状と課題を認識するとともに、基本的には人間尊重の精神を涵養する。

【授業計画】

- 1 心身障害児の理解
 - ・「心身障害児理解のために」 VTR視聴（感想文）
 - ・心身障害児と家族の関係 VTR視聴（感想文）
- 2 心身障害児の種類と程度
 - ・心身障害児とは
 - ・学校教育で対象とする障害児と児童福祉施設で対象とする障害児
 - ・視覚・聴覚・肢体不自由・病虚弱児の障害の程度と発生原因
 - ・知的障害児の障害の程度と発生原因
 - ・言語障害・情緒障害・重度重複障害児の教育的環境
- 3 心身障害児の早期教育、後期中等教育の重要性
 - ・なぜ早期発見、早期教育が必要か
 - ・社会自立に向けた後期中等教育の現状
- 4 心身障害児の就学指導の仕組み
- 5 心身障害児（者）教育の歴史
 - ・心身障害児（者）教育を開拓した人々
 - ・心身障害児（者）教育の歴史の変遷
- 6 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

教育制度

佐藤実芳

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
 - ・大学の成立
 - ・中等学校の成立
 - ・初等学校の成立
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育制度
5. 教育法規
 - ・教育法規とは
 - ・日本国憲法
 - ・教育基本法
 - ・学校教育法
 - ・学校教育法施行令
 - ・学校教育法施行規則
 - ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律
 - ・その他
6. 外国の学校教育制度

【評価方法】

定期試験、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

教育原理—教育の目的、方法、制度—（七訂版）（教師養成研究会編著 学芸図書）

教育制度

五島敦子

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業計画】

1. 教育制度の概観
 - (1) 教育段階とその課題
 - (2) 学校教育制度の類型
2. 学校教育制度の起源
 - (1) 学校の登場
 - (2) 近代学校の性格
 - (3) 初等学校・中等学校の成立
3. 戦後日本の学校教育制度
 - (1) 戦後教育改革と戦後新教育
 - (2) 高度経済成長と教育爆発
 - (3) 現代日本の教育改革
4. 諸外国の教育制度
 - (1) 先進国
 - (2) 発展途上国
5. 教育法規

【評価方法】

定期試験、レポート、受講態度による総合評価

【テキスト】

やさしい教育原理（田嶋一他著 有斐閣アルマ）

比較教育論

渡辺かよ子

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあつて、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は、自らが社会問題であると共に、貧困や不平等など現代の社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

【評価方法】

試験とレポート。

【テキスト】

比較教育学の理論と方法（シュリーバー編著 東信堂）

【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著 東信堂）
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）
多文化教育（中島智子編著 明石書店）
学歴社会 新しい文明病（ドーア著 岩波書店）
外国の教科書と日本（吉沢柳子著 丸善ブックス）
比較高等教育論（アルトバック著 玉川大学出版部）
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）
情報消費型社会と知の構造（中西新太郎 旬報社）
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著 中公新書）
教育の比較文化誌（石附実著 玉川大学出版部）

教育課程

渡辺かよ子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）を学習する。なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. カリキュラム研究の歴史
2. カリキュラム研究の理論
3. カリキュラムと社会
4. 教科カリキュラム開発
5. 総合的学習カリキュラム（国際理解教育・情報教育・環境教育）
6. カリキュラム研究と教師
7. カリキュラムと評価
8. 発達とカリキュラム

【評価方法】

レポート、学期末試験

【テキスト】

【新版】カリキュラム研究入門（安彦忠彦編 勁草書房）

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領（文部省）
高等学校学習指導要領（文部省）
学びのためのカリキュラム論（グループ・ディダクティカ編 勁草書房）
教育課程 カリキュラム入門（柴田義松 有斐閣）
“実践に学ぶ”特色ある学校づくり 全6巻（教育開発研究所）

国語科教育法Ⅰ

佐々木亜紀子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

中学校学習指導要領には、「国語」の教科目標として、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」とある。この目標を正しく理解して、高等学校あるいは中学校生徒にいかにかを教えるかを考える授業にしたい。具体的には、教材研究の方法、学習指導案の作成方法、板書方法、授業の進め方、評価の方法などを学び、教育現場に対応し得る力を養う。

【授業計画】

1 講 導入

国語科教育の概観

新・学習指導要領における国語科教育の目標

2 講 学習指導案の作成方法

3～5 講 「論説文」(中学校)の学習指導

(教材研究・指導案・授業・評価などの方法)

6～8 講 「評論」(高等学校)の学習指導

(同上)

9～10 講 古典導入教材の学習指導 (中学校)

(同上)

11～12 講 古典導入教材の学習指導 (高等学校)

(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

実践的国語科教育法—新・学習指導要領準拠—

(原國人編 新典社 2,000円)

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編

中学校学習指導要領解説 国語編

国語科教育法Ⅱ

佐々木亜紀子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、中学校において、国語を正確に理解し、適切に表現する能力を高めるためにどのような授業を行えばよいか、中学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

1 講 導入

新・学習指導要領における中学校の国語科教育

2～4 講 「論説文」教材の学習指導

(教材研究・指導案・授業・評価などの方法と模擬授業)

5～8 講 「物語」「小説」教材の学習指導

(同上)

9～12 講 「詩」「俳句」「短歌」教材の学習指導

(同上)

13 講 「言語活動例」を用いた学習指導

(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

実践的国語科教育法—新・学習指導要領準拠—

(原國人編 新展社 2,000円)

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領解説 国語編

国語科教育法Ⅲ

佐々木亜紀子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語への関心を高め、表現力を伸ばし、日本の文化と伝統について理解を深める総合的な国語教育の在り方を求め、高等学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

1 講 導入

新・学習指導要領における高等学校の国語科教育

2 講 『国語表現』の学習指導

(教材研究・指導案・授業・評価などの方法と模擬授業)

3 講 『国語総合』現代文教材の学習指導

(同上)

4～8 講 『国語総合』古文教材の学習指導

(同上)

9～13 講 『古典』漢文教材の学習指導

(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

実践的国語科教育法—新・学習指導要領準拠—

(原國人編 新展社 2,000円)

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編

英語科教育法Ⅰ

松本青也

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 機能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史（日本）
9. 教授法の歴史（外国）
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. 〈模擬授業〉指導過程の構成
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

【テキスト】

未定。

英語科教育法Ⅱ

宮田 修

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばよいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

【授業計画】

2時間：学習指導案の書き方と実際の授業。

1時間：中学校の授業の進め方、テクニックをビデオを用いて研究。

10～11時間：班ごとに模擬授業を行い、コミュニケーション能力を育成する効果的な授業方法を研究する。

数名で一つの班を構成し、中学校の教科書の中から適切な教材を選び出し、50分の授業を行う。準備は教材選びから始まり、各班ごとに授業の進め方を研究し、学習指導案を作成する。授業実践のあと授業を批評しあい、よりよい授業を工夫していく。

【評価方法】

出席状況、模擬授業の取り組み方、研究態度を大きく評価する。さらにレポートを課し、学習指導案の作成、授業研究を評価する。試験は実施しない。

【テキスト】

なし。

英語科教育法Ⅲ

宮田 修

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼をおいて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようなにするか、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

【授業計画】

2時間：学習指導案の書き方と実際の授業。

1時間：高等学校の授業の進め方、テクニックをビデオを用いて研究。

10～11時間：班ごとに模擬授業を行い、コミュニケーション能力を育成する効果的な授業方法を研究する。

数名で一つの班を構成し、高等学校の教科書の中から適切な教材を選び出し、50分の授業を行う。準備は教材選びから始まり、各班ごとに授業の進め方を研究し、学習指導案を作成する。授業実践のあと授業を批評しあい、よりよい授業を工夫していく。

【評価方法】

出席状況、模擬授業の取り組み方、研究態度を大きく評価する。さらにレポートを課し、学習指導案の作成、授業研究を評価する。試験は実施しない。

【テキスト】

なし。

道徳指導法

加藤文子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
 - ・ 明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
 - ・ 戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際
 - ・ 道徳教育の目標
 - ・ 道徳教育の内容
 - ・ 「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・ 「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
 - ・ まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する。

特別活動指導法

小林春治

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業計画】

1. 教育課程の位置と目標
特別活動は、各教科、道徳とともに教育課程を構成する領域の一つであり、これらそれぞれの充実と相まって、中学校・高等学校の教育目標を達成することができることを学習する。
2. 戦後の教育状況と教育改革
敗戦直後の教育状況と教育基本法・学校教育法の施行（六・三・三制の実施）にいたる大要を、GHQのとった教育政策にも注目しながら学習する。
3. 特別活動の変遷
特別活動の変遷を中学校・高等学校の学習指導要領を通して論じ、その社会的背景についても具体的な資料に基づいて学習する。また、平成12年度から移行措置がとられている新しい学習指導要領にも言及する。
4. 特別活動の基本となる指導法
中学校の学級活動、高等学校のホームルーム活動が、生徒会活動、学校行事などと相互に関連していることの学習を通して、これらの集団生活の在り方、心身ともに健康で安全な生活習慣の形成などを基本にした指導法を、現状にも注目しながら考察する。

【評価方法】

期末試験の成績とレポートの評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 特別活動編
(文部省 東山書房 予価130円)
特別活動指導法 資料編
(小林春治 三祐堂)

学級経営

小木曾通男

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業計画】

1. 学級（ホームルーム）の歴史的外観
明治以来今日まで、学級（ホームルーム）がどのように位置づけられてきたかを、欧米と比較しながら概観する。
2. 学級（ホームルーム）の編成
現在の中学校・高等学校の学級（ホームルーム）の編成は、どのように行なわれているか、その長所と短所は何かを学習する。
3. 学級（ホームルーム）の組織と活動
現在の中学校・高等学校の学級（ホームルーム）の組織と役割について、様々な事例を取り上げ学習する。
4. 学級（ホームルーム）担任の仕事
 - (1) LT STの運営
 - (2) 生活指導
 - (3) 進路指導
 - (4) 教育相談

【評価方法】

授業時に提示する感想文、小テスト及びレポートによる総合評価

【テキスト】

必要な資料をその都度配布する

【参考文献・資料】

その都度指示する

教育方法

霜田一敏

2年 前・後期 必修 2単位

【授業の概要】

今日、親も教師も子どもの本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、一人一人の子ども理解を深め、子どもの立場に立つて教材を開発し教育課程を組み、授業を構想して実践できる力量が求められている。そのような力量を培う教育方法を解明する。

I. 人間回復の学力と教師のあり方を学力論と教師論の検討から具体的に明らかにする。更に、II. 子どもの思考の発展をめざす授業 III. 自主的な学習を育てる学習指導 IV. 子どもの側に立つ指導技術 V. メディアの進歩と新しいリテラシーの育成 VI. 個を生かす学習集団 等について学習者の立場に立つて、幅広く教育方法を究明したい。

【授業計画】

テキストを中心に、ビデオ教材や学生同士の討議を入れた参加型授業形態で行う。学生からのミニレポートによる授業評価を生かしながら講義を進めたい。

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論（霜田一敏著 明治図書 2,370円）

教育方法

東浦信博

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

前半では、教育方法を歴史的に概観するとともに、学習指導の様々な形態を学ぶ。また、学力や教育評価についてもふれる。後半では、視聴覚教育の手法を学ぶ。

【授業計画】

1. 教育方法の歴史的概観
 - (1) 古代ギリシャの教育
 - (2) 古代ローマの教育
 - (3) 中世ヨーロッパの教育
 - (4) 近世から現代の教育
 2. 学習指導の原理
 - (1) 教育課程・学習指導要領
 - (2) 学力
 3. 教育評価
 - (1) 教育評価の意義・目的・歴史的概観
 - (2) 学習評価の方法・種類
 4. 視聴覚教育
 - (1) 戦前の視聴覚教育と戦後の視聴覚教育
 - (2) 教育工学の手法
 - (3) ニューメディアと教育
 - (4) 視聴覚教育メディア各論
 - (5) 放送教育
 - (6) コンピュータと教育
- 講義中心。OHP・ビデオ等AVメディア使用。

【評価方法】

資料持込不可の論述式定期試験。

【テキスト】

教育の方法、技術を学ぶ。(福村出版 ¥1,700)

生徒指導 (進路指導を含む)

加納篤憲

2年 前・後期 必修 2単位

【授業の概要】

生徒指導を生徒の管理監督、青少年非行の防止といった消極的な視点からとらえるのではなく、正しい人間観(生徒観)に基づいて生徒の健全な育成、個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導を基本とする。なかでも進路指導については、その理念及び目的を、学習指導要領に基づいて具体的に学習する。こうした学習をとおして生徒に接する教師の在り方についても具体例を示して指導する。

【授業計画】

1. 旧約聖書・新約聖書における人間観(アダムとイブなど)、カントの人格主義における人間観、法然・親鸞はじめその他先哲の人間観を学習する。
2. 戦前の「修身・教育勅語」、昭和初期にはじまる「軍国主義教育」の生徒指導と戦後の「民主主義教育」による生徒指導に視点をあて、その歩みを概観する。
3. 現代社会における社会構造の変化に注目し、社会学的視点から新しい教育観と社会集団のもつ教育機能の変質のなかで、生徒指導が果たす役割を青少年非行と矯正教育の現状にも注目しながら、中学校・高等学校における教育の現状と問題点を考える。
4. 進路指導の基本理念及び目的と内容を学習するなかで、中学校・高等学校における進路指導の現状と問題点に触れながら教師の在り方を、教育相談・カウンセリング・進路情報などを通して、具体的に学習する。

【評価方法】

期末試験の成績と小テスト、レポートの評価及び出席率を統合する

【テキスト】

生徒指導講義ノート(小木曾通男編 250円)

教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
 - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
 - ・教師－生徒の相互影響過程
 - ・生徒理解
3. 教育相談
 - ・学校における教育相談
教育相談の位置づけ
教育相談の特質
 - ・教育相談の進め方
カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
 - ・適応と不適応
 - ・問題行動のとらえ方とその対応
 - ・学校への不適応を考える
 - ・非行・いじめを考える

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

カウンセリング

富安玲子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

我々が人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。そうした事実を体験的に理解するために試行カウンセリングを行い、傾聴の際の学生が陥りやすいタイプを学ばせたい。従来、ロジャースのいう受容、共感、自己一致の中でも受容と共感に力点が過重に置かれすぎてきたように思われるので、自己一致の重要性を伝えていきたい。

【授業計画】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていきたい。

1. 教育相談とカウンセリング
- 2・3. カウンセリングにおける人間理解
 - －カウンセリングの歴史と理論－
4. 対人関係の経験
5. カウンセラーに必要な基本的態度
6. 「聴く」練習－ロールプレイ－
- 7・8. カウンセリングの実事例
- 9・10. 応答訓練
- 11・12. ミニ試行カウンセリング
13. カウンセリングにおける諸問題
 - －試行カウンセリング／ロールプレイのまとめから考える－

【評価方法】

期末提出の課題レポートとロールプレイ・レポートに、授業への出席・関与度を加えて評価する。

【テキスト】

使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

小木曾通男 梅村敏郎 富安玲子 佐藤実芳
加藤文子 小林春治 霜田一敏 渡辺かよ子

集中 3年 前・後期 必修 2単位

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の8テーマに別れて演習を行なう。(各テーマ20名以内)

- (1) いじめ問題 (梅村敏郎)
- (2) 福祉-障害のある人も健常な人も共に生きるコミュニティについて- (加藤文子)
- (3) 学校教育における環境教育 (小木曾通男)
- (4) 人権という権利 (小林春治)
- (5) 社会と子育て (佐藤実芳)
- (6) 高齢者福祉の実態と未来 (霜田一敏)
- (7) ジェンダーと教育 (富安玲子)
- (8) 生涯学習における学校 (渡辺かよ子)

【授業計画】

※印は後期日程

1. 全体、各テーマ別 7月30日 ※2月12日
 - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
 - (2) 各テーマの概要説明 (各担当者)
 - (3) 希望テーマ提出、テーマ別編成
 - (4) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 8月23日 ※3月6日
課題レポートの提出 (必要部数の印刷)
3. 各テーマ別 8月29日 ※3月13日
 - (1) 課題レポートについて報告 (1人10~15分)
 - (2) 質疑応答、問題点について討議
4. 各テーマ別 9月5日 ※3月17日
 - (1) 問題点について分析検討
 - (2) グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体 9月13日 ※3月20日
 - (1) グループ代表者の発表 (1名15~20分)
 - (2) 担当教員の指導 (1名15~20分)
 - (3) 感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文により評価

教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

加藤文子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者からのアンケート結果
 - ・「先輩からの一言」
- 2 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
- 3 教育実習記録
 - ・実習記録の意義
 - ・実習記録の方法
- 4 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
- 5 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
- 6 介護体験事前指導
 - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・特殊教育諸学校教育の理解
 - ・障害児(者)介護への心構え
- 7 介護体験事後指導
- 8 まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果(実習・体験評価を参考)により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」(全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社)使用。

教育実習Ⅰ

加藤文子

4年 通年 選択 4単位

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

(1) 学級担任として

朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。

また、道徳教育総合的な学習の指導にあたり、ともに学級事務を担当する。

(2) 教科担任として

前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。

後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。

(3) 特別活動として

学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

教育実習Ⅱ

小林春治

4年 通年 選択 2単位

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業計画】

実習校において教師としての仕事を行う。

(1) ホームルーム担任として

朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。

また、ホームルーム事務を担当する。

(2) 教科担任として

前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。

後半においては、十分に教材研究を行い、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。

(3) 特別活動として

H.R活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

(4) 総合的な学習に参加

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

生涯学習概論

渡辺かよ子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

生涯教育ないしは生涯学習とは、従来の学校教育・家庭教育・社会教育を垂直的・水平的に統合してとらえ、生涯発達を支援しようとする教育学の一分野である。本講義では、生涯教育ないしは生涯学習に関する理論、ならびに各国における生涯学習の実態と問題点の理解を通じて、人間が学ぶことの社会的意味、生涯発達と自己形成における生涯学習の意義を概説し、社会教育施設の独自の教育的役割とその可能性を論究する。

【授業計画】

- 第1-2講 オリエンテーション、生涯学習の理念
- 第3-5講 社会教育の伝統と生涯学習の現状（先進国、発展途上国、日本）
- 第6-7講 現代日本の学習機会と生涯学習に関する法制
- 第8-11講 生涯発達と生涯学習の内容と方法
- 第12-13講 生涯学習における教養・人権と社会改革
- 第14講 生涯学習の今後の課題、総括

【評価方法】

平常レポート、書評、学期末試験。

【テキスト】

生涯発達と生涯学習（麻生誠・堀薫夫 放送大学教育振興会）

【参考文献・資料】

- 社会教育基礎論（小林文人・末本誠編 国土社）
- 苦悩する先進国の生涯学習（黒沢唯昭他編 社会評論社）
- 生涯教育（ジェルビ 東京創元社）
- 被抑圧者の教育学（フレイレ 亜紀書房）
- 国際成人教育論（ポーラ 東信堂）
- 高齢者教育論（松井政明他編 東信堂）
- 「わざ」から知る（生田久美子 東京大学出版会）
- 学びの復権（辻本雅史 角川書店）
- 学問のすすめ（福沢諭吉 岩波文庫）
- 水と原生林のはざままで（シュヴァイツエル 岩波書店）
- 大学改革と生涯学習（宮坂広作 明石書店）
- 消費社会の神話と構造（ボードリヤール 紀伊国屋書店）
- ハマータウンの野郎ども（ウイリス ちくま文芸文庫）

国際理解教育論

小木曾通男

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような教育経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。中学校、高等学校の日常的な教科指導、特別教育活動等において、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取について、次の視点から考察する。
 - (1) 海外留学生の派遣と帰国後の活躍
 - (2) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (3) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化について次の視点から考察する。
 - (1) 教科教育における国際理解教育
 - (2) 特別活動、学校教育における国際理解教育
 - (3) 海外留学生の派遣と海外からの留学生の受け入れ
 - (4) 外国人英語教育の雇用とその役割
3. 現在の日本の国際化の現状を分析し、真の意味での日本の国際化について、教育の視点から考察する。
（授業において、皆さんの体験を踏まえて具体的な事例について、ともに考えて行きたい）

【評価方法】

授業中に課す「感想、意見」の提出及びレポートにより総合評価を行なう。

【テキスト】

国際理解教育論講義概要（200円）

【参考文献・資料】

授業中にその都度紹介する。

読書指導

梅田卓夫

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

今日の中高校生は全くという程本を読まないといわれている。この実態を解明するために、本好きになった要因や本嫌いになった要因をまず明らかにしたい。そこで漫画本や少女小説が読書好きにさせるかなど具体的な問題も取り上げたい。本講義は、読書指導法の講義ばかりでなく、受講者自身が読書好きになるような参加型授業にしたい。特に学校内における制約のない読書の時間、「黙読の時間」や「自由選択読書の時間」などの実例を取り上げ、その実体と教育的な意義を論究する。

【授業計画】

1. 読書のよろこび
人はどのようにして読書の楽しみと出会うか
先人たちの例、受講者自身の場合
2. 人間形成と読書
読み聞かせの意味——幼児期の精神形成との関わり
黙読の意味——読書の本質。内言語・内省・思索の能力と読書
学校の中の読書指導——「読み聞かせ」「10分間読書」「朝の黙読」などの実践例
他人による助言——家庭、学校、図書館、読書の友
読書サークル
3. 読書の技術
情報化時代の読書——探す・調べる・読む・考える
本を読む生活——愛読書、「書物の敵」
4. 文化史の中の書物
古代アレキサンドリア大図書館から今日まで「英知の容れ物」に関わった人間の営み

【評価方法】

授業の中で与えるテーマに沿っての発表、および期末試験、によって行う

【テキスト】

本の歴史 (B. ブラセル著、荒俣宏監修、木村恵一訳 創元社)

ほかに適宜プリントを配布する

学校経営と学校図書館

小木曾通男

集中 3・4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業計画】

1. 学校図書館の管理運営組織
 - (1) 生徒の利用時間の設定
 - (2) 生徒への図書等の貸し出し方法
 - (3) 長期休業期間中の開館状況
2. 魅力ある学校図書館について
 - (1) 生徒が親しみやすい雰囲気のある学校図書館
 - (2) 学校図書館の図書・資料等の整備拡充
 - (3) 生徒が利用しやすい学校図書館経営
3. 学校図書館と生徒会活動の連携
 - (1) 生徒会図書委員会の組織と活動
 - (2) 読書週間、読書コンクール、図書館日より
 - (3) 学校図書館の利用PR活動
4. 学校図書館の充実
 - (1) PTA組織を活用した寄贈図書等
 - (2) 地域社会への呼びかけによる寄贈図書等
 - (3) 関係機関への呼びかけによる寄贈図書等

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

学校図書館メディアの構成

中村和夫

集中 3・4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
 - (1) 現在の学校図書館のメディア構成の実態の分析
 - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の蔵書選定
 - (3) 児童生徒の学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
 - (1) 教養中心から教科学習に必要なメディアの収集
 - (2) 「総合学習の時間の学習」の視点からのメディア構成
 - (3) 「情報」「オーラル英語」等の新しい教科科目の教材
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
 - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
 - (2) CDRom、マイクロフィルム等の活字メディアに代わるもの
4. 学校図書館の資料分類と目録
 - (1) 分類の意義と必要性、分類表の構造、日本十進分類表の使い方
 - (2) 目録の意義と種類、目録規則、目録作業の基本

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

集中 3・4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

学校図書館は、児童生徒の豊かな人間性の育成に貢献することが必要であるのは論をまたないところであるが、同時に、学校における学習指導に深くかかわるものであることを看過してはならない。学習指導に効果的な学校図書館のあり方やその活用方法について、教育実践例に基づいて、次の視点に立って学習する。

【授業計画】

1. 学習活動を促進する学校図書館
 - (1) 利用しやすい本や資料の配架の工夫
 - (2) 教科・科目別の配架、コーナーの設定
 - (3) 教科・科目に関係のある本や資料の充実
2. 学習指導と学校図書館の利用
 - (1) 各教科・科目の課題学習と学校図書館の利用
 - (2) 学校図書館を利用した共同研究・グループ研究
3. 各教科・科目の学習指導
 - (1) 学校図書館を利用する各教科・科目の課題学習
 - (2) 学校図書館を利用する各教科・科目の予習課題
4. 新設された「情報」の学習指導
 - (1) 「情報」における学校図書館の活用方法
5. 新設された「総合的な学習の時間」
 - (1) 「総合的な学習の時間」における学校図書館の役割
 - (2) 学校図書館を利用した「総合的な学習の時間」におけるテーマ別学習、課題学習、グループ学習の展開

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

集中 3・4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業計画】

1. 読書のよごび
 - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
 - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶもの
 - (3) 受講者自身の学校図書館での本との出会い
2. 人間形成と読書
 - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - (2) 少年期の決定的・運命的な読書との出会い
 - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
 - (1) 教員による本の紹介、読み聞かせ
 - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
 - (1) 家庭での読書についての親子の対話
 - (2) 友達同士の読書グループ、読書会
 - (3) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
 - (1) 情報化時代の読書のあり方
 - (2) 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

情報メディアの活用

東浦信博

集中 3・4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
 - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
 - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - (2) インターネットを使用する資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
 - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
 - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

生涯学習概論

古野有隣

集中 3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となれども思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～
ユネスコ以降わが国における推移
生涯教育のめざすもの
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係
生涯教育と社会教育
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態
行政社会教育の主要領域
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望
生涯学習関連施設の範囲
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者
生涯学習指導者の範囲
生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

図書館情報学概論Ⅰ

村主朋英

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方や分野の特徴について概説する。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学／情報学／図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源／指定図書
2. 情報の流通過程
情報の流れ／情報メディア
事例：学術情報の流通過程
3. 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史／情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み／構造的な理解
認識・認知・ころ／人間・人・ヒト

【評価方法】

定期試験

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

『図書館情報学用語辞典』日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 約3,800円

図書館情報学概論Ⅱ

村主朋英

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実践に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

1. 図書館・情報サービスの世界
構成要素と機能／情報システムとしての図書館
2. 館種ごとの概説
国立図書館／大学図書館／公共図書館／学校図書館／専門図書館
3. 協力と競合
図書館ネットワーク／Bibliographic Utility
競合する情報サービスの中で／電子図書館の概念
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の将来

【評価方法】

定期試験と夏休みレポート

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

『図書館情報学用語辞典』日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 約3,800円

図書館経営論

山本 進

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業計画】

- 0, オリエンテーション・図書館の経営論の意義 1回
 - 1, 図書館種別の経営上の問題点と管理原則 1回
 - 2, 図書館学の五法則と図書館員の関わり 1回
 - 3, 図書館の自由に関する宣言 2回
 - 4, 図書館員の倫理綱領 2回
 - 5, 図書館員と労働基準法解説 1回
 - 6, 図書館関係法規と図書館の基準解説 1回
 - 7, 図書館サービスの測定と評価（実例課題によるレポート提出） 1回
 - 8, 図書館計画の立案と実例解説 2回
 - 9, 生涯学習と図書館及び利用者教育 2回
- ※講義の中から関心のある事項についてレポート提出2回

【評価方法】

期末テスト実施—記述式、前期全体の講義の中から問題を2～3問と、提出されたレポートと記述試験の採点とを併せて評価する。

【テキスト】

講義レジュメを配付する。

情報サービス基礎論Ⅰ

逸村 裕

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

情報化社会は社会における産業構造の変化をもたらしている。「情報」を扱う産業は、急速に増大し、社会に大きな影響力を与えている。この科目では、現代社会において特徴的な情報産業の現状を概観し、「情報」を商品化するプロセスを考察するとともに、すべての職業において進展している「情報化」の持つ意味を検討する。また進路としての情報関連産業について論じる。さらに、情報産業の事例紹介を論じ、職業倫理と勤労観についても言及する。

【授業計画】

1. 情報化社会と情報産業
 2. 情報産業の概況
 3. 産業と職業における情報の意味
 4. 情報産業とIT化
 5. 情報サービス事例1：ソフトウェア産業
 6. 情報サービス事例2：メディア産業
 7. 情報サービス事例2：通信産業
 8. 情報サービス事例2：出版産業
 9. 情報サービス事例3：図書館情報
 10. 情報サービス事例4：マルチメディアリソース
 11. 情報サービス事例5：情報分析・シンクタンク
 12. 情報産業におけるキャリアパターン
 13. 情報産業における勤労観と職業倫理
- 講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。
「インターネット講習会」を受講しておくこと。

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。
詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

情報サービス基礎論Ⅱ

逸村 裕

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス（奉仕－直接サービス）
 - A. 貸出閲覧
 - B. レファレンスサービス
 - C. 相互協力
 - D. 視聴覚資料
 - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス（資料組織－間接サービス）
 - A. 選書
 - B. 取書
 - C. 整理
 - D. 雑誌
 - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
 - A. 蔵書
 - B. 人的サービス
 - C. その他のサービス

【授業計画】

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。
「インターネット講習会」を受講しておくこと

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

レファレンスサービス論

長澤雅男

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

図書館における情報サービスという広い観点から情報提供の問題を解説するが、とりわけレファレンスサービスを重点的に取り上げ、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセスのあり方について理解を深めることを主な目的とする。この科目は、「レファレンスメディア論」と相互に補完するものとして扱う。講義を中心に進める。

【授業計画】

1. 情報ニーズに応える情報サービス
2. レファレンスサービスから情報サービスへ
3. レファレンス機能に基づくレファレンス業務
4. レファレンスサービスのための情報源
5. レファレンスプロセス
6. 質問の受付から内容の確認へ
7. 質問内容の分析から探索の実行へ
8. 質問回答とレファレンスプロセスの終結
9. レファレンスサービスの組織と運営

【評価方法】

期末試験（多肢択一式問題）を予定しているが、出題形式については、試験日の1、2週間前に改めて説明する。

【テキスト】

レファレンスサービス—図書館における情報サービス
(長澤雅男 丸善 2,369円)

レファレンスメディア論

長澤雅男

2年 前・後期 必修 2単位

【授業の概要】

レファレンス質問の処理に役立つ情報源の種類とその特性を理解し、情報と文献の探索技術を習得できるようにするため、各種の参考図書、データベース等、探索ツールとしての印刷メディアと電子メディアの特性を解説したうえで、質問事例を用いて情報および文献の探索方法について演習を行う。

【授業計画】

1. レファレンスサービスにおける情報源／問題解決と情報源／記録メディア／参考図書とデータベース
 2. 参考図書・データベース関係の情報源／参考図書の解題書誌／書誌の書誌／データベースディレクトリ
 3. 図書・叢書関係の情報源／書誌／目録（所蔵目録、総合目録）／叢書合集索引
 4. 逐次刊行物関係の情報源／逐次刊行物リスト／新聞雑誌記事索引／抄録誌
 5. 人物・団体関係の情報源／人名事典／名鑑／人物文献索引
 6. 歴史関係の情報源／歴史事典／年表／年鑑類
 7. 地理関係の情報源／地名事典／地図帳／地名索引
 8. 事物・事象関係の情報源／事典／便覧類／図鑑類
 9. 言語・文字関係の情報源／国語辞書／特殊辞書・諺語辞書／用語索引／詩歌索引
- 講義と演習（主として時間外に問題回答演習を行い、レポートを提出）。

【評価方法】

レポート、期末試験（出題形式は試験日の1、2週間前に説明する）の総合評価。

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版（長澤雅男 丸善 3,296円）

情報検索演習Ⅱ

伊藤真理

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

学術論文を中心として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握と検索結果に対する評価について理解する。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術論文の検索
 - 2.1 インターネット検索
 - 2.2 CD-ROM検索
3. オンライン情報検索システム
 - 3.1 JOIS
 - 3.2 DIALOG
4. テーマ検索

【評価方法】

小テストおよび期末テストと、テーマ検索のレポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報メディア基礎論Ⅰ・Ⅱ

菅野育子

2年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点を考え、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

1. 情報流通と情報メディア
学術情報の生産のメカニズム／学術情報の流通モデル
2. 情報メディアの分類と種類
3. 情報メディアの階層化
物理的階層／書誌的階層／機能的階層
4. 情報メディア 一次情報のためのメディア
図書（定義／出版流通過程と関連する制度／学術図書の機能）
雑誌（定義／学術雑誌の機能／雑誌論文の構成）
テクニカルレポート（定義、NTIS）
特許資料（各国の特許制度／特許情報の流通過程）
規格資料（国際規格／国内規格／標準化活動）
5. 情報メディア 二次情報のためのメディア
情報の加工（代替、編集、濃縮）／書誌／索引／抄録／百科事典
6. データベース（DB）
DBシステムの歴史／DBの種類と内容／オンライン情報
検索とCD-ROMの利用
7. 情報メディアの分析とビブリオメトリックス
ビブリオメトリックスの定義／引用分析
8. 情報流通における標準化と情報メディア
ISBN,ISSN,ISMN／SGMLタグと論理構造
9. 情報の電子化と情報メディア
電子編集と電子出版／電子雑誌／電子図書

【授業計画】

配布資料を用いて講義を行なう。

【評価方法】

出席回数と定期試験の成績で評価する。

【テキスト】

使用せず。

情報メディア論Ⅳ (人文社会情報メディア)

菅野育子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 - 3.1 美術分野
 - 3.2 音楽分野
 - 3.3 文学
 - 3.4 ビジネス分野
 - 3.5 法律分野
 - 3.6 心理学
 - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

レポートと出席度によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

情報メディア論Ⅴ (科学技術情報メディア)

山崎茂明

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

自然科学領域における二次情報源としての文献データベースと一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。文献データベースの理解は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。また、学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。

1. 文献情報の世界
2. 文献調査
3. 医学情報へのアプローチ
4. 文献データベースの世界
5. 癌領域のデータベース
6. 引用索引データベース
7. 学術雑誌の歴史と生態
8. 総合科学雑誌とはなにか
9. レビュー誌とレター誌の重要性
10. 電子ジャーナルと電子出版
11. 電子情報環境と電子メディア（データベース、一次雑誌）

参考資料：

Lambert, J. 『電子時代の学術雑誌』日本図書館協会
Thompson, J.W. 『出版産業の起源と発達』出版同人
中山茂 『歴史としての学問』中央公論社
山崎茂明 『生命科学論文投稿ガイド』中外医学社

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）。

【テキスト】

医学文献サーチガイド 第2版（山崎茂明 日本医書出版協会）

資料組織論

伊藤真理

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と主題分析について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
資料の組織化；資料組織業務の位置づけ
- 第2回 目録について
- 第3回 書誌コントロール
書誌ユーティリティ
- 第4回 目録規則の標準化、統一
- 第5回 記述目録と主題目録
記述目録（1）AACR 2 r、NCR
- 第6回 記述目録（2）アクセス・ポイントの選定；標目形
- 第7回 記述目録（3）典拠管理
- 第8回 主題目録（1）分類法
- 第9回 主題目録（2）分類法
- 第10回 主題目録（3）件名標目表
- 第11回 MARC
- 第12回 インターネット情報資源：CORC
インターネット情報資源の記述：Dublin Core

【評価方法】

平常点、小テスト、期末試験

【テキスト】

テキストは特に指定しない（プリント配布）

資料組織演習

岡澤和世

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

人間が他の動物と決定的に異なる点は、人間が時間と空間を越えて、情報を蓄積して、必要な時に再現する能力を持っていることである。それを体内（脳）だけでなく、体外の貯蔵庫（図書館）に蓄えることを学んだことである。もう一つ特筆すべき人間の知恵は、その体外貯蔵庫の中身を簡単に再現できるように整理したことである。人間のインテリジェンスの始まりであり、専門職としてのライブラリアンの誕生である。本講義では演習問題を中心に、分類と目録の目的・機能を明らかにし、現在使われている分類・目録の問題点を通して図書の実態に即した分類法を与える。

【授業計画】

- オリエンテーション 図書館における図書の分類
前期の講義についての復習テスト
1. 分類とは何か（2回）
 - 1.1 基本用語の整理
 - 1.2 分類と図書の歴史
 2. 図書分類とその基本的条件（2回）
 - 2.1 分類表の種類とその特性
 - 2.2 基本的条件
 3. 特殊分類法（3回）
 - 3.1 十進分類法
 - 3.2 ファセット分類法
 - 3.3 その他
 4. 目録とは何か（2回）
 - 4.1 目録の機能
 - 4.2 目録作業
 5. 現代図書館と情報サービス（2回）
 - 5.1 自動目録
 - 5.2 図書の検索法

【評価方法】

試験は行わない。各週毎の宿題及び作成した目録カード、小テスト、レポート、出席日数で評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

- 情報学講義ノート〈1〉（岡澤和世著 敬文堂 1987）
情報学講義ノート〈2〉（岡澤和世著 敬文堂 1989）
情報検索理論の基礎（中村幸雄著 共立出版株式会社 1998）
目録と分類（L.M.チャン上田修一他訳 勁草書房 1987）
図書館のサービスの再構築（M.K.バックランド 高山正也他訳 勁草書房 1994）

資料組織演習

伊藤真理

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、実習を通してより深い理解と習得を目的とする。

目録規則は、国際的な標準規則として認められている英米目録規則を用いる。主題分類法では日本十進分類法と、米国議会図書館件名標目表を取り上げる。洋書と電子情報資源を対象として、実際に書誌レコードを作成する。

【授業計画】

- 第1回 目録作業の概要
- 第2回 記述目録法
- 第3回 英米目録規則第2版(1)
- 第4回 英米目録規則第2版(2) アクセス・ポイント
- 第5回 英米目録規則第2版(3) 標目形
- 第6回 主題目録法(1) 分類：日本十進分類法
- 第7回 主題目録法(3) 件名：米国議会図書館件名標目表
- 第8回 MARCについて(1)
- 第9回 MARCについて(2)
- 第10回 CORC(1) システムの概要
- 第11回 CORC(2) ダブリンコア
- 第12回 CORC(3)

【評価方法】

実習およびレポート提出

【テキスト】

テキストは特に指定しない(プリント配布)

図書館学特殊Ⅲ (児童サービス論)

堀川照代

集中 4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

わが国の公共図書館児童サービスがモデルとしてきた米国のその歴史を振り返りながら、児童サービスの意義と定義、児童資料、サービスの内容・方法などを概説し、公共図書館における児童サービスの位置づけや児童図書館員の専門性について考える。

【授業計画】

- 1. 児童サービスの意義
- 2. 児童資料の特色と選択
 - 資料の種類と特性
 - 資料の組織化
 - 出版と流通 など
- 3. 児童サービスの業務
 - 資料提供サービス、フロアワーク
 - レファレンスサービス
 - 集会・行事、展示・PR
- 4. 児童サービスの方法・技術
 - ストーリーテリング、読み聞かせ、
 - ブックトーク、書評
- 5. 児童サービスの運営
 - 管理運営、評価、施設・設備、
 - 児童図書館員の役割・能力
- 6. ヤングアダルト・サービス
- 7. 各種機関との連携・協力
 - 学校との連携・協力
 - 幼稚園・保育所との連携・協力

【評価方法】

出席状況やレポートなどによって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

絵本と想像性：三歳まえの子どもにとって絵本とは何か
増補版(佐々木宏子著 高文堂)
児童サービス論(堀川照代編著 日本図書館協会)

情報学Ⅲ (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。古代からルネサンス期までを対象とし、IVに引き継ぐ。

【授業計画】

0. オリエンテーション

歴史を学ぶ意義／情報化社会論と情報史

1. 古代文明のメディアと情報・知識
2. ギリシア・ローマにおける革新
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命
5. 学術情報流通システムの成立

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

『歴史のなかの科学コミュニケーション』勁草書房

『図書館情報学用語辞典』日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 約3,800円

情報学Ⅳ (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。Ⅲに続き、近代および現代を対象とする。

【授業計画】

1. 図書館の世紀

近代公共図書館／国立図書館の確立／図書館界の成立／書誌の発達

2. 図書館学とドキュメンテーション
3. 情報技術の起原
4. 情報検索サービスの成立
5. 情報学の成立
6. 情報史の現在
7. 理想の情報検索システムを求めて
Vannevar Bush と Memex 構想をもとに

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

『歴史のなかの科学コミュニケーション』勁草書房

『図書館情報学用語辞典』日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 約3,800円

個人コミュニケーション論Ⅰ（認知心理学）

岩原昭彦

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次な情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシミュレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているのかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかを検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に解明していきたい。

【授業計画】

1. 短期記憶
2. 長期記憶
3. 潜在記憶と顕在記憶
4. 符号化・処理・作業記憶
5. 想起と忘却
6. 日常記憶
7. 知識
8. 談話認知
9. 単語認知と読み
10. 理解
11. 発話と思考
12. 言語と意志伝達

【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

三和義秀

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るツールの活用方法、情報メディアと情報通信（ネットワーク）技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質的問題、およびその設計・開発手法についても触れていく。

【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) 図形・画像処理とソフトウェア
- 7) 情報通信とメディア
- 8) マルチメディアと情報通信技術
- 9) ネットワーク技術とインターネット
- 10) 放送の高度化とマルチメディア
- 11) 通信の高度化とマルチメディア
- 12) インターネットとシミュレーション
- 13) インターネットでの情報の検索手法
- 14) ハイパーテキストの仕組みと本質的問題
- 15) ハイパーテキスト・システムの作成手法

【評価方法】

出席回数、レポート、および定期試験により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

博物館概論

長谷川鏗治

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館とは何かからはじめて、その発達の歴史をたどり、日本と世界の博物館を概観する。

- ア はじめに…学芸員の資格、博物館学とは何かなど学習の基礎となる事項を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に「博物館」とは何かを考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の歴史を概観するにあたって、その始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの人々の文芸に対する態度の探求と博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の発元Ⅰ…王権の誇示の手段としての財宝の展示などから博物館を考える。
- カ 近代博物館の発元Ⅱ…市民革命などの動きにあわせて市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世から現代までを主要な博物館を例にとり、その特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…独立から現代までをヨーロッパの博物館と対比しつつ、その特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど、今後の博物館の形態をみずして、新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・大陸文化の請来から床の間の普及まで
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の発元
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館
 - ・戦後の再発元

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川鏗治 戸谷印刷）

博物館概論

早川正一

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。十分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業計画】

- 博物館や美術館の基本概念と必要性
- 専門職員としての「学芸員」とは何か
- 博物館と美術館の発達とその時代背景
- 博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
- 博物館の分類と現代性
- 博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
- 博物館の相互協力と情報の活用

毎時間、入念にノートをさせる。コピーは許さない。無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。

長谷川鏗治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川鏗治 戸谷印刷）

博物館学各論 I

長谷川 銑治

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館について、その機能、役割、組織、運営、学芸員、施設・設備、情報化、協力などにふれ、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義づけられていることを念頭におき、その機能について考える。
- イ 博物館の分類…種類別、設置者別、制度別などの分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織の状態をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…現在、学芸員のおかれている地位、実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。外国のCURATORとも比較してみる。
- カ 予算など…博物館のマネジメントについて、予算を中心に考える。
- キ 博物館の施設・設備…人文系博物館・動物園・植物園・水族館などについて、その設置基準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探してみる。
- ケ 博物館の協力…博物館はもちろんのこと、大学・研究機関などとの連携について考える。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銑治 戸谷印刷）

博物館学各論 I

早川 正一

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業計画】

- 次の単元を土台として講義を展開する予定である。
- 博物館や美術館の展示と陳列構造
- 博物館がとり扱う資料の収集と保存
- 博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
- 博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
- 文化財の種類と保護にかかわる諸問題
- 生涯学習の必要性と博物館の関連事業

毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。

博物館学論考（長谷川 銑治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銑治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

長谷川 銑治

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館は「もの」による生涯学習の機関である。そこで、博物館資料とは何かの定義づけからはじめ、資料の取扱い方を含めて学習する。また、博物館の調査・研究についても考えとともに、文化財の保護についても考察してみる。

- ア 博物館の資料…「物」が博物館資料と位置づけられるのはどのようなことかを考え、一次資料、二次資料の具体的な内容を知る。
- イ 博物館資料の実際…資料について実技を含めて具体的に学ぶ。
 - 1 資料の収集
 - 2 資料の取扱い
 - ・掛軸
 - ・古文書
 - ・和装本
 - ・やきもの
 - ・茶碗
 - ・瓦など
 - 3 資料の整理・保存
 - 4 資料の保全
- ウ 資料情報の管理…資料情報の管理についてその実際と今後の方向を探る。
- エ 調査・研究…博物館における調査と研究、成果の公表などについて考えていく。
- オ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状、実態、問題点などについて考察する。
あわせて世界遺産についても考えてみる。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義し、実技も行う。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銑治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
 2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
 3. 資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。やきもの、和装・卷子本、掛け軸その他で実習する。
 4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
 5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
 6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
 7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
- また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、準備について説明する。

【評価方法】

実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銑治）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

博物館学各論Ⅱ

川合 剛

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館は「もの」「ひと」「ば」という3要素で構成されるといわれている。この授業では、そのうちの「もの」＝博物館資料について、博物館の活動のなかでの役割を考える。

【授業計画】

「もの」に触れる実技の時間をできるだけ多くとる。ビデオなどの視聴覚機器も使って、「もの」について具体的なイメージを得ることができるようになる。

- (a) 博物館と「もの」（博物館の機能と目的、博物館資料とは何か、資料収集の方法など）
- (b) 「もの」はどのように取り扱うのか（資料を取り扱う知識と技術－やきもの、軸もの、和本など）
- (c) 「もの」はどのような手続きを経て博物館資料となるのか（資料を記録する技術、ドキュメンテーションなど）
- (d) 「もの」をどのように守るのか（資料の保管と保存、防虫・防霉対策、災害対策など）
- (e) 「もの」をどのように利用するのか（資料の活用方法－展示論に向けて）
- (f) 調査・研究と博物館

【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出、(時間内)小テストの結果などにより評価する。

【テキスト】

『博物館学概説』（長谷川銹治 戸谷印刷）。
プリントを配付する。

【参考文献・資料】

適宜、参考となる文献、論文を紹介する。

博物館実習

長谷川銹治

4年 通年 必修 3単位

【授業の概要】

学芸員の基本的な役割について、人文系博物館に例をとり、講義、展示演習、博物館見学などを通して、実践的に学習する。

ア 展示論……展示とは何かからはじめて、展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。

- 1 展示とは
- 2 展示のポイント
 - ・動線 ・視線
 - ・照明
 - ・温度 ・湿度
- 3 展示の施設
- 4 展示のプロセス
- 5 展示と保全

イ 普及・教育論……生涯学習が重要課題となっている現代社会にあつて、博物館が果たす役割はどんなものかを探っていく。

ウ 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。

エ 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。

オ 海外特別実習……夏休み中に希望者と海外の博物館の見学に出かけ現地で学習する。

カ 県外実習……エ、オに参加できない者は、9月に県外へ博物館の見学に出かける。

【授業計画】

授業概要の展開順にそつて講義・実習・見学をすすめる。

【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にかならず参加し、それぞれレポートを提出する。
- ・実習にあたってはすすんで学習する姿勢で臨む。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

改訂博物館学論考（長谷川銹治 戸谷印刷）

博物館実習

秋元悦子

4年 通年 必修 3単位

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的な事例をふまえながら、学んでゆく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の実習……各自で模擬展示の計画書を作成し、展示方法やその活用を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後になう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、模擬展示の口頭発表およびその計画書で評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

博物館実習

松村冬樹

4年 通年 必修 3単位

【授業の概要】

「展示」は博物館における「顔」とも評されるが、最高の広報普及活動でもある。この授業では、さまざまな施設の見学を含め、「展示」の知識と実践を学ぶ。

【授業計画】

「展示」を疑似体験できるよう「実技」の時間をできるだけ多くとる。

- (a) 「展示」とは
- (b) 展示のプロセス
- (c) 展示の実際（仮想展覧会企画）
- (d) 展示と解説
- (e) 印刷物（ポスター、ビラ、図録）
- (f) まとめ

*1 土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。

*2 夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。

*3 夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。

※ *2、*3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

【評価方法】

出席状況は重視する。「館務実習」にむけての意欲や社会常識も評価の対象とする。

【テキスト】

『博物館学論考』（長谷川銹治 戸谷印刷）

プリントを配付する。

生涯学習概論

渡辺かよ子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

生涯教育ないしは生涯学習とは、従来の学校教育・家庭教育・社会教育を垂直的水平的に統合してとらえ、生涯発達を支援しようとする教育学の一分野である。本講義では、生涯教育ないしは生涯学習に関する理論、ならびに各国における生涯学習の実態と問題点の理解を通じて、人間が学ぶことの社会的意味、生涯発達と自己形成における生涯学習の意義を概説し、社会教育施設の独自の教育的役割とその可能性を論究する。

【授業計画】

- 第1-2講 オリエンテーション、生涯学習の理念
- 第3-5講 社会教育の伝統と生涯学習の現状（先進国、発展途上国、日本）
- 第6-7講 現代日本の学習機会と生涯学習に関する法制
- 第8-11講 生涯発達と生涯学習の内容及方法
- 第12-13講 生涯学習における教養・人権と社会改革
- 第14講 生涯学習の今後の課題、総括

【評価方法】

平常レポート、書評、学期末試験。

【テキスト】

生涯発達と生涯学習（麻生誠・堀薫夫 放送大学教育振興会）

【参考文献・資料】

- 社会教育基礎論（小林文人・末本誠編 国土社）
- 苦悩する先進国の生涯学習（黒沢唯昭他編 社会評論社）
- 生涯教育（ジェルピ 東京創元社）
- 被抑圧者の教育学（フレイレ 亜紀書房）
- 国際成人教育論（ポーラ 東信堂）
- 高齢者教育論（松井政明他編 東信堂）
- 「わざ」から知る（生田久美子 東京大学出版会）
- 学びの復権（辻本雅史 角川書店）
- 学問のすすめ（福沢諭吉 岩波文庫）
- 水と原生林のはざままで（シュヴァイツェル 岩波書店）
- 大学改革と生涯学習（宮坂広作 明石書店）
- 消費社会の神話と構造（ボードリヤール 紀伊国屋書店）
- ハマータウンの野郎ども（ウィリス ちくま文芸文庫）

生涯学習概論

古野有隣

集中 3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとした。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～
 - ユネスコ以降わが国における推移
 - 生涯教育のめざすもの
 - 生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係
 - 生涯教育と社会教育
 - 生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態
 - 行政社会教育の主要領域
 - 社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望
 - 生涯学習関連施設の範囲
 - 社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者
 - 生涯学習指導者の範囲
 - 生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

視聴覚教育メディア論

東浦信博

2年 前・後期 必修 2単位

【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

【授業計画】

1. 視聴覚教育の意義と効果
2. 博物館と視聴覚教育メディア（手段としてのメディア、目的物としてのメディア）
3. 視聴覚教育メディア各論

領域と種類

録音メディア（レコード・テープ・CD等）

映像メディア1（スライド・OHP等）

映像メディア2（映画・ビデオ等）

マルチメディアと情報ネットワーク

講義中心であるが、OHP、ビデオを多用する。

【評価方法】

論述式定期試験（テキスト・ノート持込み可）。

【テキスト】

新訂視聴覚教育（学芸図書 ¥1,800）

教育学概論

小木曾通男

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

教育とは何かを総合的にとらえ、皆さんの被教育者としての体験をもとに、現代社会における様々な教育課題について考えてみたい。

また、21世紀に求められる教育とはどんな教育であるかを考える契機としたい。

【授業計画】

1. 欧米諸国の教育について、著名な教育者の事例を交えて歴史的に概観する。
 - (1)ギリシャ・ローマ時代の教育
 - (2)ヨーロッパ中世・近世における教育
 - (3)市民社会における教育の発達（イギリス、ドイツ、フランス、アメリカ）
2. 日本における教育の歴史を概観する
 - (1)寺子屋教育に代表される日本の教育
 - (2)明治維新の文明開化と教育の発展
 - (3)戦前における軍国主義教育の展開
 - (4)戦後における民主主義教育への転換
3. 現代における日本の教育の課題
 - (1)社会構造の変化と教育の変化
 - (2)現代の教育病理の諸相
 - (3)新教育課程の概観
 - (4)これからの教育に求められるもの

【評価方法】

テキストの末尾に添付した課題用紙（2枚）の提出と定期試験との総合評価による。

【テキスト】

教育概論講義ノート 300円

【参考文献・資料】

必要な参考図書は授業中に紹介する。

民俗学

谷沢 明

2年 前・後期 必修 2単位

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったのかも考えてみたい。

【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折目にあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 日本民俗学のあゆみ～柳田国男の役割～
11. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

【テキスト】

『フィールドワークで探る民俗と地域文化』

日本美術史

神谷 浩

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本美術史の中で、海外に最も親しまれている浮世絵に注目し、通史的に論じながら、その魅力と特質について考えます。

講義では、毎回豊富なスライドを用いて作品を鑑賞します。学芸員にとって最も重要な能力、自分の目で見て価値を見出し、それを自分の言葉で表現できること、これができるようになることをめざします。

【授業計画】

- 1 ガイダンス 授業のすすめ方、浮世絵の基礎
- 2 ガイダンスII 浮世絵の基礎
- 3 風俗画から浮世絵の成立・浮世絵師1 菱川師宣ら
- 4 浮世絵師2 春信 錦絵の誕生
- 5 浮世絵師3 歌麿 女性を描く名手の真実
- 6 浮世絵師4 写楽 新しい役者絵 日本よりも海外で最初に評価されたのはなぜか
- 7 浮世絵師5 北斎 風景画の誕生。北斎芸術の本質。世界で最も有名な絵画作品は「モナリザ」か北斎の「大波」か。
- 8 浮世絵師6 広重 抒情の世界。北斎との違いは。
- 9 浮世絵師7 美人画さまざま 栄之、清長ら
- 10 浮世絵師8 役者絵さまざま
- 11 浮世絵師9 幕末浮世絵 再評価すべき国芳ら
- 12 浮世絵師10 明治の浮世絵 終焉と新たな出発
- 13 浮世絵のまとめ
- 14 美術の見方 枠にとらわれず、自分の目で作品を見るにはどうするのか。自分の見方の発見について考える。

【評価方法】

授業中に扱った作品の解説を求めるレポートを提出。自分の目で作品を鑑賞し、それを自分の言葉で表現できるかによって評価します。

【テキスト】

カラー版 浮世絵の歴史 (美術出版社 小林忠監修)

日本考古学概論

柴垣勇夫

集中 3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

考古学は、遺跡・遺物をもとに人間の営んできた歴史を明らかにする学問である。その研究方法には、層位学や型式学、分類学などの科学的方法論がとられ、人文科学の中でもとりわけ自然科学との結びつきが強い学問でもある。そうした学問の基本を学び、考古学が明らかにしてきた日本の歴史の一面を把握する。特に、全国各地で行われている遺跡の発掘調査によって、知られるようになった最近の新しい遺構、遺物を紹介し、学際的な研究の進展を学ぶ。また遺跡調査への関心を高め、文化財の保護という現代的課題についても考える。現代に生きる我々がどういふ社会を築くかを、歴史の中から学ぶ際に、考古学の果たす役割と受け継ぐべき文化遺産の重要性を認識する。

まず、考古学の研究方法を学び、世界の考古学研究の発展過程を眺める。次に日本の旧石器時代から近世に至る、日本考古学の研究成果を把握する。なかでも原始・古代遺跡における最近の新発見や社会構造の捉え方の変化、中世から近世の城館や都市遺跡の発掘調査から判明してきた当時の生活様式などに理解を深める。また日本考古学の研究対象が近世・近代にまで広がっていることを認識するとともに、遺跡や遺物の文化財としての保存の必要性とその活用方法についても考える。

【授業計画】

各時代毎の解説の後、スライド・OHPなどにより視覚的に確認し、次の時代に進める。新聞記事等最近のニュースも逐次取り入れる。旧石器時代から近世の江戸時代まで12章にて構成する。

【評価方法】

講義内容から出題するテスト。集中授業での欠席 1/3 を越えたものは受験資格を失うこととする。

【テキスト】

印刷物をテキストとして配布する。

ドイツ語 a・b

浜田義孝

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（またはCDかテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

【授業計画】

テキストは、全14課で各課ともミニ会話と基本的な文法事項、練習問題で構成されている。そしてまた読解力を養うためにドイツの生活をテーマにした読章が4つある。1課を2回の授業で修了するようゆっくりしたペースで進む。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

ドイツ語70（シュレヒト／三室共著 三修社）

フランス語 a・b

清水ベアトリックス

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この授業は初級者を対象とし、フランス語の習得だけでなく、フランスの風俗、文化、習慣も「味わいながら」学ぶことを意図する。担当講師はフランス語の授業を通じて受講者の対仏国理解を深める手助けをすることを切に望む。

前期

日本で出版された平易なフランス語テキスト（CD付き）、漫画、ポップス、ビデオなどを使用する。

前期には、テキストの目次に沿って進み、フランス人講師が直接教えるので、受講者は「フランスに浸り」、「純粋な」フランス語の発音と文法の基礎を身に付ける。

できる限り前期では、下記の文法を学ぶ：

発音、名詞の『性』と『数』、冠詞、不定詞と動詞の活用；直接法現在形、疑問文；疑問代名詞と疑問形容詞、否定文、品質形容詞。

後期

前期に引き続き同じテキストを使用し、より高レベルの文法・語彙を学ぶ。しかし、特にコミュニケーションに重点を置くので、「純粋なフランスの環境」の中で簡単な作文を書いたり、寸劇をすることにより、受講者自身の考えをフランス語で表現する能力を養成することを主目的とする。

後期では、下記の文法事項を学ぶ：

目的語となる人称代名と強勢形、指示形容詞、所有形容詞、冠詞の縮約、半過去、複合過去。

【授業計画】

毎回学んだフランス語を会話練習に積極的に使用するとともに、文法を体系的に学んだり、平易なフランス語の文章を和訳する。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

「Alphabetix」（Centre franco-japonais d'osaka, 三修社）

ロシア語 a・b

杉本一直

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

【授業計画】

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなかがすいたら...
- g. 自分について話してみよう
- h. 好きな音楽について
- i. 手紙を書こう (本当にロシアへ送るぞ！)

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典 (白水社)

Intensive English 2002 A

ベヴァリー・F. M. カレン ポール・ルイス

1～4年 前期 選択 2単位

【Course Content】

This course will offer motivated students a chance to further develop their English skills by intensive practice. In each class, students will be expected to speak English only, and participate actively in activities designed to promote greater fluency and accuracy of expression, enhance listening comprehension, improve vocabulary, and develop each student's confidence in his or her ability to communicate effectively in English. A variety of media, including video, will be used in the course.

【Schedule】

The course will begin with a listening focus, in which students will be encouraged to actively control their aural understanding through the use of simple but effective strategies to clarify and confirm understanding. In the following weeks, classes will combine speaking and listening practice in entertaining but challenging activities which use authentic video materials as models for speaking. There will be an interview at the end of the term.

【Assessment】

Assessment is ongoing and based on attendance, effort, willingness to speak English exclusively in class, and active participation in all activities.

【Textbooks】

TBA

Intensive English 2002B

ベヴァリー・F. M. カレン ポール・ルイス

1～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course will continue to offer motivated students a chance to further develop their English skills by intensive practice. In each class, students will be expected to speak English only, and participate actively in activities designed to promote greater fluency and accuracy of expression, enhance listening comprehension, improve vocabulary, and develop each student's confidence in his or her ability to communicate effectively in English. A variety of media, including video, will be used in the course.

【Schedule】

As in the first semester, this course will begin with a listening focus, in which students will be encouraged to actively control their aural understanding through the use of simple but effective strategies to clarify and confirm understanding. In the following weeks, classes will combine speaking and listening practice in entertaining but challenging activities which use authentic video materials as models for speaking. There will be an interview at the end of the term.

【Assessment】

Assessment is ongoing and based on attendance, effort, willingness to speak English exclusively in class, and active participation in all activities.

【Textbooks】

TBA

言語文化海外セミナー I

馬 富榮

集中 1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において3週間の中国語研修を行う。
 - ◎月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう！
 - ◎風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州へ、庭園で知られている蘇州への一日旅行。
2. 言語文化論 I の講義内容と呼応した1週間旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実施する。
5. 修了者には2単位を認定する。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、参加希望者は履修登録を必ずする。9月下旬頃、参加者最終決定。10月中旬頃、第1回説明会。11月下旬頃、第2回説明会。1月下旬頃、オリエンテーションを実施する。2月中旬頃に出発し、3月中旬頃には帰国する。費用は20万円程度。

【評価方法】

引率者が平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

英語コミュニケーション5

石橋千鶴子

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

パラグラフ・ライティングを含む英語総合演習。

【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の育成を目指し、総合的な英語活動を行う。

授業では英語ビデオ教材を使い、内容把握のための活動を英語で行っていく。また、ライティング学習では、英文の基本であるパラグラフの構成と、その中でいかにしてトピックを展開させるかを学ぶ。与えられたトピックでパラグラフ・ライティング、レター・ライティングなどを行い、ライティングにおける運用能力の育成をはかる。

なお、後期「英語コミュニケーション6」の履修を希望する者は、「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験及び日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

プリント配布

英語コミュニケーション5

安田千恵

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

LLを利用した主にリスニング、スピーキングの力を養成することを目的とした英語演習

【授業計画】

ビデオ、音声テープを利用し、出来るだけ大量の英語を聴き、日本語を介さず、英文をそのまま理解する力を養うと共に、聴き取った内容に対して、英語で感想を述べる練習を通じ、スピーキングの力も養成したい。

テキストは、アメリカの文化、日常生活を紹介しており演習を通して、アメリカ文化に対しての理解を深めたい。

又、LL機能を利用し、発音の訓練も行う。

なお、第1回目の講義時に、64分テープを持参すること。

【評価方法】

出席状況、平常点、試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

CUBIC LISTENING CLOSING THE CULTURE GAP
(Timothy Kiggell, Kevin Cleary MACMILLAN
LANGUAGEHOUSE)

英語コミュニケーション6

石橋千鶴子

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEIC対策を含む英語総合演習。

【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の強化を目指し、総合的な英語活動を行う。

前期「英語コミュニケーション5」に引き続き、ビデオ英語教材を使い、内容把握のための活動を英語で行う。また、TOEIC問題の演習を行い、さらなる個人学習を促したい。

なお、本科履修希望者は、前期「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験及び日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

TOEICテスト スーパー模試600問（発行 アルク）

英語コミュニケーション6

安田千恵

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

リーディング、リスニング、ディスカッションの演習を通して自分の考えを英語で表現する力を養う。

【授業計画】

今日の社会生活で考えなければならない様々なトピックについてリーディング、リスニング、表等の資料の読み取り、ディスカッションの演習を行いながら、その中で使用されている表現方法や語彙を習得し、トピックに対しての意見を英語で論理的に表現出来るよう指導する。表等の資料の読み取り練習は、TOEIC対策としても有効と思われる。

又、LLを利用して、音読の訓練も行う。

なお、第1回目の講義時に60分の音声テープを持参すること。

【評価方法】

出席状況、平常点、試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

別途指示する。

英語コミュニケーション7

中村栄造

2～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

世界の様々な出来事が国際ニュースとして、われわれの手元にすぐ届けられる時代を迎えて久しい。この授業では、日々われわれが接する膨大な情報から必要な情報を的確に入手することを念頭に、主にリスニングとリーディングを中心とした英語運用能力の獲得を目指す。

主にリスニング教材とするのは、VOA (Voice of America) のニュースである。これを毎回、ディクテーションする。リーディングは英字新聞や、雑誌 Newsweek などから幅広く教材を選び、読解を試みる。

【授業計画】

リスニングのトレーニングを60分、リーディングを30分毎回行う。なお、リスニングに関しては、5回ごとに小テストを実施する。

【評価方法】

授業内に行う小テスト2回、およびリーディング教材の読解度、定期試験を総合して判断する。

【テキスト】

使用せず。毎回プリント配布。

英語コミュニケーション8

大鐘洋司郎

2～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

商社、外資系会社、製造業者、外国為替銀行、海運会社、航空貨物会社、国際運送会社や保険会社などに就職しようとする学生に役に立つ体験から帰納した授業内容。海外からの商品の物流、代金決済方法の理解は一般企業就職希望者にも役に立つ。

授業担当者は全米最大の小売業者シアーズ社などとの取引経験から、教科書の事例を解説し、英語ビジネスコミュニケーションの手法を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 場面を設定して受講生が英文ビジネスレターを作成する。英和・和英辞典を持参すること。
- 第2回 海外取引先紹介依頼及び取引先紹介者への礼状
- 第3回 信用照会及びその返信
- 第4回 取引開始申し込み
- 第5回 ビデオ視聴（内容は下記参照）
- 第6回 一般取引条件協定書の交換
- 第7回 基本貿易価格FOB及びCIF
- 第8回 オファー、価格表及びカウンターオファー
- 第9回 発注及びその確認
- 第10回 注文書、売約書の送付
- 第11回 信用状修正依頼及び受領確認
- 第12回 船積みに関して
- 第13回 ビジネス英会話（時間と受講生数次第で実行）

【評価方法】

出席状況・定期試験・その他による。
授業に取り組む積極性も評価する。

【テキスト】

ケーススタディで学ぶ英文ビジネス文書のライティングとプレゼンテーション再増補版（大鐘洋司郎他 嵯峨野書院 税込 2,625円）

ビデオ「貿易実務の基礎知識」又は「外国為替について」

授業担当者作成資料（プリント教材その他）

英語コミュニケーション9

小野迪雄

2～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

アーネスト・ヘミングウェイは、20世紀を代表するアメリカの作家であり、多難な激しく変動した時代を生き抜いた作家でもある。『老人と海』でノーベル賞を授賞したが、彼の文学の本質を探ってみると、円環を描いて、初期の作品世界につながっているようにみえる。それ故、初期の短編を読み解くことは重要であり、彼の文学の本質に迫れるかもしれない。

ヘミングウェイの文章は簡潔で引き緊った文体で、現代の標準的な文章の一つの型をもっていて、読みやすい。

【授業計画】

テキストを中心に読み進み、随時プリントを配布して、作者や作品の理解を深めるようにする。

【評価方法】

定期試験の成績を主とするが、日常の授業に対する準備も判断の資料とする。

【テキスト】

Indian Camp and Other Stories (Hemingway)

『ヘミングウェイ短編集』 成美堂

【参考文献・資料】

授業時に随時紹介する。必要に応じてプリントを配布する。

英語コミュニケーション10

フィリップ・サザンズ

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

The purpose of this course is to use English for communication instead of for classroom exercises. It is important, therefore, for students to develop their own topics and speak as much as possible.

Our first goal is to develop fluency by discussing a variety of topics. Students will have weekly conversations with as many partners as possible, make their own vocabulary lists and learn to correct their own grammar mistakes.

Our second goal will be to develop language skills: giving opinions, story telling, summarizing and problem-solving (for example, explaining how to do something, or working together on a small project in English).

【Schedule】

- 1-2 Find out about your classmates
- 3-4 Opinions, reasons, examples / summarizing
- 5-6 Agreeing / disagreeing; A special person
- 7-8 Personality and storytelling
- 9-10 Dreams / Music / Movies
- 11-12 Sports / Travel
- 13 Test

【Assessment】

Students will receive a mark for classroom discussions, homework and quizzes.

【Textbooks】

Handouts from the instructor

英語コミュニケーション10

ディビッド・P. レヴィ

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course aims to further develop students' skills in speaking, listening, reading and writing. The emphasis however will be on speaking and listening. Students who choose this course will be expected to be highly motivated.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, writing assignments, homework assignments and a test.

【Textbooks】

Gateways 2 (Frankel & Kimbrough, OUP)

【Reference】

Students are expected to bring English-Japanese and Japanese-English dictionaries (book or electronic) to class.

英語コミュニケーション10

ジャクリーン・ノリス

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

The aim of this course is to develop the four macro-skills of listening, speaking, reading and writing in the English language. It is hoped that students will develop an enjoyment of using English for a variety of communicative tasks, while at the same time being encouraged to become active participants in the classroom when using a foreign language. The students will be given a variety of tasks to improve their overall English language proficiency.

【Schedule】

To be decided upon selection of an appropriate textbook.

【Assessment】

Assessment will be based upon the following criteria:

- attendance
- class participation
- homework
- quizzes
- essays

【Textbooks】

To be announced.

英語コミュニケーション10

スコット・R. グリーン

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

The focus of this class will be on further development and expansion of previously acquired English skills. Students will have the opportunity to discover, express and discuss different elements of language and culture. Development of vocabulary and critical thinking skills will be stressed.

【Schedule】

A variety of topics will be covered. The order in which they are covered in class will depend on students' level and interests.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, attitude and a final project or report at the end of the term.

【Textbooks】

To be announced at a later date.

英語コミュニケーション10

ポール・ルイス

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course aims to focus on improving speaking and listening skills, particularly focussing on the latter. In particular, the different ways of listening will be covered, including extensive and intensive styles. The course will be given in English, and students are expected to use English as much as possible during class.

【Schedule】

Lessons 1 - 12: Various topics/listening skills.

【Assessment】

Assessment will be based on class participation and attendance, and a combination of continuous assessment, tests, and/or a final examination.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

英語コミュニケーション10

ハリー・T. ノリス

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course is designed to be a one semester course.

The course aims to improve the students' ability to communicate using English. To help them transmit their ideas to other Japanese people and native speakers of English. The course will show students key points about public speaking that will allow them to speak English confidently in front of small groups. Teaching strategies and techniques, voice control, and use of teaching aids will be studied. Reading, writing, listening and speaking will be addressed throughout the course. Speaking and listening being the main areas of assessment.

The course will be aimed mainly at developing confidence when speaking English in front of small groups of people.

【Schedule】

Introducing yourself.

Pronunciation "L/R", "B/V" and "Th" .

Voice control and eye contact.

How to use TV, OHC ,OHP and pictures in a classroom.

Talking about travel experiences using photos.

Talking about family using photos.

3 minute seminar on hobbies

【Assessment】

Assessment will be based on attitude, attendance, speaking ability and improvement, and a written report.

【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

英語コミュニケーション10

ジェームス・A. ジョリー

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course will provide development and expansion of listening, speaking and reading skills in English. While conversational topics of each lesson provide practice in expressing personal information, each lesson is set in a different country to provide students with new vocabulary and knowledge to be able to converse about other people and cultures. Exercises and practice in class will be aimed at strengthening the ability of each student to express their thoughts accurately.

【Schedule】

A precise schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. Lessons will cover one unit of the textbook each week. A short quiz will be given after every third lesson, with a final examination over the whole course after the last lesson.

【Assessment】

The students will be assessed by their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and (4) final examination.

【Textbooks】

The textbook will be *Speaking Internationally* (Paul McLean, MacMillan LanguageHouse). Additionally, each student is expected to bring to class her or his own personal English / Japanese dictionary.

英語コミュニケーション10

リオナ・R. キャメロン

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

In this course the students will practice the four skills, speaking, listening, reading and writing. Students will learn practical English. Students will be expected to participate and speak a lot in English during the classes.

The content will review the English that has already been learnt by students previously and increase the students' knowledge and performance in English.

【Schedule】

In each lesson, students will do many kinds of activities, individually, in pairs or groups.

【Assessment】

Assessment will be on-going, based on attendance, participation, homework and tests.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class.

【Reference】

Students will be expected to have an English-Japanese dictionary and a Japanese-English dictionary in every class. Electronic dictionaries are acceptable.

英語コミュニケーション10

サミュエル・ミラー

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

The aims of the course are as follows: to acquaint students with basic / intermediate grammar and vocabulary; to equip them with adequate conversational skills on a variety of topics; to get them to enjoy English. Occasionally, a writing assignment - in which students will be asked to formulate sentences employing the grammar we have introduced in class or perhaps a paragraph or two on a theme - will be given. Generally, we will spend the first 30 minutes of each class on grammar review, devoting the remainder of the period to the textbook and open topics. Each student may also be asked to give a very short presentation at some point during the semester.

Topics to be covered:

Family, Food and Restaurants, Music and Entertainment, Sports

School, Health and Fitness, Books Magazines and Newspapers.

Marriage and Divorce, Beliefs and Opinions.

【Assessment】

Grade will be based attendance and participation (50%) homework and a final test (50%)

【Textbooks】

Topic Talk, (David Martin, EFL Press)

英語コミュニケーション10

ジョナサン・E. ロング

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

This course aims to improve the students' abilities in the four language skills in English by discussing in class topics of interest to them, and reading and writing about these topics outside of class. To be successful the students must be willing to work hard.

【Assessment】

Assessment will be based upon
attendance
class participation
homework
quizzes
essays

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション11

ジョナサン・E. ロング

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

Students who meet the prerequisites will in the class have to meet the challenges of reading scripts in English, watching the videos without subtitles, discussing them in English and writing reaction papers about them.

Usually, three weeks will be allowed for each video:

Week 1 : script

Week 2 : video

Week 3 : discussion; homework; reaction paper

【Assessment】

Assessment will be based on attendance and the reaction papers.

【Textbooks】

none.

英語コミュニケーション12

ディビッド・C. ダイカス

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

This course will focus on skills and techniques needed for informative and persuasive writing and speaking.

The course be topic/theme oriented. Students will read about, and discuss, these topics. Writing practice will include the study of paragraph organization and effective presentation and support of ideas in written English. Once this level of writing is mastered, we will move on to longer pieces of writing.

【Schedule】

As described above, the course will move from basic organization and presentation of ideas to essays and discussions based on their content.

【Assessment】

Grading will be based on attendance and participation, homework assignments, and a test.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングI

ディビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. リス ジョアン・M. ウッドマン

ジェームス・A. ジョラー 野口朋香 鈴木哲至

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEFL (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFLやTOEICなどの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

Students who have never done a TOEFL test or who have a score of less than 345 should consider doing this course.

This is an introductory level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」履修することを勧めます。)

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅠ

テビッド・C、ダイカス ジョナサン・E、ロング ハリー・T、リス ジョアン・M、ウヰマン
ジェームス・A、ジョー 野口勝香 鈴木哲至

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEIC (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL や TOEIC などの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEIC means "Test Of English for International Communication".

This is an introductory level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have never done a TOEIC test or who have a score of less than 250 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 - 1. Sentences about photographs.
 - 2. Questions / responses
 - 3. Dialogues
 - 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 - 5. Sentence completion
 - 6. Error identification
 - 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」履修することを勧めます。)

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

テビッド・C、ダイカス ジョナサン・E、ロング ハリー・T、リス ジョアン・M、ウヰマン ジェームス・A、ジョー
シメル・A、ライツマ テビッド・P、レヴィ アラン・マウリス 鈴木哲至

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEFL (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

Students who have completed TOEFL I or who have a score of less than 370 should consider doing this course.

This is a basic level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

- 1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
- 2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
- 3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」履修することを勧めます。)

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

テビド・C, ダイカス ショサン・E, ログ ルー・T, ノス ジョアン・M, ウッドマン ジェームス・A, ジョー
シレル・A, ライグマ テビド・P, レヴィ アラン・デーヴィス 鈴木啓至

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEIC (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a basic level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have completed TOEIC I or have a TOEIC score of less than 300 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions / responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion.
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」履修することを勧めます。)

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジョアン・M, ウッドマン ジェームス・A, ジョリー
アラン・デーヴィス

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEFL (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 370 should consider doing this course.

This is a high-beginner level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL III (3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」履修することを勧めます。)

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジョアン・M. ウッドマン ジェームス・A. ジョリー
アラン・デーヴィス

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEIC (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This is a high - beginner course for the TOEIC test. TOEIC test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II , or have a TOEIC score higher than 300 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A.Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B.Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC III(3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」履修することを勧めます。)

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

ジョアン・M. ウッドマン ジェームス・A. ジョリー
ジャクリーン・ノリス

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEFL (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II , or who have a score of more than 370 should consider doing this course.

This is a pre - intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL IV(4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」履修することを勧めます。)

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

ジョアン・M. ウッドマン ジェームス・A. ジョリー
ジャクリン・ノリス

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEIC (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a pre-intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 300 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC IV(4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」履修することを勧めます。)

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅤ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームス・A. ジョリー

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEFL (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅥの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 370 should consider doing this course.

This is an intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL V(5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」履修することを勧めます。)

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングV

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームス・A. ジョリー

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEIC (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングVの授業につなげる。

This is an intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 300 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC V(5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」履修することを勧めます。)

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングVI

ジョアン・M. ウッドマン ジェームス・A. ジョリー
ジャクリン・ノリス

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEFL (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 370 should consider doing this course.

This is an advanced level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL VI(6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」履修することを勧めます。)

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングVI

ジョアン・M. ウッドマン ジェームス・A. ジョリー
ジャクリーン・ノリス

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEIC (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is an advanced course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 300 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC VI (6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

(文学部の学生の場合「Practical English 1, 2, 3, 4」履修することを勧めます。)

【Textbooks】

To be announced.

英語海外セミナー

石橋千鶴子 ジョナサン・E. ロング

集中 1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

英語／アメリカ文化研修を目的としたウェストバージニア大学での春期英語研修プログラム。全学が対象。キャンパス内の大学寮に滞在し、約4週間の集中授業を受ける。さらに、週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流などが用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の2単位が与えられる。2月中旬から3月中旬の約1ヶ月間を予定している。定員は、約30人。

面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2001年度実施夏期研修プログラムにおける1日（9：00AM～3：20PM）の学習内容は、以下の通りだった：

午前 少人数で行われる会話クラスと総合英語の授業。
午後 アメリカ文化の授業およびプロジェクト。音楽／ドラマ／ニュースレター作成／ホームページ作成などから、各自興味のあるものを選び、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、終了パーティーで発表する。

【授業計画】

本研修は、ウェストバージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムであり、全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフがあたる。（期間中、本学教職員は滞在しない。）

【評価方法】

ウェストバージニア大学授業担当者の評価による。

【テキスト】

現地にて用意される。

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

集中 1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるポイント・オブ・ライト財団との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を定める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。（米国側協力団体）ポイント・オブ・ライト財団（Points of Light Foundation）

【授業計画】

- （事前研修）・インターンシップの活動分野の決定
- ・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習
- ・日本のNPO、ボランティア団体へフィールドワーク
- ・英会話のトレーニング
- （現地プログラム）・オリエンテーション合宿
- ・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン
- ・1日特別研修プログラム
- ・インターンシップの体験報告書の作成と提出
- ・評価会、修了式、さよならパーティ
- （事後研修）・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）を考慮し全体評価を行う。

外国文化海外研修

曹 述 燮

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本学の姉妹校の一つである韓国の大邱カトリック大学で、韓国の文化や言語などの研修を積む。本研修のために姉妹校からは少人数制の語学授業、金属工芸・伝統音楽・伝統料理などの韓国文化に対する講義と実習、そして両校の学生交流、ホームステイなどの課外活動を含む特別のカリキュラムが編成されている。と同時に本研修には姉妹校での研修を前後して慶州市、独立記念館、ソウル市への旅行などのプログラムも企画されている。

本研修を通じて参加学生たちは、良好に組まれたカリキュラムからの隣国の韓国に対する知識を習得すること以外に、多様な韓国・韓国人を直接体験し自ら触れあうことで新世紀のパートナーとしての韓国の理解を深める。

期間：夏期休暇の8月中の3週間前後

内容：

- 1、語学研修
 - a、14日間、午前中、1日3時間（2コマ）授業
 - b、現地教員による少人数制の授業で韓国語の発音、文法、文型、会話などの練習
 - c、初級と中級のクラス編成予定で初心者への授業参加可
- 2、韓国文化研修
 - a、午後週1～2回
 - b、専門家による講演と質疑応答
 - c、伝統文化講演の鑑賞（古典劇、音楽など）
 - d、韓国文化にたずさわる専門家による指導と自己参加型の実習（工芸・料理、舞踊など）
- 3、その他の各種の課外活動

【授業計画】

本研修参加のための数回の事前研修と事後研修が予定されている

【評価方法】

現地教員およびプログラムスタッフそして引率教員による総合評価による。

情報処理技術特殊 I

中野雅晴

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅱ

中野雅晴

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業計画】

- | | |
|-------|--------------|
| ステップ1 | コンピュータ科学基礎上級 |
| ステップ2 | コンピュータシステム上級 |
| ステップ3 | システムの開発と運用 |
| ステップ4 | ネットワーク技術 |
| ステップ5 | データベース技術 |
| ステップ6 | セキュリティと標準化 |

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

CG検定2級の合格を目指す教育科目である。

2級のレベルは、CGを実務に活用できるレベルであり、期待できる効果として以下のことがある。

- (1) アルゴリズムを理解し、目的に応じてCGの技法を活用できる。
- (2) デザインの知識をCG画像やCGアニメーションの制作に活用できる。
- (3) CGに必要なシステムを目的に応じて選び使用できる。

【授業計画】

1. CG基礎。2次元画像生成
2. "
3. モデリング
4. "
5. 3次元座標変換
6. "
7. レンダリング
8. "
9. "
10. 画像処理
11. "
12. 著作権その他。

【評価方法】

出席状況について評価

【テキスト】

『Computer Graphics』技術編CG標準テキストブック
(画像情報教育振興協会)

【参考文献・資料】

- 『Turbo Cによる3Dコンピュータ・グラフィックス』
(山岡祥著 森北出版)
- 『CG検定対策講座3級 理論編』
(株式会社ユーミックス編著)

情報処理技術特殊IV

黒部晃一

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

CG検定1級の合格を目指す教育科目である。

1級のレベルは、高度な知識と指導力に加えCGを制作や開発に応用できるレベルであり、期待できる効果としては以下のことがある。

- (1) アルゴリズムの記述やプログラミングによる高度なCG制作ができる。
- (2) デザインの知識を効果的に活用し高度な表現ができる。
- (3) CGに関する総合的な知識が身につく指導ができる。

【授業計画】

1. VisualC++によるプログラミング
2. "
3. "
4. "
5. CGアルゴリズムのプログラミングと実例
6. "
7. "
8. "
9. "
10. CG検定1級の過去問題検証
11. "
12. "

【評価方法】

出席状況について評価

【テキスト】

『CG検定1級問題集』(画像情報教育振興会)

【参考文献・資料】

『基礎から学ぶVisualC++プログラミング』
(山岡祥著 CQ出版)

上級英語セミナー2002A

ジョアン・M. ウッドマン

2～4年 前期 選択

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。
4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

This is a new and exciting course designed for higher level students who are keen to further improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test scores, and since all students will be required to take another TOEIC IP test at the end of each semester, part of the final grade will include a component of "TOEIC IP test score improvement".

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- a) teacher presented materials - (ie. NHK and world news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article about Japan for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- c) TOEIC vocabulary texts / materials

The course will deal with contemporary issues within Japan, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of current affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:-

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) TOEIC IP test score improvement
- 5) Attendance

「上級英語セミナー2002A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(木曜日4限)、ティビッド・レヴィ先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002A

ディビッド・P. レヴィ

2～4年 前期 選択

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

This course is designed for higher level students who are keen to improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test score.

One of the foundations of good translation/interpretation/communication is an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a significant improvement in their vocabulary. It is also hoped that during the course students will achieve a TOEIC IP test score improvement.

Vocabulary lists/tests will be generated from:

- a) teacher presented materials, and
- b) student research. Students will be required to prepare newspaper articles for discussion in class, including providing vocabulary lists.

The course will deal with contemporary issues throughout the world, and there will be an emphasis on students developing their knowledge of world affairs. Students will also need to "think on their feet" as reflected in their ability to ask & answer questions during presentations.

【Schedule】

The aim of the course is to discuss up-to-date issues, & so it will be current events which will determine the schedule. However, students should expect to address social, economic, environmental, political, religious, medical, moral & issues.

【Assessment】

Assessment will include

- ・ vocabulary tests
- ・ preparation for, & participation in, class discussion
- ・ listening comprehension activities
- ・ attendance

【Textbooks】

To be advised

「上級英語セミナー2002A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(木曜日4限)、ディビッド・レヴィ先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002B

ジョアン・M. ウッドマン

1～4年 後期 選択

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

This is a new and exciting course designed for higher level students who are keen to further improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test scores, and since all students will be required to take another TOEIC IP test at the end of each semester, part of the final grade will include a component of "TOEIC IP test score improvement".

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- a) teacher presented materials - (ie. NHK and world news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article about Japan for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- c) TOEIC vocabulary texts / materials

The course will deal with contemporary issues within Japan, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of current affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:-

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) TOEIC IP test score improvement
- 5) Attendance

「上級英語セミナー2002B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(木曜日4限)、ディビッド・レヴィ先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002B

ディビッド・P. レヴィ

1～4年 後期 選択

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。
4年間続けて履修できる。

This course is designed for higher level students who are keen to improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test score.

One of the foundations of good translation/interpretation/communication is an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a significant improvement in their vocabulary. It is also hoped that during the course students will achieve a TOEIC IP test score improvement.

Vocabulary lists/tests will be generated from:

- a) teacher presented materials, and
- b) student research. Students will be required to prepare newspaper articles for discussion in class, including providing vocabulary lists.

The course will deal with contemporary issues throughout the world, and there will be an emphasis on students developing their knowledge of world affairs. Students will also need to "think on their feet" as reflected in their ability to ask & answer questions during presentations.

【Schedule】

The aim of the course is to discuss up-to-date issues, & so it will be current events which will determine the schedule. However, students should expect to address social, economic, environmental, political, religious, medical, moral & issues.

【Assessment】

Assessment will include

- vocabulary tests
- preparation for, & participation in, class discussion
- listening comprehension activities
- attendance

【Textbooks】

To be advised

「上級英語セミナー2002B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョン・ウッドマン先生(木曜日4限)、ディビッド・レヴィ先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002C

横山綾子

2～4年 前期 選択

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。
4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2002C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日4限)、ジョン・ロング先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002C

ジョナサン・E. ロング

2～4年 前期 選択

【Course Content】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。（1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。）

In this course the students will use all for language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2002C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生（火曜日4限）、ジョナサン・ロング先生（水曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002D

横山綾子

1～4年 後期 選択

【授業の概要】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO（First in First out）の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用（テープ）

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2002D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生（火曜日4限）、ジョナサン・ロング先生（水曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002D

ジョナサン・E. ロング

1～4年 後期 選択

【Course Content】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

In this course the students will use all for language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2002D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生（火曜日4限）、ジョナサン・ロング先生（水曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002E

ジョアン・M. ウッドマン

2～4年 前期 選択

【Course Content】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。（1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。）

This is a new and exciting course designed for higher level students who are keen to further improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test scores, and since all students will be required to take another TOEIC IP test at the end of each semester, part of the final grade will include a component of "TOEIC IP test score improvement".

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- a) teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- c) TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) TOEIC IP test score improvement
- 5) Attendance

「上級英語セミナー2002E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生（火曜日5限）、横山先生（水曜日3限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002E

横山綾子

2～4年 前期 選択

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2002E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002F

ジョアン・M. ウッドマン

1～4年 後期 選択

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

This is a new and exciting course designed for higher level students who are keen to further improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test scores, and since all students will be required to take another TOEIC IP test at the end of each semester, part of the final grade will include a component of "TOEIC IP test score improvement".

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- a) teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- c) TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:-

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) TOEIC IP test score improvement
- 5) Attendance

「上級英語セミナー2002F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002F

横山綾子

1～4年 後期 選択

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2002F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

ASU TOEIC I A

天野純子 太田晶子

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEIC Dレベル(220-465)で400点以上の学生がTOEIC Cレベルに、TOEIC Cレベル(470-725)の学生がTOEIC Bレベルにそれぞれ到達するための講座。この講座は、文法・語彙問題、Reading、リスニングの基礎に重点を置いて学習するため、日本人教員が担当する。授業時間のみならず毎回豊富な量の宿題が課され、毎回チェックされる。非常にハードなコースであるため、中途半端な気持ちで受講しないでほしい。

【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説(15分)
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説(15分)
- ・演習(文法問題・Reading・リスニング)(30分)
- ・問題解説(25分)

第15回 模擬テスト

*宿題 読解演習・文法問題(60分×7日)＝

毎回7時間相当分

(合計 7時間×13回＝91時間)

リスニング演習(60分×7日)＝

毎回7時間相当分

(合計 7時間×13回＝91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

『TOEICテスト730点クリア実践問題集』成美堂出版
『「とれる！」TOEICテスト730』マクミラン ランゲージハウス

ASU TOEIC I B

天野純子 太田晶子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICスコア400点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。

日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高週に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課される。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

詳細は、後日掲示にて連絡します。

ASU TOEIC II A

担当者未定

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEIC Dレベル（220-465）で400点以上の学生がTOEIC Cレベルに、TOEIC Cレベル（470-725）の学生がTOEIC Bレベルにそれぞれ到達するための講座。この講座は、リスニング、語彙問題、Readingの基礎に重点を置いて学習するため、ネイティブスピーカーの教員が担当する。授業時間のみならず毎回豊富な量の宿題が課され、毎回チェックされる。非常にハードなコースであるため、中途半端な気持ちで受講しないでほしい。

【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- ・演習（リスニング・Reading）（30分）
- ・問題解説（25分）

第15回 模擬テスト

*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝

毎回7時間相当分

（合計 7時間×13回＝91時間）

リスニング演習（60分×7日）＝

毎回7時間相当分

（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

ASU TOEIC II B

担当者未定

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICスコア400点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。

日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高週に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課される。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

詳細は、後日掲示にて連絡します。

スポーツ特殊講座

杉山和

集中 1～4年 前期 2単位

【授業の概要】

〈スクーバダイビング〉

「海の中」の自然を体験し、より視野を広める、スクーバダイビングに必要な初級のライセンスを取得し、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

【内容】

1. 期日

プール実習 平成14年8月19日（月）～24日（土）
この期間中に時差をつけて3日間実施します。

海洋実習 平成14年9月2日（月）～5日（木）
3泊4日

第1回説明会 平成14年5月22日（水）5限目

第2回説明会 平成14年7月27日（土）10：00～

2. 場所

プール実習 ロコダイバーズ 室内プール（一社）

海洋実習 沖縄県 伊江島

3. 諸経費

実習費 約50,000円（講習費、テキスト代、申請料）

用具代 約50,000円（重器材レンタル代、個人器材）

海洋実習費 約78,000円（交通費、宿泊費）

その他 約30,000円（ウェットスーツ希望者のみ）

4. 定員 約20名

* 諸経費については、13年度のものでありますので変更になる場合があります。

* 説明会には必ず参加すること。

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

スポーツ特殊講座

松田秀子

集中 1～4年 前期 2単位

【授業の概要】

〈マリンスポーツ〉

各種のマリンスポーツを通し、海という自然を体験し、より深く理解する。各種目の基礎的技術の向上と知識の習得、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成13年8月6日(月)～9日(木)
3泊4日

第1回説明会 平成13年5月23日(水) 5限目

第2回説明会 平成13年7月4日(水) 5限目

2. 場所 ヤマハマリーナ浜名湖 静岡県

3. 実習種目

ウェイクボード、ボードセーリング、
セーリングクルザー等

4. 実習費 約74,000円

5. 定員 約20名

(定員に満たない場合は中止になります。)

*実習費に関しては、12年度のものでありますので変更する場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)

【評価方法】

実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

**本年は開講せず。
上記の要項は13年度のものです。**

スポーツ特殊講座

松田秀子

集中 1～4年 前期 2単位

【授業の概要】

〈ボウリング〉

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成14年9月4日(水)・5日(木)
6日(金)・9日(月)
10日(火)・11日(水)

計6日間 午前中のみ

2. 説明会 平成13年7月3日(水) 12:30～13:15

実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。

3. 場所 星ヶ丘ボウル

4. 実習費 6,000円 (13年度のものでありますので変更する場合があります。)

5. 定員 40名

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座

松田秀子

集中 1～4年 後期 2単位

【授業の概要】

〈スケート〉

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成15年2月12日(水)・13日(木)

14日(金)・17日(月)

18日(火)・19日(水)

6日間 午前のみ

2. 説明会 平成15年1月8日(水) 12:30～13:15

実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。

3. 場所 名古屋スポーツセンター (大須)

4. 実習費 約7,200円(13年度のものでありますので変更する場合があります。)

5. 定員 約40名

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座

集中 1～4年 後期 2単位

【授業の概要】

〈スキー〉

スキーを通して大自然の厳しさやおおらかさに接し、スキーの基礎的技術の向上と知識の習得を目標とする。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成14年2月17日(日)～2月21日(木)

4泊5日の予定

第1回説明会 平成13年11月7日(水) 5限目

第2回説明会 平成14年1月9日(水) 5限目

2. 場所 長野県 信州菅平高原スキー場

3. 宿泊所 福美津屋旅館

4. 実習費 約40,000円

(宿泊費・交通費・食事代・保険料・雑費)

5. その他の費用

リフト券代 約12,000円(レベルによって異なる)

レンタルスキー(板、ブーツ、ストック) 6,500円

レンタルウェア 4,000円

小物(帽子、手袋、ゴーグル) 1,500円

6. 定員 約40名

7. オプション企画(体験)

スノーボード(レンタル代、講習費) 6,000円

ヘリスキー(ヘリコプターの搭乗費) 6,000円

スキー検定(検定料) 6,000円

*定員に大きく満たない場合は中止になります。

*実習費及びその他の費用に関する料金は、12年度のものでありますので、変更になる場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

本年は開講せず。
上記の要項は13年度のものであります。